

令和7年度精神保健対策費補助金

摂食障害治療支援センター
設置運営事業報告書

国立精神・神経医療研究センター
令和8年7月

摂食障害治療支援センター設置運営事業 令和7年度のあゆみ



July.2025 富山県支援拠点病院が 富山大学附属病院に設置されました

今年も新たな拠点病院が設置されました！

令和7年7月、富山大学附属病院が支援拠点病院となりました。拠点病院は摂食障害の専門治療を提供し、地域の医療機関の連携の中心的役割を担う病院です。(富山県摂食障害支援拠点病院活動報告書 参照)

<http://www.med.u-toyama.ac.jp/neuropsychiatry/>



Aug.2025 長野県支援拠点病院が 信州大学医学部附属病院に設置されました

令和7年8月、信州大学医学部附属病院が支援拠点病院となりました。2026年3月時点で全国でまだ10しかない拠点病院ですが、令和4年からは毎年新たな拠点病院が設置されています。

(長野県摂食障害支援拠点病院活動報告書 参照)

<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/i-seishin/>



June.2025 摂食障害世界アクションデイを開催しました



アーカイブ動画
が公開されてい
ます!



世界摂食障害アクションデイは、2016 年より世界的に始まった運動で、摂食障害で苦しむ方やその家族、専門家や研究者、サポーターらが国境を越えて団結し、摂食障害の啓発と支援活動を世界中で同時に行うイベントです。今年は「ライフステージと摂食障害—回復と社会生活を両立するために」をテーマに、摂食障害を抱えながらも学業や就職、結婚、出産、子育て、さらには両親の介護といったさまざまなライフステージに向き合う方々、そして社会活動が難しい病状の最中であっても社会に繋がっていききたいという当事者の価値観に焦点を当てています。また、新たな試みとして、治療者、経験者、自助会など多様な立場の方から届いたメッセージ（フラッシュトーク）を上映しました。

摂食障害協会と共に内容を報告するNEWS LETTERを発行しました。(普及啓発活動 参照)

Dec.2025 摂食障害世界アクションデイのページを作成しました

アクションデイ2025

ライフステージと摂食障害—回復と社会生活を両立するために—

摂食障害を抱えながらも学業や就職、結婚、出産、子育て、さらには両親の介護といったさまざまなライフステージに向き合う方々、そして社会活動が難しい病状の最中であっても社会に繋がっていききたいという当事者の価値観に焦点を当てています。

摂食障害は、治療に長い時間を要する場合も多く、病気を抱えながら社会生活を送る当事者が多数いる現実を目に、当事者目線で困難や必要な支援について考えていきます。

みんなの気持ち、わかちあえ2025 フラッシュトーク（応援メッセージ）

世界摂食障害アクションデイ自主企画
一般社団法人日本摂食障害協会
みんなの気持ち、わかちあえ2025

世界摂食障害アクションデイフラッシュ
NCNPchannel

プロフィギュアスケーター、スズキシンジック日本代表
鈴木 翔子

NEWS LETTER vol.3
発行:2025年7月
各界から届いた応援メッセージを発信立場を越えつながら、力を合わせて摂食障害支援の輪を広げていこう

PDFはこちら >

情報ポータルサイト 一般の方に「摂食障害世界アクションデイ」のページを新設し、イベント情報を発信しました。

2024年、2025年の「みんなの気持ち、わかちあえ」のアーカイブ映像やフラッシュトーク動画、NEWS LETTERを掲載しました。

2026年以降のアクションデイの告知もすることができるようになります。たくさんの患者さんやご家族の方に参加していただけるように、情報発信に努めて参ります。

https://edcenter.ncnp.go.jp/edportal_general/actionday.html

Center for Eating Disorder Research and Information

情報ポータルサイト 一般の方 https://edcenter.ncnp.go.jp/edportal_general/

情報ポータルサイト 専門職の方 https://edcenter.ncnp.go.jp/edportal_pro/

摂食障害全国支援センター <https://edcenter.ncnp.go.jp/>

摂食障害相談「ほっとライン」 <https://sessyoku-hotline.jp>

目 次

1. 厚生労働省における摂食障害対策	1
2. 摂食障害全国支援センター活動報告書	10
1. 基本情報	11
2. 要旨	12
3. 全国摂食障害対策連絡協議会の設置	13
4. 支援拠点病院統括業務	15
5. 相談支援	17
6. 治療支援・研修	35
7. 普及啓発活動	56
8. 考察	64
3. 宮城県摂食障害支援拠点病院活動報告書	65
1. 基本情報	66
2. 要旨	66
3. 摂食障害対策推進協議会の設置	67
4. 相談支援	68
5. 治療支援	70
6. 研修	73
7. 普及啓発活動	73
8. 行政機関との連携	79
9. その他の活動	79
10. 考察	79
4. 栃木県摂食障害支援拠点病院活動報告書	80
1. 基本情報	81
2. 要旨	82
3. 摂食障害対策推進協議会の設置	83
4. 相談支援	84
5. 治療支援	87
6. 研修	90
7. 普及啓発活動	92
8. 行政機関との連携	93
9. その他の活動	94
10. 考察	95

5. 千葉県摂食障害支援拠点病院活動報告書	96
1. 基本情報	97
2. 要旨	98
3. 摂食障害対策推進協議会の設置	98
4. 相談支援	99
5. 治療支援	104
6. 研修	107
7. 普及啓発活動	108
8. 行政機関との連携	112
9. その他の活動	112
10. 考察	112
6. 東京都摂食障害支援拠点病院活動報告書	113
1. 基本情報	114
2. 要旨	115
3. 摂食障害対策推進協議会の設置	115
4. 相談支援	116
5. 治療支援	119
6. 研修	121
7. 普及啓発活動	122
8. 行政機関との連携	122
9. その他の活動	123
10. 考察	123
7. 富山県摂食障害支援拠点病院活動報告書	124
1. 基本情報	125
2. 要旨	125
3. 摂食障害対策推進協議会の設置	126
4. 相談支援	127
5. 治療支援	128
6. 研修	133
7. 普及啓発活動	134
8. 行政機関との連携	137
9. その他の活動	138
10. 考察	139
8. 石川県摂食障害支援拠点病院活動報告書	140
1. 基本情報	141
2. 要旨	141

3.	摂食障害対策推進協議会の設置	142
4.	相談支援	143
5.	治療支援	145
6.	研修	147
7.	普及啓発活動	147
8.	行政機関との連携	150
9.	その他の活動	150
10.	考察	151
9.	福井県摂食障害い支援拠点病院活動報告書	152
1.	基本情報	153
2.	要旨	154
3.	摂食障害対策推進協議会の設置	155
4.	相談支援	156
5.	治療支援	158
6.	研修	161
7.	普及啓発活動	161
8.	行政機関との連携	163
9.	その他の活動	164
10.	考察	165
10.	長野県摂食障害い支援拠点病院活動報告書	166
1.	基本情報	167
2.	要旨	168
3.	摂食障害対策推進協議会の設置	169
4.	相談支援	170
5.	治療支援	174
6.	研修	178
7.	普及啓発活動	179
8.	行政機関との連携	179
9.	その他の活動	181
10.	考察	181
11.	静岡県摂食障害支援拠点病院活動報告書	182
1.	基本情報	183
2.	要旨	184
3.	摂食障害対策推進協議会の設置	185
4.	相談支援	186
5.	治療支援	190

6.	研修	192
7.	普及啓発活動	194
8.	行政機関との連携	197
9.	その他の活動	199
10.	考察	200
1 2.	福岡県摂食障害支援拠点病院活動報告書	201
1.	基本情報	202
2.	要旨	203
3.	摂食障害対策推進協議会の設置	204
4.	相談支援	205
5.	治療支援	207
6.	研修	210
7.	普及啓発活動	212
8.	行政機関との連携	214
9.	その他の活動	215
10.	考察	216
1 3.	令和7年度の活動成果と課題、提言	217
1 4.	全国摂食障害対策連絡協議会委員	221
1 5.	摂食障害全国支援センター・摂食障害支援拠点病院職員	224
1 6.	摂食障害治療支援センター設置運営事業拠点機関一覧	229

1. 厚生労働省における摂食障害対策
～摂食障害治療支援センター設置運営事業～

令和 7 年度

1. 厚生労働省における摂食障害対策 ～摂食障害治療支援センター設置運営事業～

1. 事業概要

摂食障害は、患者に対する治療や支援方法の確立や生命の危険を伴う身体合併症の治療や栄養管理等を行うなど、適切な治療と支援により患者が地域で支障なく安心して暮らすことができる体制の整備を推進することが求められている。

これらを踏まえ、平成 26 年度より「摂食障害治療支援センター設置運営事業」を実施している。

具体的には、全国 10 カ所の医療機関を「摂食障害支援拠点病院（以下、「支援拠点病院」という。）」に指定し、摂食障害に関する知識・技術の普及啓発、他医療機関への研修・技術的支援、患者・家族への技術的支援、関係機関との地域連携支援体制の構築のための調整等を行うとともに、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターを全国 1 カ所の「摂食障害全国支援センター」に指定し、診療拠点機関による全国連絡協議会の開催や各支援拠点病院で得られた知見を集積し、支援拠点病院への技術的支援等を実施して、摂食障害患者の治療実績や患者・家族のQOLの向上、地域での多職種・他科連携や普及啓発等多くの実績を挙げてきている。

2. 第 8 次医療計画上の摂食障害の位置づけ

第 8 次医療計画において、「疾病・事業及び在宅医療に係る医療体制について」（令和 5 年 3 月 31 日付け医政地発 0331 第 14 号厚生労働省医政局地域医療計画課長通知）の別紙「疾病・事業及び在宅医療に係る医療提供体制に係る指針」中「精神疾患の医療体制構築に係る指針」に基づき、地域の実情を踏まえて、摂食障害に対応できる医療機関を明確にすることが求められていることを踏まえ、これまで実施されてきた「摂食障害治療支援センター設置運営事業」での多職種・他科連携や研修、摂食障害に関する知識・技術の普及啓発に係る取組等を参考とし、全都道府県で摂食障害の医療連携体制が構築されるよう、本事業の活用による体制の整備について、全国障害者保健福祉関係主管課長会議や担当所管部署等をお願いしているところである。

3. 事業の成果

本事業は平成 26 年度の開始以降、10 カ所の支援拠点病院（東北大学病院、獨協医科大学病院、国立国際医療研究センター国府台病院、東京都立松沢病院、富山大学附属病院、金沢大学附属病院、福井大学医学部附属病院、信州大学医学部附属病院、浜松医科大学附属病院、九州大学病院）を中心に摂食障害の患者・家族への治療機会の提供や相談支援、設置自治体内の他の医療機関への治療研修などの積極的な取組の結果、未受診が多いと言われている摂食障害について、発症早期の患者の受診が増加したことに加え、設置自治体内の他の医療機関とも連携が進んだほか、事業に行政が関わっていることにより医療機関以外の他機関（保健所、学校、養護学校等）との連携や協力も進むなど医療提供以外にも一定の効果が出てきている状況である。

また、摂食障害全国支援センター（以下「全国支援センター」という。）（国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター）では、摂食障害情報ポータルサイトの運用により摂食障害に関する情報発信や普及啓発を行っており、若年層に多い摂食障害の患者本人や家族、支援者

等に対する適切な情報提供に貢献している。

さらに、本事業で開催している全国摂食障害対策連絡協議会に、摂食障害者及びその家族の支援や治療者の育成支援、啓発・予防活動などを行っている一般社団法人日本摂食症協会に参加いただいております、世界摂食障害アクションデイ 2025 を共催するなど、引き続き、本事業との連携について期待される。

4. 摂食障害支援拠点病院に係る事業実施に関するアンケート

今後の摂食障害支援拠点病院の整備予定等を把握するため、令和8年1月に全都道府県を対象に調査を実施した。集計の結果は以下のとおりである。

【集計結果（数字は回答自治体数。内容は回答時点。）】

(1) 現在、摂食障害治療支援センターを設置する予定があるか。

すでに指定している	10（宮城県、栃木県、千葉県、東京都、富山県、石川県、福井県、長野県、静岡県、福岡県）
指定予定がある	3（奈良県、和歌山県、高知県）
指定予定がない	34（上記以外）

(2) 指定予定がない理由（未指定の自治体：複数回答可）

理 由	自治体数
財源を確保できない	13
国の実施要綱上の指定要件が厳しい	1
引き受けてくれる医療機関がない	15
摂食障害について対応のノウハウがない	8
別の補助金を投入し、十分対応できている	0
地域医療計画等の補助金以外の仕組みで十分対応できている	1
精神保健福祉センター等で受診勧奨から普及啓発まで十分対応できている	1
その他 ・現状と課題を整理したうえでの検討が必要なため ・指定に向けた関係機関とのこれから協議を進めるため ・拠点病院の候補となりうる病院との未調整であること、また摂食障害支援の関係者からの意見聴取ができていない ・支援拠点病院の必要性を検討できていない ・機能を十分に果たせる医療機関がない ・摂食障害対策事業に取り組む契機がない ・指定についての検討が十分にされていない ・本事業とは別の拠点機関を複数指定している ・精神保健福祉センター等で随時相談対応しており、個々の事例の状況に応じて医療機関等の関係機関と連携できている ・現状・課題等十分把握できていない ・精神保健福祉センター等での相談支援体制などで対応を行ってきており、関係機関から支援における大きな課題があるといった声を受けている状況ではない ・指定の必要性について、医療機関との十分な検証に至っていない	14

・拠点設置の要望等は上がっていない ・精神保健福祉センターや保健所の精神保健福祉相談において、摂食障害患者やその家族への相談支援、治療につなげるサポートなどに取り組んでいるほか、令和7年4月現在、26の医療機関が摂食障害に対応しているため	
--	--

(3) 摂食障害対策についてのご意見等

主 な 意 見
・摂食障害支援拠点病院を指定した場合は、本補助金を活用して連携体制構築、研修開催を委託する見込み
・摂食障害治療支援拠点センター設置運営事業を進めるに際して、委託契約書や仕様書等の見本といった事業実施に向けた参考資料等をご教示いただきたい。
・実態把握、財源の確保、医療機関の選定に時間を要する

(4) 支援拠点病院設置準備研修会の管内での開催希望について

希望する自治体数	4自治体
----------	------

5. 課題

摂食障害治療支援センター設置運営事業は平成26年度から開始し、支援拠点病院は、令和4年10月に石川県、令和5年10月に福井県、令和6年4月に栃木県、7月に東京都、令和7年8月に長野県、令和8年1月に富山県で新設されているが、47都道府県のうち10自治体での設置に止まっている。摂食障害全国支援センターが開設しているホームページへのアクセス数も非常に多いことから、摂食障害に関する医療・支援ニーズの高さがうかがわれるが、それと比較して、専門医療機関・専門医の少なさは引き続き課題となっている。

実際には、全国支援センターと10カ所の支援拠点病院に全国の患者本人や家族からの相談が集中しており、令和3年度から全国支援センターが国立国際医療研究センター国府台病院心療内科に委託して「相談ほっとライン」を開設し、支援拠点病院以外の地域からの相談に対応できる体制を整備している。

各自治体において支援拠点病院の設置が進まない主な理由については、そもそも摂食障害に対して効果的な治療方法の普及がなかなか進まず、医療機関において摂食障害の患者の治療に苦慮していることも課題となっていると考えられる。既に外来の予約が数ヶ月待ちという状況にある支援拠点病院のみで摂食障害の治療、回復支援を担うのは困難であり、摂食障害の診療に協力できる医療機関の確保も急務となっている。

摂食障害は長期間の治療を要する疾患のため、居住地に近い医療機関で相談・治療が受けられるよう治療支援ネットワークの充実が求められている。

そのため、厚生労働省においては、自治体担当者に対し、摂食障害の治療と支援に資する体制整備の説明を行うとともに関係資料を情報提供している。

6. 今後の方策

(1) 普及啓発の実施について

摂食障害の患者数については、精神保健福祉資料（2023年NDBデータ）によると、約22万人と推計されているところであるが、摂食障害の現状について医療者や患者・家族以外にも広く一般国民に理解して頂き、未受診者を減らすためにも普及啓発活動は重要である。

また、当事者・家族支援の観点で、令和2年度から令和4年度のAMED障害者対策総合研究

開発事業（精神障害分野）「摂食障害を抱える家族のピアサポート研修プログラムの開発」において、摂食障害家族のピアサポーター養成のための研修プログラムを開発し、当事者・家族支援に活用している。

今後も引き続き、地方自治体、日本摂食症学会、日本摂食症協会などの関係機関の協力もいただきながら、さらなる普及啓発活動の展開が望まれる。

（２）治療研修の実施について

支援拠点病院を設置されている地域では、原則的には支援拠点病院が地域の医療機関を対象とした治療研修を実施することにより、これまで摂食障害の治療を積極的に実施してこなかった医療機関においても、初診患者や入院患者の受入が可能となる事例も報告されており、確実に摂食障害に対する診療の質の向上が図られている。また、支援拠点病院未設置地域では、現在も適切に対応されているところではあるものの、摂食障害に対応できる一部の医療機関に患者が集中してしまうなど、摂食障害患者が、日本全国、どの地域でも安心して医療が受けられているとは言い難い状況となっており、治療方法の研修をどのように実施し、診療の質を向上させるかが課題となっている。

そのため、支援拠点病院未設置地域の医療機関への研修については、全国支援センターが中心となり、支援拠点病院の協力を得ながら地道に実施していくことが必要と考えている。

令和２年度の障害者総合福祉推進事業において、「摂食障害治療及び支援の実態把握及び好事例の把握に関する検討」を行い、摂食障害治療支援センターの利用による治療および連携支援の好事例を収集したことから、医療従事者向けの治療研修の実施にあたって活用している。

７．令和８年度以降の具体的な取組

厚生労働省としては、全国への支援拠点病院の整備の予算確保と合わせて、引き続き、効果的な治療方法の普及のための研修事業の実施経費等についても令和８年度予算案で計上したところであり、以下のとおり、令和８年度以降、様々な課題の改善に向けて自治体や関係団体との協力・連携体制の構築を進めていく予定である。

（１）摂食障害全国支援センターの機能の拡充

支援拠点病院未設置の地域において、医療従事者向けの『摂食障害治療研修』を積極的に実施するとともに、自治体や摂食障害の治療を行っている医療機関を対象にした支援拠点病院の設置や地域医療連携の構築を目指す研修を実施することで、支援拠点病院も含む全国の医療機関をサポートする役割を強化する。

（２）治療方法の開発・普及

令和２年度障害者総合福祉推進事業では治療の実態把握を行ったが、摂食障害の治療効果についてのエビデンスを収集し、効果的な治療を普及させるため、「摂食障害に対する標準的な治療方法（心理的アプローチと身体的アプローチ）とその研修方法の開発及び普及に資する研究」（厚生労働科学研究）を令和３年度から実施し、成人に対する心理療法及び認知行動療法とその研修方法の開発・効果検証、小児への早期介入方法の検討、身体治療マニュアルの効果検証及び普及方法の検討を行ってきた。令和６年度から、治療マニュアルを用いた多施設共同研究、摂食障害の標準的治療のエビデンスの実証や多職種に対する研修システムの構築等を目指

した研究を行っている。

（３）普及啓発の実施

全国支援センター、支援拠点病院、関係団体においては、オンライン実施など開催方法の工夫により継続して普及啓発の実施をお願いしたい。

また、厚生労働省では、令和３年度から、メンタルヘルス・ファーストエイド（MHFA）の考え方をういた「心のサポーター養成事業」を開始しており、摂食障害治療支援センター設置運営事業と心のサポーター養成事業が有機的な相互連携を図ることで、摂食障害について地域住民への普及啓発がより充実するように取り組む。

摂食障害対策

厚生労働省 社会・援護局

障害保健福祉部 精神・障害保健課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

摂食障害

患者数（推定）

- 摂食障害患者数： 約219,754人（精神保健福祉資料（2023年NDBデータ））
- 神経性やせ症： 12,674人
（低体重でも食事量の制限や嘔吐等、痩せるための行動をとる）
- 神経性過食症： 4,612人
（適正又は過体重であるが、頻繁に過食し、嘔吐等の痩せるための行動をとる）
- 過食性障害： 1,145人
（過食するが、痩せるための行動をとらない）
- （平成28年度 厚生労働科学研究費補助金 障害者政策総合研究事業 「摂食障害の診療体制整備に関する研究」）
- 女子中学生の100人に1～2人、男子中学生の1000人に2～5人
（平成21年度 障害者総合対策研究事業 「児童・思春期摂食障害に関する基盤的研究」）

治療を受けていない患者が多い

- 保健所や学校、摂食障害治療支援センター相談事例の調査で約半数の患者が治療を受けていない。
- 保健所・保健センターの相談事例のうち治療中断は29.8%、未受診は19.2%であった。
- 神経性やせ症が疑われる生徒のうち1/3～1/2が医療機関を受診していない。

症 状

- 精神症状として多いのは、肥満への恐怖・体重や体型へのこだわり、自己誘発性嘔吐、下剤・利尿剤などの乱用、むちゃ食いの反復など
- 身体症状として、脱水、お腹の張り、低血圧などがあり、病状によっては、生命の危険を伴う場合もある

治 療

- 規則正しい食事摂取、食事摂取に対する不安や葛藤の傾聴、カウンセリング、精神療法、薬物療法等の組み合わせ
- 身体症状もあるため、心療内科、内科との連携が必要である
- 症状の悪化があった場合には入院治療となる

課 題

- 疫学
 - ・患者数の実態把握が困難
 - ・患者の低年齢化、及び高齢化が問題視されている
 - ・回復率が50～60%である一方、50%が回復するのに4～5年かかり、死亡率も10%と高いという報告もある
- 治療
 - ・精神症状のほか、身体症状も認めるため、他科横断的な治療が必要となる
 - ・治療方法としてガイドラインは策定されているが、エビデンスとしては不十分の面もあるといわれている
 - ・上記状況のため、専門医の数が不足している

摂食障害治療ガイドラインより

摂食障害治療支援センター設置運営事業

令和8年度当初予算案 23百万円 (23百万円) ※()内は前年度予算額

1 事業の目的

平成30年度からの第7次医療計画により、各都道府県において、多様な精神疾患等に対応できる医療連携体制の構築に向けて、「良質かつ適切な精神障害者に対する医療の提供を確保するための指針」を踏まえて、多様な精神疾患等ごとに医療機能を明確化することとされており、令和6年度からの第8次医療計画においても当該方針を継続することとしている。また、摂食障害全国支援センターとして国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センターを、摂食障害支援拠点病院を各都道府県で指定しており、摂食障害の治療支援体制の構築に向けて、知見の集積、還元、診療のネットワーク作り等を引き続き進めていく必要がある。

2 事業の概要・スキーム

地域

摂食障害の特性や支援方法に関する知識・技術が浸透するように取り組むとともに、摂食障害を発症した患者に関わる機会が多くなると見込まれる機関をはじめとした関係者と医療機関との連携を深化し、患者・家族への相談支援や啓発のための体制を充実すること等により、早期発見・早期支援につながる地域の実現を目指す。

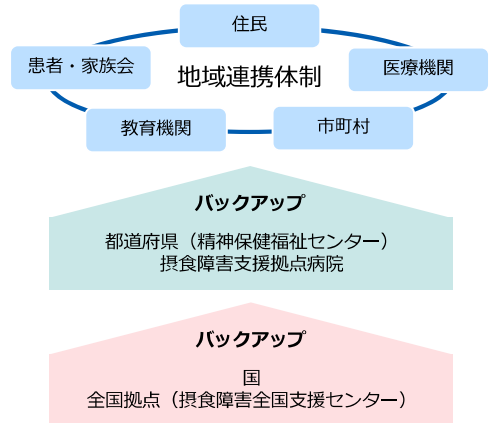
都道府県（精神保健福祉センター、保健所）・摂食障害支援拠点病院

第8次医療計画に基づいて、「都道府県拠点機能」「地域連携拠点機能」「地域精神科医療提供機能」を有する医療機関を指定し、都道府県との協働によって、摂食障害に関する知識・技術の普及啓発、他医療機関への研修・技術的支援、患者・家族への技術的支援、関係機関との地域連携支援体制の構築のための調整を行う。

国・全国拠点（摂食障害全国支援センター）

各摂食障害支援拠点病院で得られた知見を集積し、共通した有効な摂食障害支援プログラム、地域支援モデルガイドラインの開発等を行うと共に、医療従事者への治療研修など技術的支援を行う。

3 実施主体等

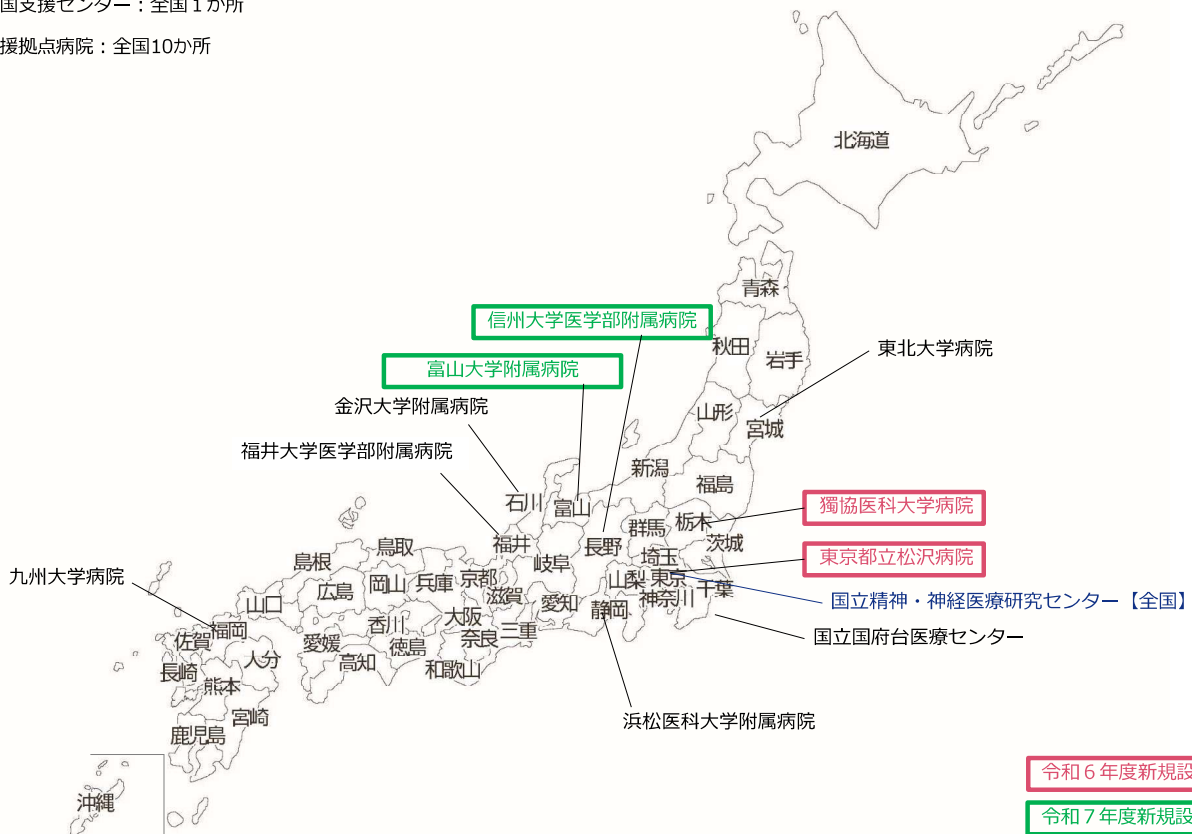


期待される成果

1. 摂食障害への早期発見・早期支援の実現
2. 適切な治療と支援により患者が地域で支障なく安心して暮らすことができる体制の整備の推進

摂食障害全国支援センター及び摂食障害支援拠点病院（令和8年3月現在）

- ・ 摂食障害全国支援センター：全国1か所
- ・ 摂食障害支援拠点病院：全国10か所



摂食障害治療支援センター設置運営事業の目的等

(目的)

- 摂食障害は10代～40代の女性に多い疾患といわれているが、専門の医療機関・専門医が全国的に少ないことが課題の一つ。
- 本事業は、摂食障害の専門医療機関の力所数増、まずは3次医療圏（都道府県）の設置を目指し、摂食障害支援拠点病院を設置する自治体に対して国庫補助（1/2）する。

(事業実績)

- 令和7年度現在、摂食障害支援拠点病院は**10医療機関**。全国支援センターが1か所。
 - * 全国支援センター（1か所）：国立精神・神経医療研究センター
 - * 摂食障害支援拠点病院（10か所）：宮城（東北大学病院）、栃木（獨協医科大学病院）、千葉（国立国府台医療センター）、東京（東京都立松沢病院）、富山（富山大学附属病院）、石川（金沢大学附属病院）、福井（福井大学医学部附属病院）、長野（信州大学医学部附属病院）、静岡（浜松医科大学附属病院）、福岡（九州大学病院）
- 主な事業内容は、以下のとおり
 - ① 摂食障害患者・家族の治療及び相談支援、
 - ② 摂食障害治療医療連携協議会の設置・運営、
 - ③ 摂食障害支援コーディネーターの配置、
 - ④ 医療従事者（医師、看護師等）等向け研修、
 - ⑤ 市民向けの普及啓発（公開講座、講演、リーフレットの作成等）

(第8次医療計画との関係)

- 第8次医療計画において、「多様な精神疾患等に対応できる医療連携対策の構築に向けた医療機能の明確化」として、都道府県ごとに摂食障害の専門医療機関を配置することが定められている。
- 同計画中に、「摂食障害治療支援センターを参考に」とあることから、今後、未整備自治体は同事業をモデルに整備し、本事業実施自治体は同機関を指定することで整備が図られることを想定している。

課題に向けた取組（摂食障害全国支援センター）

学校と医療のより良い連携のための対応指針

摂食障害に関する学校と医療のより良い連携のための対応指針（小学校版・中学校版・高等学校版・大学等）

（平成26年度～平成28年度において厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業〔精神障害分野〕）「摂食障害の診療体制整備に関する研究」）

⇒ 養護教諭などの教育関係者を対象にした研修によるゲートキーパーの養成。早期発見、早期治療へ。

摂食障害治療支援コーディネーターのための相談支援の手引き

摂食障害支援拠点病院において相談支援を担当するコーディネーターが、摂食障害の患者、家族、関係者等から相談を受ける際の手引き

（平成30年度摂食障害治療支援センター設置運営事業）

⇒ コーディネーター研修の実施、摂食障害支援拠点病院未設置自治体への設立支援

摂食障害に対する標準的な治療方法とその研修方法の開発及び普及に資する研究

本研究開発の目標・ねらい

1. 標準的治療法の有効性の実証。
2. 多職種支援者を対象とした治療マニュアルを用いた研修システムの構築。
3. 神経性やせ症に対するエビデンスに基づく身体治療マニュアルを開発、治療効果と安全性を検証。
4. 小児期摂食障害の治療マニュアルを用いた効果検証、多職種を対象に研修会を開催。
5. 神経性やせ症を抱えた患者を対象とした治療マニュアル等の多職種を対象の研修の開催（オンライン研修会を含む）。

期待される効果

1. 標準的治療法のエビデンスを確立及び普及。
2. すべての医療機関で連続的、包括的な標準的治療に対応可能な医療連携体制の構築の推進。
3. 多職種を対象とした「小児摂食障害の治療と対応マニュアル」を作成、多職種研修会を開催
4. 心理療法、身体治療等の連続的、地域包括的なケアモデルの構築の推進。
5. 本研究の成果の治療プログラム、指針を国内外の関連学会、研修会を通じての普及。
（令和3年度～5年度 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業））

2. 摂食障害全国支援センター活動報告書

令和7年度

摂食障害全国支援センター

Center for Eating Disorder Research and Information



令和7年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援拠点病院設置事業報告書

1. 基本情報

拠点機関名	摂食障害全国支援センター
設置施設	国立精神・神経医療研究センター
郵便番号	187-8553
所在地	東京都小平市小川東町 4-1-1
電話番号	042-341-2711(代)

URL

摂食障害全国支援センター:<https://edcenter.ncnp.go.jp/>

摂食障害情報ポータルサイト(一般の方):

https://edcenter.ncnp.go.jp/edportal_general/index.html

摂食障害情報ポータルサイト(専門職の方):https://edcenter.ncnp.go.jp/edportal_pro/

摂食障害全国支援センター職員

氏名	所属	役職
張 賢徳	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所	所長
井野 敬子 (事務局実施責任者、センター長)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	ストレス研究室長
関口 敦 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	心身症研究室長
大沼 麻実 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	災害等支援研究室長
井上 智子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	リサーチフェロー
兼山 桃子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費事務助手
神保 智子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費事務助手
大藺 学 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費事務助手
安藤 力也 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費事務助手

河合 啓介 (事務局実施担当者)	国立健康危機管理研究機構 国立国 府台医療センター 心療内科 (委託)	副院長 心療内科診療科長
廣方 美沙 (相談コーディネーター)	国立健康危機管理研究機構 国立国 府台医療センター 心療内科 相談ほっとライン (委託)	看護師・保健師

2. 要旨

令和7年も引き続き、摂食障害治療支援体制の強化に向けた取り組みを推進した。令和7年7月に富山県、令和7年8月に長野県に新たに摂食障害支援拠点病院が指定され、これにより全国の支援拠点病院数は10施設となった。これまでの支援拠点病院の設置支援の経験を踏まえ、拠点病院未設置地域の医療機関や自治体と連携しながら、「摂食障害支援拠点病院設置準備サポート」の充実を図った。特に、新規支援拠点病院の設置プロセスにおける課題の抽出と改善に努め、今後も新規拠点病院の指定が見込まれている。

また、摂食障害の入院医療管理加算の要件緩和が継続する中、全国の医療機関を対象とした摂食障害入院治療研修会を引き続き開催し、入院治療の質の向上と均てん化に努めた。さらに、コロナ禍を経て10代の摂食障害患者の急増の報告が相次ぎ、小児科領域における摂食障害支援の必要性が高まりを見せる中、令和5年度より開始した小児科診療従事者向け研修会を実施した。

上記活動を含めた令和7年度の主要な活動と成果の概要を以下に示す。

支援拠点病院統括業務

支援拠点病院との連携ミーティングをオンラインで2回開催し、情報共有と課題についての討議を行った。全国支援センターが開催する摂食障害治療研修のあり方などが話し合われた。

全国協議会は、第1回、第2回共にメール審議＋ウェブ会議で開催された。第1回全国協議会では年度の事業計画の策定と、非設置県への相談データ開示や年次報告書のペーパーレス化に関する承認、相談・入院関連の調査に関する議論が行われた。第2回全国協議会では全国支援センターおよび支援拠点病院の活動実績報告を受けて、拠点病院間の連絡体制の強化について承認を得た。また、日本摂食障害協会が実施した全国精神保健福祉センターを対象にした摂食障害の実態調査について報告があった。

相談支援

10支援拠点病院と、全国を対象とした電話相談『摂食障害「相談ほっとライン」』（国府台病院に委託）への相談件数は、2,798件(内、新規2,419件)であった。Web公開している摂食障害診療施設リストを、診療実態に沿って更新した。また、長野県、富山県の新規指定に合わせて、摂食障害治療支援コーディネーターを対象とした研修会を開催した。

治療支援・研修

摂食障害の治療の初心者を対象にした「外来治療研修」を2回および「入院治療研修」を2回、「小児治療研修」を2回、「摂食障害専門研修」を1回オンラインで開催した。新規の支援拠点病院候補となる自治体や医療機関を対象に、支援拠点病院設置準備研修会のビデオリンクを希望施設に配布した。更に、支援拠点病院設置の意向を表明している医療機関に対して個別に手厚くサポートを行った。

普及啓発活動

情報ウェブサイト運営・記事の更新や各種メディア対応を継続的に行っている。NCNP および日本摂食障害協会で作成した摂食障害の啓発動画を NCNP channel (YouTube チャンネル) で公開した。また摂食障害ポータルサイト(一般の方)において「動画で学ぼう摂食障害」のコンテンツを追加し、本動画を公開した。また、世界摂食障害アクションデイ 2025 において、当該事業について講演を行った。

3. 全国摂食障害対策連絡協議会の設置

全国摂食障害対策連絡協議会・計画

1. 全国協議会を1回目令和7年7-8月と2回目令和8年2-3月頃の2回開催する。
会議内容(議題等)は第1回全国協議会では年度の事業計画の策定を行う。摂食障害対策の方向性全般について討議する。第2回全国協議会では支援センターおよび支援拠点病院の活動実績報告を受けて、事業の効果の検証、問題点の抽出等を行う。

全国摂食障害対策連絡協議会・結果

- 第1回:全国支援センターにおける年度の事業計画の策定と、非設置県への相談データ開示や年次報告書のペーパーレス化、相談・入院関連の調査について検討した。協議会委員により今年度の全国支援センター事業が承認された。
- 第2回:令和7年度実施事業報告として、拠点病院設置準備サポートの展開、長野県、富山県摂食障害支援拠点病院の新規指定、動画による啓発活動の記事追加、を報告した。次年度に予定している世界摂食障害アクションデイ2026の企画、摂食障害外来研修会の運営を令和8年度より日本摂食障害学会へ移行することや摂食障害治療外来研修会(3種)の運営を令和9年度より移行することを見据えた学会後援、次年度の全国支援センターの体制変更について検討・報告をした。

全国摂食障害対策連絡協議会

第1回全国摂食障害対策連絡協議会

開催日	R7/07/11-07/17 メール審議、R7/07/25 ウェブ会議
対象者	支援拠点病院職員、実施団体、厚生労働省、摂食障害の診療に資するもの、他
開催場所	ウェブ会議
議題	1. 全国支援センターにおける令和7年度の事業計画の策定 1) 研修会(各種研修の開催様式・内容決定) ① コーディネーター研修会のスタイル変更 ② 入院治療研修会(定期開催:年2回) ③ 初学者外来研修会(定期開催:年2回) ④ 小児治療研修会(定期開催:年2回) ⑤ 専門治療研修会(定期開催:年1回) ⑥ 支援拠点病院設置準備研修会(オンデマンド開催) 2) 非設置県への相談データ開示について(連携ミーティングで承認済) 3) 相談・入院関連の調査 ① 相談データ・入院データの報告 ② 入院調査の個票と入力フォームの変更及びマニュアル作成(8月末

参加人数	目標に改訂)
	③ 相談・入院調査個票と入力フォームの連動化について 4) 年次報告書のペーパーレス化（連携ミーティングで部数縮小を承認済） 2. 支援拠点病院の令和7年度の事業計画について 各拠点病院への質問と回答、アドバイス等
参加人数	51

第2回全国摂食障害対策連絡協議会

開催日	R8/01/23-02/01 メール審議 R8/02/06 ウェブ会議
対象者	支援拠点病院職員、実施団体、厚生労働省、摂食障害の診療に資するもの、他
開催場所	ウェブ会議
議題	1. 全国支援センターからの報告 1) 拠点病院設置準備サポート ① この1年間で設置に向けて全国支援センターとコンタクト ② 2025年4月以前のコンタクト 2) 次年度アクションデイ 3) 研修会 学会移行 4) HP改訂とアクセス報告（ポータルサイト/全国支援センター） ① アクセス報告 ② 摂食障害情報ポータルサイト（専門職） ③ 3/1に edportal.jp の旧ドメイン消失 5) 次年度協議会委員変更 2. 各支援拠点病院からの報告 3. 募集したアジェンダ ①（全国支援センター）メールリスト活用について ②（河合座長）事業名、拠点病院名等の変更 ③（鈴木 眞理委員）全国精神保健福祉センターを対象にした摂食障害の実態調査 ④（安藤 哲也委員）拠点病院の拡大の方策、拠点病院間あるいは拠点病院設置都県内のネットワークを利用した実態調査や研究の可能性、事業と学会、協会との連携について
参加人数	66

4. 支援拠点病院統括業務

支援拠点病院統括業務・計画

1. 支援拠点病院と密接に連携を図り、情報を共有し、必要に応じ、支援拠点病院への助言および連携調整を行う。そのために全国支援センターと支援拠点病院との摂食障害支援拠点病院連携ミーティングを2回開催する(開催日:1回目令和7年7-8月、2回目令和8年1-2月頃、開催形式:ウェブ会議)。

支援拠点病院統括業務・結果

1. **摂食障害支援拠点病院連携ミーティングは、ウェブ会議形式で7月と1月の2回開催した。**
 - ・第1回摂食障害支援拠点病院連携ミーティングでは、昨年度報告・今年度計画、非設置県からの相談データ開示、コーディネーター研修会のスタイル変更、年次報告書のペーパーレス化、入院調査の個票と入力フォームの変更及びマニュアル作成、相談記録提出フォーム・入院記録提出フォームのマクロ化、支援拠点病院への相談者のフォローアップの実施についての討論と、R6年度入院データの報告を行った。
 - ・第2回摂食障害支援拠点病院連携ミーティングでは、コーディネーター研修会の開催日程や日本摂食障害協会と共催する世界摂食症アクションデイ2026企画のテーマの周知、摂食障害外来研修会の日本摂食障害学会への移行、支援拠点病院設置準備サポート状況、入院個票の改訂、HP改訂について報告を行った。また、各支援拠点病院からの報告が行われた。

摂食障害支援拠点病院連携ミーティング

第1回摂食障害支援拠点病院連携ミーティング

開催日	R7/07/09
対象者	支援拠点病院職員、実施団体
開催場所	ウェブ会議
議題	1. R6年度・R7年度計画（全国支援センター） 2. R6年度報告・R7計画（各支援拠点病院） 3. 非設置県からの相談データ開示について 4. コーディネーター研修会のスタイル変更 5. 年次報告書のペーパーレス化 6. 入院調査の個票と入力フォームの変更及びマニュアル作成の要望 7. 相談記録提出フォーム・入院記録提出フォームのマクロ化の要望 8. 支援拠点病院への相談者のフォローアップの実施について 9. R6年度入院データの報告 10. 自由討論
参加人数	47

第2回摂食障害支援拠点病院連携ミーティング

開催日	R8/01/16
対象者	支援拠点病院職員、実施団体
開催場所	ウェブ会議
議題	1. 全国支援センターからの報告 1) 入院時患者データの個票改訂

	2) 支援拠点病院設置準備サポート ① この1年間で設置に向けてセンターとコンタクト ② 2025年4月以前のコンタクト 3) 次年度アクションデイ 4) 次年度研修会・学会移行 5) ホームページ改訂(全国センター、ポータルサイト) 2. 各支援拠点病院からの報告 3. 募集したアジェンダ・その他 1) (石川県) 摂食障害世界アクションデイトアップ・催しについて 2) (石川県) 質問:コロナ禍前後の患者動向について 3) (支援センター) メーリングリスト活用について 4) (栃木県) 専門的な研修会の情報 5) (河合) 摂食障害支援拠点病院 → 摂食症支援拠点病院へ 変更 6) (支援センター) 協議会で取り上げるアジェンダ募集
参加人数	48

5. 相談支援

相談支援・計画

1. 支援拠点病院に対し、連携ミーティング等で相談業務に関する連携調整を行う。
2. 各支援拠点病院で相談業務を担当するコーディネーターの研鑽と情報交換を目的として、コーディネーター研修を開催する。
3. 全国を対象とした摂食障害に関する相談業務の継続体制について実施可能性を検討する。
4. 支援拠点病院より収集したデータ分析結果とそれに基づく患者・家族への対応方法をフィードバックする。
5. 情報ウェブサイトにて、患者・家族・支援者向けの摂食障害の医療、研究、支援に関する情報を提供する。

相談支援・結果

1. 支援拠点病院との連携ミーティングを2回ウェブ会議で実施した。
2. コーディネーター研修会を開催した。新規設置された、長野県、富山県のコーディネーターを主対象にコーディネーターの基本的な業務と年間スケジュールについての講義をビデオ録画し、オンデマンドで提供した。コーディネーターが業務内容について質疑応答する機会をウェブ会議で設けた。
3. 令和4年1月に国府台病院に開設された摂食障害相談「ほっとライン」は、週3日(9時～15時)の相談体制で実施し、支援拠点病院が設置されていない都道府県からの相談を受け付けた。この相談業務は摂食障害全国支援センターから、国立国府台医療センター心療内科に委託して運営されている。同診療科にて摂食障害「相談ほっとライン」HPも運営している。(7.普及啓発活動で後述)
4. 令和7年度摂食障害治療支援センター相談支援事例の分析結果は以下に詳細を記す。
5. 情報ウェブサイト(摂食障害ポータルサイト)の記事を更新した(詳細は7.普及啓発活動を参照)。

摂食障害全国支援センター:相談ほっとライン

Center for Eating Disorder Research and Information: Consultation Hotline

令和7年度(2025年4月～2026年3月)

精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置事業報告書

1. 基本情報

摂食障害全国支援センター:相談ほっとライン

Center for Eating Disorder Research and Information: Consultation Hotline

センター名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
摂食障害全国支援センター:相談ほっとライン	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター	272-8516	千葉県市川市国府台1-7-1	047-372-3501 (代)

URL: 摂食障害全国支援センター:相談ほっとライン

<https://www.sessyoku-hotline.jp/>

摂食障害全国支援センター:相談ほっとライン

氏名	所属	役職
河合 啓介	国立国府台医療センター心療内科	副院長・診療科長
山本 ゆりえ	国立国府台医療センター薬剤部	薬剤師

摂食障害全国支援センター:相談ほっとラインコーディネーター

氏名	医療機関での職種
廣方 美沙	看護師、保健師

2. 要旨

概要

摂食障害全国支援センター:相談ほっとラインは摂食障害支援拠点病院の設置されていない地域在住の当事者・家族・医療機関・学校関係者などの相談に対応できるよう2022年1月、国府台病院に開設された。また、X(旧 Twitter)などSNSを使って情報発信をしている。

今年度は、コーディネーター1名(非常勤)、事務助手1名(非常勤:兼任1名)の体制で、週3回相談業務を行った。

相談支援結果

令和7年4月1日～令和8年3月31日の相談総数は、新規597件、延べ614件であり、月の平均相談数は51.2件であった。大部分は新規相談で97%であった。(以下、年齢分布、病院紹介は延べ件数、他は全て新規相談件数による。)

相談者の摂食障害による受診状況は、現在受診中(外来、入院含む)は169件(27%)、中断中は59件(10%)、未受診は145件(24%)、摂食障害以外で受診中は210件(34%)、その他17件(3%)、受診状況不明は10件(2%)であった。昨年度から引き続きの結果であった。

相談者の割合は本人が309件(51%)で一番多く、次いで母からの相談が219件(36%)であった。神奈川や埼玉をはじめとする政令指定都市を有する人口の多い都道府県からの相談が多くみられる。今年度の相談ケースの年齢については20-29歳が194件(32%)と最も多く、次いで10-19歳の161件(27%)、30-39歳の73件(12%)と続いている。相談者の基幹病院への紹介割合は18%であった。

令和7年4月～令和8年3月までのホームページへのアクセス総数は51,315件であった。Twitterのフォロワー数は1500名に達した。

3. 相談支援

相談体制

本年度は、保健師・看護師の資格を持つコーディネーター1名で週3日の電話相談業務を行っている。

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
597	614

居住地域（新規件数）n= 597

管轄都道府県内	管轄都道府県外	不明	ほっとライン	計
0	0	0	597	597

相談者の患者との関係（新規件数）n= 597

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
301	22	214	9	30	2	1	6	9	0	594

相談対象患者の年齢（新規件数）n= 597 平均年齢: 27.3 SD = 13.3 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	計
10	161	188	73	52	31	11	2	528

相談対象患者の性別（新規件数）n= 597

女性	男性	その他	不明	計
538	54	0	1	593

相談対象患者状態（新規件数） n= 597

やせ	食事制限	過食	排出・代償行動					精神・行動症状					その他
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	
253	248	282	168	42	17	50	1	1	118	6	1	3	2

相談対象患者属性（新規件数） n= 597

学生				社会人			その他	不明	計
小	中	高	大／専	就労中	無職	主婦/主夫			
24	38	80	68	122	49	32	9	169	591

摂食障害での受診状況（新規件数） 597

受診中	入院中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	計
144	20	57	143	202	17	10	593

相談経路（延べ件数） n= 614

電話	メール	面談	その他	計
614	0	0	0	614

#REF!

相談が個別症例および患者関連以外の件数

個人	専門家
1	3

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ（新規件数） n= 597

インター ネット	紹介				メディア				ポスター・ ちらし	その他	不明	計
	機関			その他・ 不明	テレビ	新聞	自治体・ 広報	その他・ 不明				
	医療	行政	教育									
409	7	6	3	26	3	1	0	0	1	9	132	597

相談内容（延べ件数） n= 614

疾患相談	有り	対応相談			受診相談	支援拠点 病院業務 問い合わせ	その他	コロナ 関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
222	115	114	0	47	260	25	70	20

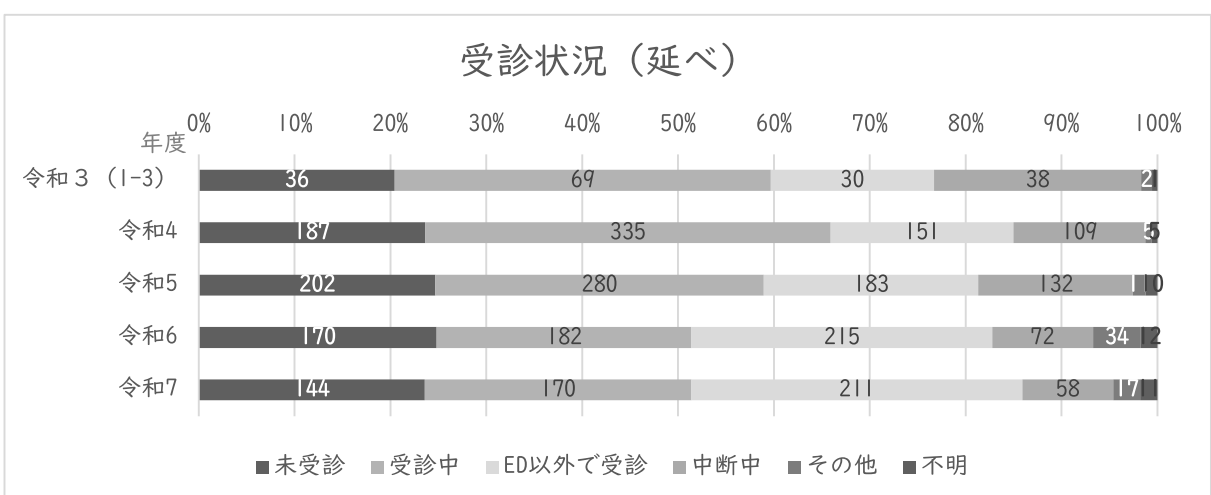
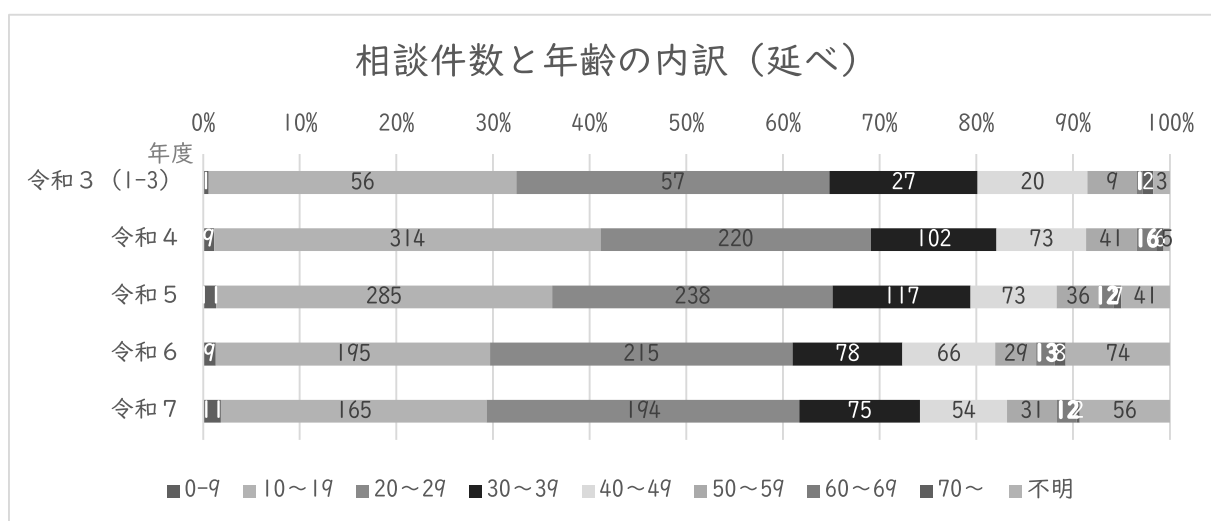
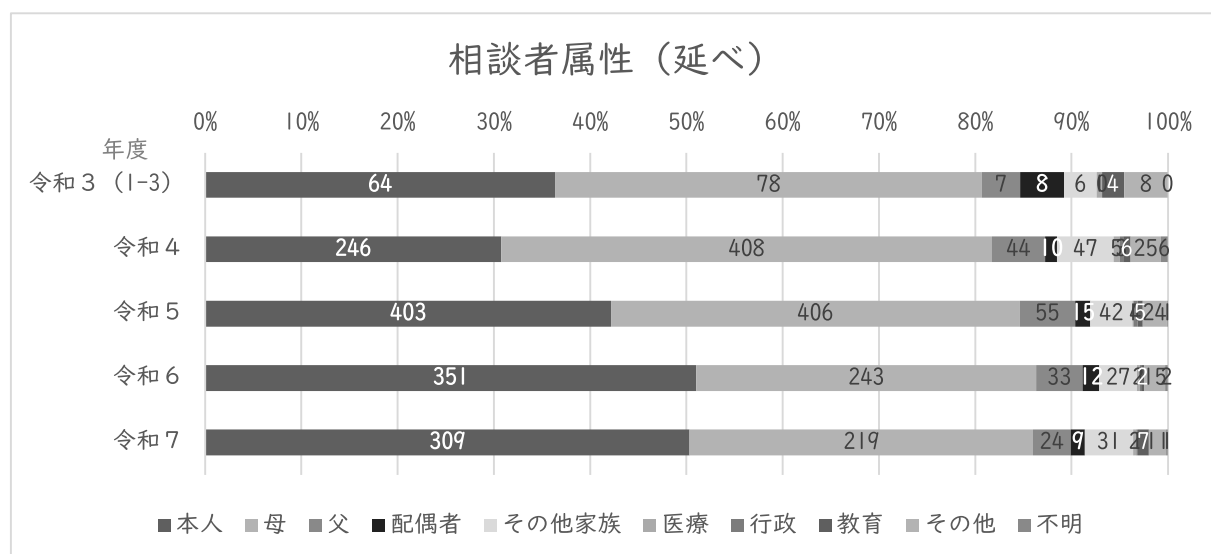
対応内容（延べ件数） n= 614

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	支援拠点 病院業務 問い合わせ	その他
	拠点病院	協力 病院	その他 病院	公共 機関		疾患 知識	治療 受診	資料	社会 資源			
217	39	215	2	236	94	30	86	2	3	426	51	11

医療やシステムへの不満・課題（複数回答）

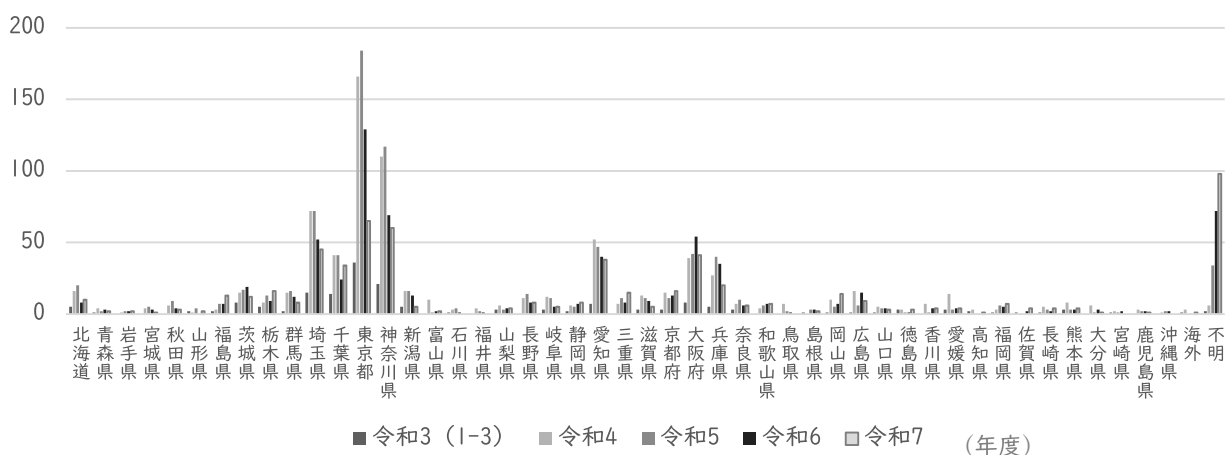
医療への不満・要望有り						
有り	専門性	改善無し	対話不足	嫌な体験	治療関係	システム
15	0	0	0	8	3	5

相談者属性の変化(令和3-7年度,延べ件数)

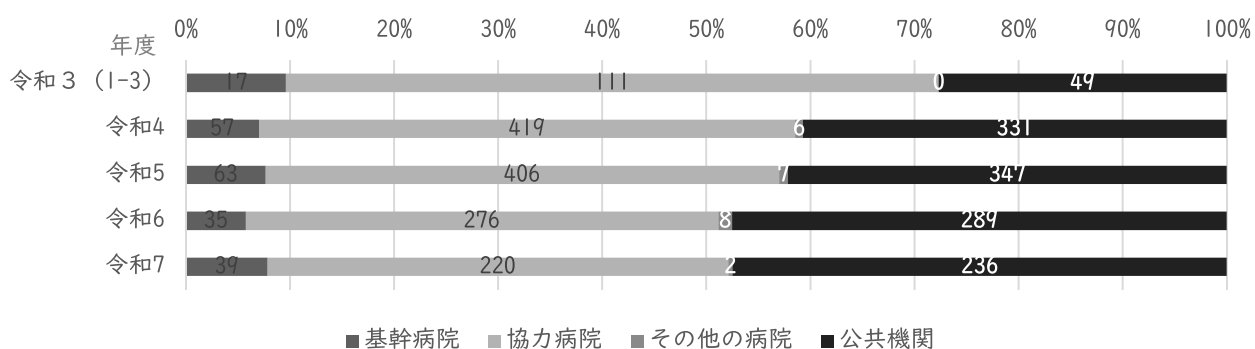


(件)

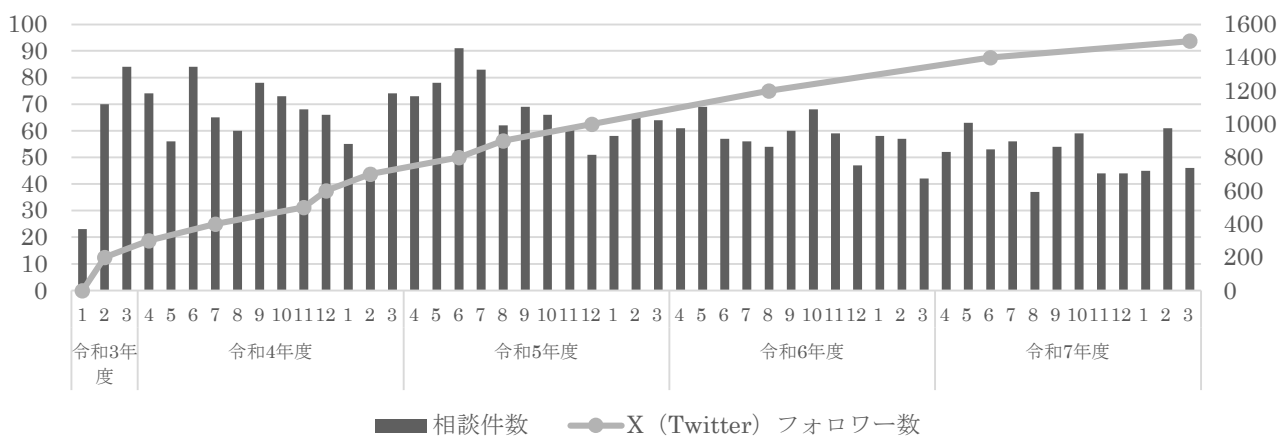
当事者の居住地（延べ）



紹介した施設の内訳



摂食障害全国支援センター：相談ほっとライン 月別相談件数とXフォロー数



講習会、研修会、ミーティング等

摂食障害治療支援コーディネーター研修	
開催日	R8/01/22
対象者	摂食障害治療支援コーディネーター
研修内容	1. 応募されたアジェンダについてのウェブ会議 情報交換・総合討論 2. 学習ビデオの事前視聴
講師	井野敬子(司会)、井上智子(事務局)
実施場所	オンデマンド配信＋ウェブ会議
参加団体	各支援拠点病院(宮城、栃木、千葉、東京、石川、福井、静岡、長野、富山)、全国支援センター

4. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

・ほっとラインホームページの随時更新を行う。 ・SNS を利用した情報発信を行う。 ・ポスターの制作と配布を行う。

普及啓発活動実施結果

令和 7 年 4 月～令和 8 年 3 月までのホームページへのアクセス総数は 51315 件であった。 Twitter のフォロワー数は 1500 名に達した。 インターネットで知ったという声が多い。 動画サイト YouTube でのワンボックスが開始されていたが、仕様が変更となりさらに視聴者の目に留まるようになった。
--

学会発表・講演等

5 月 24 日	第 10 回摂食障害外来治療研修会「症例からみる摂食障害の治療の流れとコツ」(田村)
5 月 29 日	市川市医師会月例学術講演会「進化する現代病」スマホ依存やストレス関連疾患への新たな視点(河合)
6 月 21 日	第 66 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会 特別シンポジウム「心身医学のアイデンティティと可能性を探る:現代医療における心身医学の位置づけ」(河合)
6 月 21 日	第 66 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会 一般演題「摂食障害全国支援センター:相談ほっとライン 相談内容および相談数の変遷と支援拠点病院設置の影響」(廣方)
9 月 13-14 日	第 20 回アジア心身医学会(インドネシア) 東洋の精神療法 (河合)
9 月 25 日	令和 7 年度保健室健康相談研修会「摂食障害の児童・生徒への支援と連携について」(田村)
10 月 18 日	第 28 回日本摂食障害学会学術集会 会長講演「摂食障害治療の進化と展望」(河合)
10 月 18 日	第 28 回日本摂食障害学会学術集会 一般演題 「自閉スペクトラム症を併存した神経性やせ症の 1 症例の入院治療経験」(田村)
10 月 18 日	第 28 回日本摂食障害学会学術集会 一般演題 「神経発達症特性を伴う摂食症患者への介入に知能検査や心理検査が有効だった一例」(長谷川)
10 月 18 日	第 28 回日本摂食障害学会学術集会 一般演題 「摂食障害全国支援センター:相談ほっとライン オンライン アンケート結果報告」(廣方)

10月19日	第28回日本摂食障害学会学術集会 特別対談「現代社会における心身の健康と幸福について」(河合)
10月19日	第28回日本摂食障害学会学術集会 シンポジウム「Anorexia Nervosa 治療の国立国府台医療センター心療内科での新たな試み」(田村)
10月19日	第28回日本摂食障害学会学術集会 一般演題 「不安症と機能性ディスペプシアを併存した回避・制限性食物摂取症の1症例」(鈴木)
11月9日	第11回摂食障害外来治療研修(摂食障害全国支援センター主催)「症例からみる摂食障害の治療の流れとコツ」(田村)
11月19日	精神科・神経内科の連携を考える会「最近の摂食障害入院治療:認知行動療法を含めて」佐倉市(河合)
11月20日	日本橋医師会「摂食症(障害)診療:見立てと専門医へのつなぎ方」(河合)
12月6日	第29回心療内科学会総会・学術集会 「嘔吐恐怖症を併存した回避・制限性食物摂取症の30代女性の一例」(松尾・田村他)
12月13日	第9回千葉県摂食障害研究会「千葉県摂食障害支援拠点病院による実績報告」(田村・河合)
12月14日	第23回機能性食品医用学会総会 シンポジウム 「摂食障害と機能性食品」(河合)
12月13-14日	第23回機能性食品医用学会総会「嘔吐恐怖症を併存した回避・制限性食物摂取症の1症例」(小川・田村他)
1月31日	第6回千葉県摂食障害支援拠点病院県民公開講座「摂食障害からの回復のコツ」(河合・田村・廣方)
2月22日	2025年度日本財団助成研究結果報告会 摂食障害支援拠点病院の現状(河合)
3月28日	日本糖尿病学会第60回糖尿病学の進歩 基調講演:市販薬ODの病理と治療戦略ー孤立する若者たちの「痛み」と向き合うー(河合)

5. 行政機関との連携

研修体制・計画

年2回全国摂食障害対策連絡協議会への出席も含め、精神神経センターと連携する。

研修実施結果

全国摂食障害対策連絡協議会及び摂食障害支援拠点病院連携ミーティングに出席した。

連携会議等

開催日	対象者	参加人数	内容	実施場所
7月9日	全国摂食障害対策連絡協議会委員、摂食障害治療支援拠点病院職員	47	令和7年度 精神保健対策費補助金「摂食障害治療支援センター設置運営事業」 第1回 摂食障害支援拠点病院連携ミーティング	オンライン
7月25日	全国摂食障害対策連絡協議会委員、摂食障害治療支援拠点病院職員、厚生労働省職員、団体事務局	51	令和7年度 精神保健対策費補助金「摂食障害治療支援センター設置運営事業」 第一回 全国摂食障害対策連絡協議会	オンライン
1月16日	全国摂食障害対策連	48	令和7年度 第二回摂食障害支援拠点病院	オンライン

	絡協議会委員、摂食 障害治療支援拠点病 院職員		連携ミーティング	
2月6日	全国摂食障害対策連 絡協議会委員、摂食 障害治療支援拠点病 院職員、厚生労働省 職員、団体事務局	66	令和7年度 精神保健対策費補助金「摂食 障害治療支援センター設置運営事業」 第2回 全国摂食障害対策連絡協議会	オンライン

6. 考察

- ・ 相談件数は月 60 件程度。
- ・ 相談センターが設置されていない都道府県の中で相談件数が多いのは、神奈川、埼玉、愛知、大阪であった。
- ・ センターが各県にできるのが理想であるが、それまで現実的な対応として、ほっとラインが行う活動を行っている。
- ・ 病院に繋がっていないながらも治療がうまく進んでいないと感じていること、以前受診しても何らかの事情で中断している患者さんや家族への対応が重要なことが分かった。
- ・ 通院中の治療施設外の敷居が低い形式で公的に相談できる場所が求められていることが明らかになった。

<展望>

- ・ 人口で調整して相談の多い県と少ない県がある。
- ・ 都道府県の公的機関に情報を周知徹底するため、ポスターを作成する。

<課題>

- ・ 情報の周知を徹底し、困っている方々が相談できるよう働きかけていく。
- ・ 困っている方々が求めている情報や見やすい形式を探し、工夫していく。

令和7年度

摂食障害支援拠点病院 相談支援記録の集計と分析

摂食障害全国支援センター

令和7年度 摂食障害支援拠点病院 相談支援記録の集計と分析

調査目的：平成30 - 令和7年度の10拠点病院と相談ほっとラインにおける相談データを集計し、実態を明らかにする。

集計方法：各拠点病院から報告されたH30年（2018年）4月から、令和8年（2026年）3月の「相談記録入力フォーム」を全施設分合算し、調査項目ごとに集計した。

なお、1名から複数回の相談があった場合、1名からの相談を1件（1名）としてカウントしている施設と、同一相談であってもアクションごとに1件（1名）とカウントしている施設が混在しているため、施設間の詳細な比較は参考程度にとどめる。

拠点病院数の経緯：

H30-R4年度 支援拠点病院4施設： 東北大学病院（宮城県）国立国府台医療センター（千葉県）

浜松医科大学医学部附属病院（静岡県）九州大学病院（福岡県）

R4年度 支援拠点病院4施設＋相談ほっとライン： 相談ほっとライン追加

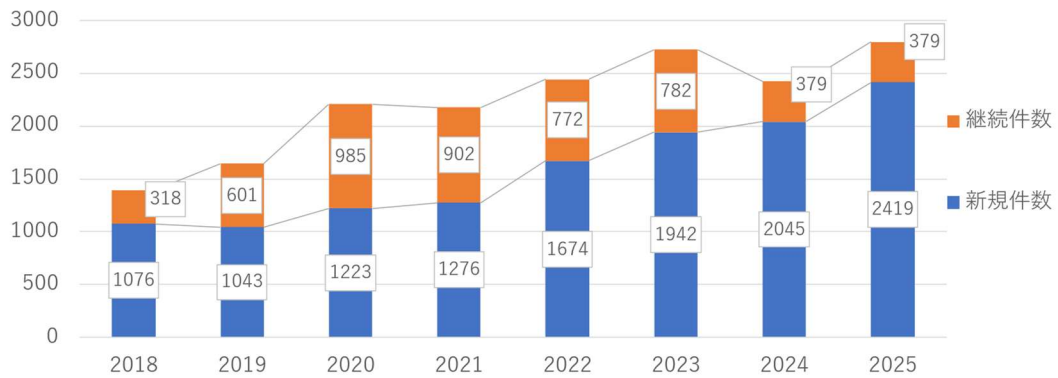
R5年度 支援拠点病院6施設＋相談ほっとライン： 金沢大学附属病院（石川県）

福井大学医学部附属病院（福井県）追加

R6年度 支援拠点病院8施設＋相談ほっとライン： 獨協医科大学病院（栃木県）都立松沢病院（東京都）追加

R7年度 支援拠点病院10施設＋相談ほっとライン： 信州大学医学部附属病院（長野県）富山大学附属病院（富山県）²

拠点病院&ほっとライン 相談件数
(延べ件数)

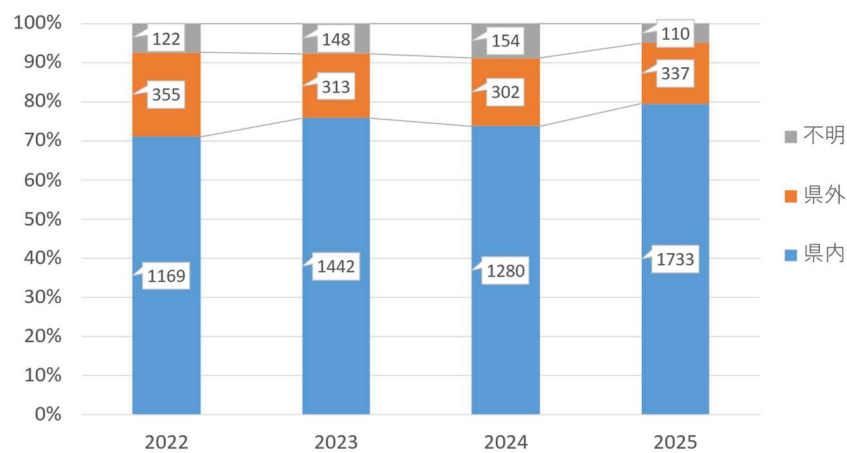


延べ件数 (総計)	1394	1644	2208	2178	2446	2724	2424	2798
拠点病院数	4	4	4	4	4	6	8	10
ほっとライン	-	-	-	-	開始	継続	継続	継続

相談件数は2018年度以降、全体として増加傾向を示し、拠点病院数の増加も背景に、2025年度に過去最多となった。

3

拠点病院 相談者居住地 県内/県外の割合
(新規件数)



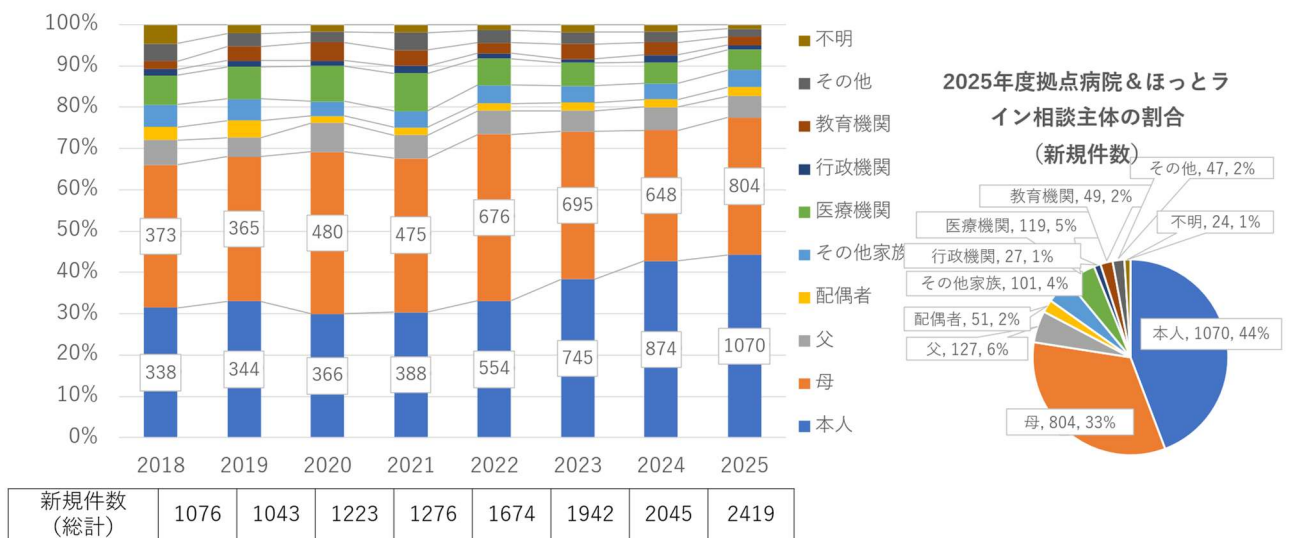
新規件数 (総計)	1646	1903	1736	2180
-----------	------	------	------	------

※支援拠点病院のみを集計

拠点病院の相談者居住地は、約7～8割は県内からの相談であり、拠点病院設置県内の相談支援機能を担っていた。一方、県外相談も約2割弱みられ、地域を越えた相談ニーズが認められた。

4

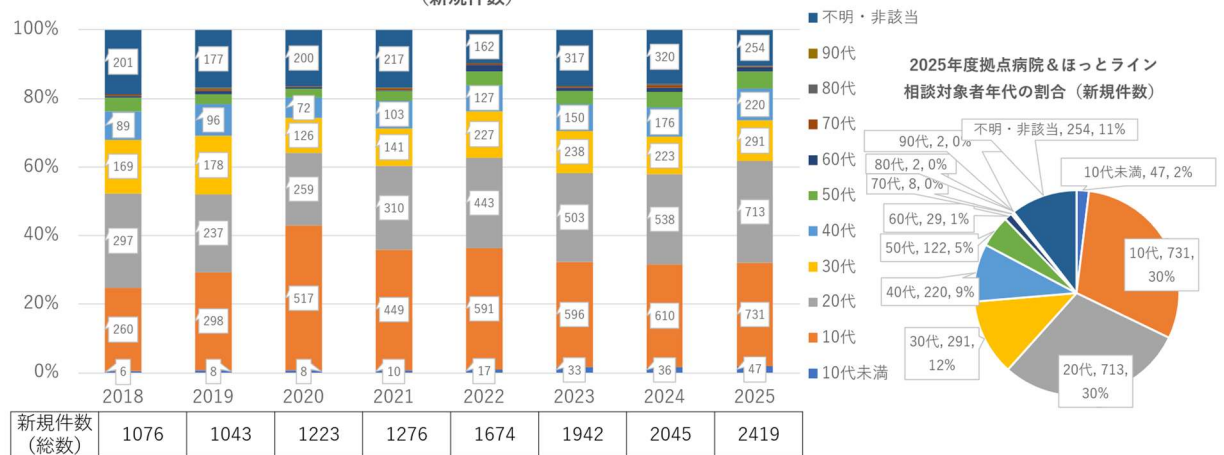
拠点病院&ほっとライン 相談主体の割合（新規件数）



相談主体は本人と母が中心であり、2025年度は両者で77%を占めた。本人からの相談は年々増加しており、当事者本人が直接相談できる窓口としての機能が示唆された。また、医療機関、教育機関、行政機関からの相談も一定数地域の関係機関からも利用される相談窓口となっていた。

5

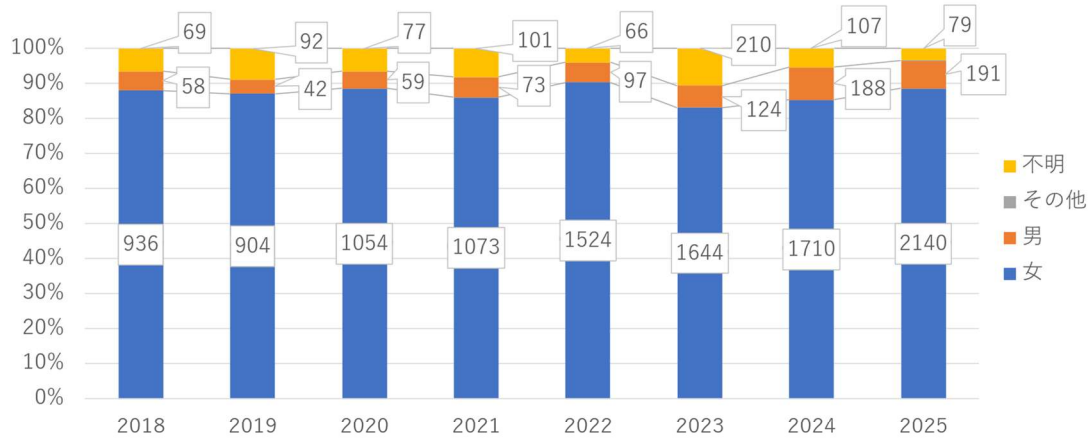
拠点病院&ほっとライン 相談対象者年代の割合
(新規件数)



10代の相談件数は2020年度に増加したが、2023年度以降、その割合はコロナ禍前に近い水準で推移していた。相談対象者は10代・20代が中心である一方、30代以降からも相談があり、幅広い年代に応じた相談支援が求められている。

6

相談対象者 性別の割合（新規件数）

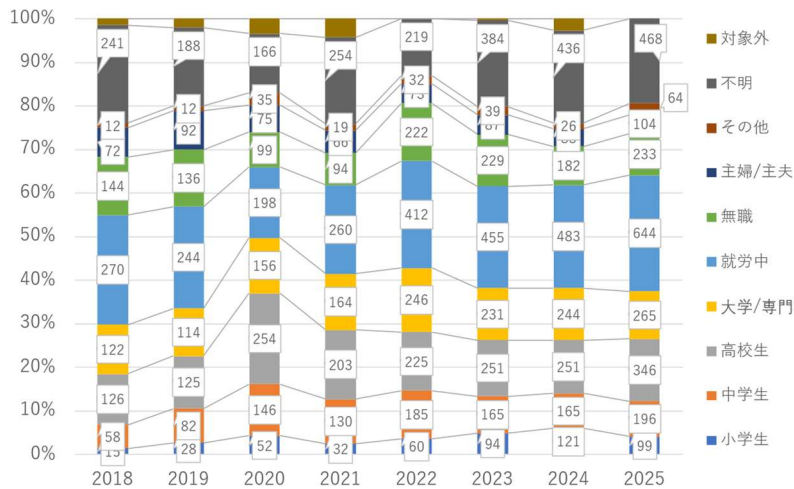


新規件数（総数）	1063	1038	1190	1247	1687	1978	2005	2415
----------	------	------	------	------	------	------	------	------

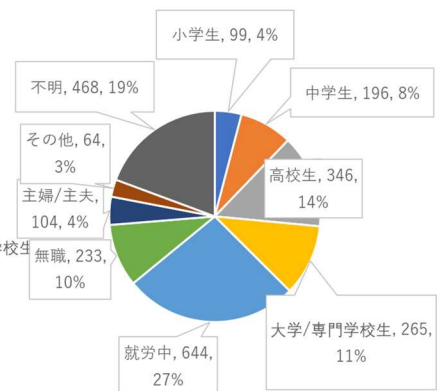
新規相談における相談対象者の性別は、全年度を通じて女性が大多数を占めていた。2025年度では、女性2,140件、男性191件、その他5件、不明79件であり、性別が把握できた対象者の91.6%が女性、8.2%が男性であった。男性の割合は、2018年度の5.8%から2025年度には8.2%へ上昇しており、男性からの相談も増加傾向にあることが示された。

7

拠点病院&ほっとライン 相談対象者属性の割合（新規件数）



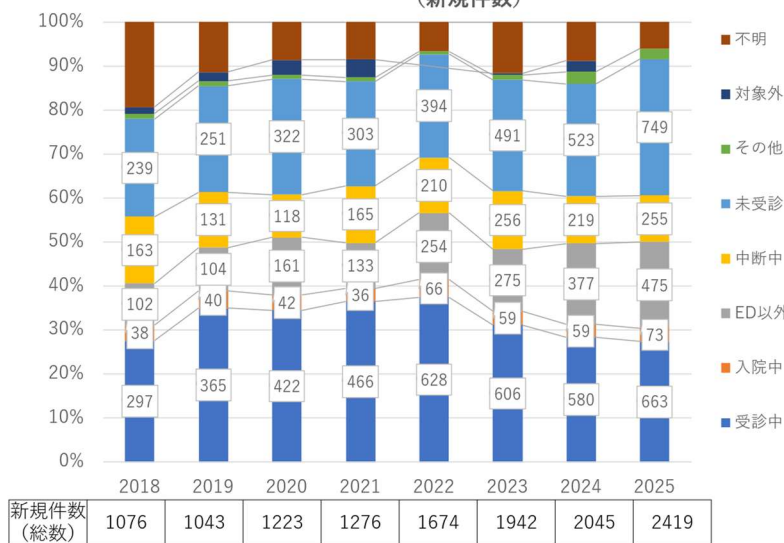
相談対象者属性の割合（新規件数）



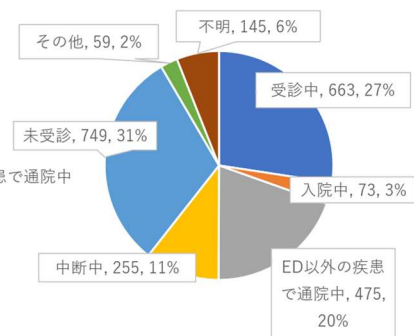
2025年度では就労中が644件（27%）と最も多かった一方、小学生から大学・専門学校生までの学齢期も906件（38%）を占めていた。コロナ禍以前は学齢期の若年層が概ね約3割であったのに対し、2025年度は約4割に近く、割合としても増加していることが示された。若年層の相談ニーズはコロナ禍以降も高い水準にあると考えられた。

8

拠点病院&ほっとライン 拠点病院&ほっとライン 受診状況の割合
(新規件数)



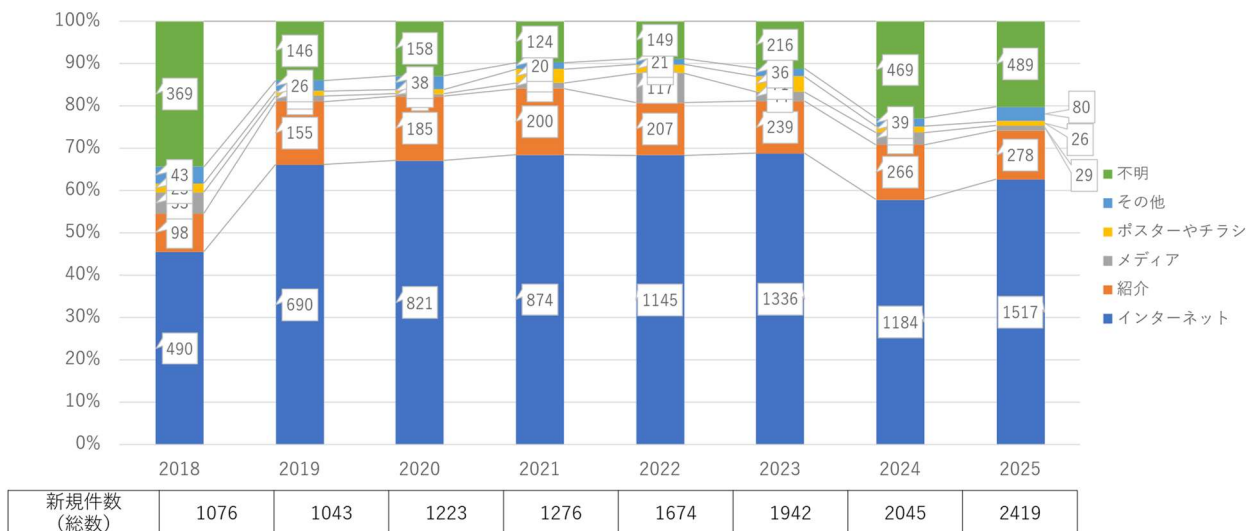
相談対象者 受診状況の割合 (新規件数)



2025年度の受診状況は、未受診が31%と最多であり、相談窓口は受診前の重要な入口として機能していた。一方で、受診中27%、ED以外の疾患で通院中20%、中断中11%も一定割合を占めており、受診前だけでなく、治療中や治療中断中の相談者に対する情報提供や、専門支援への橋渡しが求められていた。

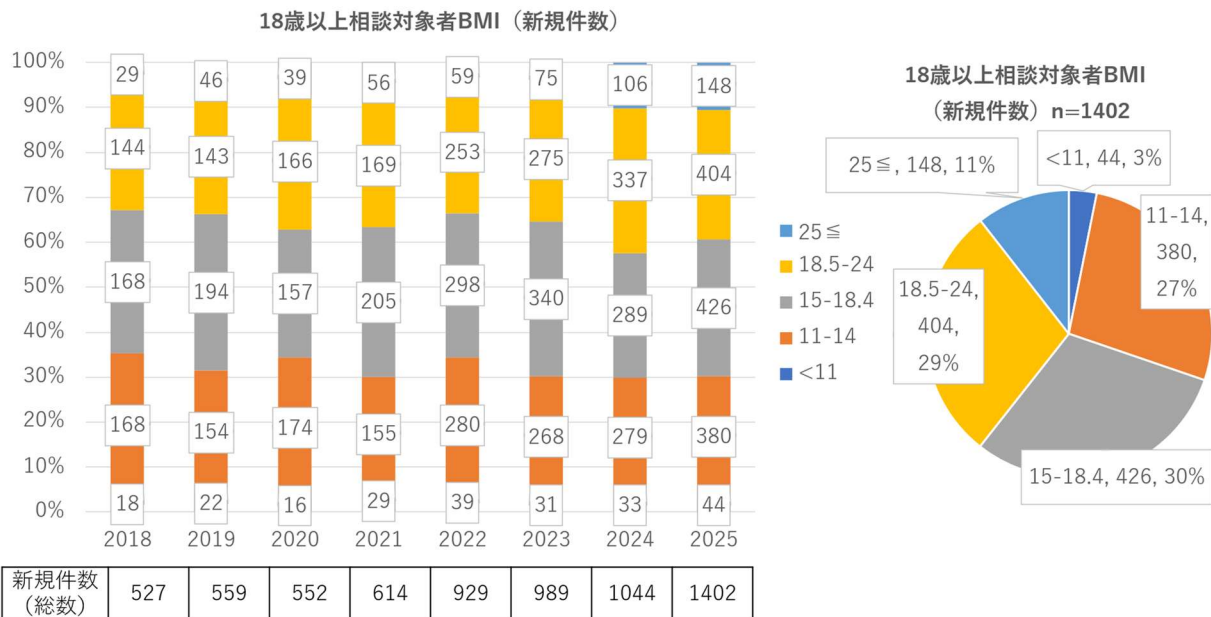
9

拠点病院&ほっとライン 相談窓口を知るきっかけとなった媒体の割合 (新規件数)



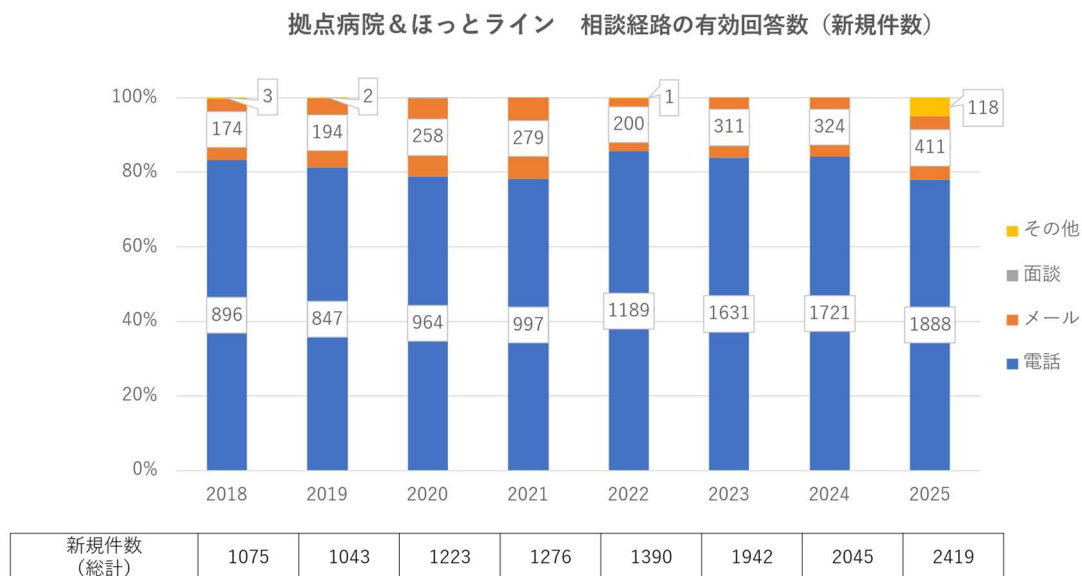
相談窓口を知るきっかけはインターネットが最多で、2025年度は約63%を占めた。2019年度以降も概ね6割前後で推移しており、相談者が相談窓口にとどり着く主な経路となっていた。一方、紹介も1割前後みられ、関係機関を通じた相談も一定数あった。

10



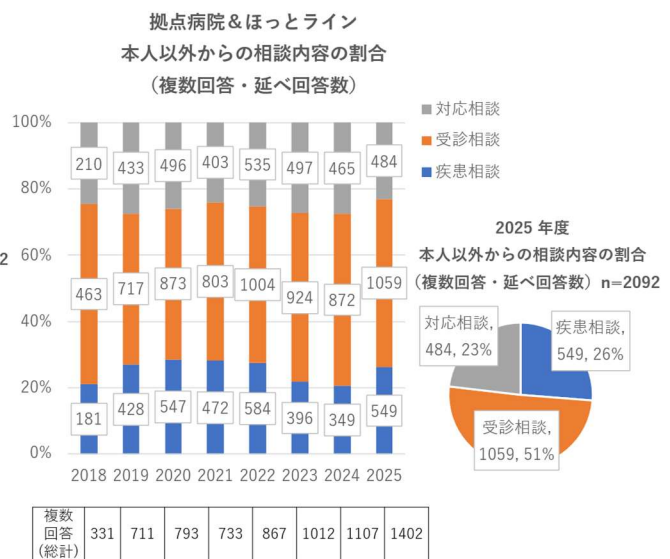
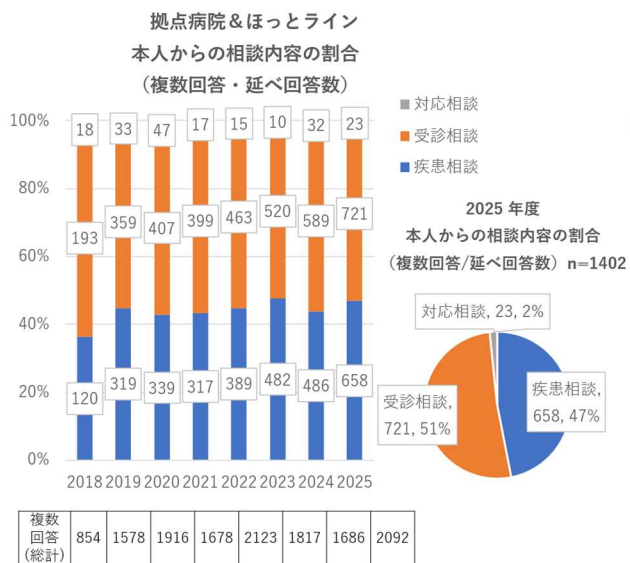
18歳以上でBMIが算出できた相談対象者では、BMI18.5未満が全年を通じて概ね6割を占め、2025年度は61%であった。BMI15未満も30%を占めており、身体状態を評価し、必要な医療につなぐことが求められる相談者が一定数含まれていた。

11



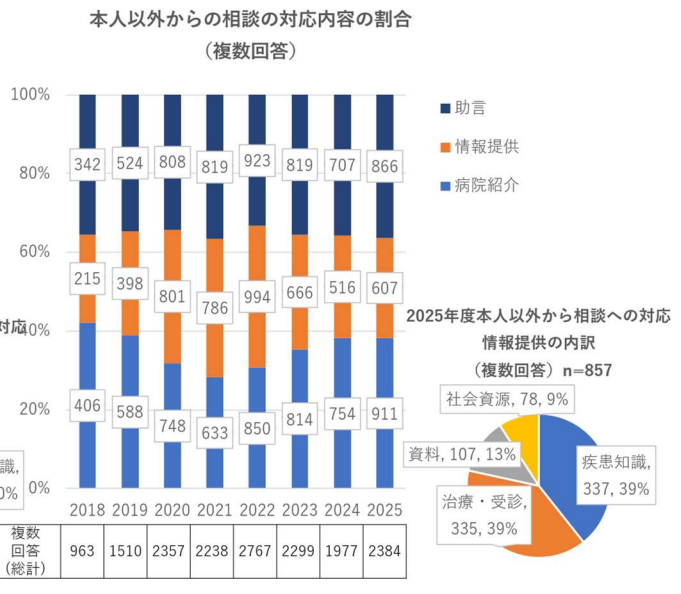
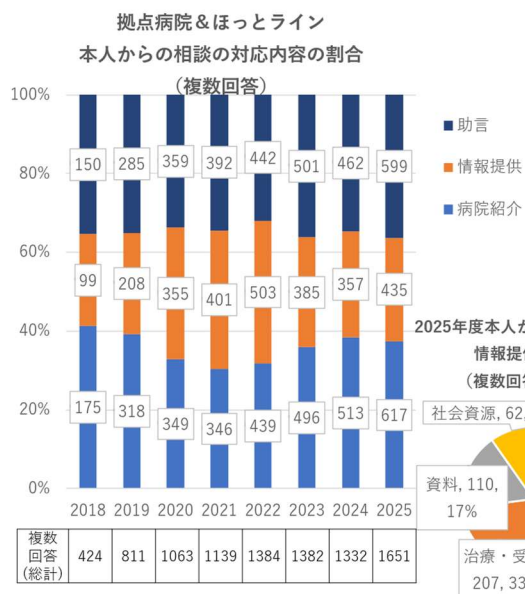
全期間通して、電話による相談が8割前後であった。メール相談に応じている拠点病院と応じていない拠点病院があり、条件の違いが結果に反映している可能性があった。

12



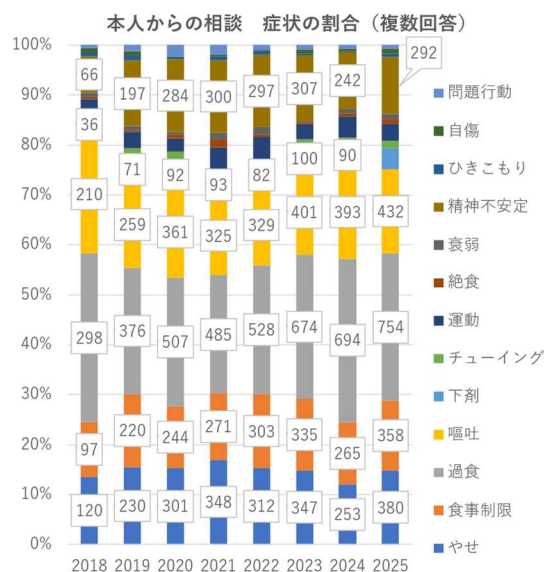
2025年度の本人からの相談内容では、延べ回答1,402件のうち、受診相談721件（51%）、疾患相談658件（47%）であった。複数回答であることも踏まえると、両者がほぼ半数を占めていた。一方、本人以外からの相談では、受診相談1,059件（51%）が半数を占めたが、疾患相談は549件（26%）にとどまった。本人は症状理解や受診判断に関する相談を求めている一方、本人以外では医療機関につなげるための相談ニーズが中心であると考えられた。

13

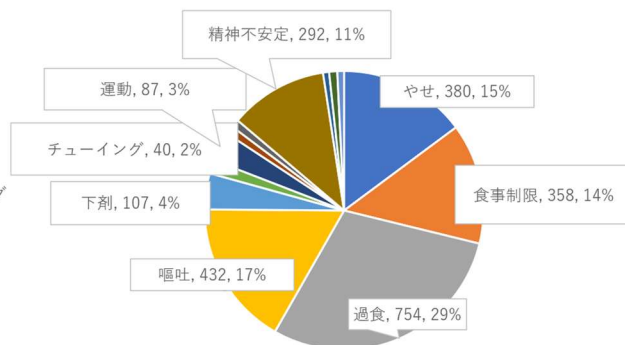


相談への対応内容は、本人・本人以外ともに、病院紹介、助言、情報提供が経年的に中心であった。相談支援窓口は、医療機関の紹介に加え、疾患理解や治療・受診に関する情報提供を通じて、本人・家族が次の行動を判断するための支援機能を担っていた。

14

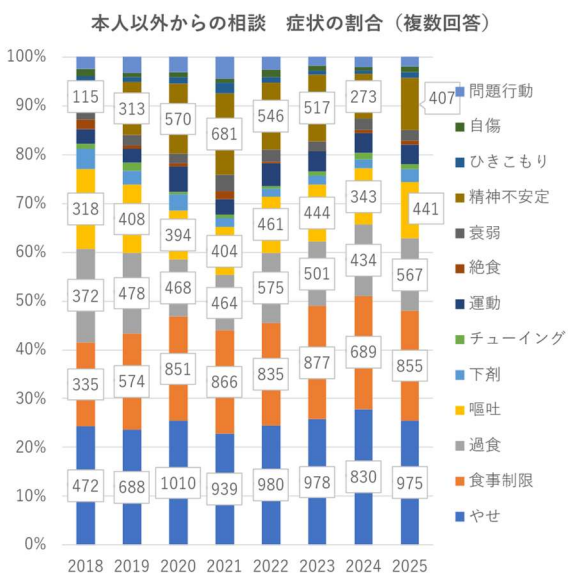


2025年度本人からの相談 症状の割合
（複数回答） n=2561

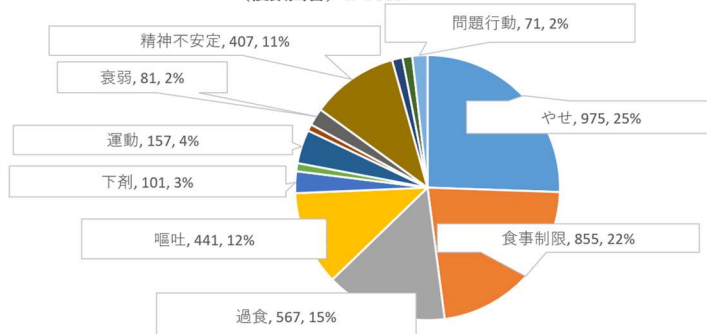


本人からの相談では、過食が最も多く、2025年度は754件（29%）であった。次いで嘔吐432件（17%）、やせ380件（15%）、食事制限358件（14%）、精神不安定292件（11%）であった。本人相談では、過食・嘔吐など本人が苦痛として自覚しやすい症状が相談につながりやすい可能性があった。

15



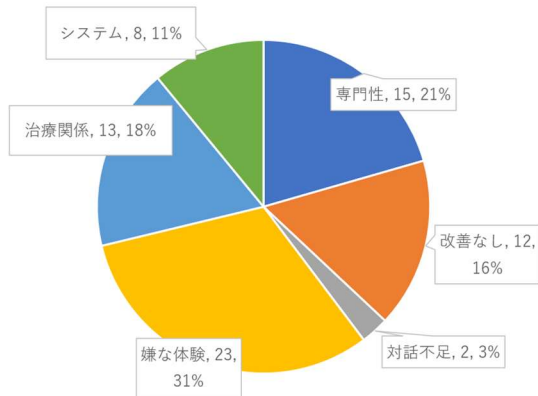
2025年度本人以外からの相談 症状の割合
（複数回答） n=3818



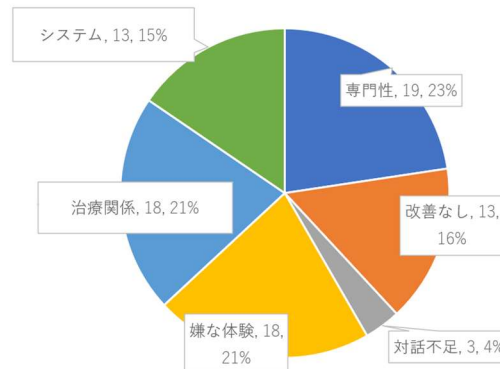
本人以外からの相談では、やせ975件（25%）、食事制限855件（22%）が多く、家族など周囲の人は、体重減少や食事量の低下といった身体的症状をきっかけに相談している可能性があった。一方で、過食・嘔吐や精神不安定も一定数みられ、身体症状だけでなく心理面や家庭での対応困難も含めた相談支援を担っていた。

16

2025年本人からの相談 医療への不満・要望の内訳
(複数回答) n=57



2025年本人以外からの相談 医療への不満・要望の内訳
(複数回答) n=67



医療への不満・要望では、本人からの相談は「嫌な体験」が最も多く、本人以外からの相談では「専門性」「治療関係」「嫌な体験」が同程度にみられた。相談窓口は、医療への不安や要望を受け止める役割も担っていると考えられた。

17

まとめ

- ・2025年度は新規支援拠点病院が2施設開設したこともあり、相談件数が最多となった。
- ・相談データの集計から、支援拠点病院および相談ホットラインは、未受診者を医療につなぐ入口としてだけでなく、受診中・治療中断中の本人や家族を支える相談窓口としても機能していることが明らかとなった。
- ・相談対象者は10代・20代を中心としつつ、成人期にも広がっており、若年層への早期支援と成人期の生活背景に応じた相談支援を担っていると考えられた。
- ・低体重による身体的リスクの高い相談も一定数含まれていた。相談窓口は、医療機関の紹介、疾患理解の支援、家族への助言に加え、緊急性を見極め、必要な医療につなぐ役割を担っていると考えられた。
- ・相談記録から多様な相談ニーズは把握できたが、相談後の受診状況や支援結果までは十分に把握できず、具体的な支援課題を明確に見出しにくいことが課題である。

18

6. 治療支援・研修

治療支援・研修・計画

1. 摂食障害治療研修（初心者向けの外来治療研修、入院治療研修、小児治療研修、専門治療研修）のオンライン研修会を開催し、全国に摂食障害治療者の裾野を広げ、治療の質の担保を図る。
2. 新規支援拠点病院の設立を目指し、現拠点病院の診療・連携ノウハウを提供する「支援拠点病院設置準備研修会」のビデオリンクの配布体制を確立する。
3. 昨年度より新たに摂食障害支援拠点病院で摂食障害患者の入院データを収集、集積を開始した。拠点病院における入院治療実態と診療連携を検証する。

治療支援・研修・結果

1. 摂食障害治療研修（初心者向けの外来治療研修、入院治療研修、小児治療研修、専門家向けの専門研修）のオンライン研修会を開催した。
2. 新規支援拠点病院の設立を目指し、現支援拠点病院の診療・連携ノウハウを提供する「支援拠点病院設置準備研修会」のビデオリンクを希望のあった自治体及び医療関係者に配布した。
各支援拠点病院で記入する個票とデータ集計シートを作成・配布した。10 支援拠点病院における入院患者数は 481 人であった。20 代以下が 65%を占め、若年層の入院治療を担っている一方、30 代以上も 35%を占めており、多様な背景をもつ患者を受け入れていた。他院からの紹介による入院は 38%であったが、退院後 3 か月以内に他院へ逆紹介された割合は 9%にとどまり、退院後に地域医療へつなぐ連携には課題が認められた。

講習会、研修会、ミーティング等

摂食障害入院治療研修－入院治療の留意点とコツー（第 5 回）	
開催日	R7/06/17～07/21、R7/07/12
対象者	摂食障害の入院治療を実施している施設の医療従事者
講師	講師：竹林淳和、野林美裕、鈴木麻友子、望月洋介、位田文香 質疑応答：竹林淳和、鈴木麻友子、吉山真央、磯部智代、位田文香
開催場所	オンデマンド配信＋ライブ配信
参加人数	申込者数129 団体 13
第 22 回摂食障害専門治療研修	
開催日	R7/09/03～09/05
対象者	摂食障害に関心を有する医療従事者
講師	講師：安藤哲也、高倉修、原田朋子、西園マーハ文、宇佐美政英、鈴木眞理、森野百合子、中里道子、小原千郷、武田綾、佐藤康弘
開催場所	ライブ配信
参加人数	申込者数 62
摂食障害外来治療研修－初心者が知っておくべき外来治療－第 10 回	
開催日	R7/05/01～05/31 R7/5/24
対象者	摂食障害に関心を有する医療従事者

講師	講師:安藤哲也、高倉修、佐藤康弘、吉内一浩、原田朋子、永田利彦、作田亮一、小川真里子、田村奈穂 質疑応答:全講師
開催場所	オンデマンド配信+ライブ配信
参加人数	申込者数159
摂食障害小児治療研修 第2回	
開催日	R7/07/28～R7/08/31、 R7/08/24
対象者	摂食障害の小児外来、入院治療を行っている医療従事者
講師	講師:作田亮一、井上建、大谷良子、宇佐美政英、山田理江 質疑応答:全講師、森野百合子
開催場所	オンデマンド配信+ライブ配信
参加人数	申込者数85 団体11
摂食障害入院治療研修－入院治療の留意点とコツ－第6回	
開催日	R7/11/20～R7/12/24 R7/12/14
対象者	摂食障害の入院治療を実施している施設の医療従事者
講師	講師:竹林淳和、野林美裕、鈴木麻友子、望月洋介、位田文香 質疑応答:竹林淳和、鈴木智美、吉山真央、磯部智代、位田文香
開催場所	オンデマンド配信+ライブ配信
参加人数	申込者数59 団体9
摂食障害外来治療研修－初心者が知っておくべき外来治療－第11回	
開催日	R7/10/17～11/20 R7/11/09
対象者	摂食障害に関心を有する医療従事者
講師	講師:安藤哲也、高倉修、佐藤康弘、吉内一浩、原田朋子、永田利彦、作田亮一、小川真里子、田村奈穂 質疑応答:全講師
開催場所	オンデマンド配信+ライブ配信
参加人数	申込者数121
摂食障害小児治療研修 第3回	
開催日	R8/01/08～R8/02/11、 R8/01/31
対象者	摂食障害の小児外来、入院治療を行っている医療従事者
講師	講師:作田亮一、井上建、大谷良子、宇佐美政英、山田理江 質疑応答:全講師、森野百合子
開催場所	オンデマンド配信+ライブ配信
参加人数	申込者数:55 団体11

参考資料:摂食障害治療研修会時間割/チラシ

令和7年度 摂食障害入院治療に関する技術研修
摂食障害入院治療研修
～入院治療の留意点とコツ～(第5回)

第1部 オンデマンド配信
令和7年6月17日(火)10:00～
7月21日(月)23:00

1. 摂食障害診療総論 | 竹林 淳和 [浜松医科大学医師]
2. 入院治療プログラムの解説 | 竹林 淳和 [浜松医科大学医師]
3. 看護師の関わり方: 業務手順や患者説明 | 野村 美裕、鈴木 麻友子 [浜松医科大学看護師]
4. 心理師の関わり方: 心理教育、家族指導、家族教室の運営 | 望月 洋介 [浜松医科大学心理士]
5. 栄養士の関わり方: テイクアでの患者指導、医師との連携 | 位田 文香 [浜松医科大学栄養士]
6. 地域医療連携の構築 | 竹林 淳和 [浜松医科大学医師]

第2部 ライブ配信
令和7年7月12日(土)
13:00～14:30

7. 質疑応答 | 全講師
※受講費のご質問に対し、遠隔診療から回答をいたします。必要に応じて、当日配信のみです。後日配信はございません。

主催・お問い合わせ先 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 摂食障害研修
Email: ed_kenshu@ncnp.go.jp 件名は「摂食障害 入院治療研修 問い合わせ」
後援 日本摂食障害学会

スケジュール		
日付	時間	内容
6月17日 (火) ～7月21日 (月)		＜オンデマンド配信＞60分 1. 摂食障害診療総論 浜松医科大学 精神科神経科 講師 竹林 淳和 ＜オンデマンド配信＞50分 2. 入院治療プログラムの解説 浜松医科大学 精神科神経科 講師 竹林 淳和 ＜オンデマンド配信＞25分 3. 看護師の関わり方 浜松医科大学付属病院 看護師 野村 美裕、鈴木 麻友子 ＜オンデマンド配信＞50分 4. 心理士の関わり方 浜松医科大学付属病院 臨床心理士 望月 洋介 ＜オンデマンド配信＞20分 5. 栄養士の関わり方 浜松医科大学付属病院 管理栄養士 位田 文香 ＜オンデマンド配信＞20分 6. 地域医療連携の構築 浜松医科大学付属病院 精神科神経科 講師 竹林 淳和
	12:50～	(おむすび受付開始)
	13:00	開会のご挨拶
	13:00～14:30 (90分)	＜ライブ配信＞ 7. 質疑応答 浜松医科大学 医師 竹林 淳和 浜松医科大学付属病院 看護師 鈴木 麻友子 浜松医科大学付属病院 看護師 吉山 真央 浜松医科大学付属病院 臨床心理士 磯部 智代 浜松医科大学付属病院 管理栄養士 位田 文香
	14:30	(閉講式)

第22回
摂食障害
専門治療研修

本研修は摂食障害の病態と治療に関する最新の知見を提供し、摂食障害に関する専門的な知識及び技術の習得を目的とします。

研修期間
令和7年
9月3日(水) 9:20～16:45
4日(木) 9:30～16:45
5日(金) 9:30～15:00

対象 摂食障害に関心を有する
医療従事者
会場 オンライン開催
参加費 24,000円
定員 100名
申込 NCNP研修会HPを
ご参照ください。
所属長の推薦書が必要です。
申込期間 令和7年6月9日(月)～
6月30日(月)

1. 疫学・病態・治療概論 | 家原 哲也
2. 初期対応と外来診療 | 高倉 修
3. 入院治療 | 原田 朋子
4. 精神障害・パーソナリティ障害を合併する摂食障害 | 西園 マーハ 文
5. 小児期の初期対応と診療 | 宇佐美 政英
6. 身体合併症・身体的管理 | 鈴木 真理
7. 児童・思春期摂食障害患者さんとそのご家族への家族療法的アプローチ | 森野 百合子
8. 過食症に対するガイドド・セルフヘルプ | 中里 道子
9. 心理教育 | 小原 千郷
10. 当事者の話を聞く | 武田 綾
11. 症例検討 | 佐藤 康弘

NCNP 研修会 HP ▶ https://www.ncnp.go.jp/mental-health/seminar_R7.html

主催・お問い合わせ先 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 摂食障害研修
Email: ed_kenshu@ncnp.go.jp 件名は「摂食障害治療研修問い合わせ」

令和7年度 第22回摂食障害専門研修 講義日程		
日時 : 令和7年9月3日(水)～5日(金) 場所 : オンライン開催		
日付	曜日	時間
9月3日	水	9:20～9:30 開講式 ガイダンス 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所長 堀 賢昭 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 室長 井野敬子
		9:30～11:00 疫学・病態・治療概論 家原 哲也 明星大学心理学部心理学科 客員教授
		11:15～12:45 高倉 修 九州大学病院 心療内科 講師 初期対応と外来診療
		13:30～15:00 原田 朋子 大阪公立大学大学院医学研究科 神経精神医学 講師 入院治療
		15:15～16:45 西園 マーハ 文 明治学院大学 心理学部 心理学科 教授 精神障害、パーソナリティ障害を合併する摂食障害
9月4日	木	9:30～11:00 宇佐美 政英 国立健康危機管理研究機構国立国際医療研究センター児童精神科 診療科長 子どものこころ総合診療センター センター長 小児期の初期対応と診療
		11:15～12:45 鈴木 真理 一般社団法人 日本摂食障害協会 理事長 身体合併症・身体的管理
		13:30～15:00 森野 百合子 成増厚生病院 なります子どものこころケアセンター センター長 摂食障害患者の家族支援: 児童・思春期摂食障害患者さんへの家族療法的アプローチ
		15:15～16:45 中里 道子 国際医療福祉大学 医学部 精神医学 教授(代表) 過食症に対するガイドドセルフヘルプ
9月5日	金	9:30～11:00 小原 千郷 香取大学 文学部 心理学科 准教授 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部 研究員 心理教育
		11:15～12:45 武田 綾 特定非営利活動法人のびのび会 心理療法士 当事者の話を聞く
		13:30～15:00 佐藤 康弘 東北大学病院 心療内科 講師 症例検討

第10回
摂食障害外来治療研修
 ― 初心者が知っておくべき外来治療 ―

第1部 オンデマンド配信
 令和7年5月1日(木) 10:00
 ~5月31日(土) 23:00

1. 摂食障害の今 | 安藤哲也 [滋慶医療専門学校講師]
2. 一般医でもできる初期治療 | 高倉修 [九州大学]
3. 摂食障害の理解~患者、家族にどう伝えるか~ | 佐藤康弘 [東北大学]
4. 一般医で行うべき検査・身体管理・専門家との連携 | 吉内一浩 [東北大学]
5. 摂食障害の専門的治療と紹介の方法 | 原田朋子 [大阪公立大学]
6. 摂食障害の外来治療、初心者の心得・経験者へのヒント | 永田利彦 [なんば・ながたメンタルクリニック]
7. 小児領域の摂食障害 | 作田亮一 [群馬医科大学埼玉医療センター]
8. 産婦人科領域における摂食障害への対応 | 小川真里子 [群馬県立総合医療センター]

第2部 ライブ配信
 令和7年5月24日(土)
 13:00~15:30

9. 症例からみる摂食障害の治療の流れとコツ | 田村泰輔 [国府台病院]
10. 質疑応答 全講師
 ※講演のご質問に対し直接講師から回答をもらえる時間です。
 ※第2部のライブ配信については、当日配信のみです。
 後日配信は行いません。

対象 摂食障害に関心を有する医療従事者等
 第1部・2部どちらも参加できる方。

会場 オンライン開催
 参加費 5,000円
 定員 300名

申込 下記URLからお申込みください。
 (詳細も以下よりご覧ください)
https://www.ncnp.go.jp/mental-health/seminar_R7.html
 申込期間 令和7年3月3日(月)~3月31日(月)
 申込多数の際は、早期締め切り

随時内容は変わる可能性があります。

こちらからもお申込みいただけます

主催・お問い合わせ先 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部 摂食障害研修
 Email: ed_kenshu@ncnp.go.jp 件名は「摂食障害治療研修問い合わせ」

後援 日本摂食障害学会

令和7年度 精神保健に関する技術研修
摂食障害外来治療研修
 ~初心者が知っておくべき外来治療~(第10回)
 後援：日本摂食障害学会

<スケジュール>

日時	内容	講師	
5月1日(木)~5月31日(土)	<オンデマンド配信> 50分 1. 摂食障害の今	安藤 哲也 埼玉医科大学理学療法学科 客員教授	
	<オンデマンド配信> 45分 2. 一般医でもできる初期治療	高倉 修 九州大学病院の療内科 講師	
	<オンデマンド配信> 45分 3. 摂食障害の理解~患者、家族にどう伝えるか~	佐藤 康弘 東北大学病院の療内科 講師	
	<オンデマンド配信> 40分 4. 一般医で行うべき検査・身体管理・専門家との連携	吉内 一浩 東北大学医学部附属病院 心療内科 助産師	
	<オンデマンド配信> 45分 5. 摂食障害の専門的治療と紹介の方法	原田 朋子 大阪公立大学大学院医学研究科 神経精神医学 講師	
	<オンデマンド配信> 50分 6. 摂食障害の外来治療 初心者の心得・経験者へのヒント	永田 利彦 なんば・ながたメンタルクリニック 院長	
	<オンデマンド配信> 35分 7. 小児領域の摂食障害~小児の特性と外来~	作田 亮一 群馬医科大学埼玉医療センター 助産師	
	<オンデマンド配信> 35分 8. 産婦人科領域における摂食障害への対応	小川 真里子 群馬県立総合医療センター 助産師	
	12:50~ 1:30	(おやつ受付開始) 開会のご挨拶	張 賢徳 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 部長
	5月24日(土)	ガイダンス	井野 敬子 国立精神・神経医療研究センター 行動医学研究部 部長
<ライブ配信> 9. 症例からみる摂食障害の治療の流れとコツ		田村 泰輔 国府台病院 医師	
13:10~13:55 (45分)		<ライブ配信> 10. 質疑応答	全講師
13:55~14:00 14:00~15:30 (10分)		(休憩)	
15:30	(閉会式)		

第二回
**摂食障害
 小児治療研修**

第1部 オンデマンド配信
 令和7年
 7月28日(月)~8月31日(日)

1. 小児科領域で対応する摂食症：概論
 作田亮一 [群馬医科大学埼玉医療センター]
2. 摂食障害の小児科外来診療：治療契約から入院の同意まで
 井上 麗 [東京医科歯科大学埼玉医療センター]
3. 小児病棟における入院治療の実践
 大谷良子 [東京医科歯科大学埼玉医療センター]
4. 児童精神科における治療
 ~小児科からの紹介後~
 宇佐美政美 [国立精神・神経医療研究センター 国府台病院]
5. 日々の看護
 山田理江 [東京医科歯科大学]

対象 摂食障害の小児科の外来
 入院治療を行っている医療従事者

第2部 ライブ配信
 令和7年
 8月24日(日) 10:00~11:30

質疑応答
 全講師、井野敬子 [おやつ子どものこころ診療センター]

※講演のご質問に対し直接講師から回答をもらえる時間です。
 ※第2部のライブ配信については、当日配信のみです。
 後日配信は行いません。

申込 URLまたは右のQRコードよりお申込み下さい。
 詳細もご参照いただけます。

https://www.ncnp.go.jp/mental-health/seminar_R7.html

申込期間 令和7年5月26日(月)~6月16日(月)
 申し込み締め切り 6月16日(月) 23:59
 申込多数の場合は早期締め切りとなります。

参加費 4,000円(研修料金もあります)
 定員 300名

主催・お問い合わせ先 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部
 Email: ed_kenshu@ncnp.go.jp 件名は「摂食障害小児治療研修問い合わせ」

後援 日本摂食障害学会

令和7(2025)年度 精神保健に関する技術研修
第2回 摂食障害小児治療研修

<スケジュール>

日時	内容	講師	
7月28日(月)~8月31日(日)	<オンデマンド配信> 30分 1. 小児科領域で対応する摂食症：概論	群馬医科大学 医学部 作田 亮一	
	<オンデマンド配信> 30分 2. 摂食障害の小児科外来診療：治療契約から入院の同意まで	群馬医科大学 埼玉医療センター 子どものこころ診療センター 井上 麗	
	<オンデマンド配信> 30分 3. 小児病棟における入院治療の実践	公益財団法人児連協会 王子クリニック 大谷良子	
	<オンデマンド配信> 50分 4. 児童精神科における治療~小児科からの紹介後~	国立精神・神経医療研究機構 国立国府台医療センター 児童精神科 宇佐美 政美	
	<オンデマンド配信> 50分 5. 日々の看護	東京都立松沢病院 看護部 山田 理江	
8月24日(日)	9:50~ 10:00	(おやつ受付開始) 開会のご挨拶とガイダンス	
	10:00~11:30 (90分)	<ライブ配信> 7. 質疑応答	井野 敬子 国立精神・神経医療研究センター 行動医学研究部 部長
	11:30	(閉会式)	

対象 摂食障害入院治療を実施している施設の従事者等

会場 オンライン開催

参加費 4,000円（教材料金がります）

定員 300名

申込 下記URLからお申込みください。（例題も以下より参照ください）
https://www.ncnp.go.jp/mental/health/seminar_R7.html

申込期間 令和7年9月8日（月）～10月9日（木）迄あり
満席内容は変更の可能性あります

第1部 オンデマンド配信

令和7年11月20日（木）10:00～
12月24日（水）23:00

1. 摂食障害診療総論 | 竹林 淳和 | [浜松医科大学医師]

2. 入院治療プログラムの解説 | 竹林 淳和 | [浜松医科大学医師]

3. 看護士の関わり方：業務手順や患者説明 | 野村 素和 | [浜松医科大学看護士]

4. 心理士の関わり方：心理教育、食育指導、家族指導、家族教育の運営 | 望月 洋介 | [浜松医科大学医師]

5. 栄養士の関わり方：デューケアでの患者指導、医師との連携 | 位田 文香 | [浜松医科大学栄養士]

6. 地域医療連携の構築 | 竹林 淳和 | [浜松医科大学医師]

第2部 ライブ配信

令和7年12月14日（日）
10:00～11:30

7. 質疑応答 | 全講師
※講演の2週間前までに各講師から回答をもらえらる期間です
※第2部のライブ配信については、当日配信のみです
後日配信は行いません

主催・お問合せ先 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 摂食障害研究
Email: ed_kenshu@ncnp.go.jp 件名は「摂食障害 入院治療研修」お問い合わせ。

後援 日本摂食障害学会

令和7(2025)年度 精神保健に関する技術研修 摂食障害入院治療研修 ～入院治療の留意点とコツ～(第6回)		
<スケジュール>		
日付	時間	内容 講師名
11月20日 (木) ～12月24日 (水)		<オンデマンド配信>60分 1.摂食障害診療総論 浜松医科大学 精神科神経科 講師 竹林 淳和
		<オンデマンド配信>50分 2.入院治療プログラムの解説 浜松医科大学 精神科神経科 講師 竹林 淳和
		<オンデマンド配信>25分 3.看護士の関わり方 浜松医科大学付属病院 看護師 野村素和、鈴木智美
		<オンデマンド配信>50分 4.心理士の関わり方 浜松医科大学付属病院 臨床心理士 望月洋介
		<オンデマンド配信>20分 5.栄養士の関わり方 浜松医科大学付属病院 管理栄養士 位田文香
		<オンデマンド配信>20分 6.地域医療連携の構築 浜松医科大学付属病院 精神科神経科 講師 竹林 淳和
12月14日 (日)	9:50～	(わいわい受付開始)
	10:00	開会のご挨拶
	10:00～11:30 (90分)	<ライブ配信> 7.質疑応答 浜松医科大学 医師 竹林 淳和 浜松医科大学付属病院 看護師 鈴木智美 浜松医科大学付属病院 看護師 吉山真央 浜松医科大学付属病院 臨床心理士 磯部智代 浜松医科大学付属病院 管理栄養士 位田文香
	11:30	(閉講式)

第11回

摂食障害外来治療研修

～初心者を知っておくべき外来治療～

第1部 オンデマンド配信

令和7年10月17日（金）10:00
～11月20日（木）23:00

1. 摂食障害の今 | 安藤 哲也 | [岐阜大学]

2. 一般医でもできる初期治療 | 高倉 修 | [山梨大学]

3. 摂食障害の理解～患者、家族にどう伝えるか～ | 佐藤 康弘 | [東北大学]

4. 一般医で行うべき検査・身体管理・専門家との連携 | 宮内 一浩 | [東京大学]

5. 摂食障害の専門的治療と紹介の方法 | 原田 朋子 | [大阪公立大学]

6. 摂食障害の外来治療、
初心者の方へ、経験者へのヒント | 永田 利彦 | [ななば・ながたメンタルクリニック]

7. 小児領域の摂食障害 | 作田 亮一 | [浜松医科大学中央医療センター]

8. 産婦人科領域における摂食障害への対応 | 小川 真里子 | [埼玉県立医療大学
ふくしま子ども・女性医療支援センター]

第2部 ライブ配信

令和7年11月9日（日）
9:30～12:00

9. 症例からみる摂食障害の治療の流れとコツ | 田村 素和 | [東京医科歯科大学]

10. 質疑応答 | 全講師
※講演の2週間前までに各講師から回答をもらえらる期間です。
※第2部のライブ配信については、当日配信のみです。
後日配信は行いません。

主催・お問合せ先 国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 摂食障害研究
Email: ed_kenshu@ncnp.go.jp 件名は「摂食障害外来治療研修」お問い合わせ。

後援 日本摂食障害学会

令和7年度 精神保健に関する技術研修 第11回 摂食障害外来治療研修 ～初心者が「知っておくべき外来治療」～ 後援：日本摂食障害学会		
<スケジュール>		
日付	時間	内容 講師名
10月17日（金）～ 11月20日（木）		<オンデマンド配信> 50分 1.摂食障害の今 安藤 哲也 岐阜大学 医学部 医学博士 教授 教授
		<オンデマンド配信>45分 2.一般医でもできる初期治療 高倉 修 九州大学 病院 内科学 講師
		<オンデマンド配信>45分 3.摂食障害の理解～患者、家族にどう伝えるか～ 佐藤 康弘 東北大学 病院 内科学 講師
		<オンデマンド配信>40分 4.一般医で行うべき検査・身体管理・専門家との連携 宮内 一浩 東京大学 医学部 脳神経科 心療内科 病院 教授
		<オンデマンド配信>45分 5.摂食障害の専門的治療と紹介の方法 原田 朋子 大阪公立大学 医学部 腎臓科 神経精神医学 講師
		<オンデマンド配信>50分 6.摂食障害の外来治療 初心者の方へ、経験者へのヒント 永田 利彦 ななば・ながたメンタルクリニック 院長
11月9日（日）		<オンデマンド配信>35分 7.小児領域の摂食障害～小児の特徴と外来～ 作田 亮一 新潟県立大学 医学部 特任教授
		<オンデマンド配信>35分 8.産婦人科領域における摂食障害への対応 小川 真里子 埼玉県立医療大学 ふくしま子ども・女性医療支援センター 特任教授
	9:20～	(わいわい受付開始)
	9:30	開会のご挨拶 張 賢徳 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 所長
		ガイダンス 井野 敬子 国立精神・神経医療研究センター 行動医学研究部 室長
	9:30～10:20 (50分)	<ライブ配信> 9.症例からみる摂食障害の治療の流れとコツ 田村 素和 国立精神・神経医療研究センター 国立精神保健研究所 精神科 心療内科 講師
	10:20～10:50 (30分)	<ライブ配信> 10.質疑応答 全講師
	12:00	(閉講式)

第3回 摂食障害 小児治療研修

第1部 オンデマンド配信

令和8年
1月8日(木)～2月11日(水)

- 小児科領域で対応する摂食症：概論
作田 亮一【獨協医科大学埼玉医療センター】
- 摂食障害の小児科外来診療：治療契約から入院の同意まで
井上 雄【獨協医科大学埼玉医療センター】
- 小児病棟における入院治療の実態
大谷 良子【エフ・エフ・エフ】
- 児童精神科における治療
・小児科からの紹介後～
宇佐美 政英【国立精神医療センター】
- 日々の看護
山田 理江【東京都立松沢病院】

第2部 ライブ配信

令和8年
1月31日(土)13:00～14:30

質疑応答
全講師、森野 敬子【むすぶ子どものこころ診療センター】

※講義のご質問に対し直接講師から回答をもらえる時間です。
※第2部のライブ配信については、当日起床のみです。
後日配信は行いません。

対象
摂食障害の
小児の外来
入院治療を
行っている
医療従事者

団体割引
あり

申込 URLまたは右のQRコードよりお申込み下さい。
詳細もご参照いただけます。

https://www.ncnp.go.jp/mental-health/seminar_R7.html

申込期間 令和7年10月20日(月)～11月21日(金)
この申込期間中は、本研修の申し込みができません。

参加費 4,000円(団体料金もあります)
定 員 300名

主催・お問合せ先
国立精神・神経医療研究センター 精神医療研究部 行動医学研究部
Email: ed_kenshu@ncnp.go.jp 件名は「摂食障害小児治療研修問い合わせ」
後 援 日本摂食障害学会

令和7(2025)年度 精神保健に関する技術研修
第3回 摂食障害小児治療研修

<スケジュール>

日付	時間	内容 講師名	
1月8日(木)～ 2月11日(水)	<オンデマンド配信>30分 1. 小児科領域で対応する摂食症：概論 獨協医科大学 医学部 作田 亮一		
	<オンデマンド配信>30分 2. 摂食障害の小児科外来診療：治療契約から入院の同意まで 獨協医科大学 埼玉医療センター 子どものこころ診療センター 井上 雄		
	<オンデマンド配信>30分 3. 小児病棟における入院治療の実態 公益社団法人医療協会王手クリニック 大谷 良子		
	<オンデマンド配信>50分 4. 児童精神科における治療～小児科からの紹介後～ 国立健康医療政策研究機構 国立道府台医療センター 児童精神科 子どものこころ診療センター 宇佐美 政英		
	<オンデマンド配信>50分 5. 日々の看護 東京都立松沢病院 看護部 山田 理江		
1月31日(土)	12:50～ (お昼の休憩)		
	13:00	開会のご挨拶 張 賢陽 日本精神・神経医療研究センター 精神医療研究部 部長	
		ガイダンス 井野 敬子 国立精神・神経医療研究センター 子どものこころ診療センター 部長	
	13:05～14:30 (85分)	<ライブ配信> 6. 質疑応答 獨協医科大学 医学部 作田 亮一 獨協医科大学 埼玉医療センター 子どものこころ診療センター 井上 雄 公益社団法人医療協会王手クリニック 大谷 良子 国立健康医療政策研究機構 国立道府台医療センター 児童精神科 宇佐美 政英 東京都立松沢病院 看護部 山田 理江 成城厚生協賛 むすぶ子どものこころケアセンター 森野 敬子	
	14:30	(閉講式)	

※本資料は「小児摂食症(プライマリ)診療の手引き」無償配布の際に、参加としてを必ず読み下さい。この手引きは、小児摂食症のプライマリ診療に携わる医師が一般外来の現場で活用できるエキスパートコンセンサスに基づいた診療の手引きです。

https://edcenter.ncnp.go.jp/edportal_ext/pdf/medical_consensus_05.pdf

研修会アンケート結果(2021 年度-2025 年度:初心者が知っておくべき外来治療)

研修会(開催日時)	申込者(名)	ライブ配信 参加者(名)	事後アンケート 回答者(名)	備考
第 1 回(2021.1.24)	351	326	305	
第 2 回(2021.12.5)	446	227	241	オンデマンドで閲覧可能にした
第 3 回(2022.2.27)	227	121	126	身体管理・専門家連携を追加
第 4 回(2022.8.28)	217	170	176	産婦人科・小児科を追加
第 5 回(2022.12.4)	149	122	120	
第 6 回(2023.5.13)	225	191	178	
第 7 回(2023.12.3)	270	223	232	
第 8 回(2024.8.3)	206	166	176	「摂食障害の外来治療、初心者の 方へ経験者へのヒント」を追加
第 9 回(2025.1.26)	207	156	137	
第 10 回(2025.5.24)	159	112	114	
第 11 回(2025.11.9)	121	—	83	

研修会アンケート結果(2022 年度-2025 年度:入院治療研修)

研修会(開催日時)	申込者(名)	ライブ配信 参加者(名)	事後アンケート 回答者(名)	備考
第 1 回(2023.1.17)	210	—	66	

第2回(2024.1.19)	364	138	147	
第3回(2024.5.17)	152	87	98	
第4回(2024.11.10)	235	140	150	
第5回(2025.7.12)	129	99	114	申込者(名)は団体申込 13 を除く
第6回(2025.12.14)	59	－	45	申込者(名)は団体申込 9 を除く

研修会アンケート結果(2025 年度:専門研修)

研修会(開催日時)	申込者 (名)	ライブ配信 参加者(名)	事後アンケート 回答者(名)	備考
第22回(2025.9.3-5)	62	59	60	

研修会アンケート結果(2024 年度-2025 年度:小児治療研修)

研修会(開催日時)	申込者(名)	ライブ配信 参加者(名)	事後アンケート 回答者(名)	備考
第1回(2024.11.4)	641	166	239	
第2回(2025.8.24)	85	51	64	申込者(名)は団体申込 11 を除く
第3回(2026.1.31)	55	－	49	申込者(名)は団体申込 11 を除く

令和7年度

摂食障害研修受講者アンケート結果

摂食障害全国支援センター

調査目的

本アンケート調査は令和7年度に開催された摂食障害研修の参加者属性と研修内容の評価を把握し、今後の研修内容の改善に役立てることを目的とした。

調査対象

- 第10・11回「摂食障害外来治療研修」(回答数197名)
- 第5・6回「摂食障害入院治療研修」(回答数159名)
- 第2・3回「摂食障害小児治療研修」(回答数113名)
- 第22回「摂食障害専門研修」(回答数60名)

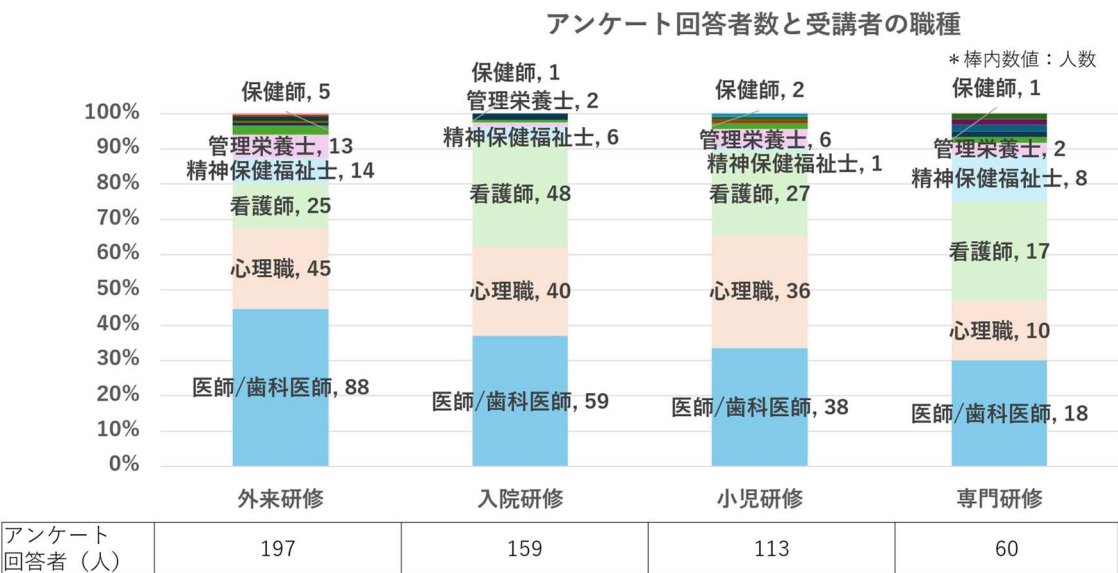
調査方法

メールにてGoogleアンケートフォームを配信し、Web回答を依頼した。

調査期間

調査期間：2025年4月1日～2026年3月31日

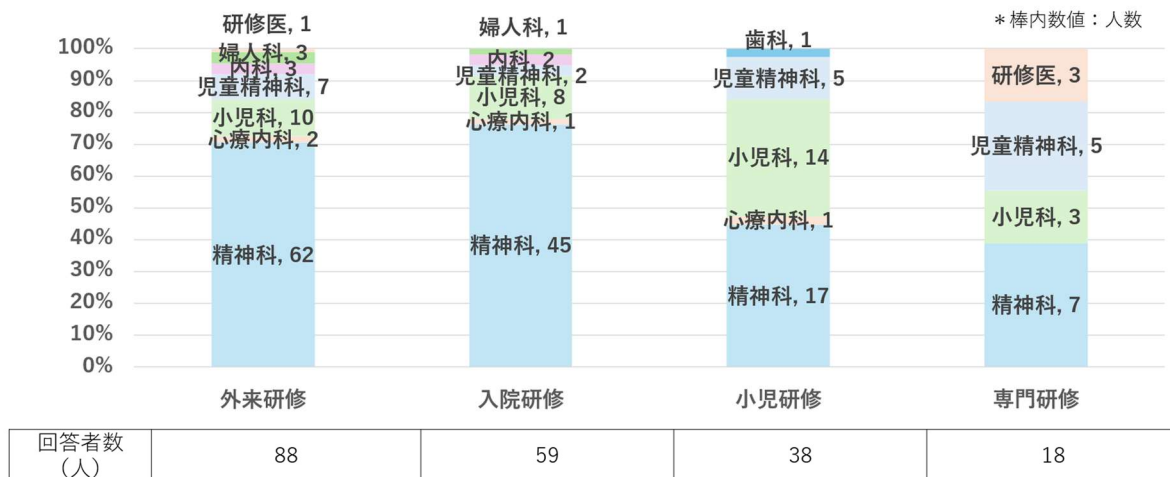
2



令和7年度のアンケート回答者数は、外来197人、入院159人、小児113人、専門60人であった。職種は医師・歯科医師、心理職、看護師が中心であった。入院研修では看護師も多く、多職種で摂食症診療を学ぶ研修として機能していた。

3

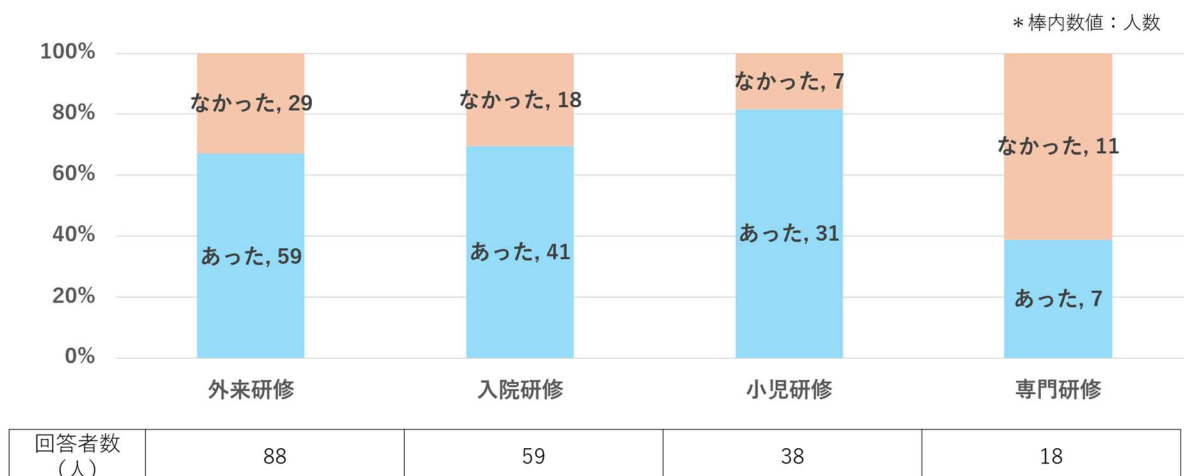
受講者の診療科（医師のみ回答）



診療科は精神科が中心で、小児研修では小児科・児童精神科の参加もみられた。
診療領域に応じた研修ニーズが示された。

4

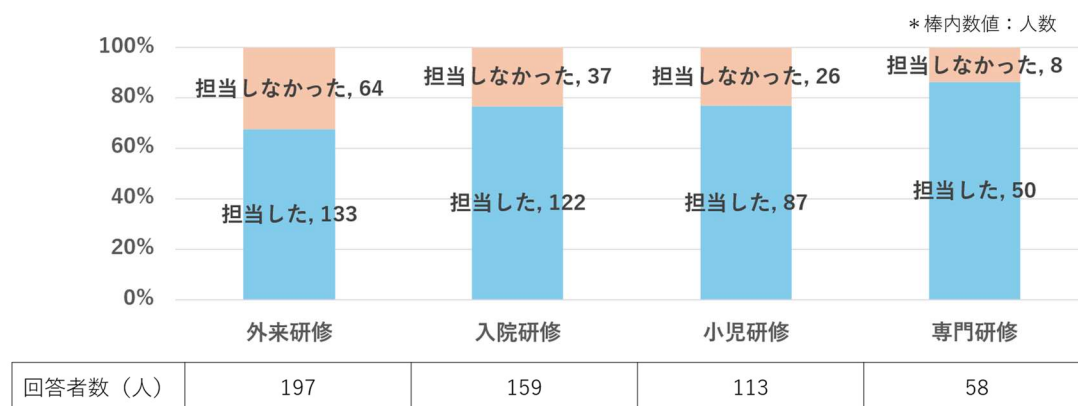
Q.この1年間で摂食障害の患者さんを他施設へ「紹介する」または「紹介を受ける」ことはありましたか（医師のみ回答）



医師では、直近1年間に摂食症患者を他施設へ紹介した、または紹介を受けた経験のある者が多かった。摂食症診療では施設間連携が求められることから、今後、本研修が連携体制の充実に寄与することが望まれる。

5

Q.この1年間で、あなたは摂食障害患者さんを担当しましたか

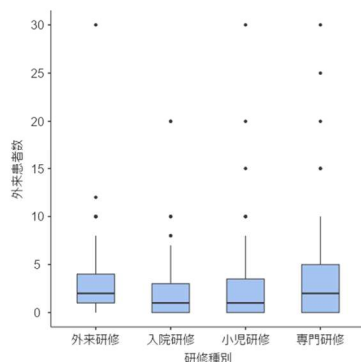


摂食症患者を担当した割合は、外来研修67.5%、入院研修76.7%、小児研修77.0%、専門研修86.2%であった。

各研修には担当経験のない受講者も含まれており、経験の多少にかかわらず摂食症診療を学ぶ機会として、本研修の意義が示された。

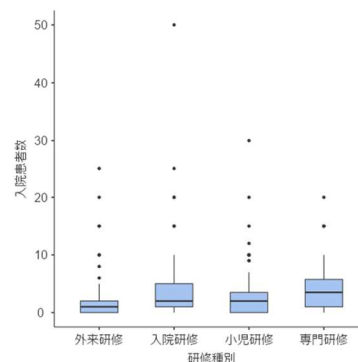
6

1年間に担当した外来患者数の分布



研修種別	外来研修	入院研修	小児研修	専門研修
n	133	122	87	50
中央値	2	1	1	2
四分位範囲	3	3	3.5	5
範囲	0-30	0-20	0-30	0-30

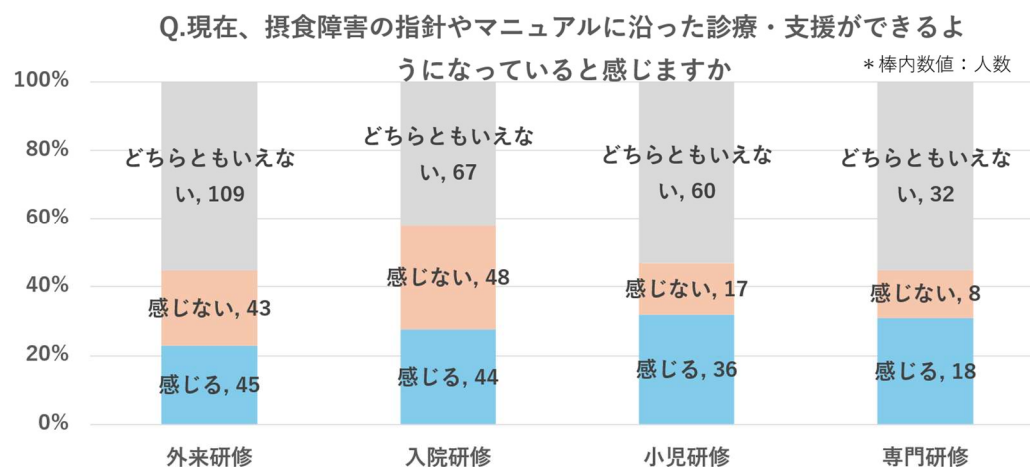
1年間に担当した入院患者数の分布



研修種別	外来研修	入院研修	小児研修	専門研修
n	133	122	87	50
中央値	1	2	2	3.5
四分位範囲	2	4	3.5	4.75
範囲	0-25	0-50	0-30	0-20

担当患者数の中央値は、外来患者数が1~2人、入院患者数が1~3.5人であった。担当症例が少ない受講者も多く、経験を補う研修機会としての意義が示された。

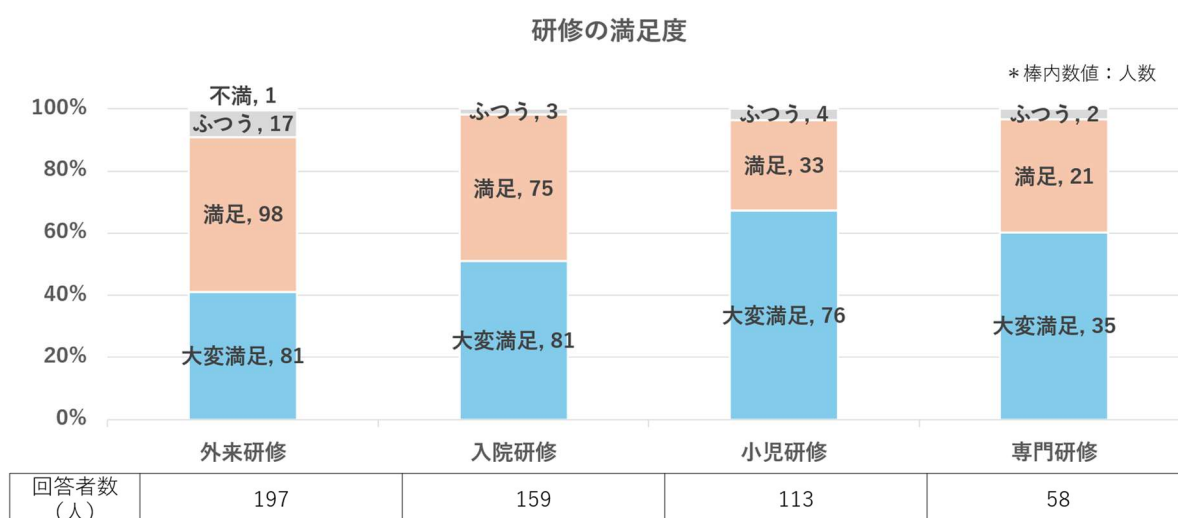
7



回答者数 (人)	197	159	113	58
-------------	-----	-----	-----	----

指針やマニュアルに沿った診療・支援については「どちらともいえない」が多かった。診療経験を実践力につなげるため、継続的な研修支援が必要である。

8



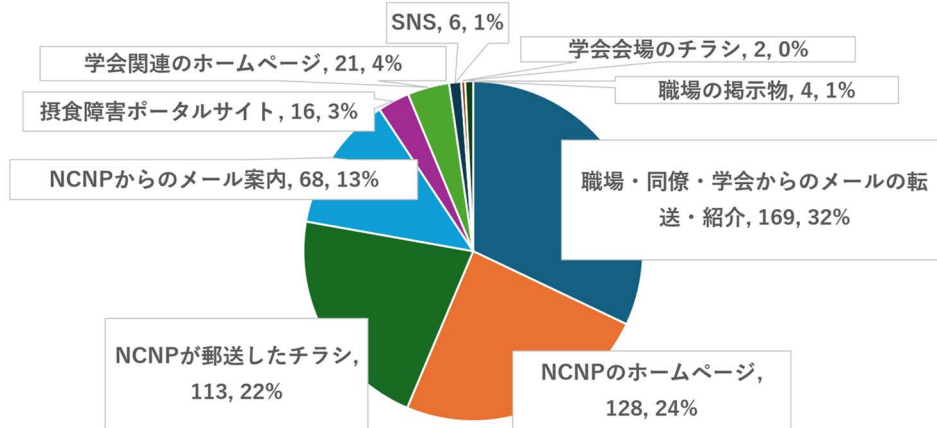
回答者数 (人)	197	159	113	58
-------------	-----	-----	-----	----

「大変満足」または「満足」は、すべての研修で9割を超えた。高い満足度から、本研修が受講者のニーズに合致していたことが示された。

9

Q.本研修会をどのように知ったか教えてください

複数回答・延べ回答数=527人



研修を知った経路は、職場・同僚・学会関係者からの転送・紹介、NCNPホームページ、郵送チラシが中心であった。

10

Q.摂食障害入院医療管理加算について、この1年間の施設状況をご回答ください

* 棒内数値：人数



回答者数 (人)	197	157	113	57
----------	-----	-----	-----	----

「不明」の回答が多く、回答者が所属施設の算定状況を把握していない可能性や、設問への回答が困難であった可能性が考えられた。

11

まとめ

研修参加者の属性

令和7年度のアンケート回答者は、外来研修197人、入院研修159人、小児研修113人、専門研修60人であった。いずれの研修も医師・歯科医師、心理職、看護師が中心であり、入院研修では看護師、小児研修では小児科・児童精神科領域からの参加が比較的多く、研修の対象に応じた職種・診療科の特徴がみられた。過去1年間に摂食症患者を担当した割合は、外来研修67.5%、入院研修76.7%、小児研修77.0%、専門研修86.2%であった。担当患者数の中央値は、外来患者が1～2人、入院患者が1～3.5人であり、日常診療で経験を蓄積する機会が限られる受講者も含まれていた。

研修参加者による研修内容の評価

「大変満足」または「満足」と回答した割合は、外来研修90.9%、入院研修98.1%、小児研修96.5%、専門研修96.6%であり、研修内容は概ね肯定的に評価された。一方、指針やマニュアルに沿った診療・支援ができているかについては、「どちらともいえない」とする回答が多く、実践に対する自己評価には幅がみられた。今後は、多職種を対象とした基礎的研修に加え、受講者の診療経験や担当領域に応じた実践的・継続的な研修を提供し、その後の診療実践への活用状況を把握する必要がある。

12

「摂食障害支援拠点病院 入院患者データの集計と分析」

令和7年度

摂食障害支援拠点病院 入院患者データの集計と分析

摂食障害全国支援センター

調査目的：令和7年度の10拠点病院における入院患者の患者数と内訳を報告し、実態を明らかにする。

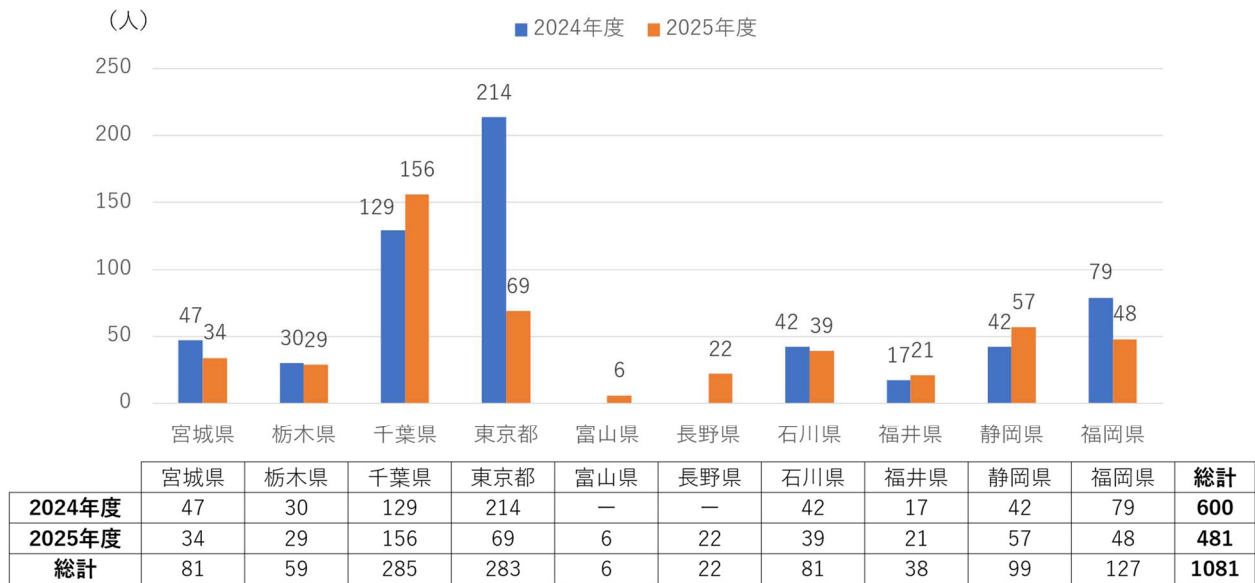
集計方法：各拠点病院から報告された令和7年（2025年）4月から令和8年（2026年）3月の「入院時患者データ入力フォーム」を全施設統合し、調査項目ごとに集計した。ただし、令和7年度に新たに設置された富山県の拠点病院については、令和8年（2026年）1月以降のデータを集計対象とした。

本調査は令和6年度から開始したが、令和7年度には調査項目および調査基準を大幅に見直した。特に、令和7年度から集計対象を「摂食症の治療を主目的として入院した患者」に限定したため、令和6年度と比較して入院患者数が減少した施設がみられた。

集計対象の拠点病院：

東北大学病院（宮城県）獨協医科大学病院（栃木県）国立国府台医療センター（千葉県）
都立松沢病院（東京都）富山大学附属病院（富山県）信州大学医学部附属病院（長野県）
浜松医科大学医学部附属病院（静岡県）金沢大学附属病院（石川県）
福井大学医学部附属病院（福井県）九州大学病院（福岡県）

入院患者数の年度比較

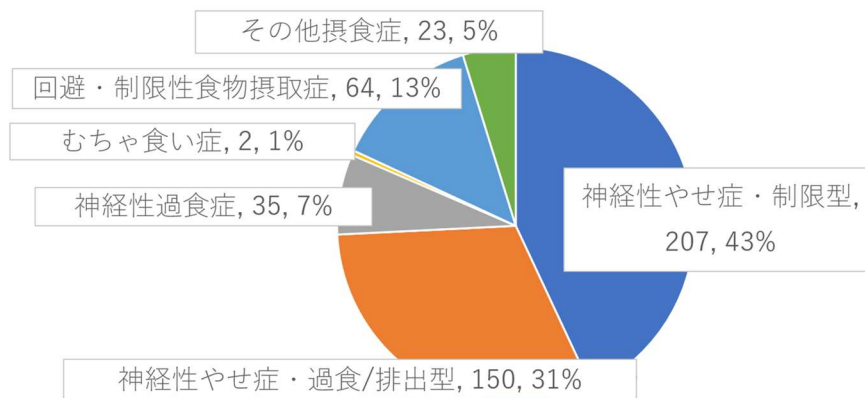


2025年度の入院患者数は481例で、2024年度の600例から減少した。ただし、2025年度から集計対象を「摂食症の治療を主目的として入院した患者」に限定しており、年度比較には留意が必要である。

3

病型

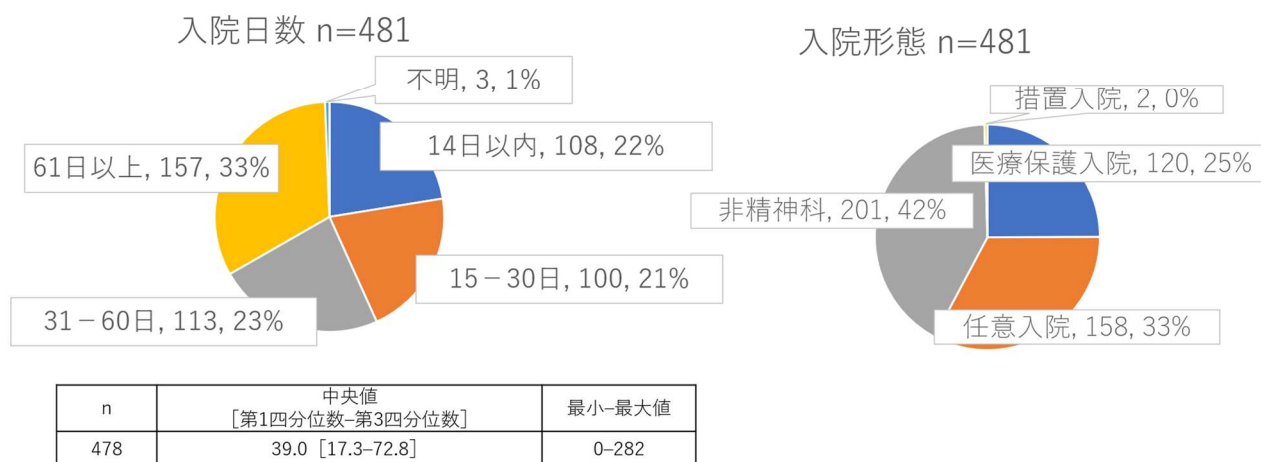
病型 n=481



神経性やせ症が全体の74%を占めた一方、26%は神経性やせ症以外の病型であった。

4

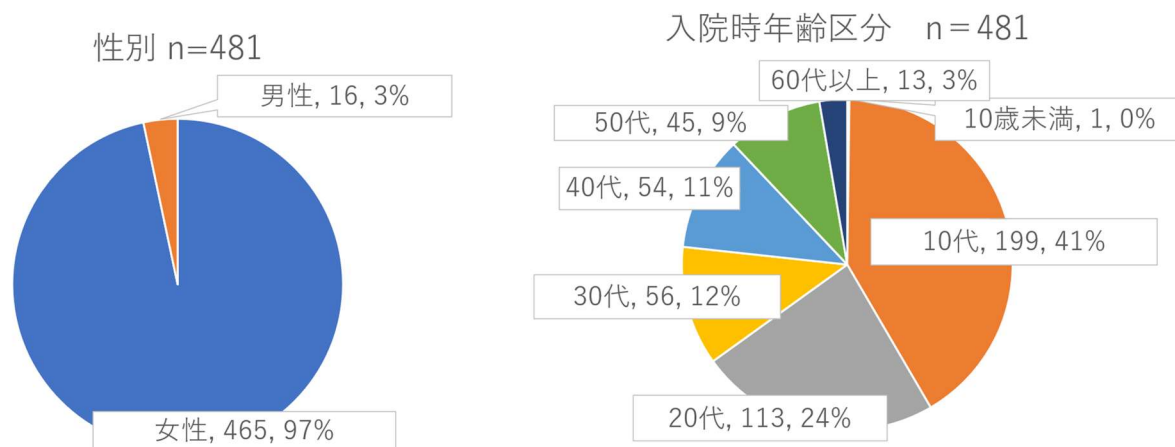
入院日数・入院形態



60日以内の入院が67%を占めた一方、61日以上入院も33%みられ、入院期間には幅が認められた。25%が医療保護入院であった。

5

患者性別・年齢

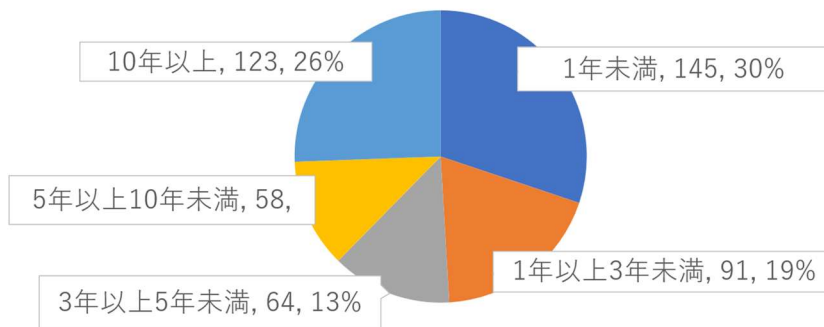


女性が97%を占めた。10代・20代が全体の65%を占めた一方、30代以上も35%認められた。

6

罹病期間

罹病期間 n=481

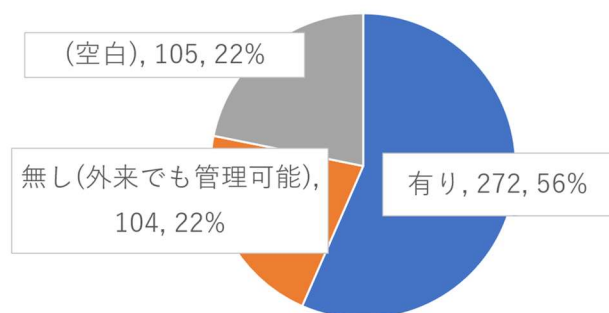
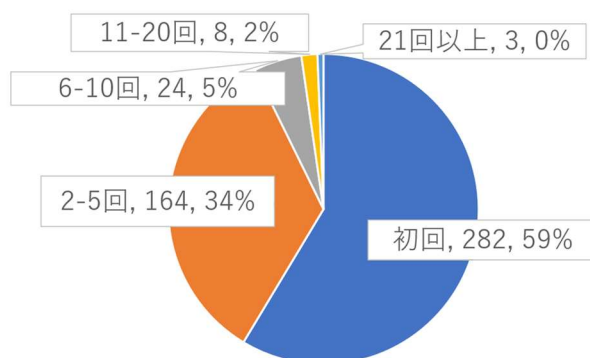


罹病期間は1年未満が145例（30％）で最も多い一方、10年以上も123例（26％）を占めた。発症早期の患者から遷延患者まで幅広く入院しており、病期に応じた支援が必要と考えられた。

自院入院回数・入院による身体管理の必要性

自院入院回数（区分） n=481

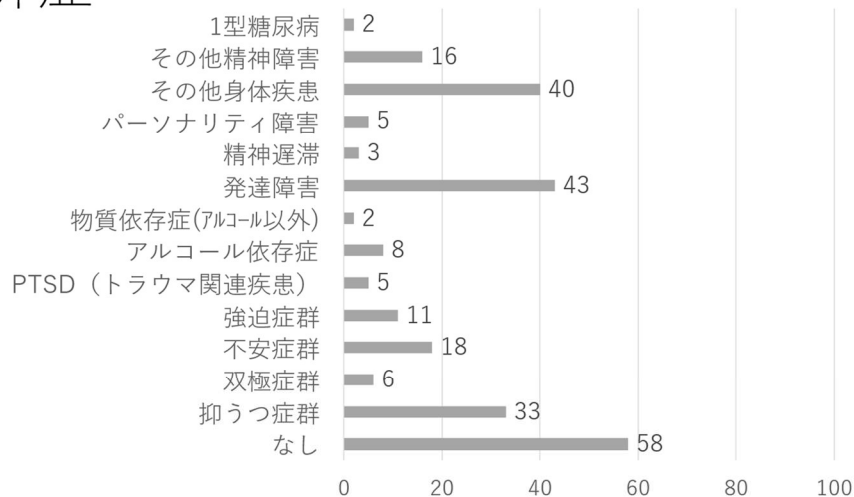
身体管理の必要性 n=481



自院入院回数は、初回が282例（59％）で最も多く、2～5回が164例（34％）であった。身体管理を必要とする患者は272例（56％）であった一方、外来でも身体管理可能と回答された患者も22％みられ、入院決定には身体状態以外の臨床的・心理社会的要因が関与した可能性がある。また、22％が未回答であり、判断基準が回答しにくかった可能性も考えられた。

患者の合併症

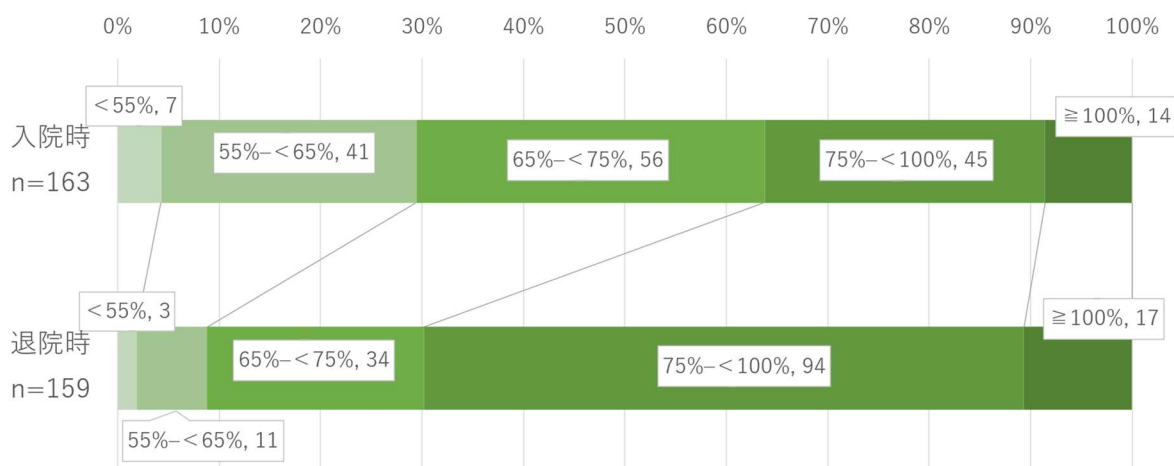
患者の合併症（複数回答）



「合併症なし」が58例だった。合併症は発達障害43例、その他の身体疾患40例、抑うつ症群33例が多かった。精神疾患と身体疾患の合併が認められ、幅広い併存症への対応が求められていた。なお、本項目は複数回答であり、各項目の合計は患者数と一致しない。

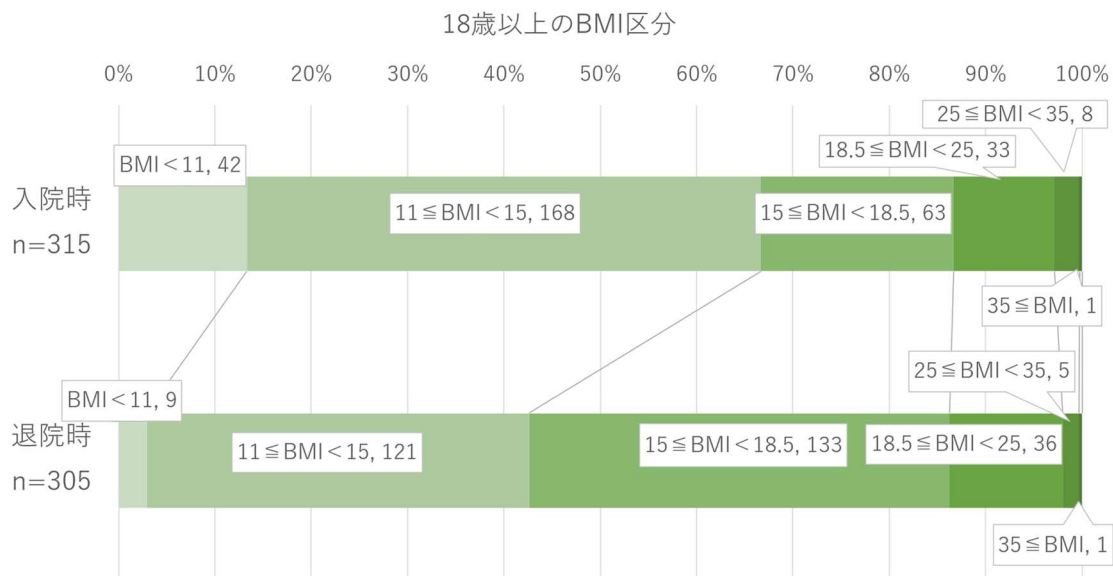
9

18歳未満の入院時標準体重比区分



18歳未満では、退院時には標準体重比75%以上の割合が増加していた。ただし、入退院時で対象数が異なるため、個人ごとの変化を示すものではない。

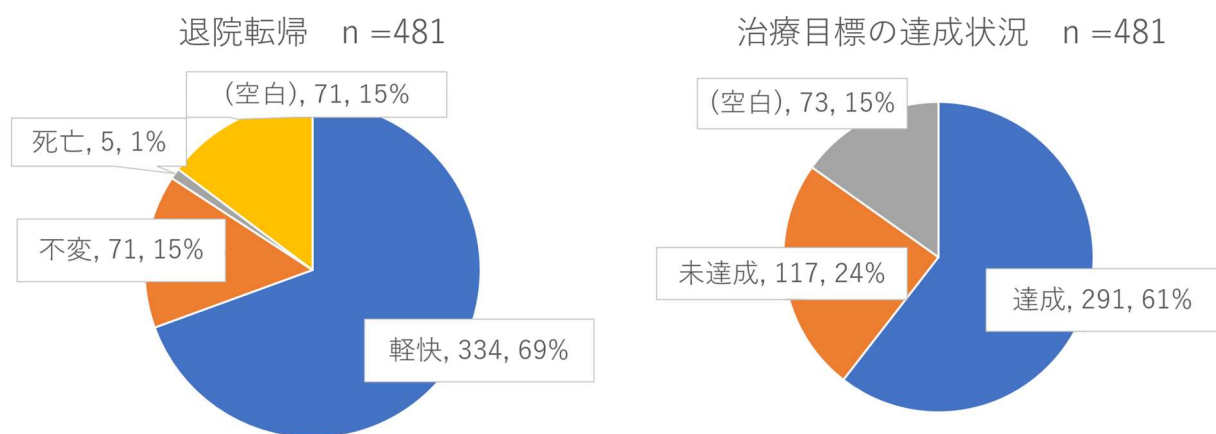
10



18歳以上では、退院時にはBMI15未満の割合が減少し、BMI15以上18.5未満の割合が増加した。ただし、入退院時で対象数が異なるため、個人内変化については対応のある分析が必要である。

11

退院転帰・入院時の目的達成状況

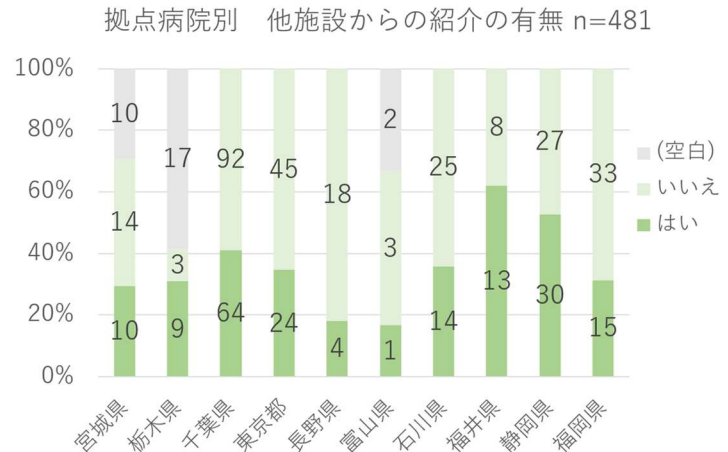
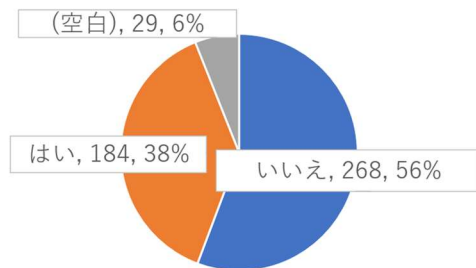


退院転帰は、軽快334例（69%）が最も多く、不変71例（15%）、死亡5例（1%）であった。
 治療目標は291例（61%）で達成され、117例（24%）は未達成であった。
 両項目とも未回答が約15%あり、退院時評価の解釈には留意が必要である。

12

他施設からの紹介の有無

他施設からの紹介の有無 n=481

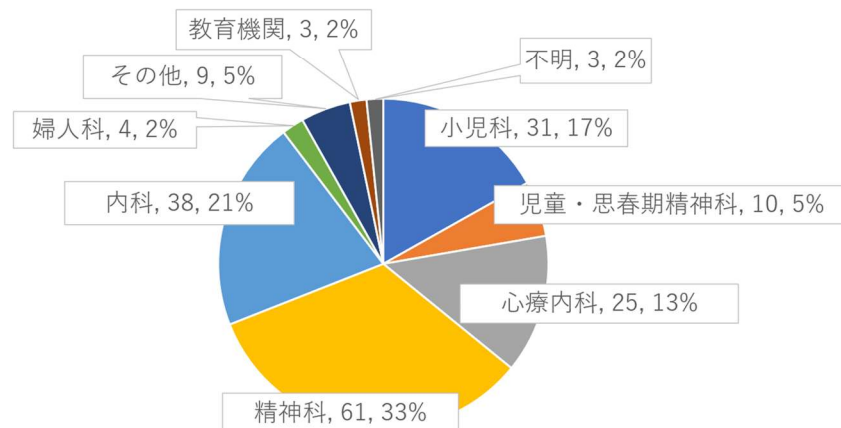


他施設からの紹介ありは184例（38%）、なしは268例（56%）、未回答は29例（6%）であった。
紹介割合は施設間で差がみられ、地域の医療連携体制や各拠点病院の役割の違いを反映している可能性があった。
ただし、施設ごとの症例数には大きな差があり、実数と割合を併せて慎重な解釈が必要がある。

13

他施設からの紹介 紹介元診療科

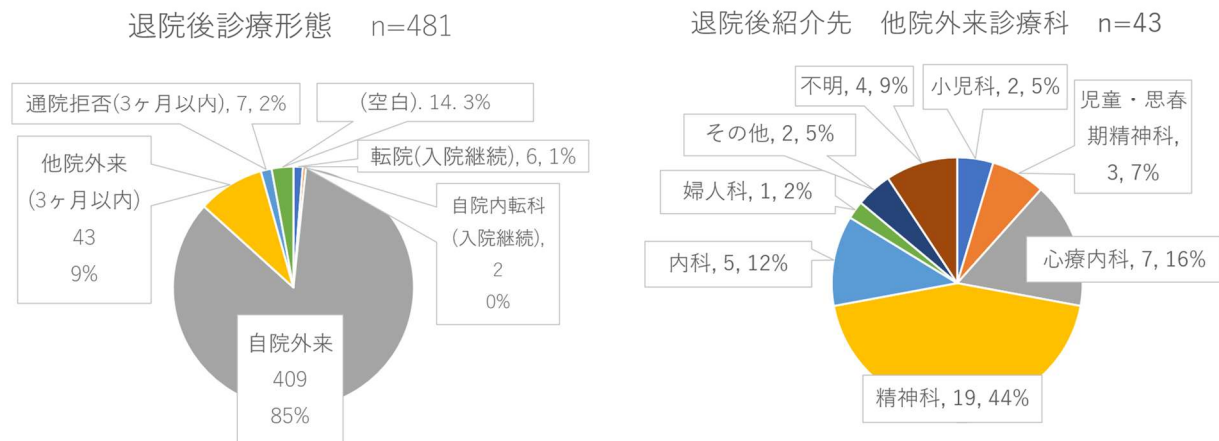
他施設からの紹介 紹介元診療科 n=184



紹介元は精神科が61例（33%）で最も多く、内科38例（21%）、小児科31例（17%）、心療内科25例（13%）が続いた。精神科系診療科に加え、内科・小児科からの紹介も多く、摂食症患者の入院に至る紹介経路は多様であった。このことから、地域における診療科横断的な連携体制の整備が求められる。

14

退院後の診療形態・他院診療科



退院後は自院外来が409例（85％）を占め、他院外来への逆紹介は43例（9％）であった。
逆紹介先の他院外来の診療科は精神科が19例（44％）で最も多く、心療内科7例（16％）、内科5例（12％）が続いた。
退院後も自院での継続診療が中心である一方、地域の複数診療科との連携も必要と考えられた。

15

入院患者データのまとめ

対象

10拠点病院、481例（2025年4月～2026年3月、富山県は2026年1月以降）

患者背景

女性が465例（97％）を占めた。年齢は10代が199例（41％）と最も多く、20代113例（24％）を合わせると、10代・20代が全体の65％を占めた。一方、30代以上も168例（35％）みられた。

病型・罹病期間

神経性やせ症・制限型207例（43％）、神経性やせ症・過食／排出型150例（31％）で、神経性やせ症が全体の74％を占めた。罹病期間は1年未満が145例（30％）で最も多かった一方、10年以上も123例（26％）を占め、発症早期から長期罹患まで幅広い患者が入院していた。

入院の特徴

入院日数は中央値39.0日〔第1四分位数17.3日-第3四分位数72.8日〕で、61日以上入院が157例（33％）を占めた。自院入院回数は初回が282例（59％）で最も多く、身体管理を必要とする患者は272例（56％）であった一方、外来でも管理可能と判断された患者も104例（22％）みられた。

紹介・退院後の診療形態

他施設からの紹介ありは184例（38％）であった。紹介元は精神科、内科、小児科、心療内科など多岐にわたった。退院後は自院外来が409例（85％）と中心であり、退院後3か月以内に他院外来へ移行した患者は43例（9％）であった。

まとめ

入院患者は、若年女性と神経性やせ症が中心であった一方、年齢、病型、罹病期間、入院背景、身体管理の必要性には多様性がみられた。紹介経路も複数の診療科に及んでおり、入院前から退院後まで、患者の状態や地域の医療資源に応じた連携体制を検討していく必要がある。

16

7. 普及啓発活動

普及啓発活動・計画

1. 情報ウェブサイトコンテンツの更新・拡充を実施する。令和8年の3月頃までに実施する。
2. 日本摂食障害協会と共催し、世界摂食障害アクションデイ2025にて当事者向け企画を開催する。
SNSなどのソーシャルメディアで広まっている動画の功罪について議論を行い、新たな啓発動画の作成の試みについて紹介を行う。

普及啓発活動・結果

1. **摂食障害に関する情報ウェブサイトの運営**
 - ・ 摂食障害ポータルサイトにおいて、記事の配置と構成を修正し、随時イベント、研修案内、摂食障害に関する情報を掲載した。全国支援センターHPのコンテンツを更新した。
 - ・ NCNP および日本摂食症協会が作成した摂食症の啓発動画を紹介するサイト「動画で学ぼう摂食障害」を新設した。
 - ・ 国府台医療センターにて摂食障害「相談ほっとライン」のホームページを更新し、SNS(Twitter)においても情報を発信し啓発に努めた。
 - ・ 摂食障害ポータルサイトの総ユーザー数は約 24 万人、全国支援センターのホームページは約 2 万人であった。ポータルサイトの一般の方向けは、疾患理解に関連するコンテンツが、専門職の方向けは、標準的診療やエビデンスに関係するコンテンツの利用者が多かった。
2. **世界摂食障害アクションデイ 2025**
 - ・ 2025 年 6 月 1 日『世界摂食障害アクションデイ 2025』の市民公開講座を、日本摂食障害協会との共催で、オンライン開催した。今年のテーマは「ライフステージと摂食障害～回復と社会生活を両立するために～」であり、摂食障害専門家、摂食障害患者やご家族にご登壇いただき、支援団体による回復と社会生活をサポートするための取り組みの事例や支援拠点病院開設を後押しした長野県摂食障がい自助グループでのご経験などをご共有いただき、総合討論を行った。また、新たな試みとして治療者、経験者、自助会など多様な立場の方からのメッセージ動画(フラッシュトーク)の上映も行った。当日は 192 名にご参加いただき、後日配信でも当日の様子を公開した。
3. **メディア関連対応**
 - ・ メディアの取材に応じ、摂食障害という疾患について、摂食障害にまつわる医療体制の課題、本事業の活動などについて情報提供をした。
 - ・ 高校生からの取材やメールでの問い合わせ対応が数件続いた。高校指導要綱に摂食障害教育が加わったことによる効果であると推察している。

ウェブサイトへのアクセス状況

2025 年 4 月～2026 年 3 月のセッション数、ページビュー数、ユーザー数（新規・リピーターユーザー数）を表 1 に示す。また 2018 年度から 2025 年度までのアクセス数の経過を図 1,2 に示す。

※2024 年度はドメイン変更に伴い、年間データを取得できなかった。

集計は、Google アナリティクスを用いて下記の定義で実施した。

- ・ページビュー数：ページが表示された総数
- ・セッション数：サイトへ訪問した回数
- ・総ユーザー数：サイトに訪問したユーザーの合計数（ページ表示 1 秒未満の訪問者も含む）
- ・新規ユーザー数：サイトを初めて訪問したユーザーの数
- ・アクティブユーザー数：サイト上で一定の行動を起こしたユーザー数（ページ表示 1 秒以上の訪問者）

摂食障害情報ポータルサイトは、2025 年度は 2023 年度と比較して、ページビュー数が半減した（表 1）総・新規ユーザー数共に減少幅が大きく、新規利用者の流入減少が示唆される。セッション数および総ユーザー数は 2019～2020 年度に高値を示した後、2021 年度以降減少し続けている（図 1）。

摂食障害全国支援センターHP は、ユーザー数は 70%に減少しているものの、ページビュー数やセッション数は 80%以上維持されている。2018 年度以降、セッション数およびユーザー数は概ね増加傾向を示し、サイト利用の拡大が示唆される。

各サイトの都道府県別のアクティブユーザー数上位 10 県を図 3,4 に示す。ポータルサイト、支援センター共に、アクセスは東京都に集中していたが、特に大阪府、神奈川県、愛知県など大都市圏を中心とした全国各地からの利用が認められた。

表 1. 摂食障害情報ポータルサイト（一般・専門職）における Google Analytics 指標の年度比較（2023 年度・2025 年度）

	ページビュー数	セッション数	総ユーザー数	新規ユーザー数
2023 年度	1,096,010	692,139	576,595	554,322
2025 年度	535,142	315,075	239,537	237,514
2023 年度比 (2023 年度=100)	49%	46%	42%	43%

表 2. 摂食障害全国支援センターホームページにおける Google Analytics 指標の年度比較（2023 年度・2025 年度）

	ページビュー数	セッション数	総ユーザー数	新規ユーザー数
2023 年度	73,520	36,003	30,736	27,386
2025 年度	59,277	30,928	21,535	21,157
2023 年度比 (2023 年度=100)	81%	86%	70%	77%

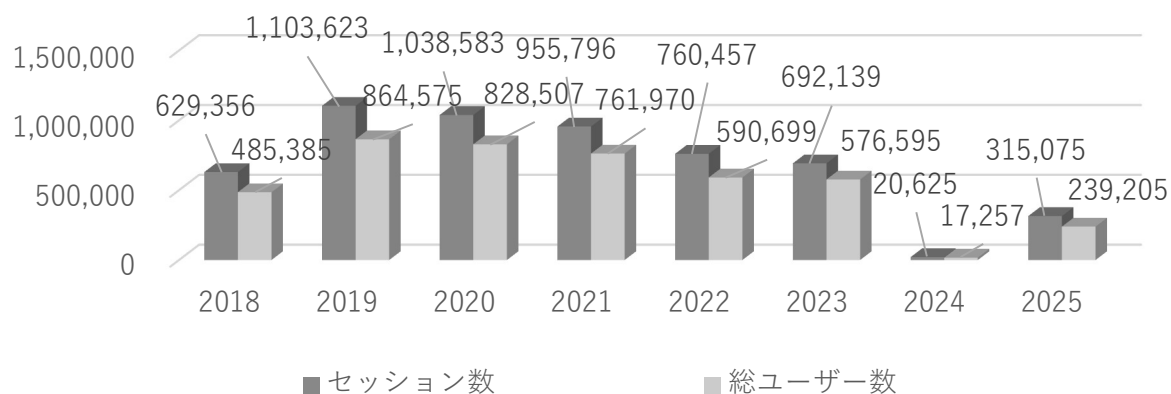


図 1. 摂食障害情報ポータルサイト（一般の方・専門の方）におけるセッション数および総ユーザー数の推移（2018～2025 年度）

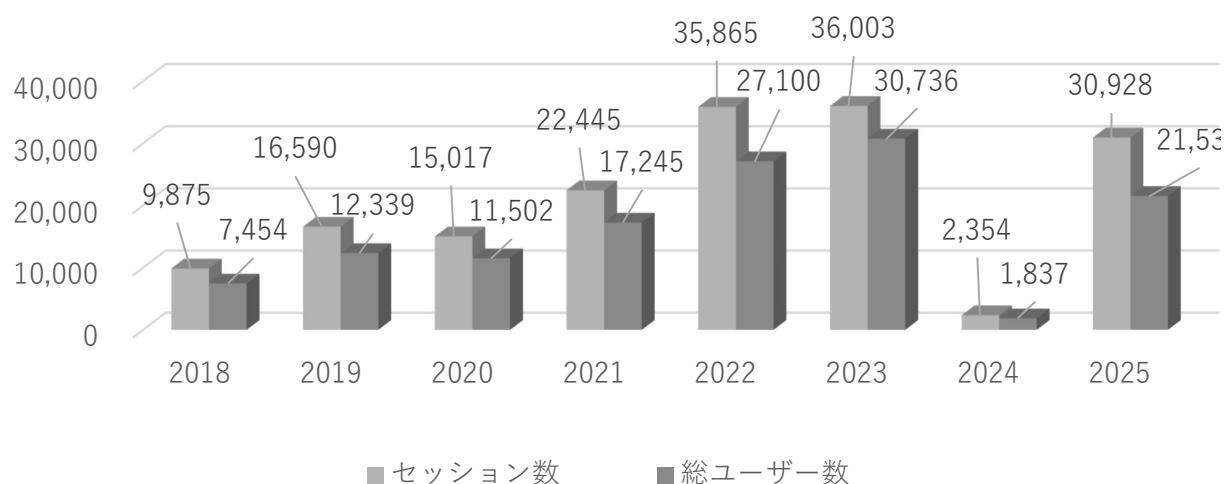


図 2. 摂食障害全国支援センターホームページにおけるセッション数および総ユーザー数の推移

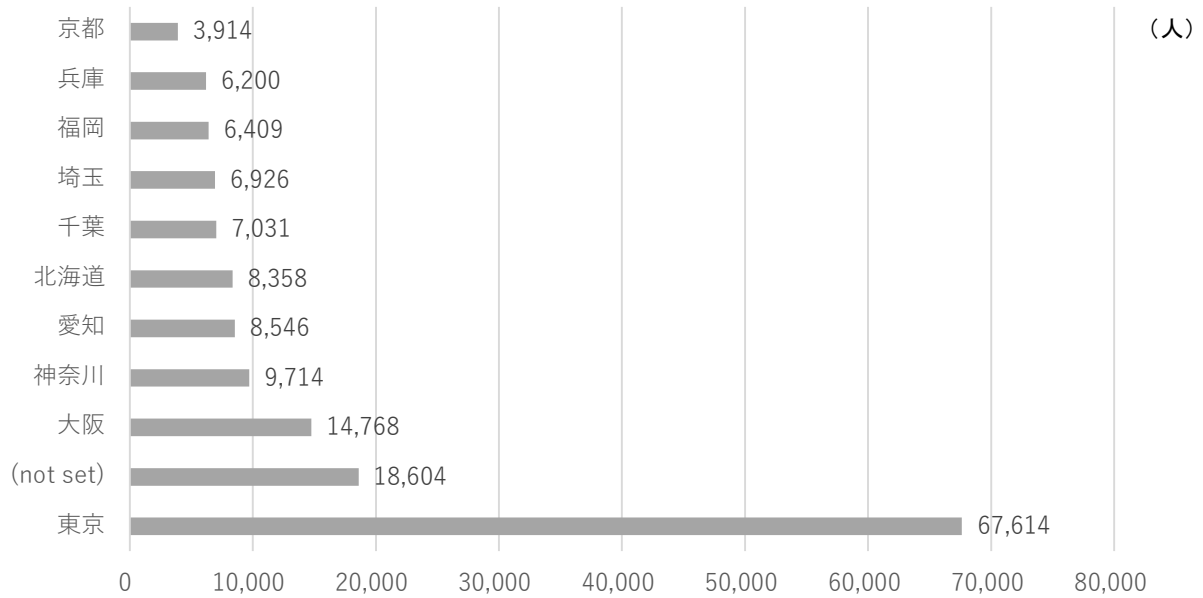
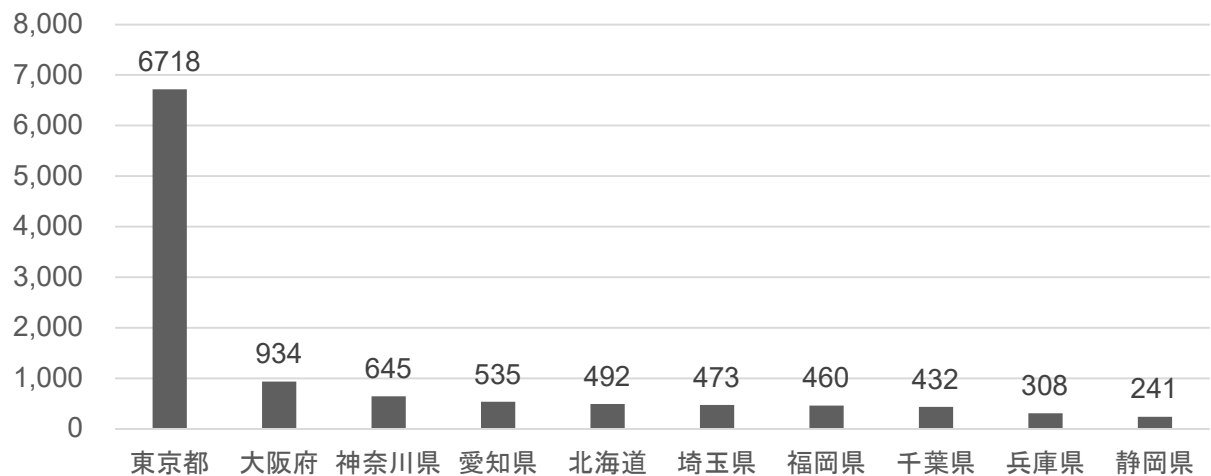


図3 摂食障害情報ポータルサイト（一般の方）
都道府県別アクティブユーザー数（2025/4/1-2026/3/31）



各コンテンツへのアクセス状況

各サイトで、どのコンテンツが多く利用されているかを調査した（図5-7）

ポータルサイト（一般の方向け）のコンテンツでは、「摂食障害はどんな病気か」「摂食障害のサイン」など疾患理解および初期症状に関するアクティブユーザー数が特に多かった。また、「子どもの摂食障害」「よくある相談」「ご家族の方へ」も多く、本人のみならず家族支援や回復過程への関心も高いことがうかがえた。「嘔吐や下剤乱用」「診療連携・相談窓口」も一定数あり、具体的な症状への対処法や支援機関情報へのニーズも認められた。疾患理解から支援先探索まで幅広い情報ニーズが示された（図5）。

ポータルサイト（専門の方向け）のコンテンツでは「摂食障害の概説と疫学」「診療の手引き・ガイドライン等」「摂食障害の治療」など標準的診療やエビデンスに対する情報を求めているアクティブユーザー数が多かった。「参考資料・学校関係」「多職種のかかわり」も一定数あり、医療だけでなく教育機関や多職種連携への関心も認められた。「研修案内」「診療連携・相談窓口」は相対的に少なかったものの、情報収集のみならず地域連携や研修機会への実務支援ニーズも存在していると考えられた（図6）。

摂食障害全国支援センターウェブサイトでは、「支援拠点病院設置サポート」、「相談窓口」のアクティブユーザー数が比較的多く、地域支援体制の整備や相談先情報への関心が高いことが示唆された。「本事業での活動」「調査・研究」「事業報告書」などへのアクセスも認められ、センター事業全体への一定の関心が存在していた（図7）。

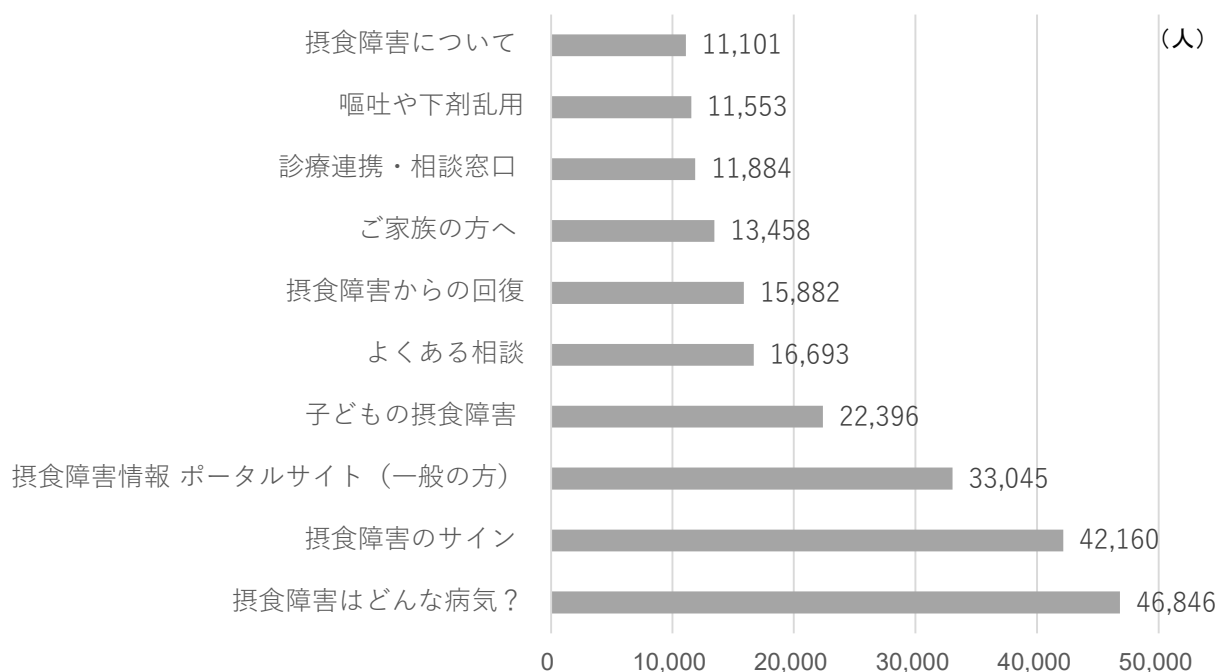


図5 摂食障害情報ポータルサイト（一般の方向け）コンテンツ毎のアクティブユーザー数
（2025/4/1-2026/3/31）

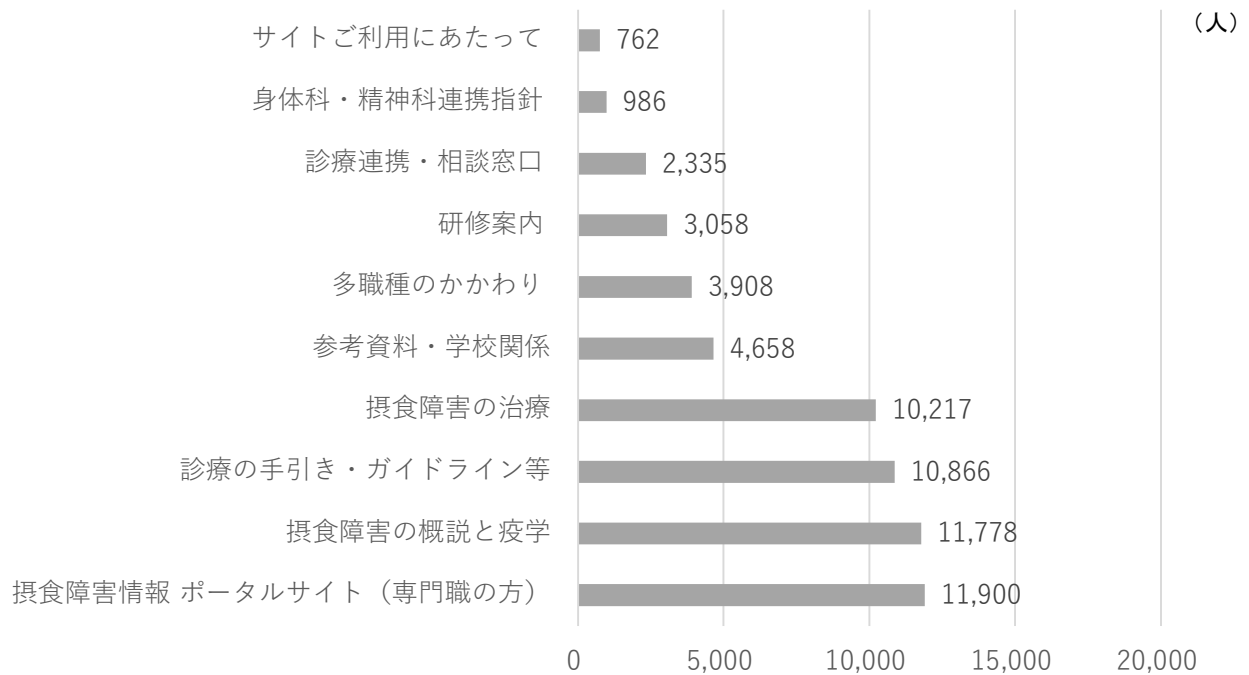


図 6 摂食障害情報ポータルサイト（専門の方向け）コンテンツ毎のアクティブユーザー数
(2025/4/1-2026/3/31)

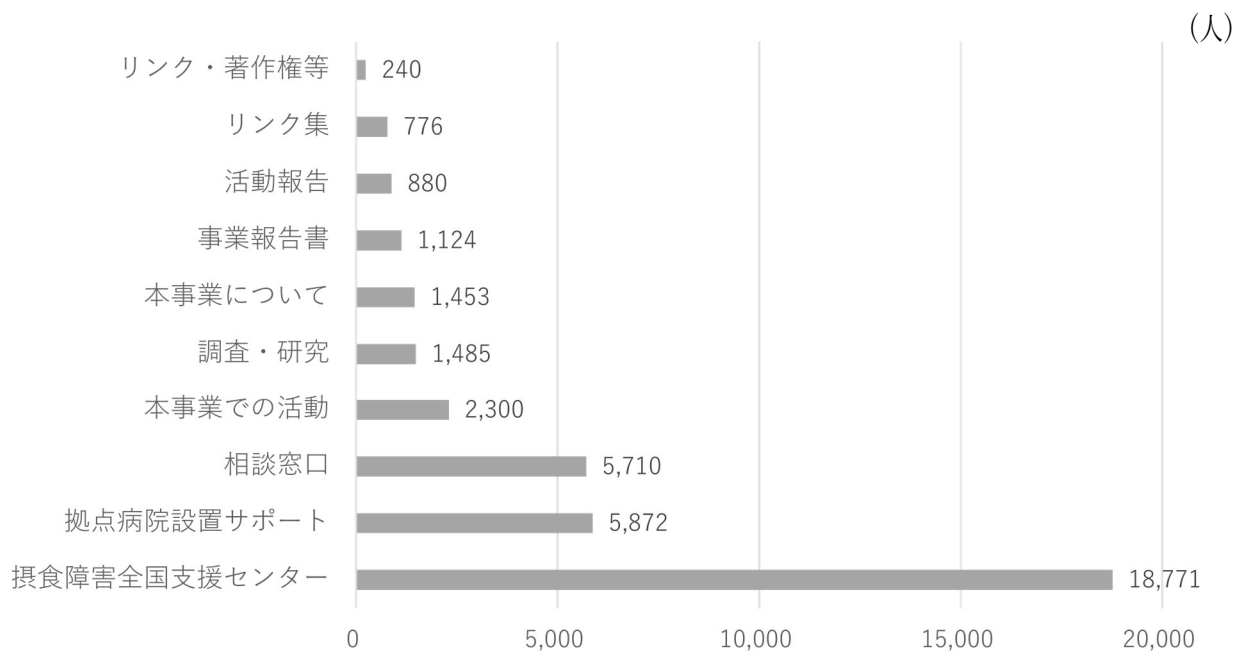


図 7 摂食障害全国支援センターHP コンテンツ毎のアクティブユーザー数
(2025/4/1-2026/3/31)

メディア対応（取材に応じかつ記事がリリースされたものののみ掲載）

「追跡 60 分」	
リンク	https://youtu.be/52FTMY7F8xM?si=SQTdD2SiaEdU5xUx
メディア媒体	韓国放送公社 (KBS TV) 地上波放送, YouTube 配信
公表日	2025 年 7 月 11 日 (金) 夜 10 時～11 時放送
取材対応	井野敬子

世界摂食障害アクションデイ 2025

動画配信 <https://www.youtube.com/watch?v=e3MmnUEjW7s&feature=youtu.be>

参加条件なし
参加費用無料

ライブ配信 (定員300名)
事後動画配信

世界摂食障害アクションデイ2025

ライフステージの中の摂食障害

回復と社会生活を両立するために

2025年6月1日(日) 13:30~15:30

オンライン開催: Zoomウェビナーを使用して開催します!

当事者、ご家族、セルフヘルプグループ、家族会、支援者、アスリート、養護教諭、トレーナー
メディア摂食障害に関心がある方、勉強をされたい方など、どなたでもご参加頂けます。

世界摂食障害アクションデイとは?

-World Eating Disorders Action Day-

世界摂食障害アクションデイ(World Eating Disorders Action Day)は、2016年より世界的に始まった運動で、摂食障害で苦しむ方やその家族、専門家や研究者、サポーターらが国境を越えて団結し、摂食障害の啓発と支援活動を世界中で同時に行うイベントです。摂食障害について1人でも多くの方に知っていただくことを目標にあげ、メディアなどを活用して行動を起こし、全世界で摂食障害に対する理解と支援の意識を高めることを目指します。

プログラム
イベント概要
今年のテーマについて
参加申し込み方法
など

詳細は裏面を
ご覧ください!

摂食障害治療支援センター設置推進事業
摂食障害全国支援センター
Center for Eating Disorder Research and Information

一般社団法人日本摂食障害協会
Japan Association for Eating Disorders

→ 2025(金) 7月 vol.3

発行: 「世界摂食障害アクションデイ」推進推進事業 摂食障害全国支援センター
一般社団法人日本摂食障害協会

NEWS LETTER

世界摂食障害アクションデイ2025 開催
各界から届いた応援メッセージを発信
立場を越えてつながり、力を合わせて
摂食障害支援の輪を広げていこう

世界中で摂食障害の啓発・支援を呼びかける「World Eating Disorders Action Day」に合わせ、今年度も、日本における摂食障害の啓発・支援を呼びかけ、行動する「世界摂食障害アクションデイ」が開催されました。新たな試みとして治療者、経験者、自助会など多様な立場の方から届いたメッセージ動画(「アクションデイ」)も上映、摂食障害者の回復と社会生活の両立を支援する活動が展開されました。

World Eating Disorders Action Day

「世界摂食障害アクションデイ」は、摂食障害で苦しむ方やその家族、専門家や研究者、サポーターらが国境を越えて団結し、摂食障害の啓発と支援活動を世界中で同時に行うイベントです。摂食障害について1人でも多くの方に知っていただくことを目標にあげ、メディアなどを活用して行動を起こし、全世界で摂食障害に対する理解と支援の意識を高めることを目指します。

摂食障害全国支援センター活動報告

摂食障害全国支援センターは、摂食障害治療支援センターを基盤として、摂食障害の回復と社会生活の両立を支援する活動を行っています。今年度も、日本における摂食障害の啓発・支援を呼びかけ、行動する「世界摂食障害アクションデイ」に合わせ、摂食障害者の回復と社会生活の両立を支援する活動が展開されました。

中 摂食障害全国支援センター活動報告

摂食障害全国支援センターは、摂食障害治療支援センターを基盤として、摂食障害の回復と社会生活の両立を支援する活動を行っています。今年度も、日本における摂食障害の啓発・支援を呼びかけ、行動する「世界摂食障害アクションデイ」に合わせ、摂食障害者の回復と社会生活の両立を支援する活動が展開されました。

中 摂食障害全国支援センター活動報告

摂食障害全国支援センターは、摂食障害治療支援センターを基盤として、摂食障害の回復と社会生活の両立を支援する活動を行っています。今年度も、日本における摂食障害の啓発・支援を呼びかけ、行動する「世界摂食障害アクションデイ」に合わせ、摂食障害者の回復と社会生活の両立を支援する活動が展開されました。

2024年度活動報告

「世界摂食障害アクションデイ」は、摂食障害で苦しむ方やその家族、専門家や研究者、サポーターらが国境を越えて団結し、摂食障害の啓発と支援活動を世界中で同時に行うイベントです。摂食障害について1人でも多くの方に知っていただくことを目標にあげ、メディアなどを活用して行動を起こし、全世界で摂食障害に対する理解と支援の意識を高めることを目指します。

摂食障害からの回復と社会生活の両立
本人・家族・支援者それぞれが行動を起こし
摂食障害からの回復を応援する環境と
誰もが生きやすい社会を実現していこう

「世界摂食障害アクションデイ」今年度のテーマは「ライフステージと摂食障害 -回復と社会生活を両立するために-」。摂食障害として、摂食障害支援拠点病院の設置を求めた摂食障害者約4千人分の署名を基に提出し、摂食障害回復を後押しした世界摂食障害者自助会グループ「ピクチャー・ボイス」のメンバーが、本人の立場からは回復と社会生活の両立について、家族の立場からは本人を支える経験と、家族の声を行政に届ける活動について発信してくれました。また、「特定非営利活動法人SEED」として、摂食障害の回復と社会生活の両立を支援する活動を行っています。摂食障害者それぞれの立場でのアクションの重要性を報告しました。最終セッションでは、摂食障害の回復と社会生活の両立に関する具体的な情報やアドバイスが共有されました。

本人のアクション

「わたしは、摂食障害からの回復と社会生活の両立を目指しています。摂食障害からの回復は、摂食障害者自助会グループ「ピクチャー・ボイス」のメンバーとつながり、自分自身の経験や知識を共有し、自分自身の回復を支援しています。また、摂食障害からの回復を支援する活動に参加し、摂食障害者の回復と社会生活の両立を支援しています。」

家族のアクション

「家族は、摂食障害からの回復と社会生活の両立を支援するために、摂食障害者の回復を支援する活動に参加し、摂食障害者の回復と社会生活の両立を支援しています。また、摂食障害からの回復を支援する活動に参加し、摂食障害者の回復と社会生活の両立を支援しています。」

支援者のアクション

「摂食障害からの回復と社会生活の両立を支援するために、摂食障害者の回復を支援する活動に参加し、摂食障害者の回復と社会生活の両立を支援しています。また、摂食障害からの回復を支援する活動に参加し、摂食障害者の回復と社会生活の両立を支援しています。」

8. 考察

令和7年度は、全国的な摂食障害支援体制の強化に向けた取り組みがさらに進展した1年であった。特に、富山県(7月)、長野県(8月)に新たに摂食障害支援拠点病院が指定され、全国の支援拠点病院数が10施設に拡充されたことは大きな成果の一つである。支援拠点病院の設置準備サポートの定式化による新規支援拠点病院の指定に向けた動きは継続的に拡大している。これにより、地域ごとの支援ネットワークが強化され、拠点病院のない地域に対する支援の在り方についても新たな展望が開かれた。支援拠点病院の設置を促進するために、「摂食障害支援拠点病院設置準備サポート」をさらに充実させ、拠点未設置地域の自治体や医療機関への働きかけを継続したことも、本年度の重要な取り組みである。

また、診療体制の強化に向けて、外来治療研修2回、入院治療研修2回、小児治療研修2回、専門治療研修1回をオンラインで実施し、幅広い医療従事者への支援を行った。特に、小児科診療従事者向け研修会については、10代の摂食障害患者の増加が指摘される中で、小児科領域における診療体制の充実が求められていることを改めて確認する機会となった。

しかし、新規支援拠点病院の指定や研修会の開催にもかかわらず、摂食障害治療に対する認識の低さや診療体制の不足が依然として課題として残っている。特に、医療機関や自治体が摂食障害支援のニーズを十分に把握していない、摂食障害対策の優先度を上げられない、現状の診療体制に問題を感じていないといった声は、前年度からの課題として引き続き多くの地域から聞かれる。これらの課題を克服し、より多くの支援拠点病院の設置を促進するためには、全国支援センターとしてのさらなる取り組みが求められる。

特に、支援拠点病院の新規指定を進めるにあたり、各自治体や医療機関における摂食障害対策の優先度が依然として低いこと、専門医不足や診療報酬の課題が支援体制の拡充を阻む要因となっていることが改めて浮き彫りとなった。拠点病院設置を進めるためには、自治体や医療機関の意識向上が不可欠であり、「摂食障害診療連携モデル」や「摂食障害支援拠点病院設置準備サポート」を活用しながら、各地域の実情に応じた働きかけを強化する必要がある。

普及啓発活動では、摂食障害に関する情報ウェブサイトの運営を継続し、NCNP および日本摂食障害協会が作成した啓発動画の紹介コーナーを新設するなど、オンラインコンテンツの充実を図った。また、世界摂食障害アクションデイ2025では、「ライフステージの中の摂食障害～回復と社会生活を両立するために～」をテーマに、オンラインで市民公開講座を開催し、約192名が参加した。このような取り組みを通じて、摂食障害に関する正しい知識の普及とスティグマの軽減に貢献していきたい。

令和7年度の活動を通じて、摂食障害支援の体制強化が進められたが、引き続き取り組むべき課題も多い。今後も、学会、協会、医療機関、自治体、関係省庁、教育機関、マスメディア、企業など、多様な関係機関との連携をさらに深め、全国的な摂食障害支援ネットワークの強化を推進することが不可欠である。特に、拠点病院指定が進む中で各地域の支援ニーズを的確に把握し、各拠点病院での好事例や課題を迅速に共有し、それぞれの課題に応じた柔軟な支援を提供することで、より多くの摂食障害患者が適切な治療とサポートを受けられる体制の整備を目指す。

今後も、摂食障害に関する認識を高め、より多くの人が適切な治療と支援を受けられるよう、全国的な支援体制の拡充に向けた取り組みを継続していく。

3. 宮城県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 7 年度

宮城県摂食障害支援拠点病院

Miyagi Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和 7 年度 摂食障害支援拠点病院設置事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
宮城県摂食障害 支援拠点病院	東北大学病院心療 内科	980-8574	宮城県仙台市青葉区 星陵町 1-1	022-717-7328

URL 宮城県摂食障害支援拠点病院：<http://plaza.umin.ac.jp/~edsupportmiyagi/index.htm>

摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
金澤 素	東北大学病院心療内科／東北大学大学院 医学系研究科心療内科学	特命教授・科長／准教授
佐藤 康弘	東北大学病院心療内科	副科長・講師
馬上 峻哉	東北大学病院心療内科	助手
後藤 漢	東北大学病院心療内科	医員
阿部 麻衣	東北大学病院心療内科	コーディネーター

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
阿部 麻衣	公認心理師/医療心理士

2. 要旨

摂食障害支援拠点病院では、摂食障害対策推進協議会を設置し、摂食障害に関する治療支援また連携について討議し、事業計画を策定している。

相談支援では 相談体制を専用回線、専用メールアドレスにて週 3 日相談を受付。コーディネーターが相談内容を聞きとり、医師と相談し回答。例年同様、多くの相談が寄せられる。

治療支援にては院内の各専門領域の診療科、協力医療機関との連携をおこなう。

研修において 院内での症例検討会の継続、連携ミーティングを専門領域の診療科とおこなった。

啓発普及活動 継続して市民公開講座、家族教室を開催する。教職員向け研修の開催、大学生製作「摂食障害予防」のリーフレット監修。宮城県庁にて「摂食障害のパネル展示」を開催。

行政とは 摂食障害対策推進協議会を設置し、摂食障害に関する治療支援また連携について討議し、事業計画を策定している。

その他の活動 ホームページや SNS を活用して啓蒙活動を継続。

考察 各関連機関、医療従事者や行政等を対象とした研修を今後開催できるように検討し、院内外での治療体制、連携構築に努める。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	金澤 素	医師（東北大学病院心療内科 特命教授・科長、医学系研究科心療内科学 准教授）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
委員	富田 博秋	医師（東北大学病院精神科、医学系研究科精神神経学分野 教授）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	佐藤 康弘	医師（東北大学病院心療内科 講師）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	村上 靖	宮城県庁（保健福祉部 精神保健推進室 参事兼室長）	県保健福祉部精神保健推進室
同上	鶴若 美亜	宮城県庁（保健福祉部 精神保健推進室 精神保健推進班 技術補佐（班長））	県保健福祉部精神保健推進室
同上	小原 聡子	医師（宮城県精神保健福祉センター 所長）	県精神保健福祉センター
同上	石川 達	医師（東北会病院 理事長）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	梅津 美貴	医師（東北会病院）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	野村 泰輔	医師（のむら内科・心療内科クリニック 院長）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	吉田 弘和	医師（宮城県立精神医療センター 医療局長）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	遠藤 由香	医師（広瀬病院）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	町田 知美	医師（東北労災病院心療内科 副部長）	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	砂金 理佳	宮城県仙台保健福祉事務所（仙台保健福祉事務所・塩釜保健所 地域保健福祉部 総括技術次長）	保健所
同上	〇〇〇〇〇	摂食障害患者	摂食障害関係者
同上	〇〇〇〇〇	摂食障害家族	摂食障害関係者

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第 1 回	令和 7 年 6 月 12 日	令和 7 年度摂食障害支援拠点病院設置運営事業実施計画について
第 2 回	令和 8 年 1 月 26 日	令和 7 年度摂食障害支援拠点病院設置運営事業の活動報告について

4. 相談支援

相談体制

専用回線、専用メールアドレスにて、火～木曜日の週3日にて相談を受付。

コーディネーターが相談内容（相談者の属性、相談対象者の困っている症状や状態、性別、年齢、身長、体重、医療機関受診の有無、お住まいの地域）を聞きとり、医師と相談後、対応について回答。

対応相談 摂食障害の症状、状態に応じ、医師と相談し、対応を回答する。摂食障害治療支援コーディネーターのための相談支援の手引きの使用や、摂食障害ポータルサイト、「学校と医療のより良い連携のための対応指針」、EAT119、書籍、自助グループ等を紹介。

受診相談 県内対象者の場合

対象者の状態に応じて拠点病院の連携医療機関やカウンセリングを希望の場合には相談機関を案内。

県外対象者の場合 摂食障害ポータルサイト上の「摂食障害相談施設リスト」に掲載されている対象者の住まい地域の自治体にある医療機関や、各都道府県の子精神保健福祉センターの連絡先を案内。

相談支援結果

相談件数

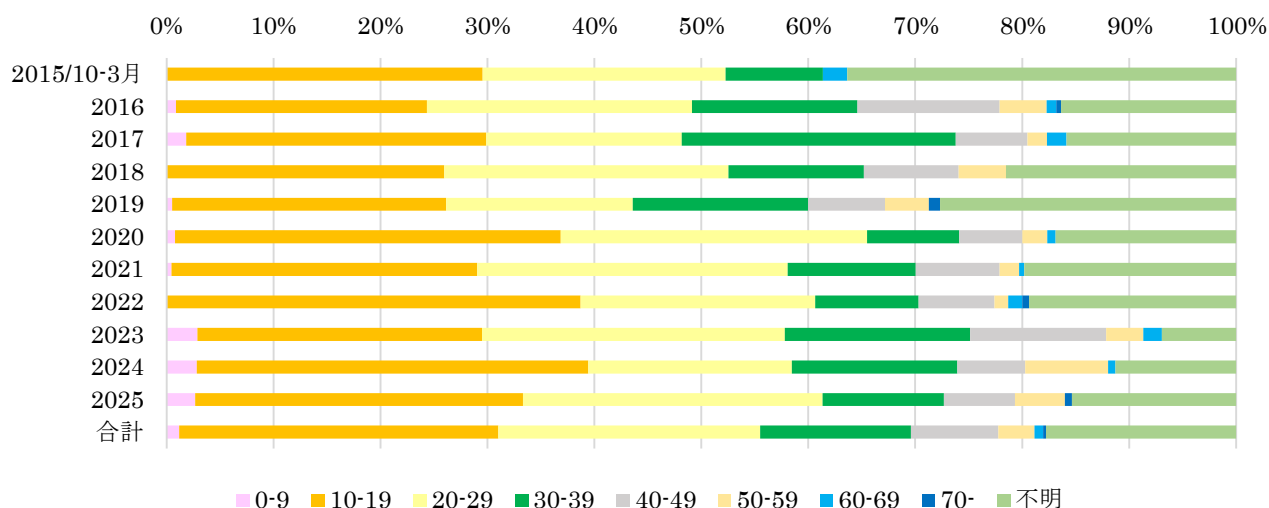
期間	相談件数		相談経路（延べ件数）			地域（新規）		
	延べ	新規	電話	メール	面談	県内	県外	不明
R7 年度	246	150	168	77	1	114	24	12

令和7年度の相談延べ件数は246件で、電話相談が延べ168件(68.3%)、メール相談は延べ77件(31.3%)、面談1件(0.4%)。新規相談件数150件の内訳は、電話相談が108件(72.0%)、メール相談が42件(28.0%)で、延べ、新規ともに7割が電話による相談であった。

新規電話相談108件の内、母からの相談が44件(40.7%)と4割を占め、新規メール相談42件では、本人からの相談が22件(52.4%)と、半数以上が本人からの相談であった。

新規相談150件の内訳は、本人からの相談が59件(39.3%)、次いで、母からの相談が53件(35.3%)であった。その母、父、配偶者、その他家族からの相談を合わせると68件(45.3%)と、家族からの相談が、本人よりもやや多く寄せられた。

相談対象患者の年齢（経年推移）



集計期間(記入)	令和 7年 4月1日 ~ 令和 8年 3月31日
支援拠点病院名:	宮城県摂食障害支援拠点病院

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
150	246

居住地域（新規件数）n= 150

管轄都道府県内	管轄都道府県外	不明	ほっとライン	計
114	24	12	0	150

相談者の患者との関係（新規件数）n= 150

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
59	2	53	3	10	5	1	3	6	8	150

相談対象患者の年齢（新規件数）n= 150 平均年齢: 26.1 SD= 12.5 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	計
4	46	42	17	10	7	0	1	127

相談対象患者の性別（新規件数）n= 150

女性	男性	その他	不明	計
129	12	3	6	150

相談対象患者状態（新規件数）n= 150

やせ	食事制限	過食	排出・代償行動					精神・行動症状				
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動
81	87	68	52	16	4	14	1	4	95	1	4	5

相談対象患者属性（新規件数）n= 150

学生				社会人			その他	不明	計
小	中	高	大/専	就労中	無職	主婦/主夫			
4	18	17	16	43	22	6	5	19	150

摂食障害での受診状況（新規件数） 150

受診中	入院中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	計
60	3	20	37	12	3	15	150

相談経路（延べ件数）n= 246

電話	メール	面談	その他	計
168	77	1	0	246

相談が個別症例および患者関連以外の件数

個人	専門家
242	4

#REF!

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ（新規件数）n= 150

インター ネット	紹介				メディア				ポスター・ ちらし	その他	不明	計
	機関			その他・ 不明	テレビ	新聞	自治体・ 広報	その他・ 不明				
	医療	行政	教育									
124	4	2	4	4	0	0	0	0	0	0	12	150

相談内容（延べ件数）n= 246

疾患相談	有り	対応相談			受診相談	支援拠点病院業務問い合わせ	その他	コロナ関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
179	40	28	6	13	173	2	5	7

対応内容（延べ件数）n= 246

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	支援拠点病院業務問い合わせ	その他
	拠点病院	協力病院	その他病院	公共機関		疾患知識	治療受診	資料	社会資源			
166	91	72	30	5	198	168	185	110	8	108	3	24

家族支援

開催日	対象者	参加人数 (組)	内容	開催方法
R8/3/7	摂食障害患者 摂食障害患者の家族 一般県民	42	「知っておきたい、摂食症に関連する 女性の健康課題-」 講師：福島県立医科大学ふくしま子ども・女 性医療支援センター 小川真里子	Web
R8/3/19	摂食障害患者の家族	11	「家族にできるサポート」 講師：東北大学病院心療内科講師 佐藤康弘 講師：帝京大学文学部心理学科 准教授 小原千郷	Web

5.治療支援

治療体制・計画

治療体制は、医師、看護師、管理栄養士、公認心理師、薬剤師、地域医療連携室等による多職種連携にて対応。拠点病院への相談や、医療機関からの相談による受診について対応。
相談対象患者、患者の状況や状態によって、連携医療機関と連携構築。
院内に摂食障害治療支援センター運営委員会を設置し、運営委員が所属する専門領域における摂食障害診療の望ましい運用とコンサルテーションに対応する。

治療支援実施結果

摂食障害治療にあたって、主に精神科、救急科、小児科等と診療連携に努めた。

支援拠点病院設置病院 初診患者数 (R7 年度) 73 人 内、拠点病院経由での受診 25 人
(診療科：心療内科、精神科)

初診患者数	73 人	性別	女性	68 人	男性	5 人		
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	
	1 人	30 人	24 人	9 人	6 人	3 人	0 人	
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID		
	23 人	21 人	11 人	5 人	0 人	13 人		
外来／入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	57 人	3 人	13 人					
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≤
	6 人	5 人	24 人	7 人	5 人	10 人	14 人	2 人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介				
	53	6	6	8				

令和 7 年度に東北大学病院を受診した摂食障害の新規外来患者数は 73 名、うち、拠点病院経由での受診は 25 名 (45.5%) と 4 割を超えていた。

摂食障害の内訳は、神経性やせ症患者(AN)が 44 名(60.3%)で 6 割を占め、回避制限性食物摂取症(ARFID)患者は 13 名(17.8%)と 2 割近くであった。

支援拠点病院設置病院（診療科：心療内科、精神科）R7 年度 入院患者数 34 人

令和 7 年度入院患者数は神経性やせ症(AN)患者が 31 名(91.2%)と、9 割以上が神経性やせ症(AN)であった。年代別では 10 代が 12 名（35.3%）、20 代が 7 名（20.6%）を合わせて 0-20 代の若年層が 19 名（55.9%）と 6 割近くが若年層で、40 代以降の入院は 9 名（26.5%）と 3 割近くを占めていた。

入院件数

延べ入院件数	入院件数のうち 「EDの治療目的」か未確認の件数
34	0

病型

神経性やせ症		神経性 過食症	むちゃ 食い症	回避・制 限性食物 摂取症	その他 摂食症
制限型	過食/ 排出型				
ANR	ANBP	BN	BED	ARFID	OSFED /UFED
15	16	0	0	3	0

入院日数

1～ 30日	31～ 90日	91～ 180日	181～ 365日	366日 以上
13	18	2	1	0

うち加算可能期間

～14日 精神病棟入院基本料算出 可能期間	～16日 急性期一般入院基本料算 出可能期間
4	4

入院形態

任意	医療 保護	措置	非精 神科
0	10	0	24

性別

男性	女性	その他
0	34	0

入院時年齢

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-
0	12	7	6	3	6	0	0

罹病期間

0～1年 以内	1～2年 以内	2～3年 以内	3～5年 以内	5～ 10年以内	10年 以上
2	3	3	5	6	15

摂食障害による自院入院回数

1回 (初回)	2回	3回	4回	5回	6回以上
16	6	3	0	0	9

入院による身体管理の必要性

有り	無し (外来でも管理可能)
34	0

入院中の合併症（複数回答可）

なし	抑うつ 症群	双極 症群	不安 症群	強迫 症群	PTSD (トラウ マ関連疾 患)	アルコ ール 依存症	物質依存 症(アルコール 以外)	発達 障害	精神 遅滞	パーソナ リティ 障害	その他 精神 障害	1型 糖尿病	その他 身体 疾患
0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1

退院転帰

軽快	不変	増悪	死亡
29	4	0	1

治療目的を達成して、退院したか

達成	未達成
23	10

他施設からの紹介の有無（紹介後3ヶ月以内の入院）

有り								小計	無し (自院)
小児科	児童・ 思春期 精神科	心療 内科	精神科	内科	婦人科	教育 機関	その他		
2	0	0	3	2	0	0	0	7	14

退院後診療形態

転院 (入院 継続)	転科 (入院 継続)	自院 外来	他院外 来(3ヶ月 以内)	通院 拒否(3ヶ月 以内)
0	0	31	1	0

入院時 BMI（18歳以上）

9未満	9～10 未満	10～11 未満	11～12 未満	12～13未 満	13～14 未満	14～15 未満	15～16未 満	16～17 未満	17～18 未満	18～19 未満	19～20 未満
0	0	6	4	5	1	2	4	1	1	0	0
20～25未 満	25～30 未満	30～35 未満	35～40 未満	40以上							
1	0	0	0	0							

退院時 BMI（18歳以上）

9未満	9～10 未満	10～11 未満	11～12 未満	12～13未 満	13～14 未満	14～15 未満	15～16未 満	16～17 未満	17～18 未満	18～19 未満	19～20 未満
0	0	1	4	3	3	3	3	6	0	1	0
20～25未 満	25～30 未満	30～35 未満	35～40 未満	40以上							
1	0	0	0	0							

入院時 標準体重比区分（5～17歳）

55%未満	55～65%未満	65～75%未満	75%～100%未満	100%以上
0	7	2	0	0

退院時 標準体重比区分（5～17歳）

55%未満	55～65%未満	65～75%未満	75%～100%未満	100%以上
0	1	6	1	1

6. 研修

研修体制・計画

院内職員（医師・看護師・薬剤師・管理栄養士、心理士ほか）ならびに、関連機関において研修会をおこなう。院内および病院同士や、教育・行政機関等の連携を深めていくため、拠点病院職員が講義を行い、摂食障害の知識や連携を深める。

研修実施結果

昨年度から開始した院内 Web 連携ミーティングを定期的に継続開催、また、県内の教職員向けに研修会をオンライン及びオンデマンド配信にておこなった。事前申込みは 53 名あり、当日は 35 名、オンデマンド配信では 54 回の視聴と多くの教職員が受講した。事前質問も受け付け、当日回答する等を通して、教育現場での摂食障害対応についてアドバイスし、教育現場での苦慮している声も知ることができた。研修や講義を通して、関係機関や多職種連携、摂食障害へのサポート体制構築に努めた。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	対象者	参加人数	研修内容	開催方法
R7/7/28	院内精神科、心療内科職員	16	第15回摂食障害合同症例検討会	Web
R7/8/18	院内心療内科看護師	20	摂食障害の基礎知識と治療・看護	対面
R7/11/10	院内精神科、心療内科職員	15	第16回摂食障害合同症例検討会	Web
R7/12/12	県内教職員	89	摂食障害の理解と対応 - 学校編 -	Web/オンデマンド
R8/1/22	コーディネーター	17	摂食障害コーディネーター研修会	Web
R8/3/23	院内精神科、心療内科職員	15	第17回摂食障害合同症例検討会	Web

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

摂食障害の普及啓発活動として必要な事項について、摂食障害全国支援センターと協議して実施する。一般の人々に摂食障害の病態・治療および早期治療の重要性に関する知識普及について市民公開講座を令和 8 年 3 月に開催する。さらに、令和 8 年 3 月には摂食障害治療の専門家を招き家族教室を開催する。また、拠点病院のホームページのコンテンツ充実を図り疾患教育を行うとともに、摂食障害に関連するイベント情報や医療従事者に対する研修会の案内などを掲載し普及啓発を行う。

普及啓発活動実施結果

令和 7 年 9 月「摂食障害の兆候と対策、社会的支援について」週刊女性の摂食障害の取材、東北芸術工科大学学生作成「摂食障害予防リーフレット」の監修、令和 8 年 1 月 26～30 日の期間、宮城県行政庁舎にて摂食障害のパネル展示をおこなう。継続事業として、令和 8 年 3 月に摂食障害オンライン市民公開講座、患者家族への支援として家族教室を摂食障害治療の専門家を招き開催する。事前に家族が困っていること、対応等についてのご相談をうけ付け、当日はその相談について話し合った。拠点病院ホームページにて食障害に関連する情報の案内などを掲載し普及啓発を行った。

講演会

開催日	対象者	参加人数 (組)	内容	開催方法
R8/3/7	摂食障害患者 摂食障害患者の家族 一般県民	42	第12回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座「知っておきたい、摂食症に関連する女性の健康課題」 講師：福島県立医科大学 ふくしま子ども・女性医療支援センター 小川真里子	Web
R8/3/19	摂食障害患者の家族	11	摂食障害の家族教室「摂食障害のこと 最新版」東北大学病院心療内科 講師 佐藤康弘 「家族にできるサポート」 帝京大学文学部心理学科 准教授 小原千郷	Web

メディア関係

開催日（発行日）	メディア／方法	内容
R7/9/2発行日	週刊女性記事	「摂食障害の兆候と対策、社会的支援について」掲載
R7/12月	リーフレット	東北芸術工科大学学生作成「摂食障害予防リーフレット」 監修。宮城、山形県内の高校や大学などに配布。
R8/1/26-30	パネル展示	摂食障害について宮城県行政庁舎にてパネル展示
R8/1/30発刊日	読売新聞	摂食障害パネル展示 朝刊記事掲載
R8/2/26 発刊日	河北ウィークリー せんだい	第12回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座の案内広告掲載
R8/ 2/27発行日	リビング仙台	第12回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座の案内広告掲載

- ・週刊女性取材：「摂食障害の兆候と対策、社会的支援について」掲載



「摂食障害」は、身体を壊すだけでなく、心も壊す。摂食障害は、食事の摂れなくなるだけでなく、栄養不足による体の弱体化、精神的な苦痛、社会生活への支障など、様々な問題を引き起こす。摂食障害は、決して「意志の弱い人」のせいではなく、脳の機能障害による病気である。早期発見・早期治療が大切である。

摂食障害の主な症状は、食事の摂れなくなる、体重の激減、栄養不足による体の弱体化、精神的な苦痛、社会生活への支障などである。摂食障害は、決して「意志の弱い人」のせいではなく、脳の機能障害による病気である。早期発見・早期治療が大切である。

摂食障害の主な症状は、食事の摂れなくなる、体重の激減、栄養不足による体の弱体化、精神的な苦痛、社会生活への支障などである。摂食障害は、決して「意志の弱い人」のせいではなく、脳の機能障害による病気である。早期発見・早期治療が大切である。

遠野なぎこさん(享年45) も闘った病気の「リアル」

患者数約22万人、高い割合の死亡率—「摂食障害」とどう向き合うか

多くの人が衝撃を受けたタレント・遠野なぎこさんの訃報。遠野さんは10代の頃から摂食障害を患っていることを公表し、闘病生活をSNSで発信して同じ疾患を抱える人を励ましてきた。摂食障害は精神疾患のなかでも死亡率の高い病気だが、詳しく知らない人も多い。発症の兆候、親はどう寄り添うべきか、支援策などを詳しい医師に聞いた。

摂食障害は、食事の摂れなくなるだけでなく、栄養不足による体の弱体化、精神的な苦痛、社会生活への支障など、様々な問題を引き起こす。摂食障害は、決して「意志の弱い人」のせいではなく、脳の機能障害による病気である。早期発見・早期治療が大切である。

摂食障害の主な症状は、食事の摂れなくなる、体重の激減、栄養不足による体の弱体化、精神的な苦痛、社会生活への支障などである。摂食障害は、決して「意志の弱い人」のせいではなく、脳の機能障害による病気である。早期発見・早期治療が大切である。

こうした行動や気持ちは、
じつはあなた自身からのSOSかもしれません。

- カロリーを見ないと落ち着かない
- 食べ物のことで頭がいっぱいになる
- 太るのが怖い
- おなかがついても食べないようにしている
- 食べたあと、罪悪感が残る
- 食べ始めたら止まらない

もし、自分の中に小さな違和感を感じていたら……

あなたのその“違和感”
そっと見つめてあげませんか？

もっと知りたい・相談したいときはこちらをチェック！

女性の健康支援情報サイト「ヘルスケアラボ」
<https://w-health.jp/information/detail76/?tpbanner>
 (※厚生労働科学研究費補助金を受けた研究班が運営しています。)

企画制作:東北芸術工科大学 木村美由香 / 監修:宮城県摂食障害支援拠点病院 5

「私と同じかも」と思ったあなた、
「摂食障害」になってはいませんか？

摂食障害って??
 食べる量が極端に少ない、あるいは極端に食べる状態のことを指します。

▶主な摂食障害について

神経性やせ症	神経性過食症
やせ願望からの食事制限	やせ願望からの食事制限
食事量の過度な制限。 一部では過食と嘔吐、下剤乱用。	過食と嘔吐、下剤乱用
低体重	正常

監修リーフレットの抜粋

・宮城県庁でのパネル展（令和8年1月26～30日）

YOL 読者新聞 オンライン

宮城のニュース > 宮城の企画・連載 >
 選挙・宮城 > 宮城の観光特集 >

摂食障害知るパネル展 県庁、きょうまで 「異変すぐ相談を」

摂食障害の危険性を知ってもらおうと、県精神保健推進室がパネル展を県庁で開いている。30日まで。

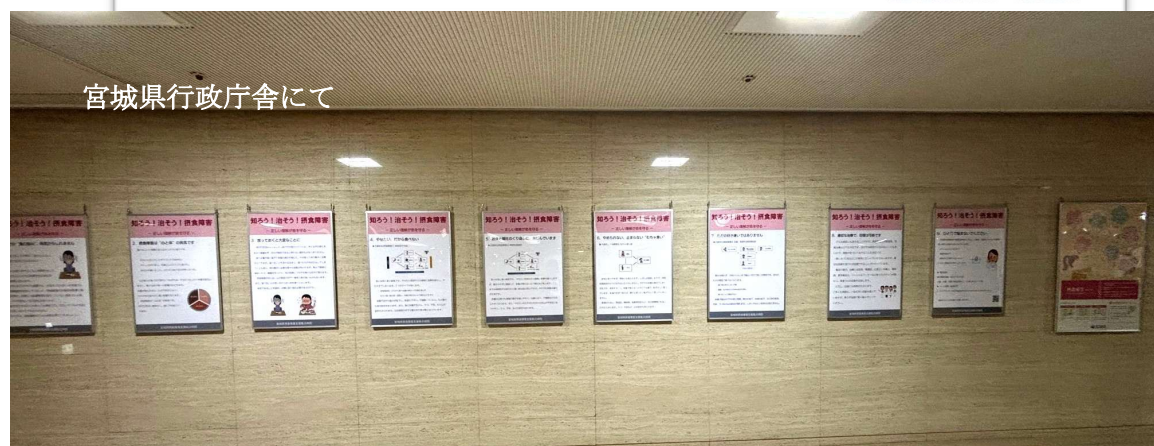
摂食障害の患者は全国に約22万人と推計される。過食や拒食など、食行動がコントロールできず、若い女性に多いという。心の病気とつながっているため、専門的な治療が必要だ。

展示では、過度なダイエットから摂食障害につながる事例などをパネル10枚で紹介。食べる量を減して体重を落とす「摂食制限型」、過食して嘔吐を繰り返す「むちゃ食い排出型」に分け、注意を促している。

東北大病院（仙台市青葉区）の心療内科が県の摂食障害支援拠点病院となっている。同病院のコーディネーターの阿部麻衣さんは「摂食障害は自覚症状がない場合も多い。少しでも体や心に異変を感じたら談してほしい」と話す。

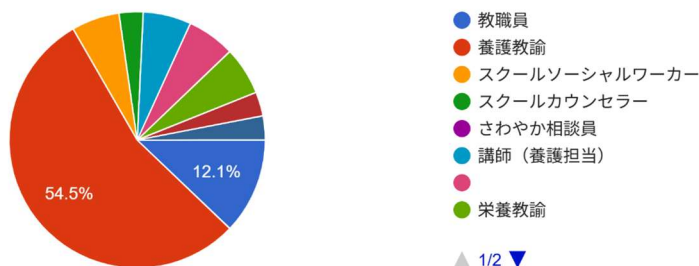
相談先は同病院（022・717・7328＝火～木曜のみ、メールアドレスeds-miyagi@shinryonaika.hosp.tohoku.ac.jp）。

宮城の最新ニュースと話題



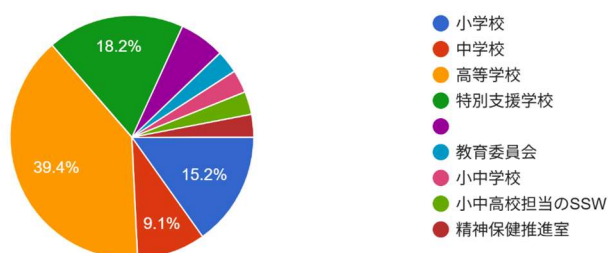
1.ご職業おを教えてください。

33 件の回答



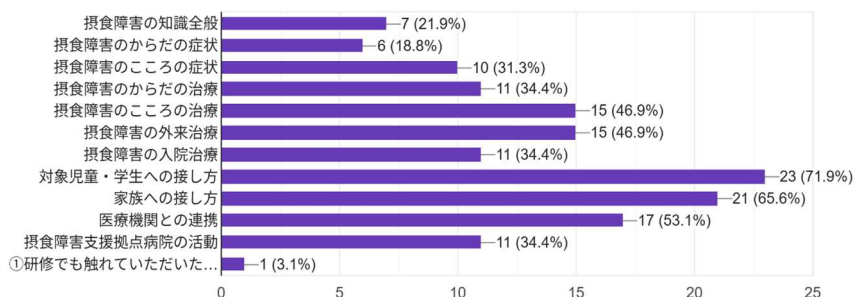
2.ご所属を教えてください。

33 件の回答



5.今後の研修で聞いてみたい内容を選んでください。（複数回答可）

32 件の回答



感想抜粋

・わかりやすい講義をありがとうございました。数人ずつ、毎年在籍している状況です。疑いそのまま診断のない生徒もいますので、今回の具体的な指標や対応は大変役立つものです。今後も、このような機会があると助かります。

・東北大学病院が支援拠点病院であることは把握していましたが治療内容、相談傾向など初めて伺うことばかりでたいへん参考になりました。担当校でも年に数回必ず摂食障害に関する悩みを抱えている思春期の生徒さんや保護者さんからの相談に応じています。回避型制限性食事摂取症のことやコロナ渦から相談の増加など知らないことも学べました。今日学びました対応方法や家族への声かけ方など今後の支援に活かしていきたいと思います。また機会がありましたら外来や入院治療のことも含めて拠点病院の活動についての理解も深めていきたいです。今回は貴重な機会をありがとうございました。

・神経性やせ症や神経性過食症の細かい違いなどの摂食障害の知識について学べただけでなく、「やせたい」という気持ちが自信のなさにつながっているというお話を聞いて大変勉強になりました。生徒に受診を勧めることに関しても、どのような内容を話せばよいのかをイメージすることができ、そのような生徒がいたときに今回学んだことを生かして関わりたいと思いました。

2025 年度 第 12 回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座

R8/2/26 発刊

河北ウィークリーせんだい

市民公開講座チラシ

県内医療・行政・教育関連機関等配布

第12回宮城県摂食障害支援拠点病院Web市民公開講座

「知っておきたい、摂食症に関連する女性の健康課題」

ふるってご参加ください！

受講料 無料 オンライン開催 定員 先着80名 申込方法 二次元コード 申込締切 3/2(月) 主催 宮城県受託事業

日時 令和8年3月7日(土曜日) 午前10時00分～11時30分

講師 公立大学法人 福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター 教授 小川 真里子

司会 東北大学病院心療内科 特命教授・科長 / 東北大学大学院医学系研究科 心療内科学准教授 宮城県摂食障害支援拠点病院院長 金澤 素

お申込方法
こちらの二次元コードよりお申込みください

問い合わせ先
宮城県摂食障害支援拠点病院
〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1 東北大学病院心療内科
電話022-717-7328 メール miyagi.ed@gmail.com

第12回 宮城県摂食障害支援拠点病院Web市民公開講座

知っておきたい、摂食症に関連する女性の健康課題

ふるってご参加ください！

受講料 無料 オンライン開催 定員 先着80名 申込方法 二次元コード 申込締切 3/2(月) 主催 宮城県受託事業

日時 令和8年3月7日(土) 午前10時～11時30分

講師 公立大学法人 福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター 教授 小川 真里子

司会 東北大学病院心療内科 特命教授・科長 / 東北大学大学院医学系研究科 心療内科学准教授 宮城県摂食障害支援拠点病院院長 金澤 素

お申込み方法
こちらの二次元コードよりお申込みください

R8/ 2/27 発刊 リビング仙台

摂食症に悩む女性や家族に向けて
参加無料！ 摂食症に関する Web 講座開催
主催／宮城県

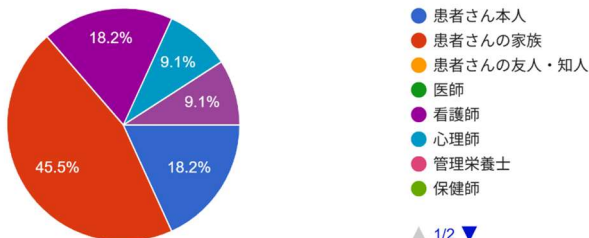
体重や体形への過度なこだわりからくる摂食症。そんな女性やその家族のためのオンライン講演会「知っておきたい、摂食症に関連する女性の健康課題」が3月7日(土)に無料で開催されます。講師は、公立大学法人福島県立医科大学ふくしま子ども・女性医療支援センター教授の小川真里子さん。オンラインのためどこからでも気軽に参加可能です。気になる人はぜひ応募を。

日時／3月7日(土)10:00～11:30 定員／80人(先着順) 申し込み／2次元コードから。3月2日(月)以降に接続方法について連絡があります。
問／東北大学病院心療内科 TEL022(717)7328

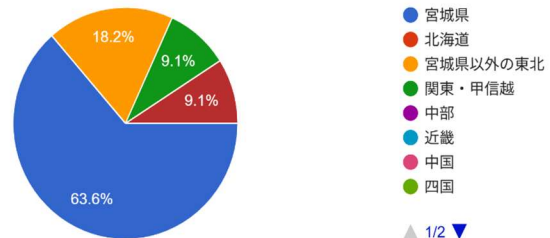
第 12 回宮城県摂食障害支援拠点病院市民公開講座アンケート抜粋

3.あなたは次のどれにあたるでしょうか。

11 件の回答

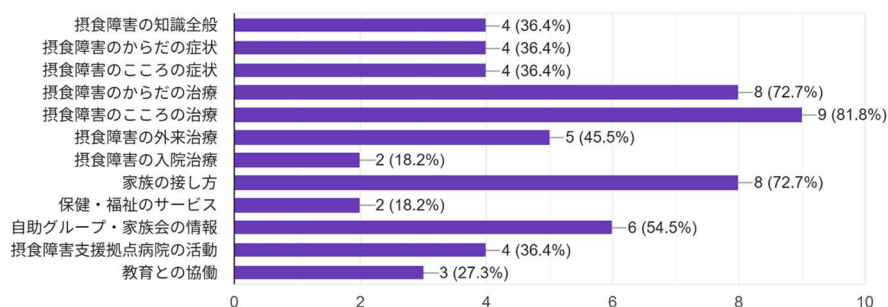


ごさい。



8.今後の市民公開講座で聞いてみたい内容を選んでください。(複数回答可)

11 件の回答



感想抜粋

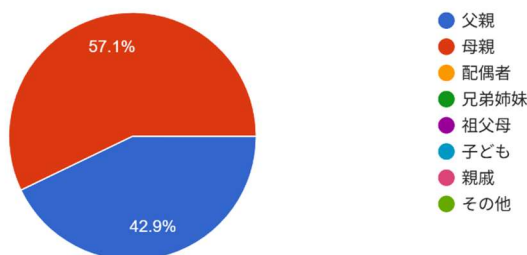
・講演ありがとうございました。鈴木真理先生が大学病院で摂食障害を診ていた時代、看護師として病棟で患者さん、ご家族と関わらせていただいた経験が●十年前にあり今回参加をさせていただきました。質問内容から当事者さんやご家族の現状や生の声、思いを聞かせていただける貴重な時間でした。家族支援の重要性を感じた一方で、その支援の難しさがあること、それゆえ家族への支援が充実しているとは言えない現状があるのかな…と感じています。未来ある若者が自分らしく、今この時を自分を大事に、楽しい時間をもてるように自分にできることが何かあるかを考えさせられています。このような公演があることで、ご家族も当事者の方も力になると思います。

・今日の講演内容は、摂食障害の体の状態が分かり、とても参考になりました。本人の病気の完全な回復が難しい病気のため、今回は、支える家族が精神的につらくなることもあるため、家族の精神面のケアやどのように本人に接していったらよいかお聞きしたいです。特に、本人が大人になってから自立は難しいのではないか、一人暮らしをすると、食べないことで亡くなってしまうのではないかと強い不安があります。親は本人が大人になっても本人をおいて旅行にいけないほど不安があります。摂食障害になっても、自立して一人暮らしをしている人はどのくらいいるか、事例もお聞きしたいです。

2025 年度 宮城県摂食障害支援拠点病院家族教室アンケート抜粋

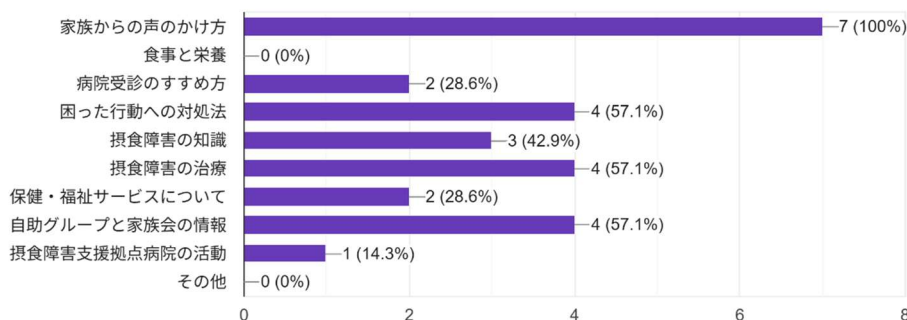
3.あなたは次のどれにあたるでしょうか。

7件の回答



8.今後の家族教室で聞いてみたい内容を選んでください。(複数回答可)

7件の回答



感想抜粋

・ありがとうございました。10年以上続いて良くなりず親子共々疲弊してしまっています。病院からもどうしていいかわからないと言われ、家族サポートも無いのでネットで探してやっとたどり着きました。家族としてどう関わればいいのか悩んでいます。

・ありがとうございました。大変参考になりました。九州南部に住んでおり、拠点病院も近くにはなく、自助グループ・家族会につながることも難しい状況です。こうしたお話を伺える貴重な機会に感謝です。

8. 行政機関との連携

研修体制・計画

年度毎に2回、宮城県摂食障害対策推進協議会をおこなう。

研修実施結果

令和7年5月に、令和7年度第1回の協議会を開催し、令和6年度の事業報告および令和7年度の摂食障害に関する治療支援また連携について討議する。令和8年1月に第2回を開催する。

連携会議等

開催日	対象者	参加人数	内容	開催方法
R7/6/12	協議会委員	14	令和6年度摂食障害支援拠点病院設置運営事業の活動報告、令和7年度摂食障害支援拠点病院設置運営事業実施計画について確認	Webミーティング
R8/1/26	協議会委員	12	令和7年度摂食障害支援拠点病院設置運営事業の活動報告	Webミーティング

9. その他の活動

実施体制・計画

ホームページを更新する。またフェイスブックにて、摂食障害についての情報を随時発信する。

実施結果

随時、ホームページおよびフェイスブック、Xにて摂食障害に関する情報を発信している。

・Facebook いいね！ 378件（令和8年3月31日現在）

・宮城県摂食障害支援拠点病院ホームページ アクセスカウンター70800（令和8年3月31日現在）

Google Search Console 分析結果(2025/1/1-12/31)



10. 考察

- ・教職員向け研修会をオンデマンド配信もおこなったことで、多くの教職員に聴講してもらう機会となり、今後もこういった方法での研修を検討・開催していきたい。
- ・啓発活動として、医療従事者や行政等の関係機関を対象とした研修も今後開催できるように検討し、院内外での診療体制・連携構築に努める。

4. 栃木県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 7 年度

栃木県摂食障害支援拠点病院

Tochigi Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和 7 年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	栃木県摂食障害支援拠点病院
設置施設	獨協医科大学病院 精神神経科
郵便番号	321-0293
所在地	栃木県下都賀郡壬生町大字北小林 880
電話番号	0282-86-1111 (代表) 0282-87-2281 (直通)
URL	https://dept.dokkyomed.ac.jp/dep-m/edsupport/

栃木県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	職名
古郡 規雄	獨協医科大学精神神経医学講座	主任教授・診療部長
白石 秀明	獨協医科大学医学部 小児科学講座	主任教授
加納 優治	獨協医科大学医学部 小児科学講座	講師
佐藤 由英	獨協医科大学精神神経医学講座	助教・外来医長
赤井 昌子	獨協医科大学病院 看護部	精神科病棟師長
竹澤 恵美子	獨協医科大学病院 看護部	小児科病棟師長
増渕 香代子	獨協医科大学病院 看護部	小児科病棟師長
田崎 香澄	獨協医科大学精神神経医学講座	摂食障害治療支援コーディネーター/看護師

2. 要旨

栃木県摂食障害支援拠点病院では、本年度より相談支援・治療支援・研修・普及啓発などの取り組みを本格的に進め、地域での支援体制を少しずつ形にしてきた一年であった。

相談支援では、摂食症の患者さんやご家族が相談しやすい環境づくりを意識しながら、相談窓口を通じて初期対応や医療機関への案内を行った。相談件数は増加し、地域に相談のニーズが確かに存在することを改めて感じた一年でもあった。あわせて、家族会や院内での連携づくりにも取り組み、支援の土台を整えてきた。

治療支援では、他科との協力が欠かせないことを再確認しつつ、院内での受診調整や対応方針の共有を進めた。少数ではあるがリエゾンとして介入する機会も生まれ、摂食症への理解が院内で少しずつ広がり始めている。連携調整の難しさを感じる場面もあったが、今後につながる第一歩となった。

研修では、昨年度に引き続き、医療・教育・行政の関係者に向けて基礎的な内容を中心に研修を行った。地域の支援体制を育てていくうえで、基礎を丁寧に繰り返し伝えることの大切さを共有しながら、無理のない範囲で取り組みを続けてきた。

普及啓発活動では、医療につながりにくい方にも情報が届くよう、寄り添った表現を意識したパンフレットを作成し、行政機関や学校にも届けた。また、院内ホームページの作成や県ホームページへの掲載が実現し、支援につながる道筋が広がりつつある。

行政との連携では、協議会を通じて支援の状況を共有し、必要に応じて担当部署と相談しながら、地域の状況に寄り添う形で連携を続けた。大きな事業連携には至らなかったが、日常的なやりとりを通して方向性を確認することができた。

その他の活動では、栃木県こどものこころ研究会への参加や、県内外の学会での発表を通じて、地域内外の支援者とながかりながら活動を広げていった。

本年度は、大きな変化というよりも、今後につながる“支援の土台づくり”を丁寧に進めた一年であった。こうした積み重ねを大切にしながら、地域の摂食症支援が少しずつ前へ進むよう、引き続き取り組みを続けていきたい。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

栃木県摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	古郡 規雄	獨協医科大学 精神神経医学講座 主任教授／診療部長	摂食症治療を行っている 医師（大学病院）
委員	柳橋 達彦	自治医科大学 とちぎ子ども医療センター 子どもの心の診療科 教授	・精神科 ・児童精神科
同上	加納 優治	獨協医科大学医学部 小児科学講師	・小児科
同上	石川 うた	医療法人大香会 みやの杜つむぎクリニック院長	医師（地域精神科）
同上			当事者
同上			患者家族
同上	角田 正史	栃木県教育委員会事務局 健康体育課	栃木県教育委員会
同上	島田 達洋	栃木県精神保健福祉センター 所長	栃木県保健福祉部
同上	大原 智子	栃木県県東健康福祉センター 所長	
同上	上野 治久	栃木県保健福祉部 障害福祉課 課長	
同上	田崎 香澄	獨協医科大学 精神神経医学講座	摂食障害治療支援コーディネーター

栃木県摂食障害対策推進協議会

令和 7 年度栃木県摂食障害支援拠点病院設置運営事業実施計画について	
開催日	2026 年 2 月 26 日
開催場所	ハイブリッド開催
議題	栃木県摂食障害支援拠点病院設置事業について 令和 7 年度 摂食障害支援拠点病院事業報告について 令和 8 年度 摂食障害支援拠点病院事業計画について

4. 相談支援

相談体制

本年度は、相談事業を本格的に動かしていくための準備と整備を進めた一年であった。専用回線を通じて行政機関や医療機関からの問い合わせを受け止めながら、当事者やご家族の相談も丁寧に対応できるよう、院内での連携や情報共有の仕組みを少しずつ整えていったところである。

相談窓口の運用を始めたことで、精神神経科外来に寄せられる摂食症に関する問い合わせを拠点病院側で一度受け、必要な部署へスムーズにつなげる流れが形成されつつある。いわば、病院の中に“相談の玄関口”を作り、迷いや不安を抱える方々が入りやすい環境を整える取り組みであった。

家族支援としては、小児科を中心に家族会を継続して開催し、家族が抱える不安や疑問を共有できる場を保ってきた。今年度は、当事者の声をオンラインで取り入れる試みにも取り組み、家族の理解を深められるよう工夫を重ねた。

こうした活動の基盤を支えるため、相談員として必要な知識を高める目的で、児童思春期精神保健、自殺対策、ひきこもり支援など、厚生労働省や栃木県が実施する研修にも参加した。相談体制を本格化させた年度だからこそ、このような学びが今後の支援に大きく生きてくると感じている。

相談支援結果

今年度は、行政・医療機関からの問い合わせに加えて、当事者や家族からの直接相談も多く寄せられ、相談ニーズの高さが改めて明らかになった。相談の多くは電話や対面で、メール相談は全体の約2割にとどまった。直接声を聞きたい、状況を丁寧に説明したいという相談者の思いが背景にあると感じられた。

しかし一方で、希望に合う受診先やカウンセリング先が地域に十分存在しないため、相談の先につなげることが難しい場面も多く、地域全体の課題も浮き彫りになった。つなぎたくてもつなげない“橋の未完成部分”がまだ残っている、そんな印象である。

家族支援として開催した家族会では、今年度は当事者の声をオンラインで取り入れる試みを行った。家族が日頃抱えている疑問や悩みが当事者の語りによって少し軽くなるような場面もあり、家族支援の重要性を再認識する機会となった。一方で、当事者への負担も考慮し、毎回同じ形を維持するのではなく、無理のない方法を工夫していく必要も感じられた。

相談支援を進める中で、地域のニーズがより具体的に見えてきたことは大きな成果であった。相談件数の増加は、支援を求める人が確実に存在することを示しており、こうした声を受け止め続ける体制の強化が今後ますます求められる。

今後は、医療機関や行政との連携を深めながら、相談内容に応じてより適切な支援につなげられるよう、地域の“受け皿”を少しずつ広げていきたいと考えている。

栃木県摂食障害支援拠点病院 相談支援

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
101	147

居住地域（新規件数）n=

101

管轄都道府県内	管轄都道府県外	不明	ほととライン	計
80	16	0	0	96

相談者の患者との関係（新規件数）n=

101

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
38	4	36	4	1	8	4	1	5	0	101

相談対象患者の年齢（新規件数）n=

101

平均年齢：23.9

SD=

10.7

※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	計
1	42	26	16	8	3	1	0	97

相談対象患者の性別（新規件数）n=

101

女性	男性	その他	不明	計
88	10	0	0	98

相談対象患者状態（新規件数）n=

101

やせ	食事制限	過食	排出・代償行動					精神・行動症状					その他
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	
45	53	38	34	6	0	5	0	7	12	3	1	5	13

相談対象患者属性（新規件数）n=

101

学生				社会人			その他	不明	計
小	中	高	大／専	就労中	無職	主婦／主夫			
1	12	18	10	27	8	7	2	11	96

摂食障害での受診状況（新規件数）

101

受診中	入院中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	計
45	1	6	29	11	0	4	96

相談経路（延べ件数）n=

147

電話	メール	面談	その他	計
111	32	2	2	147

#REF!

相談が個別症例および患者関連以外の件数

個人	専門家
0	2

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ（新規件数）n=

101

インターネット	紹介				メディア				ポスター・ちらし	その他	不明	計
	機関			その他・不明	テレビ	新聞	自治体・広報	その他・不明				
	医療	行政	教育									
73	4	1	1	1	0	2	0	0	1	13	5	101

相談内容（延べ件数）n=

147

疾患相談	対応相談				受診相談	支援拠点病院業務問い合わせ	その他	コロナ関連
	有り	接し方	生命危機	受診拒否				
83	55	47	6	27	96	4	4	0

対応内容（延べ件数）n=

147

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	支援拠点病院業務問い合わせ	その他
	拠点病院	協力病院	その他病院	公共機関		疾患知識	治療受診	資料	社会資源			
83	49	36	6	16	56	46	10	2	7	101	7	5

医療やシステムへの不満・課題（複数回答）

医療への不満・要望有り						
有り	専門性	改善無し	対話不足	嫌な体験	治療関係	システム
0	0	0	0	0	0	0

家族支援

獨協医科大学小児科 摂食障害 家族会	
開催日	2026年2月21日
対象者	獨協医科大学小児科で治療されている「神経性やせ症」のご家族
講師	たべこわちゃんピアサポーター まいさん、まりこさん 獨協医科大学 小児科学 講師 加納優治
開催場所	獨協医科大学病院 本館 中会議室

獨協医科大学小児科 摂食障害 家族会	
開催日	2026年3月21日
対象者	獨協医科大学小児科で治療されている「神経性やせ症」のご家族
講師	たべこわちゃんピアサポーター まいさん、まりこさん 獨協医科大学 小児科学 講師 加納優治
開催場所	獨協医科大学病院 本館 中会議室

研修（参加）

令和7年度厚生労働省こころの健康づくり対策事業 児童・思春期精神保健研修	
開催日	2025年 7月28日～9月21日 2025年10月29日
内容	児童・思春期精神保健対策医療従事者専門研修 ひきこもり対策研修
開催場所	オンデマンド・国立国府台医療センター

栃木県自殺対策プラットフォーム 相談対応力向上研修	
開催日	2025年12月12日
内容	相談対応力向上研修（基礎研修） 相談対応力向上研修（テーマ別研修）
開催場所	栃木県県南健康福祉センター・WEB

5.治療支援

治療体制・計画

本年度は、摂食症の患者さんが安心して治療につながれるよう、院内での連携体制を少しずつ整えることに力を入れた。摂食症は多くの診療科や職種の協力が欠かせないため、精神神経科・小児科・総合診療科・看護部・栄養部門などが共通の視点をもてるよう、基盤づくりに向けて取り組んだ一年であった。

精神神経科では、医局全体が摂食症診療に関わる方針を共有し、症例の情報を開きながら学び合え、情報共有を行える環境づくりを進めた。また、他科入院中の患者に早期に関われるよう、リエゾンの支援の準備も進め、院内で相談を受け止めやすい体制を整えていけるよう取り組みを続けていけるような体制を整えて行きたい。

他科との連携は必要性が再確認された一方、日常診療の中で調整が難しい場面も多く、包括的な治療体制はまだ途上である。ただ、少数ながら他科からの相談が生まれ始めたことで、「摂食症について相談できる場がある」という認識が院内に少しずつ広がりつつもあり、今後の協働体制づくりの第一歩になったと感じている。

行政や学校との連携も、必要な場面で情報共有を行い、治療につながりやすい環境づくりに努めた。こうした一つひとつの積み重ねが、今後の治療支援体制を育てていく基盤になると考えている。

治療支援実施結果

本年度は、院内での連携づくりを進める中で、少しずつ他科からの相談や支援依頼が寄せられるようになり、摂食症の患者さんに早い段階で関わる機会が生まれた。また、入院中の患者さんに対してリエゾンの関わるケースもあり、他職種や他診療科との情報共有が進む場面がみられた。

一方で、連携がスムーズにいかないケースも多く、診療の流れを整える難しさも実感した。特に、他科との役割分担や情報共有のタイミングなどは、今後さらに工夫が必要だと感じている。

また、医局内では摂食症症例を共有する機会が増え、医師間での学び合いが少しずつ広がったことで、摂食症に関する関心や理解が深まる様子がみられた。こうした変化は、院内全体で支援に取り組むための小さな前進につながっている。

本年度はまだ“準備と試行”の段階ではあるが、院内での相談の受け止めやリエゾンの働きかけなど、治療支援につながる動きが少しずつ増えてきた一年となった。今後も、こうした取り組みを重ねながら、患者さんが安心して治療に進める体制を整えていきたい。

栃木県摂食障害支援拠点病院設置病院

入院件数

延べ入院件数	入院件数のうち「EDの治療目的」が未確認の件数
29	0

病型

神経性やせ症		神経性過食症	むちゃ食い症	回避・制限性食物摂取症	その他摂食症
制限型	過食/排出型				
ANR	ANBP	BN	BED	ARFID	OSFED/UFED
19	3	0	0	7	0

入院日数

1～30日	31～90日	91～180日	181～365日	366日以上
17	8	3	1	0

うち加算可能期間

～14日 精神科入院 基本料算出可能期間	～16日 急性期一般入院 基本料算出可能期間
12	12

入院形態

任意	医療保護	措置	非精神科
2	6	0	21

性別

男性	女性	その他
1	28	0

入院時年齢

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-
1	22	2	1	1	2	0	0

罹病期間

0～1年以内	1～2年以内	2～3年以内	3～5年以内	5～10年以内	10年以上
9	8	4	3	0	5

摂食障害による自院入院回数

1回(初回)	2回	3回	4回	5回	6回以上
15	3	4	5	1	1

入院による身体管理の必要性

有り	無し (外来でも管理可能)
27	2

入院中の合併症（複数回答可）

なし	※1：心臓病	双極性障害	不安症群	強迫症群	PTSD（トラウマ関連疾患）	アルコール依存症	物質依存症（7日～14日外）	発達障害	精神遅滞	パーソナリティ障害	その他精神障害	1：糖尿病	その他身体疾患
0	0	0	1	1	1	0	0	3	0	0	1	0	0

退院転帰

軽快	不変	増悪	死亡
26	2	0	1

治療目的を達成して、退院したか

達成	未達成
26	3

他施設からの紹介の有無（紹介後3ヶ月以内の入院）

有り									無し (自院)
小児科	児童・ 思春期 精神科	心療 内科	精神科	内科	婦人科	教育 機関	その他	小計	
12	1	0	5	3	1	0	3	25	

退院後診療形態

転院 (入院継続)	転科 (入院継続)	自院 外来	他院外来 (3ヶ月以内)	退院拒否 (3ヶ月以内)
0	0	26	0	0

入院時 BMI（18歳以上）

9未満	9～10未満	10～11未満	11～12未満	12～13未満	13～14未満	14～15未満	15～16未満	16～17未満	17～18未満	18～19未満	19～20未満
1	0	0	0	0	2	1	0	1	1	0	0
20～25未満	25～30未満	30～35未満	35～40未満	40以上							
0	0	0	0	0							

退院時 BMI（18歳以上）

9未満	9～10未満	10～11未満	11～12未満	12～13未満	13～14未満	14～15未満	15～16未満	16～17未満	17～18未満	18～19未満	19～20未満
0	0	0	0	0	0	0	1	2	1	1	0
20～25未満	25～30未満	30～35未満	35～40未満	40以上							
0	0	0	0	0							

入院時 標準体重比区分（5～17歳）

55%未満	55～65%未満	65～75%未満	75%～100%未満	100%以上
1	4	5	12	1

退院時 標準体重比区分（5～17歳）

55%未満	55～65%未満	65～75%未満	75%～100%未満	100%以上
0	2	3	17	1

小児科・精神科院内合同カンファレンス			
開催日	2025年 4月15日、6月17日、8月 4日、9月16日、11月18日 2026年 3月17日		
参加者	精神神経科	主任教授 医局長 摂食障害治療支援コーディネーター	古郡 規雄 川俣 安史 田崎 香澄
	小児科	主任教授 学内教授 講師 公認心理師	白石 英明 今高 城治 加納 優治 植田 静
	看護部	副部長 精神神経科病棟師長 小児科病棟師長 小児科病棟師長	吉田 晃子 赤井 昌子 竹澤 恵美子 増渕 香代子
	医療福祉相談部門	医療ソーシャルワーカー 主任	東野 怜奈
開催場所	獨協医科大学病院内		

研修（参加）

第28回日本摂食障害学会学術集会	
開催日	2025年10月19日
内容	CBT-E研修会
開催場所	東京国際交流館プラザ平成

第28回日本摂食障害学会学術集会	
開催日	2025年10月19日
内容	MANTRA研修会
開催場所	東京国際交流館プラザ平成

6.研修

研修体制・計画

研修では、医療従事者・教育関係者・行政機関を対象に、摂食症に関する基礎的な知識や初期対応を共有し、地域で支援にあたる人々の理解を広げることを目的としている。本年度は、昨年度の方針を引き継ぎ、急ぎ専門的な内容へ進むのではなく、基礎的な学びを丁寧に積み重ねることを重視した。

医療従事者向けには診療の基本を、教育機関向けには早期発見につながる視点を、行政機関には地域全体の支援連携の考え方を共有できるよう、研修内容や実施方法の検討を進めてきた。こうした計画をもとに、今後も無理のない範囲で研修を育てていけるよう準備を重ねていきたい。

研修実施結果

今年度は、大規模な研修会の開催には至らなかったものの、院内での基礎的な学びを共有する取り組みを進めることができた。総合診療科の協力を得てリフィーディング症候群に関する教材を作成し、院内で必要な部署へ共有した。また、昨年度に精神神経科と小児科で作成した教材を看護師へ再配布し、摂食症診療に必要な知識をあらためて確認できる機会となった。

これらの取り組みは、院内で摂食症を理解し支援するための基礎づくりとして位置づけており、今後予定している研修の実施に向けた準備として少しずつ整えてきたものである。今年度は“土台を整える”ことに重点を置いた一年となり、次年度以降の研修内容を充実させていくための基盤づくりにつながったと感じている。

講習会、研修会、ミーティング等

摂食症の治療連携	
開催日	2025年10月31日
対象者	医療従事者
講師	浜松医科大学 精神医学講座 竹林 淳和 講師
開催場所	会場参加・Web
参加人数	50名

摂食障害の基礎知識(精神神経科・小児科)	
開催日	2025年10月1日～2026年3月31日
対象者	院内職員(精神神経科・小児科)
講師	獨協医科大学病院 小児科 講師 加納 優治 精神神経科 外来医長 佐藤 由英
開催場所	Web公開

リフィーディング症候群について	
開催日	2025年12月15日～2026年3月31日
対象者	院内職員
講師	獨協医科大学病院 総合診療科 助教 勝倉 真一
開催場所	Web公開

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

普及啓発活動では、摂食症についての正しい情報が地域に届き、医療や相談につながりにくい方にも“最初の一步”を踏み出してもらえるような環境づくりを目指している。本年度は、昨年度に整えた方針を引き継ぎ、専門的すぎない表現や見やすいデザインを意識した情報提供の方法を検討しながら、行政機関や学校と連携して周知を進める計画とした。

院内ホームページには、摂食症の基礎情報や相談窓口をわかりやすく掲載し、必要な人が必要ときに情報へアクセスできるよう整備を進めた。また、県のホームページにも情報が掲載され、病院外からも支援情報にたどり着ける導線を広げる体制づくりを計画した。

パンフレットについては、基礎情報と相談先をわかりやすくまとめ、行政機関（保健所・市町村）や学校を通じて地域に広く届くよう、配布の仕組みを整えることを目標とした。今後も行政・教育機関との連携を保ちながら、地域に寄り添った情報発信を進めていきたい。

普及啓発活動実施結果

本年度は、昨年度につくった基盤をもとに、実際に地域へ情報が届くための環境整備を進めた。寄り添う表現や見やすさを意識して更新したパンフレットをPDFとしてまとめ、行政機関（保健所・市町村）や小中学校へ配布したことで、支援を必要とする方に情報が届きやすい体制が少しずつ整ってきた。

また、課題となっていた院内ホームページは今年度中に作成が完了し、摂食障害の基礎情報や相談窓口を掲載した。加えて、栃木県のご協力により、県の公式ホームページにも新たに「摂食障害対策について」のページが作成され、病院以外の公的窓口からも支援情報へアクセスできるようになった。

(<https://www.pref.tochigi.lg.jp/e05/welfare/hoken-eisei/sessyokusyougaitaisaku.html>)

こうした取り組みにより、医療につながりにくい人に対しても情報が届く可能性が少しずつ広がっていると感じている。今後も、パンフレットやホームページの内容を丁寧に見直ししながら、支援につながる導線づくりを続けていきたい。

メディア関係

摂地域連携で摂食障害治療	
メディア媒体	下野新聞朝刊（栃木）
公表日	2026年1月28日

8. 行政機関との連携

研修体制・計画

行政機関とは、栃木県摂食障害対策推進協議会をはじめとして、必要に応じて相談・確認を行える体制を保っている。相談支援や治療支援に関わる場面では、担当部署へ都度問い合わせながら状況を共有し、方向性を確認するよう努めてきた。

また、行政と共通の視点で支援に向き合えるよう、広域・地域保健所との意見交換会の開催を計画し、地域全体で相談や支援に取り組める基盤づくりを進めている。こうした日常的なやり取りを通して、行政と医療がつながり続けられる状態を保つことを大切にしている。

行政との連携はまだ発展途上ではあるが、今後も対話を重ねながら、地域全体で支援体制を整えていけるよう準備を進めていきたい。

研修実施結果

今年度は、大規模な共同研修や新規事業には至らなかったものの、栃木県摂食障害対策推進協議会への参加を通じて、行政と支援状況を共有する機会を持つことができた。また、必要時には担当部署へ個別に相談し、相談支援や連携に関する方向性をその都度確認しながら歩みを進めることができた。

さらに、広域・地域保健所とは、事例を通して、現場での支援課題や相談内容を共有し、今後の連携に向けた土台づくりにつながったと感じている。大きな成果というよりは、“行政とのつながりを絶やさず続ける一年”であり、来年度以降の連携の広がりに向けた準備の期間となった。

連携会議等

令和 7 年度栃木県摂食障害支援拠点病院設置運営事業実施計画について	
開催日	2026年 2 月 26 日
対象	事務局
開催場所	WEB 開催
議題	栃木県摂食障害支援拠点病院設置事業について 令和 7 年度 摂食障害支援拠点病院事業報告について 令和 8 年度 摂食障害支援拠点病院事業計画について

9. その他の活動

実施体制・計画

その他の活動としては、地域の支援者同士が情報を共有する場に継続して参加し、地域の状況や課題を把握することを大切にしている。とくに「栃木県こどものこころ研究会」は、拠点病院が主催するものではないが、子どもの心の問題を扱う幅広い専門職が集う場であり、摂食症に関連する話題にも触れられる貴重な機会となっている。

また、県内外の学会で拠点病院としての取り組みを紹介し、地域とのつながりを広げていくことを大切にしている。

実施結果

本年度も、こどものこころ研究会に対面・オンラインで参加し、地域の支援状況について情報交換を行うことができた。また、全国摂食障害拠点病院活動および県公衆衛生学会で発表を行い、拠点病院としての取り組みを共有する機会となった。こうした活動を通じて、地域内外の支援者とのつながりを少しずつ広げている。

内容

栃木県こどものこころ研究会	
開催日	2025年 4月14日、6月2日、10月6日、11月10日、12月1日 2026年 2月2日
対象者	栃木県こどものこころ研究会メンバー
内容	こどものこころに関するディスカッション等
開催場所	Web、対面

全国摂食障害拠点病院活動内容

第28回 日本摂食障害学会学術集会	
開催日	2025年10月18日
	栃木県摂食障害支援拠点病院・小児期発症摂食障害について ～小児科医の立場から～ 獨協医科大学 小児科学 講師 加納 優治
開催場所	東京国際交流館プラザ平成

第63回栃木県公衆衛生学会	
開催日	2025年9月3日
	摂食障害支援拠点病院としての初年度の取り組み ～地域とともに支える体制づくりを目指して～ 獨協医科大学 精神神経科 田崎 香澄
開催場所	栃木県総合文化センター

10. 考察

本年度は、相談支援・治療支援・研修・普及啓発・行政連携など、拠点病院としての取り組みを本格的に動かし始めた“基盤づくりの一年”であった。大きな変化を急ぐというより、一つひとつの活動を丁寧に積み重ねる中で、今後の支援体制をどのように整えていくべきか、その輪郭が少しずつ掴めてきた段階であると感じられた。

1. 多職種連携の現状

治療支援では、摂食症診療が多職種・多診療科の協働を必要とすることをあらためて実感した。一方、日常診療の中で連携を調整する難しさも見られ、包括的な体制の構築はまだ道半ばである。そのなかで、少数ながらリエゾンとして関わるケースが生まれ、院内での理解が徐々に広がりつつある。こうした小さな前進を大切にしながら、協働の輪を広げていきたい。

2. 相談支援と家族支援の課題

相談事業を本格的に開始したことで、地域の相談ニーズの高さがはっきりと見えてきた。受診先の不足やカウンセリング先の限界など、地域の課題も再確認されたため、相談内容に応じた選択肢を少しずつ整えていく必要がある。

3. 研修活動の位置づけ

本年度は、地域支援者への基礎的な研修を丁寧に継続した。院内ではリフィーディング症候群に関する教材を活用し、理解を深める取り組みも進んだ。支援体制を広げるには、まず基礎的な理解を繰り返し共有することが重要であり、来年度も基礎力の底上げを続けていきたい。

4. 普及啓発の進展と課題

パンフレットの配布に加えて県ホームページへの掲載が実現し、情報発信の基盤が広がった。医療につながりにくい人に向けた環境づくりも少しずつ整いつつある。

5. 地域連携に向けた動き

行政とは大きな共同事業はなかったものの、協議会や意見交換を通じて状況を共有し、必要に応じて相談することで日常的なつながりを保つことができた。地域の研究会への参加や学会発表を通じて、院内外の関係者との関係も広がりつつある。

6. 展望

今年度は、支援体制の“土台づくり”を進めた一年であった。大きな成果というより、小さな取り組みを積み重ねることで、今後どのように体制を整えていくべきか、その方向性が少しずつ見え始めている。

今後も、今年度の取り組みを丁寧に継続しながら、地域全体で摂食症の患者さんご家族を支える体制がゆっくりと広がっていくよう、着実に進めていきたい。

5. 千葉県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 7 年度

千葉県摂食障害支援拠点病院

Chiba Prefectural Support Base for Eating Disorders

令和7年度(2025年4月～2026年3月)

精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置事業報告書

1. 基本情報

千葉県摂食障害支援拠点病院

Chiba Prefectural Support Base for Eating Disorders

センター名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
千葉県摂食障害支援拠点病院	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター	272-8516	千葉県市川市国府台1-7-1	047-372-3501 (代)

URL: 千葉県摂食障害支援拠点病院

<https://kohnodai.jihs.go.jp/sessyoku/index.html>

千葉県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
河合 啓介	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター心療内科	副院長, 診療科長
田村 奈穂	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター心療内科	医師
長谷川 遥菜	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター心療内科	フェロー
西田 拓生	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター心療内科	レジデント
鈴木 茉由	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター心療内科	レジデント
池田 萌里	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター心療内科	レジデント
山本 ゆりえ	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター薬剤部	薬剤師
芦田 真理子	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター
西野 真未	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター
藤野 沙織	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
----	----------

芦田 真理子	看護師
西野 真未	看護師
藤野 沙織	看護師

2. 要旨

今年度は、コーディネーター1～3名(非常勤)、事務助手1名(非常勤:兼任1名)の体制で、週1～3回の相談業務を行った。相談業務は対面式ではなくメールや電話で行った。今年度8月よりフォームによる相談も新たに開始とし、フォーム開始により相談件数の増加が見られている。千葉県摂食障害対策推進連絡協議会はWebで開催した。

相談支援について、今年度(令和7年4月1日～令和8年3月31日)の相談総数は新規293件、延べ314件(延べ件数において、電話相談124件、メール相談72件、面談0件、その他118件)であり、月の平均相談数26.1件であった。大部分は新規相談(293件、93.3%)であった。月の平均件数は、昨年度の29.8件より減少した。今年度よりフォームによる相談を受け開始し、フォームによる相談件数は増加傾向にある。

治療支援について、初診患者数は153人が女性、7人が男性であった。昨年度の初診患者数173人より減少した。しかし入院患者について、延入院件数は156症例であり、昨年度の延入院件数の129症例を大きく上回った。

研修の実施にあたっては、外部からの講演の要請に応じた講演を開催しており、今年度は特に医師会からの依頼で千葉県医師会会員向けに摂食障害に関する研修を実施し多くの受講者が得られた。また、千葉県摂食障害研修会を今年度も数回開催しており、千葉県の摂食障害治療に関わる治療者同士の顔の見える連携・お互いの治療体制への理解が深まりつつある。

啓蒙活動では、今年度も県民公開講座を開催し、昨年度のアンケートを参考にしながら講演・公開討論会のプログラムを組み、家族・教育・医療のそれぞれに携わる討論者での公開討論会を実施し、充実した討論会になった。また、昨年度の質問に対する回答をまとめたQ&A集を作成しホームページ上で公開し、好評である。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	河合 啓介	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター心療内科・千葉県摂食障害治療支援拠点病院	医療
副委員長	菊池 周一	袖ヶ浦さつき台病院 病院長	医療
委員	中里 道子	国際医療福祉大学大学院精神科 主任教授 千葉大学大学院学研究院 特任教授	医療
同上	安藤 咲穂	千葉県こども病院 精神科部長	医療

	氏名	所属・職名	区分
同上	鈴木 高男	摂食障害家族の会ポコ・ア・ポコ 会長	患者家族
同上	Aさん	患者本人	当事者
同上	石川 真紀	千葉県精神保健福祉センター 次長	行政
同上	岡東 歩美	千葉県精神保健福祉センター 主管兼臨床検査課長	行政
同上	松浦 望	千葉県健康福祉部障害者福祉推進課精神保健福祉推進班 班長	行政
同上	酒井 裕美	千葉県健康福祉部障害者福祉推進課長精神保健福祉推進班 主査	行政
同上	松浦 枝里	千葉県教育庁教育振興部保健体育課保健班指導主事	教育 (養護教諭)
同上	山口 桂子	松戸保健所地域保健課	保健所
同上	田村 奈穂	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター心療内科・千葉県摂食障害治療支援拠点病院, 医師	医療
同上	山本 ゆりえ	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター・千葉県摂食障害治療支援拠点病院, 薬剤師	医療
同上	芦田 真理子	千葉県摂食障害治療支援拠点病院, 看護師	医療
同上	西野 真未	千葉県摂食障害治療支援拠点病院, 看護師	医療
同上	藤野 沙織	千葉県摂食障害治療支援拠点病院, 看護師	医療

摂食障害対策推進協議会等会議

	開催日	議 題
第1回 千葉県摂食障害対策推進協議会	6月5日	令和7年度の千葉県摂食障害対策の実施計画について等
第2回 千葉県摂食障害対策推進協議会	12月13日	次年度の千葉県摂食障害研究会のあり方・内容について

4. 相談支援

相談体制

本年度は、看護師資格を持つコーディネーター1～3名で週1～3日の相談業務を行った。

相談支援結果

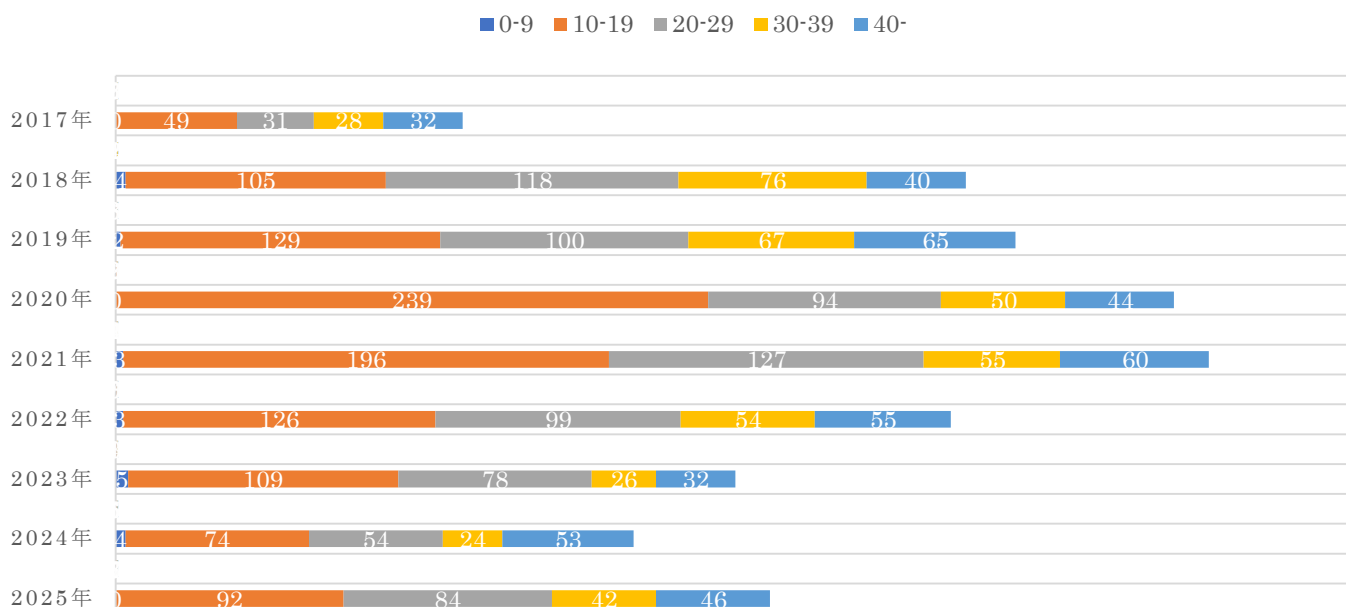
今年度(令和7年4月1日～令和8年3月31日)の相談総数は、新規293件、延べ314件(延べ件数において、電話相談124件、メール相談72件、面談0件、その他118件)であり、月の平均相談数26.1件であった。大部分は新規相談(293件、93.3%)であった。月の平均件数は、昨年度の29.8件より減少した。(以下、全て新規相談件数による。)

相談者の摂食障害による受診状況は、現在受診中(外来、入院含む)は75件(25.6%)、中断中は41件(14.0%)、未受診は121件(41.3%)、摂食障害以外で受診中は38件(13.0%)、その他2件(0.7%)、受診状況不明は16件(5.4%)であった。昨年度に比べて受診中患者の相談数の割合が少ない。相談内容は受診先の問い合わせ(受診相談)が226件と昨年同様に最も多く、疾患相談が116件で二番目に多かった。相談者は本人からの相談が161件(54.9%)と一

番多く、次いで母(81件、27.6%)、父(21件、7.1%)であった。本人と母親の両方で82%を占めていた。今年度は県内の相談者が225件(76.8%)、県外からの相談者は48件(16.4%)であった(居住地域不明を除く)。昨年は77.5%が千葉県内の相談であった。千葉県摂食障害支援拠点病院では首都圏からの相談が多数あるが、今後も70%以上は千葉県内の相談を目指して活動していきたい。今年度の相談ケースの年齢については10-19歳が92件(31.4%)と最も多く、次いで20-29歳の84件(28.7%)、30-39歳の42件(14.3%)と続いている。(不明者除く。)

病院紹介を行った相談において、基幹病院(国立国府台医療センター)への紹介割合は2017年度は94%であったのが2018年度は52%、2019年度は35%、2020年度は34%、2021年度は19%、2022年度は33%、2023年度は35%、2024年度は40.6%、2025年47.9%であった。以前より県外の方の相談が減少し、県内の方からの相談が増加し、さらに千葉県の人口の比較的多い地域の方からの相談の場合、その地域の協力病院と通院圏内である基幹病院(国立国府台医療センター)の両方をご案内することが多いため、基幹病院への案内が増加していると考えられた。

相談件数と年齢の内訳（経年推移）※年齢不明除く

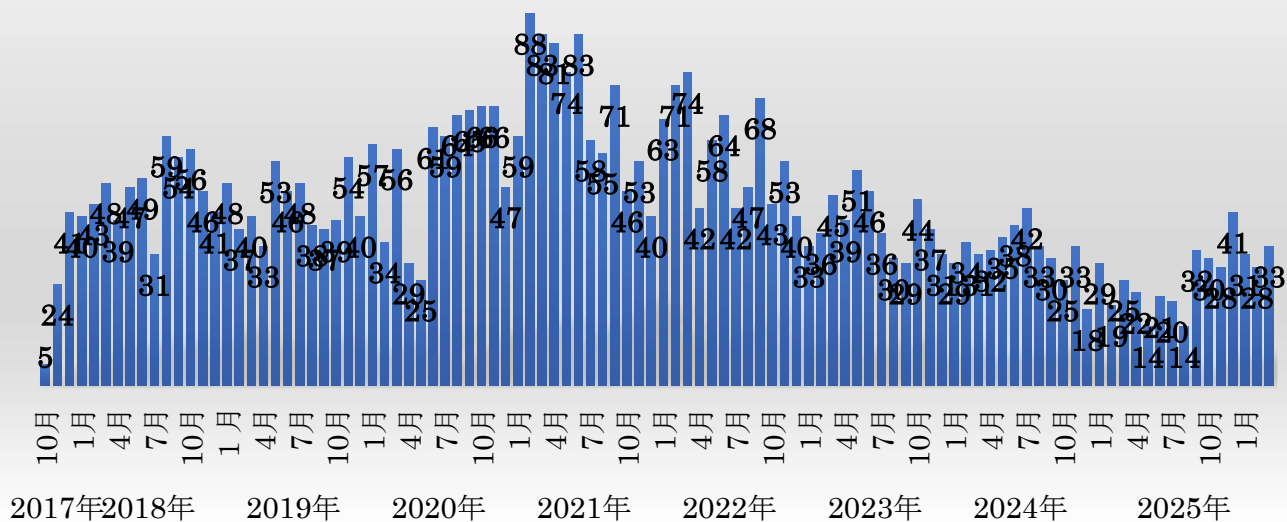


相談件数における年齢層の割合(年齢不明者除く)

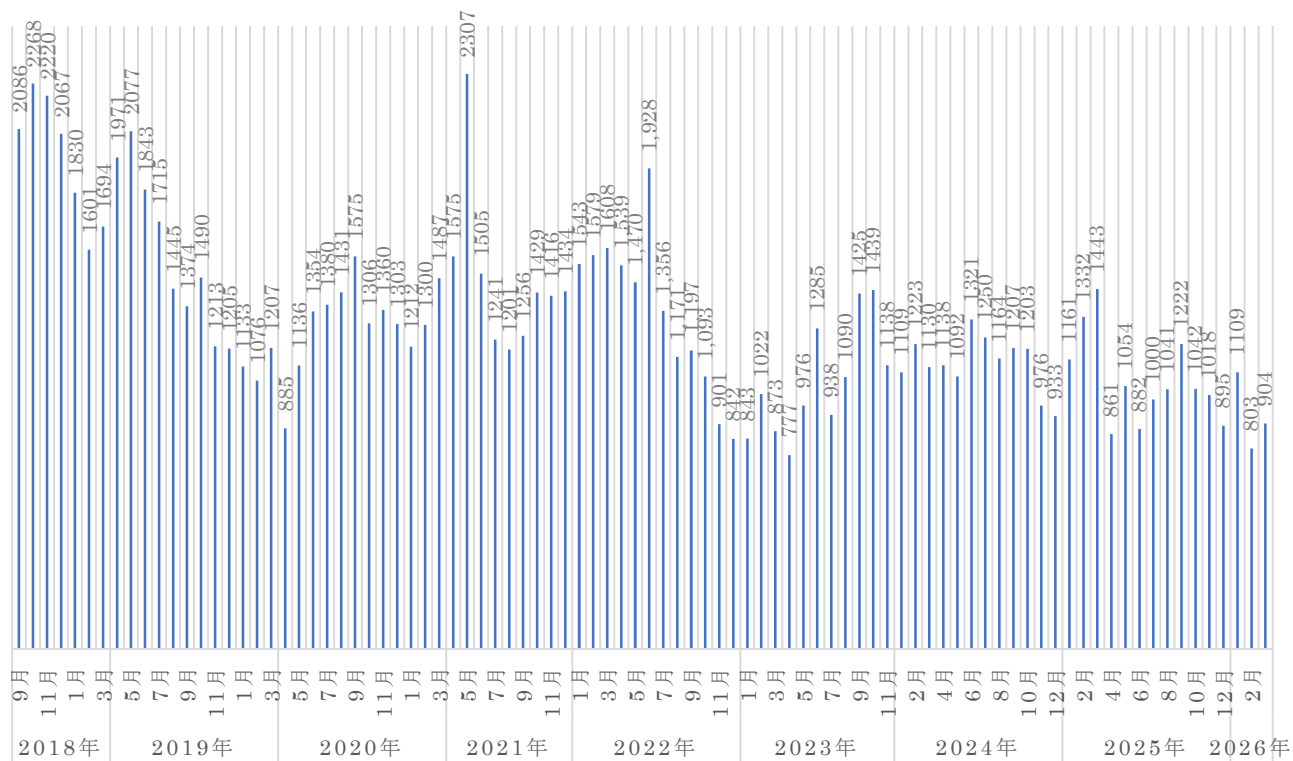
	10代未満	10代	20代	30代	40代以上
2017年度	0%	36%	23%	22%	20%
2018年度	1%	31%	35%	22%	12%
2019年度	1%	36%	28%	18%	18%
2020年度	0%	56%	22%	12%	10%
2021年度	0%	44%	29%	12%	14%
2022年度	1%	60%	47%	26%	26%
2023年度	2%	43%	31%	10%	13%
2024年度	2%	35%	26%	12%	25%
2025年度	0%	35%	32%	16%	17%

千葉県支援拠点病院開室からの月別相談件数

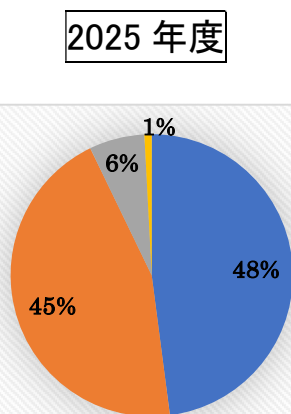
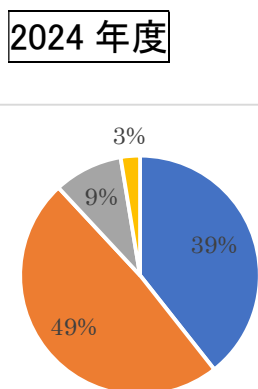
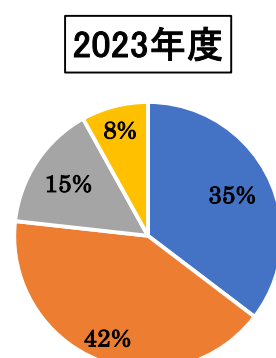
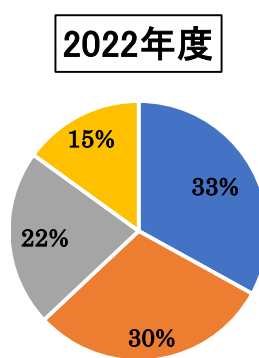
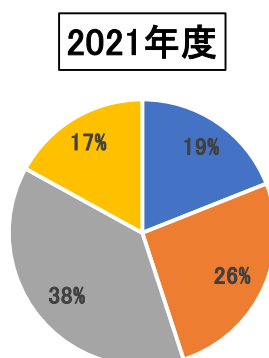
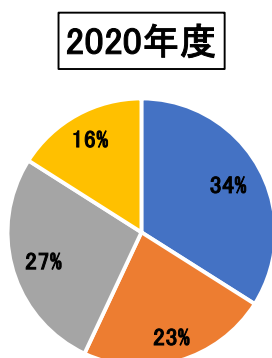
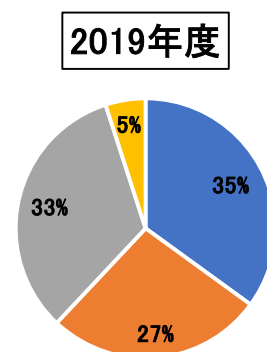
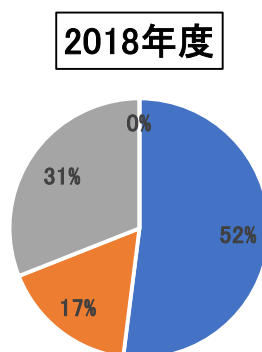
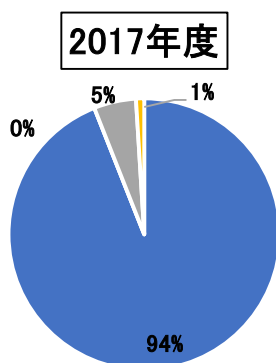
平成29年から令和8年3月までの月別相談件数の推移(延べ)



千葉県摂食障害支援拠点病院HPアクセス数



当病院から紹介した施設の内訳(2017-2025 年度)



■ 基幹病院 ■ 協力病院
■ その他病院 ■ 公共機関

集計期間(記入)	令和 7年 4月1日	～	令和 8年 3月31日
支援拠点病院名:	千葉県摂食障害支援拠点病院		

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
293	314

居住地域(新規件数) n= 293

首都圏圏内	首都圏圏外	不明	Missing	計
225	48	20	0	293

相談者の患者との関係(新規件数) n= 293

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
161	21	81	5	13	3	0	5	4	0	293

相談対象患者の年齢(新規件数) n= 293 平均年齢: 26.8 SD= 13.3 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70+	計
0	92	84	42	25	16	1	4	264

相談対象患者の性別(新規件数) n= 293

女性	男性	その他	不明	計
270	15	0	8	293

相談対象患者状態(新規件数) n= 293

やせ	食事制限	過食	排出・代償行動					精神・行動症状					その他
			嘔吐	下痢	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	
105	80	135	77	20	9	21	4	13	73	9	8	11	31

相談対象患者属性(新規件数) n= 293

学生				社会人			その他	不明	計
小	中	高	大/専	就労中	無職	主婦/主夫			
8	21	50	30	103	27	16	6	32	293

摂食障害での受診状況(新規件数) 293

受診中	入院中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	計
64	11	41	121	38	2	16	293

相談経路(延べ件数) n= 314

電話	メール	面談	その他	計
124	72	0	118	314

相談が個別応例および患者関連以外の件数

個人	専門家
0	0

#REF!

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ(新規件数) n= 293

インターネット	紹介				メディア				ポスター・ちらし	その他	不明	計
	機関			その他・不明	テレビ	新聞	自治体・広報	その他・不明				
	医療	行政	教育									
210	13	0	0	5	0	0	0	0	1	10	55	294

相談内容(延べ件数) n= 314

疾患相談	対応相談				受診相談	支援機関・病院業務問い合わせ	その他	コロナ関連
	有り	接し方	生命危機	受診相談				
116	56	35	21	11	226	33	10	0

対応内容(延べ件数) n= 314

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	支援拠点病院業務問い合わせ	その他
	拠点病院	協力病院	その他病院	公共機関		疾患知識	治療受診	資料	社会資源			
197	174	163	23	3	138	49	22	75	48	163	49	0

医療やシステムへの不満・課題(複数回答)

医療への不満・要望有り						
有り	専門性	改善無し	対話不足	嫌な体験	治療関係	システム
0	0	0	0	0	0	0

5.治療支援

治療体制・計画

治療体制は心療内科医 9 名(常勤 5 名、非常勤 4 名)、非常勤心理療法士 4 名で治療を行っている。薬物療法の他に支持的面接を中心に各種心理療法(認知行動療法、芸術療法、箱庭療法、自律訓練法、マインドフルネスなど)を行っている。また個人療法に加えて、コラージュ、園芸療法、集団認知行動療法、集団マインドフルネス療法、集団ヨガ療法、心理教育プログラム「ひまわり」などを行っている。摂食障害に特化した治療として、Enhanced Cognitive behavioral Therapy を積極的に行っている。

治療支援実施結果

初診患者数は 153 人が女性、7 人が男性であった。昨年度の初診患者数 173 人より減少した。年代別では、20 代、10 代の患者が多く、次いで、30 代、40 代の患者が多い傾向がみられ、支援拠点病院の相談ケースと類似した結果が得られた。

入院患者について、延入院件数は 156 症例であった。昨年度の延入院件数の 129 症例を大きく上回った。年度内に退院した症例内での入院日数は最も多かったのは 30 日未満であり、91 例であった。続いて、31～90 日が 49 例、91～180 日が 13 例、181～365 日が 3 例、366 日以上
の症例はいなかった。156 例のうち、152 例が女性で、4 例が男性であった。入院時年齢は最も多かったのは 10 代の 47 例で、続いて 20 代が 33 例、40 代が 27 例、30 代 25 例、50 代 16 例、60 代 7 例、70 代は 0、10 歳未満も 0 であった。病型としては最も多かったのが ANR 59 例、続いて ANBP 51 例、BN 14 例、ARFID 18 例、OSFED13 例であり、BED は 1 例、その他は 13 例であった。

千葉県摂食障害治療支援拠点病院(国立国府台医療センター)

初診患者数(R7.4～R8.3) 160 人

初診患者数	160 人								
性別	女性	男性							
	153 人	7 人							
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	
	0 人	48 人	55 人	26 人	21 人	8 人	0 人	2 人	
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID			
	56 人	53 人	30 人	0 人	5 人	15 人			
外来／入院	外来のみ	入院のみ	両方						
	90 人	4 人	66 人						
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≤	不明
kg/m ²	16 人	23 人	34 人	13 人	18 人	12 人	31 人	13 人	0 人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介					
	128 人	10 人	12 人	10 人					
治療期間	ヶ月	人	人	人					

摂食障害の入院診療状況

支援拠点病院名	千葉県摂食障害支援拠点病院				
科名（選択）	心療内科	病床数（選択）	自科	23	床
データ収集範囲（選択）	自科への入院患者				
集計期間(記入)	令和 8年 4月1日	～	令和 9年 3月31日		

入院件数

延べ入院件数	入院件数のうち 「EDの治療目的」が未確認の件数
156	0

病型

神経性やせ症		神経性過食症	むちゃ食い症	回避・制限性食物摂取症	その他摂食症
制限型	過食/排出型				
ANR	ANBP	BN	BED	ARFID	OSFED/UFED
59	51	14	1	18	13

集計対象数
156

入院日数

1～30日	31～90日	91～180日	181～365日	366日以上
91	49	13	3	0

うち加算可能期間

～14日 精神科種入院基本料算出可能期間	～16日 急性期一般入院基本料算出可能期間
45	50

集計対象数
156

入院形態

任意	医療保護	措置	非精神科
0	0	0	156

集計対象数
156

性別

男性	女性	その他
4	152	0

集計対象数
156

入院時年齢

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-
0	47	33	25	27	16	7	1

集計対象数
156

罹病期間

0～1年以内	1～2年以内	2～3年以内	3～5年以内	5～10年以内	10年以上
24	21	14	26	19	52

集計対象数
156

摂食障害による自院入院回数

1回(初回)	2回	3回	4回	5回	6回以上
83	31	16	9	7	10

集計対象数
156

入院による身体管理の必要性

有り	無し(外来でも管理可能)
----	--------------

集計対象数

87	33
----	----

120

入院中の合併症（複数回答可）

なし	抑うつ 症群	双極 症群	不安 症群	強迫 症群	PTSD (トラウ マ関連 疾患)	アルコ ール 依存症	物質依存 症(アルコ ール以外)	発達 障害	精神 遅滞	パーソ ナリテ ィ障害	その他 精神 障害	1型 糖尿病	その他 身体 疾患
12	14	3	9	2	2	0	2	6	0	3	4	0	14

集計 対象数
71

退院転帰

軽快	不変	増悪	死亡
114	40	0	2

集計 対象数
156

治療目的を達成して、退院したか

達成	未達成
108	48

集計 対象数
156

他施設からの紹介の有無（紹介後3ヶ月以内の入院）

有り									無し (自院)
小児科	児童・ 思春期 精神科	心療 内科	精神科	内科	婦人科	教育 機関	その他	小計	
3	0	16	13	21	2	2	7	64	92

集計 対象数
156

退院後診療形態

転院 (入院 継続)	転科 (入院 継続)	自院 外来	他院外 来(3ヶ 月以内)	通院 拒否(3ヶ 月以内)
1	1	139	5	5

集計 対象数
151

入院時 BMI（18歳以上）

9未満	9～10 未満	10～11 未満	11～12 未満	12～13 未満	13～14 未満	14～15 未満	15～16 未満	16～17 未満	17～18 未満	18～19 未満	19～20 未満
2	1	15	15	27	11	16	10	10	3	2	3
20～25未 満	25～ 30 未満	30～35 未満	35～40 未満	40以上							
4	1	2	1	0							

集計 対象数
123

退院時 BMI（18歳以上）

9未満	9～10 未満	10～11 未満	11～12 未満	12～13 未満	13～14 未満	14～15 未満	15～16 未満	16～17 未満	17～18 未満	18～19 未満	19～20 未満
1	0	3	11	21	17	20	20	14	5	1	1
20～25未 満	25～ 30 未満	30～35 未満	35～40 未満	40以上							
5	1	2	1	0							

集計 対象数
123

入院時 標準体重比区分（5～17歳）

55%未満	55～65%未満	65～75%未満	75%～100%未満	100%以上
1	11	11	5	5

集計 対象数
33

退院時 標準体重比区分（5～17歳）

55%未満	55～65%未満	65～75%未満	75%～100%未満	100%以上
0	6	12	10	5

集計 対象数
33

6.研修

研修体制・計画

これまで千葉県内を中心に、医療従事者、教師、養護教諭を対象として摂食障害に関する研修会を行ってきた。特に今年度は医師会会員を対象とした講演を複数の機関から依頼され、講演を行なった。

また、毎年千葉県精神保健福祉センターと共催という形で、千葉県の医療者を対象に、治療ネットワーク作りのための千葉県摂食障害研究会を年に1回、千葉県摂食障害小研究会を年に1～2回実施している。現在はZOOMでの開催となっているが、世話人の医療者が増え、研究会を通して顔の見える・お互いの診療体制もわかる連携の場となっている。対象者を摂食障害治療初学者や他科（内科・救急科・小児科など）の医療者とするといった工夫を考慮している。

講習会,研修会,ミーティング等

開催日	対象者	参加人数	研修内容	実施場所
2025/5/29	市川市の医師	80名	市川市医師会月例学術講演会 「進化する現代病」スマホ依存や ストレス関連疾患への新たな視点	市川市
2025/6/2	千葉県摂食障害支援拠点病院事業に携わる者	12名	令和7年度第1回千葉県摂食障害対策推進協議会	オンライン
2025/7/9	摂食障害支援拠点病院事業に携わる者	24人	令和7年度 第一回摂食障害支援拠点病院連携ミーティング	オンライン
2025/7/25	摂食障害支援拠点病院事業に携わる者	30人	令和7年度 第1回全国摂食障害対策連絡協議会	オンライン
2025/9/25	千葉県養護教諭	80人	令和7年度保健室健康相談研修会「摂食障害の児童・生徒への支援と連携について」	県情報教育センター
2025/9/25	千葉県の摂食障害治療に携わる者	28名	令和7年度第1回千葉県摂食障害小研究会:「神経性やせ症の維持要因(思考スタイル)へのアプローチ～モーズレイ式神経性やせ症治療(MANTRA)の視点から～」	オンライン
2025/11/19	千葉県の精神科医・神経内科医	不明	精神科・神経内科の連携を考える会「最近の摂食障害入院治療:認知行動療法を含めて」	佐倉市
2025/11/20	日本橋医師会員	不明	日本橋医師会「摂食症(障害)診療:見立てと専門医へのつなぎ方」	日本橋

開催日	対象者	参加人数	研修内容	実施場所
2025/12/13	摂食障害治療に携わる者	30 人	千葉県摂食障害研究会「神経性やせ症の心理療法 MANTRA について～動機づけを中心に～」	オンライン
2026/1/16	摂食障害支援拠点病院事業に携わる者	38 人	令和 7 年度 第二回摂食障害支援拠点病院連携ミーティング	オンライン
2026/2/6	摂食障害支援拠点病院事業に携わる者	48	令和 7 年度 第 2 回全国摂食障害対策連絡協議会	オンライン
2026/2/22	日本財団報告会参加者	不明	2025 年度日本財団助成研究結果報告会 摂食障害支援拠点病院の現状	東京都中央区
2026/3/28	日本糖尿病学会参加医療者	不明	基調講演：市販薬ODの病理と治療戦略－孤立する若者たちの「痛み」と向き合う－	岩手県盛岡市

ネットワーク作りのための千葉県摂食障害研究会・小研究会(2025 年度)

**治療者の交流を目的とした
千葉県摂食障害小研究会**

日時：令和7年9月25日(木)18:30～19:00
形式：Zoomを用いたオンライン形式
参加方法：Zoomによるオンライン開催
対象：摂食障害を有する医療関係者、支援関係者
参加費：無料
【情報提供】「イノテラス」配付情報提供：大塚製薬工業 学術部 野村 真樹
【ご発表】
座長：国際医療福祉大学医学部精神医学 教授 中里 道子 先生
神経性やせ症の経路要因（思考スタイル）へのアプローチ
～モーズレイ式神経性やせ症治療（MANTRA）の視点から～
演者：千葉大学大学院医学研究科認知行動生理学 講師 沼田 法子先生
【質疑・討論】

**ネットワーク作りのための
第9回千葉県摂食障害研究会**

会場 令和7年12月13日(土)14:00～16:00
開場 13:30 会費 無料
申込 12月12日(金) 事前登録制
参加方法 Zoomによるオンライン開催
対象 医療関係者、支援関係者（学術発表を希望する方）
【情報提供】「イノテラス」配付情報提供：大塚製薬工業
【特別】①「千葉県摂食障害支援拠点病院による実績報告」
座長：国際医療福祉大学 医学部 精神医学教授 中里 道子 先生
【テーマセッション】
「神経性やせ症の心理療法MANTRAについて
～動機づけを中心に～」
②「モーズレイ式神経性やせ症治療MANTRAの概要」
演者：国際医療福祉大学 医学部 精神医学教授 中里 道子 先生
③「手続による動機づけ」
演者：千葉大学大学院医学研究科認知行動生理学 講師 沼田 法子先生
④「症例報告」
演者：千葉大学大学院医学研究科認知行動生理学 特任助産師 斎藤 美穂先生
⑤ 質疑応答
医療関係者の間で広く活用されている「MANTRA」の活用や
オンラインワーク作りについてご報告

7.普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

千葉県摂食障害支援拠点病院では、千葉県障害者福祉課と連携をとり摂食障害患者とその家族、それに加えて一般県民にむけても普及啓発活動を行っている。2020 年 6 月より、Facebook、Instagram、Twitter による配信（下記）を開始している。

●当センターホームページと SNS に関する U R L

ホームページ：<http://www.ncgmkohnodai.go.jp/sessyoku/index.html>

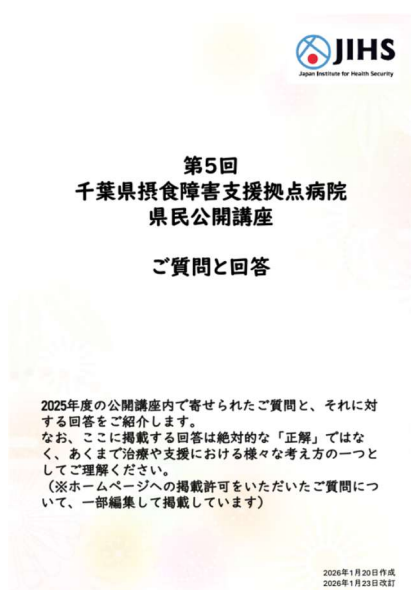
閲覧回数(セッション数)：9068 回 (2023.4-2023.11)

Facebook @CPTSCED <https://www.facebook.com/CPTSCED/>

Instagram @chiba_sessyoku https://www.instagram.com/chiba_sessyoku/
 Twitter @edsupport_chiba https://twitter.com/edsupport_chiba

普及啓発活動実施結果

啓蒙活動として、今年も千葉県民を対象とした県民公開講座を開催した。「摂食障害からの回復のコツ」をテーマとした。県民公開講座内では家族・教育・医療のそれぞれに携わる討論者での公開討論会を実施し、会場からの質問も多数寄せられ、充実した討論会になった。また、昨年度の県民公開講座の際に参加者からいただいた質問に対する回答を作成し、ホームページで公開した。



講演会

開催日	対象者	参加人数	講演内容	実施場所
2026/1/31	千葉県民	80 人	県民公開講座 「摂食障害からの回復のコツ」	千葉市



メディア関係

開催日(発行日,オンエア)	メディア	内容
2025/09/21	NHK テキスト	きょうの健康「摂食障害で減った体重を増やす方法は？」

研究論文

原著

1. レセプト情報・特定健診等情報データベース(NDB)オープンデータを用いた認知行動療法の実施状況の調査 長谷川遥菜 河合啓介 田村奈穂 近藤忠之 柳井秀勝 吉村健佑 酒匂赤人 心身医 vol 65 513-522 2025
2. 刺激性下剤を乱用する摂食障害患者における 下剤の処方実態 ―新規作用機序を含めた薬物療法の選択肢の拡大― 山本ゆりえ, 石戸淳一, 田村奈穂, 河合啓介 心身医 65:345-352, 2025

総説

1. 河合啓介. 摂食症の症候と診断 特集 日常診療に潜む摂食症(摂食障害)を見逃さない. 日本医師会雑誌 vol 154 no 10 1055-1059, 2026
2. 河合啓介. 摂食障害支援センター設置運営事業のこれからと心療内科の役割. 特集: 摂食症の医療・研究における心療内科・心身医学の未来 心身医 2026 66:22-27
3. クラーク チルソン. 訳 河合啓介. ト라우マを癒すための内観 内観研究 vol 31 No.1 2025 9.10 21-23
4. 河合啓介. 大会長講演 こころの傷つきからの回復と内観・内観療法. 内観研究 vol 31 No.1 2025 9.10 3-10

5. 河合啓介. CBT-E を実践する上でのポイントと課題 シンポジウム我が国における CBT-E の適用と実際. 心身医 65::416-428 2025
6. 河合啓介. 心理療法 UP to date 内観療法. 心身医 65::357-363 2025
7. 河合啓介, 廣方美沙, 前川知香. 特集 摂食障害の病態と治療 up to date 摂食症の支援 拠点病院の取り組み. Precision Medicine Vol.8 No.4,279-278,2025

学会発表

1. 河合啓介. 心身医学のアイデンティティと可能性を探る:現代医療における心身医学の位置づけ. 第 66 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会. 弘前, 2025, Jun 21-22th
2. 廣方美沙, 山本ゆりえ, 河合啓介. 摂食障害全国支援センター:相談ほっとライン 相談内容および相談数の変遷と支援拠点病院設置の影響. 第 66 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会. 弘前, 2025, Jun 21-22th
3. 田村奈穂, 鈴木茉由, 西田拓生, 長谷川遥菜, 河合啓介. ターナー症候群と神経性やせ症を合併した 3 症例の検討. 第 66 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会. 弘前, 2025, Jun 21-22th
4. 長谷川遥菜, 細井昌子, 平加奈子, 村上匡史, 田中佑, 稲吉麻美子, 藤本晃嗣, 茂貫尚子, 安野広三, 河合啓介, 須藤信行. 漫画療法の可能性:線維筋痛症に解離性同一性障害が合併し治療困難であった症例への応用. 第 66 回日本心身医学会総会ならびに学術講演会. 弘前, 2025, Jun 21-22th
5. 河合啓介. 東洋の精神療法. 第 20 回アジア心身医学会. インドネシア, 2025, Sep 13-14th
6. 河合啓介. 摂食障害治療の進化と展望. 第 28 回摂食障害学会学術集会. 東京, 2025, Oct 18-19th
7. 田村奈穂, 西田拓生, 鈴木茉由, 長谷川遥菜, 河合啓介. 自閉スペクトラム症を併存した神経性やせ症の 1 症例の入院治療経験. 第 28 回摂食障害学会学術集会. 東京, 2025, Oct 18-19th
8. 長谷川遥菜, 西田拓生, 鈴木茉由, 田村奈穂, 河合啓介. 神経発達症特性を伴う摂食症患者への介入に知能検査や心理検査が有効だった一例. 第 28 回摂食障害学会学術集会. 東京, 2025, Oct 18-19th
9. 廣方美沙, 山本ゆりえ, 河合啓介. 摂食障害全国支援センター:相談ほっとライン オンラインアンケート結果報告. 第 28 回摂食障害学会学術集会. 東京, 2025, Oct 18-19th
10. 河合啓介. 現代社会における心身の健康と幸福について. 第 28 回摂食障害学会学術集会. 東京, 2025, Oct 18-19th
11. 田村奈穂, 河合啓介. Anorexia Nervosa 治療の国立国府台医療センター心療内科での新たな試み. 第 28 回摂食障害学会学術集会. 東京, 2025, Oct 18-19th
12. 鈴木茉由, 田村奈穂, 西田拓生, 長谷川遥菜, 河合啓介. 不安症と機能性ディスペプシアを併存した回避・制限性食物摂取症の 1 症例. 第 28 回摂食障害学会学術集会. 東京, 2025, Oct 18-19th
13. 松尾優里, 田村奈穂, 西田拓生, 鈴木茉由, 長谷川遥菜, 河合啓介. 嘔吐恐怖症を併存した回避・制限性食物摂取症の 30 代女性の一例. 第 29 回心療内科学会総会・学術集会. 東京, 2025, Dec 6-7th
14. 長谷川遥菜. ある症例との出会いから, 心療内科医として思うこと. 第 29 回心療内科学会総会・学術集会. 東京, 2025, Dec 6-7th
15. 河合啓介. 摂食障害と機能性食品. 第 23 回機能性食品医用学会総会. 千葉, 2025, Dec 13-14th
16. 小川真依, 田村奈穂, 西田拓生, 鈴木茉由, 長谷川遥菜, 河合啓介. 嘔吐恐怖症を併存した回避・制限性食物摂取症の 1 症例. 第 23 回日本機能性食品医用学会. 千葉, 2025, Dec 13-14th

8.行政機関との連携

研修体制・計画

千葉県精神保健福祉センターの医師、千葉県障害者福祉課の方と、支援拠点病院の活動内容、摂食障害研究会について話し合う機会が得られた。

連携会議等

開催日	対象者	参加人数	内容	実施場所
2025/6/2	千葉県精神保健センター、千葉県障害者福祉課の方々	6人	今年度の支援拠点病院の活動内容、摂食障害研究会内容について相談	オンライン

9.その他の活動

実施体制・計画

特になし。

10.考察

今年度よりフォームによる相談支援を開始し、フォームによる相談が増加してきている。本人からの相談の割合が昨年度は 44.3%であったが、今年度は 54.9%と増加しており、フォームによる簡便な相談方法により本人が相談しやすくなった可能性がある。

治療支援では、入院患者について延入院件数は 156 症例であった。昨年度の延入院件数の 129 症例を大きく上回った。初診患者は減少傾向だったことを考えると、初診患者を入院させる割合が増加した可能性がある。

＜展望＞ 千葉県摂食障害研究会は、大小合わせて年 2～3 回開催され、定着してきており、その参加医療機関・参加者数が増加傾向にあり、ネットワーク作りに寄与しているものと考ええる。気軽に参加し、相談できる会にしたいと考えている。また、今後内科・小児科・救急科にも裾野を広げてさらなる治療ネットワークを作り上げていきたい。今年度の県民公開講座での質問に対する Q&A 集も作成中であり、2 年連続での Q&A 集により大部分の質問に対する回答を網羅できると考える。

＜課題＞ 引き続き、医療連携を推進する。一部の施設に偏らない形で連携先を増加させるモデル作成が摂食障害の臨床には必要である。施設の特性に合わせて、初期治療、急性期の治療、身体的重症な患者の治療を取り扱う施設を分けるなどの工夫を目指す。

6. 東京都摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 7 年度

東京都摂食障害支援拠点病院

Tokyo Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和7年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
東京都摂食障害 支援拠点病院	地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立松沢病院	156-0057	東京都世田谷区上北沢 2-1-1	050-5536-6200

URL 東京都摂食障害支援拠点病院：<https://www.tmhp.jp/matsuzawa/sesshoku.html>

摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
今井 淳司	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 精神科	部長
鈴木 一恵	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 内科	医長
稲熊 徳也	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 精神科	医員
久和 俊介	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 精神科	医員
濱中 恵子	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 心理室	係長
山田 理江	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 看護部	
加藤 陽子	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院患者・地域サポートセンター	
長尾 美波	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 心理室	

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
濱中 恵子	公認心理師
山田 理江	看護師
加藤 陽子	精神保健福祉士
長尾 美波	公認心理師

2. 要旨

摂食障害対策推進協議会

摂食障害対策推進協議会を設置し、開催した。摂食障害支援拠点病院における事業計画の策定、事業の効果検証、課題の抽出、支援拠点病院への提言等を実施する。

相談支援

専用電話回線にて週 3 日相談窓口を開設し、コーディネーターが支援を実施している。令和 7 年 4 月～8 年 3 月の月平均の相談件数は 43 件で前年度より増加（前年度 33 件）。20 代が最多で 37.3%、次いで 10 代が 27.6%と 20 代以下の相談が 6 割以上を占めている。

治療支援

令和 7 年 4 月～8 年 3 月の患者は外来が 158 名、入院が 69 名であった。入院は 10 代が 39.1%、20 代が 30.4%と 20 代以下で 7 割近くを占めている。

研修

院内外の医療従事者・関係機関職員向けに摂食障害ミーティングを毎月開催し、合同で症例検討をおこなったほか、家族教室の実施に向けた合同研修を開催した。

普及啓発活動

摂食障害の病態や症状、摂食障害支援拠点病院の業務についてまとめたリーフレットやホームページ、広報誌等により情報発信した。また、医師とコーディネーターを教育機関に派遣し養護教諭への講演を実施した。

行政

東京都、精神保健福祉センター・保健所の職員が摂食障害対策推進協議会の委員の役割を担った。

考察

- ・子育て世代は、子供もいるため、入院や外来の受診が難しく治療がなかなか進まない。
- ・摂食障害支援拠点事業に協力いただける医療機関は圧倒的に不足しており、一部の協力医療機関に負担が集中することが懸念される。
- ・緊急受診、緊急入院が必要な患者を受入可能な病院が非常に少ない。このため、居住地近くの医療機関を紹介できないことが多い。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
座長	西園 マーハ 文	明治学院大学心理学部 教授	学識経験者
委員	平川 博之	公益社団法人東京都医師会 副会長	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	森野 百合子	成増厚生病院なります子どものこころケアセンター センター長	摂食障害治療を専門的に行っている医師
同上	竹内 香織	代田クリニック 院長	摂食障害治療を専門的に行っている医師

同上	海老澤 佐知江	アルバ・メンタルクリニック 院長	摂食障害治療を専門的にしている医師
同上	菊地 章人	東京都福祉局 障害者施策推進部 障害者医療担当部長	東京都
同上	門井 信学	東京都福祉局 障害者施策推進部 精神保健医療課長	東京都
同上	平賀 正司	東京都立中部総合精神保健福祉センター 所長	精神保健福祉センター、 保健所
同上	向山 晴子	世田谷区保健所 所長	精神保健福祉センター、 保健所
同上	河野 瑞夏	摂食障害患者	摂食障害関係者
同上	須賀 浩美	摂食障害家族	摂食障害関係者

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第1回	令和7年9月24日	・令和6年度東京都摂食障害支援拠点病院活動報告 ・令和7年度東京都摂食障害支援拠点病院活動予定 ・意見交換
第2回	令和8年3月17日	・令和7年度東京都摂食障害支援拠点病院活動報告 ・令和8年度東京都摂食障害支援拠点病院活動予定 ・意見交換

4. 相談支援

相談体制

月・火・金曜日の9時30分～11時30分及び13時00分～15時30分に専用電話回線にて相談窓口を開設し、摂食障害支援コーディネーターが電話相談にて対応している（看護師・精神保健福祉士・公認心理師による当番制）。

対応相談

対応の際は、「摂食障害に悩むあなたとサポートする方々への受診案内」「摂食障害学会ホームページ：摂食障害に関する指針・マニュアル」「摂食障害治療支援コーディネーターのための相談支援の手引き」等を参考にしている。

受診相談

「東京都福祉局 摂食障害治療支援体制整備事業 摂食障害の診療施設リスト 東京都版 関係機関向け 冊子」「東京都福祉局『道しるべ』（東京都の相談機関冊子）」「厚生労働省 医療情報ネット（ナビィ）」で、摂食障害（拒食症・過食症）を明記している施設に対し、対面・電話・メールにて独自に収集した情報を元に医療機関を紹介している。2025年度より、各医療機関の最新情報を得るため、電話・メールにて診療情報を確認し、アップデートしている。

相談支援結果

- ・令和 7 年 4 月から 8 年 3 月までの延べ相談件数は 517 件（月平均 43 件）、うち新規相談は 470 件（月平均 39 件）であった。
- ・都内在住者からの相談が 79.1%となっており、相談者は本人からの相談が最多で 40.2%、次いで母からの相談が 37.2%となっている。
- ・相談対象患者の年齢は 20 代が最多で 37.3%、次いで 10 代が 27.6%と 20 代以下の相談が 6 割以上を占め、性別は女性が 90.8%を占めている。
- ・相談者のうち、41.7%が摂食障害治療のために医療機関に繋がった経験を有している（受診中・入院中・中断中）。他疾患にて医療機関に通院している相談者を含めると、59.4%となっている。
- ・相談内容は受診に関する相談が最も多く、対応内容も受診先に関する情報提供が多い。「他の精神疾患にて精神科・心療内科受診中であるが、摂食障害は対応できないと言われた。対応できる医療機関を紹介して欲しい」「改善しないので摂食障害の専門的な治療を受けられる医療機関を紹介して欲しい」という理由による医療機関の情報提供希望は昨年同様である。
- ・中学生から「身体が震えて立てない。両親と連絡がつかない。引っ越したばかりで住所も分からない」と緊急度の高い相談を受けたケースがあった。
- ・都内で摂食障害診療可能な医療機関は現時点で約 100 件となっているが、入院治療が可能な医療機関は少なく、負担が大きい状況である。医療機関へのフォローアップ調査では医療機関の移転・閉院、摂食障害受け入れ可否の方針変更、受け入れ条件の変更が多数確認されている。情報提供のミスマッチを防ぐため、引き続き医療機関への状況確認を定期的の実施していく。

相談記録 年間集計結果

集計期間(記入)	令和 7年 4月1日 ~ 令和 8年 3月31日
支援拠点病院名:	東京都摂食障害支援拠点病院

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
470	517

居住地域（新規件数）n= 470

管轄都道府県内	管轄都道府県外	不明	ほっとライン	計
372	60	38	0	470

相談者の患者との関係（新規件数）n= 470

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
189	31	175	17	15	9	8	11	11	4	470

相談対象患者の年齢（新規件数）n= 470 平均年齢: 27.7 SD= 12.6 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	計
6	126	170	66	52	27	7	2	456

相談対象患者の性別（新規件数）n= 470

女性	男性	その他	不明	計
426	38	0	5	469

相談対象患者状態（新規件数）n= 470

やせ	食事制限	過食	排出・代償行動					精神・行動症状					その他
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	
243	181	252	167	44	19	41	7	22	49	17	14	13	0

相談対象患者属性（新規件数）n= 470

学生				社会人			その他	不明	計
小	中	高	大／専	就労中	無職	主婦/主夫			
9	31	58	81	140	55	20	17	59	470

摂食障害での受診状況（新規件数） 470

受診中	入院中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	計
121	7	68	158	83	18	15	470

相談経路（延べ件数）n= 517

電話	メール	面談	その他	計
517	0	0	0	517

#REF!

相談が個別症例および患者関連以外の件数

個人	専門家
1	1

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ（新規件数）n= 470

インター ネット	紹介				メディア				ポスター・ ちらし	その他	不明	計
	機関			その他・ 不明	テレビ	新聞	自治体・ 広報	その他・ 不明				
	医療	行政	教育									
217	12	4	4	8	0	0	2	3	2	7	211	470

相談内容（延べ件数）n= 517

疾患相談	有り	対応相談			受診相談	支援拠点病院業務問い合わせ	その他	コロナ関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
219	100	81	6	20	398	10	26	0

対応内容（延べ件数）n= 517

有り	紹介先				情報提供					助言	支援拠点病院業務問い合わせ	その他
	拠点病院	協力病院	その他病院	公共機関	有り	疾患知識	治療受診	資料	社会資源			
381	32	368	3	13	143	51	52	4	56	234	17	17

医療やシステムへの不満・課題（複数回答）

医療への不満・要望有り						
有り	専門性	改善無し	対話不足	嫌な体験	治療関係	システム
65	27	16	1	22	19	10

5.治療支援

治療体制・計画

内科医師、精神科医師、看護師、管理栄養士、公認心理師、精神保健福祉士等の多職種連携による対応。

治療支援実施結果

- ・令和7年4月から8年3月までの初診患者数は158人、性別では女性が98.1%、10代から20代で7割以上を占めている。診断別には最多が排出型（ANBP）64人、次いでやせ症の制限型（ANR）52人。BMI16未満が3割以上、11.5未満が4人となっている。
- ・同期間の入院患者数は69人、女性が98.6%を占め、10代が最多で39.1%、次いで20代が30.4%で、10代から20代で約7割を占めている。診断別には最多が排出型（ANBP）33人、次いでやせ症の制限型（ANR）25人。BMIは11未満が7人となっている。

初診患者数（R7.4・R8.3） 158人

初診患者数	158人							
性別	女性	男性						
	155人	3人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-
	0人	53人	60人	18人	21人	6人	0人	0人
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID		
	52人	64人	26人	3人	1人	12人		
外来／入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	137人	0人	21人					
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≤
	4人	14人	21人	10人	11人	7人	14人	1人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介				
	99人	27人	3人	29人				

対象集計期間: R7.4-R8.3
 支援拠点病院 東京都摂食障害支援拠点病院

入院件数

延べ入院件数
69

入院日数 ※計算式（退院日-入院日）により、入退院が同日の2名は集計外

1～30日	31～90日	91～180日	181～365日	366日以上	計
28	31	8	0	0	67

性別

男性	女性	その他	計
1	68	0	69

入院時年齢

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	計
0	27	21	5	9	4	3	0	69

他施設からの紹介

はい（有り）								いいえ（無し）	計
小児科	児童・思春期精神科	心療内科	精神科	内科	婦人科	その他	小計		
1	3	3	13	2	0	2	24	45	69

他施設への紹介

はい（有り）								いいえ（無し）	計
小児科	児童・思春期精神科	心療内科	精神科	内科	婦人科	その他	小計		
1	1	3	7	1	1	1	15	54	69

診断病型

神経性やせ症		神経性過食症	むちゃ食い症	回避・制限性食物摂取症	その他摂食症	その他	計
制限型	過食/排出型						
ANR	ANBP	BN	BED	ARFID	OSFED EDNOS UFED		
25	33	4	0	4	3	0	69

BMI（全体）入院時 n= 69

11未満	11～12未満	12～13未満	13～14未満	14～15未満	15～16未満	16～17未満	17～18未満	18～19未満	19～20未満	20以上	不明	計
7	4	12	9	11	1	5	2	4	1	11	2	69

6.研修

研修体制・計画

- ・摂食障害の知識を深めるために西園マーハ文先生をお招きし、院内職員及び地域医療機関職員を対象にした摂食障害ミーティングを毎月開催し、合同で症例検討を行う。
- ・鈴木眞理先生・小原千郷先生をお招きし、家族教室実施に向けた連携医療機関との合同研修を実施する。

研修実施結果

- ・摂食障害ミーティングを開催し、他医療機関の症例も含め合同で症例検討を行った。令和7年4月から3月まで延べ235名が参加している。
- ・家族教室実施に向けた専門スキル向上を目的として連携医療機関との合同研修を2日間にわたり実施した。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	対象者	参加人数	研修内容	開催方法（場所）
R7/4/22	院内職員 地域医療機関職員	32	◇症例検討 摂食障害ミーティング	対面
R7/5/27	院内職員 地域医療機関職員	29	◇症例検討 摂食障害ミーティング	対面
R7/6/24	院内職員 地域医療機関職員	24	◇症例検討 摂食障害ミーティング	対面
R7/7/16	院内職員 地域医療機関職員	16 6家族	◇研修会 家族教室開催研修	対面
R7/7/22	院内職員 地域医療機関職員	22	◇症例検討 摂食障害ミーティング	対面
R7/7/30	院内職員 地域医療機関職員	16 6家族	◇研修会 家族教室開催研修	対面
R7/8/26	院内職員 地域医療機関職員	20	◇症例検討 摂食障害ミーティング	対面
R7/9/25	院内職員 地域医療機関職員	14	◇症例検討 摂食障害ミーティング	対面
R7/10/23	院内職員 地域医療機関職員	17	◇症例検討 摂食障害ミーティング	対面
R7/12/18	院内職員 地域医療機関職員	20	◇症例検討 摂食障害ミーティング	対面
R8/1/22	院内職員 地域医療機関職員	20	◇症例検討 摂食障害ミーティング	対面

R8/2/26	院内職員 地域医療機関職員	23	◇症例検討 摂食障害ミーティング	対面
R8/3/26	院内職員 地域医療機関職員	14	◇症例検討 摂食障害ミーティング	対面

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

- ・摂食障害やその治療、東京都摂食障害支援拠点病院に関するリーフレットを医療機関や関係機関に配布、ホームページ特設サイトによる情報発信。
- ・医師とコーディネーターを教育・行政機関に派遣し養護教諭・教員・行政職員・施設職員への講演を実施。

普及啓発活動実施結果

- ・リーフレットやホームページ、広報誌等により情報発信した。推進協議会でのご意見を反映し、中高生向けにホームページのルビ振りを実施した。
- ・教育機関との連携も開始し、10月には板橋区、12月には足立区に医師とコーディネーターを派遣し、養護教諭・教員・行政職員・施設職員への教育講演を実施した。

8. 行政機関との連携

研修体制・計画

年2回、東京都摂食障害対策推進協議会を開催する。

研修実施結果

令和7年9月に第1回協議会を、令和8年3月に第2回協議会を開催し、活動状況等について討議した。

連携会議等

開催日	対象者	参加人数	内容	開催方法
R7/9/24	東京都摂食障害対策推進協議会、東京都	12	令和6年度東京都摂食障害支援拠点病院活動報告及び令和7年度東京都摂食障害支援拠点病院活動予定	対面 Web

R8/3/17	東京都摂食障害対策推進協議会、東京都	11	令和7年度東京都摂食障害支援拠点病院活動報告及び令和8年度東京都摂食障害支援拠点病院活動予定	対面 Web
---------	--------------------	----	--	-----------

9. その他の活動

実施体制・計画

摂食障害は緊急受診や入院対応が可能な医療機関が限定されている。相談内容に適した医療機関を紹介するため、東京都内で摂食障害患者への対応が可能とされている医療機関を対象に、対応可能な年齢とBMI、入院対応・専門治療の可否等について個別に診療情報を確認する。また、摂食障害支援拠点病院との連携の可否についても確認を行う。

入院可能な医療機関及び相談窓口からの情報提供件数の多い医療機関への訪問を計画し、顔の見える連携・関係性を構築していく。

実施結果

相談窓口から診療情報提供可能と了承が得られた医療機関は約100件。しかし、23区のうち葛飾区で受け入れ可能な医療機関がなく、東京市部においては受け入れ可能な医療機関が非常に少ない状況である。相談窓口開設後、1年半経過した時点で協力病院に対して情報確認と拠点事業への要望などをうかがうために、電話によるフォローアップ作業を行っている。短期間でも移転や摂食障害患者の受け入れ条件変更等が確認されていることから、定期的な確認作業を検討している。

委員吉内先生のご協力を得て、2026年1月に東京大学医学部附属病院心療内科に訪問し、情報交換をさせて頂くことができた。

10. 考察

・相談対象となる患者の年齢は10代～70代までと幅広いが、20代以下の相談が6割以上を占めている。また、子育て世代は、子供もいるため、入院や外来の受診が難しく治療がなかなか進まない。

・摂食障害支援拠点病院と連携した病院は圧倒的に不足しており、一部の連携病院に負担が集中することが懸念される。

・緊急受診、緊急入院が必要な患者を受入可能な病院が非常に少ない。このため、居住地近くの医療機関を紹介できないことが多い。

7. 富山県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 7 年度

富山県摂食障害支援拠点病院

Toyama Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和 7 年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
富山県摂食障害 支援拠点病院	富山大学附属病院 神経精神科	930-0194	富山市杉谷 2630	076-434-7323

URL

富山県摂食障害支援拠点病院：公開準備中

摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
高橋 努	富山大学附属病院 神経精神科	教授
樋口 悠子	富山大学附属病院 神経精神科	准教授
笹林 大樹	富山大学附属病院 神経精神科	講師
立花 春子	富山大学附属病院 神経精神科	助教
辻井 農亜	富山大学附属病院こどものこころと発達診療科	客員教授
山本 奈々穂	医療福祉サポートセンター	精神保健福祉士
赤崎 有紀子	富山大学附属病院 神経精神科	技術補佐員（公認心理師）

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
酒井 遥	看護師

2. 要旨

令和 7 年 7 月に富山大学附属病院が全国 9 番目の摂食障害支援拠点病院（以下、拠点病院）に指定され、北陸 3 県（石川県、富山県、および福井県）すべてに拠点病院が置かれる状況となった。年度途中での指定であり、令和 7 年度は準備期間と捉え、摂食障害全国支援センターおよび他地域の拠点病院から適宜サポートを受け、また院内他部署や行政とも連携しながら事業の準備を行っている。令和 8 年 1 月 14 日より試行的に電話・WEB（フォーム入力）による相談支援を開始した段階である。以下、項目別に活動準備状況の要旨を述べる。

〔摂食障害対策推進協議会〕

富山県内で摂食障害治療実績の多い公的総合病院の精神科部長、教育委員会関係者、摂食障害当事者、精神保健福祉センター所長、厚生センター支所長などを委員に含めた協議会を設置した。第一回の協議会を令和8年3月に開催した。

〔相談支援〕

コーディネーター（看護師）による週2日（月曜および水曜）の電話・メール相談を令和8年1月14日より開始した。現在は相談窓口の周知期間であり、今後は相談に関する種々の集計や利便性向上のための工夫を行っていく予定である。

〔治療支援〕

県内医療機関に対して摂食障害治療および支援に関するアンケート調査を行い、摂食障害の診療・連携実績および摂食障害治療施設リストへの情報掲載可否の把握を行なった。拠点病院内においては神経精神科が治療の中心となり、多職種（医師、看護師、管理栄養士、公認心理師、薬剤師、精神保健福祉士）および複数診療科（総合診療科、小児科、こどものこころと発達診療科）による院内連携体制を構築した。また比較的軽症の患者を対象とした短期教育入院プログラムを作成中である。

〔研修〕

令和8年3月2日に医療従事者向けの研修会（WEB講演）を行った。今後の研修に関する県内医療従事者や学校関係者からのニーズ聞き取りを予定している。

〔普及啓発活動〕

富山県摂食障害支援拠点病院のホームページ（公開準備中）およびリーフレットを作成し、リーフレットを県内の医療機関に広く配布した。令和8年3月7日に富山県・長野県拠点病院合同開催によりハイブリッド形式で一般向け公開講座を行った。

〔行政機関との連携〕

拠点病院としての事業準備を富山県厚生部健康対策室健康課と十分な情報共有および協議のうえ進めた。富山県摂食障害対策推進協議会の委員に富山県教育委員会保健体育課長を含めた。リーフレット配布等の事業の広報を行政と連携して行なった。

〔その他の活動〕

摂食障害に対する早期支援の重要性や支援事業内容の周知に繋がる講演活動等を行なった。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	高橋 努	富山大学附属病院 神経精神科・教授	摂食障害治療を専門的に行なっている医師
委員	樋口 悠子	富山大学附属病院 神経精神科・准教授	
同上	野原 茂	富山県立中央病院 精神科・部長	
同上	長谷川 雄介	富山市民病院 精神科・部長	
同上	五島 直樹	富山県教育委員会 保健体育課・課長	富山県
同上	利田 智恵	富山県厚生部参事・健康対策室 健康課・課長	
同上	麻生 光男	富山県心の健康センター・所長	精神保健福祉センター
同上	牧本 優美	富山県厚生部参事・高岡厚生センター 氷見支所・支所長	

			厚生センター
同上	S.S (匿名)	-	摂食障害患者
事務局	辻 健太郎	富山県厚生部 健康対策室健康課 精神保健福祉担当・係長	
	中才 梨子	富山県厚生部 健康対策室健康課 精神保健福祉担当・技師	
	笹林 大樹	富山大学附属病院 神経精神科・講師	
	酒井 遥	富山大学附属病院 神経精神科・看護師	

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第 1 回	令和 8 年 3 月開催 (Web 開催)	1. 富山県摂食障害支援拠点病院の指定について 2. 令和 7 年度事業実績報告 3. 令和 8 年度事業実施計画 4. その他

4. 相談支援

相談体制

・コーディネーター（看護師）1 名による電話・WEB（フォーム入力）での相談を実施する。 ・電話窓口開設時間：9 時～16 時（月・水曜日） ・摂食障害治療施設リストに基づき、医療機関の紹介を行う。 ・県内医療機関、精神保健福祉センター、厚生センター、保健所、学校等との連携をこれまで以上に強化する。

相談支援結果

・令和 8 年 1 月 14 日より相談支援を開始したが、現在は相談窓口の周知期間と捉えている。 ・今後、相談に関する種々の集計や利便性向上のための工夫を行っていく予定である。 ・メール相談についてはフォームに必要事項を記入する形式とし、必要な情報を過不足なく収集できるように工夫している。

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
14	16

居住地域（新規件数）n= 14

管轄都道府 県内	管轄都道府 県外	不明	ほっとライン	計
13	1	0	0	14

相談者の患者との関係（新規件数）n= 14

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
5	1	7	0	1	0	0	0	0	0	14

相談対象患者の年齢（新規件数）n= 14 平均年齢: 27.3 SD= 14.1 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	計
0	5	3	1	4	0	1	0	14

相談対象患者の性別（新規件数）n= 14

女性	男性	その他	不明	計
12	1	0	1	14

相談対象患者状態（新規件数）n= 14

やせ	食事制限	過食	排出・代償行動					精神・行動症状					その他
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	
9	8	6	1	1	0	1	5	0	4	2	1	0	0

相談対象患者属性（新規件数）n= 14

学生				社会人			その他	不明	計
小	中	高	大／専	就労中	無職	主婦/主夫			
1	2	2	0	2	4	1	0	2	14

摂食障害での受診状況（新規件数） 14

受診中	入院中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	計
8	0	1	3	1	0	1	14

相談経路（延べ件数）n= 16

電話	メール	面談	その他	計
13	3	0	0	16

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ（新規件数） 14

インター ネット	紹介				メディア				ポスター・ ちらし	その他	不明	計
	機関			その他・ 不明	テレビ	新聞	自治体・ 広報	その他・ 不明				
	医療	行政	教育									
4	0	0	0	0	2	1	0	0	0	2	0	9

相談内容（延べ件数）n= 16

疾患相談	有り	対応相談			受診相談	支援拠点病院業務問い合わせ	その他	コロナ関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
13	6	1	1	4	12	1	1	0

対応内容（延べ件数）n= 16

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	支援拠点病院業務問い合わせ	その他
	拠点病院	協力病院	その他病院	公共機関		疾患知識	治療受診	資料	社会資源			
11	8	6	0	1	14	4	13	0	1	6	3	1

5. 治療支援

治療体制・計画

- ・県内医療機関（主に精神科および小児科）から収集した摂食障害の診療・連携実績に基づき、各医療機関で対応可能な患者層を把握し、適切な連携体制を構築する。
- ・拠点病院内においては神経精神科が治療の中心となり、精神科医師、看護師、管理栄養士、公認心理

師、薬剤師、医療福祉サポートセンター所属の精神保健福祉士による多職種連携による治療体制を整える。

- ・拠点病院へ初回入院となった比較的軽症の患者を対象に2週間の教育入院プログラムを行う。
- ・身体的重症者への対応については総合診療科、増加傾向にある若年患者への対応については小児科およびこどものこころと発達診療科との診療連携体制を整える。

治療支援実施結果

- ・県内医療機関に対して摂食障害治療および支援に関するアンケート調査を行い、摂食障害の診療・連携実績および摂食障害治療施設リストへの情報掲載可否の把握を行なった。
- ・拠点病院における教育入院の内容を検討し、身体精査、管理栄養士による栄養指導、公認心理師による心理査定、精神科医師による疾患教育等のプログラムを作成した。
- ・多職種、複数診療科による院内連携体制を構築するため、毎週月曜日午後に関係者協議（打ち合わせ）を行なった。

医療連携に関するアンケート調査

【目的】富山県内の医療機関における摂食障害の診療・連携実績および摂食障害治療施設リストへの情報掲載可否を把握する

【対象】富山県内の精神科、心療内科、小児科を有する医療機関 75 施設

【方法】郵送により送付し、オンライン回答と郵送による回答

【調査期間】令和7年8月3日～令和7年9月12日

【回収状況】

対象	送付数	回答数	回収率
精神科、心療内科	65 施設	31 施設	47.6%
小児科	10 施設	4 施設	40%

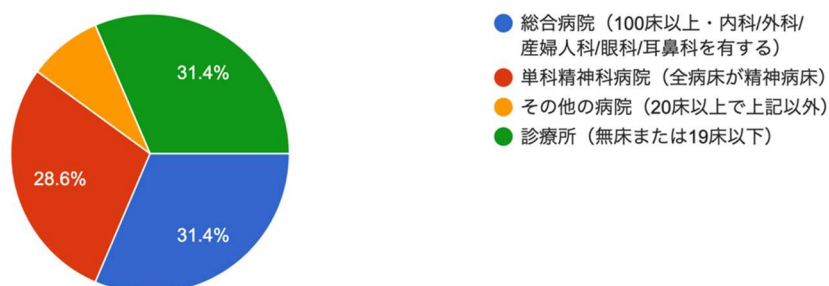
【調査項目】医療機関の情報・摂食障害患者の診療状況・今後の摂食障害治療の方針

【調査結果】

1) 県内の医療機関の区分と入院病床の有無

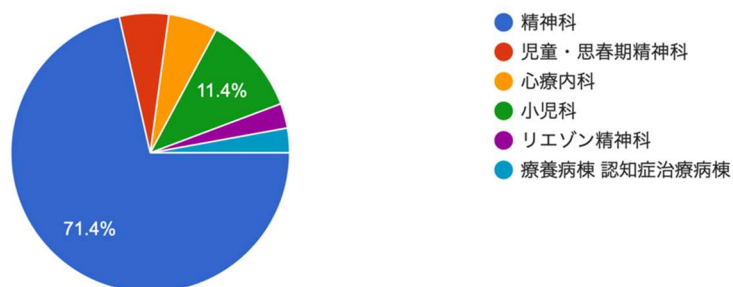
貴院の区分に当てはまるものひとつを選択してください。

35 件の回答



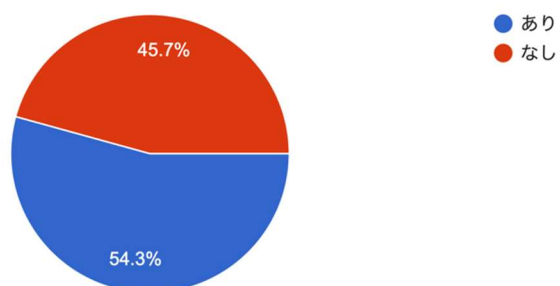
貴科/貴診療所に最も近いものひとつを選択してください。

35 件の回答



自科の入院病床はありますか。

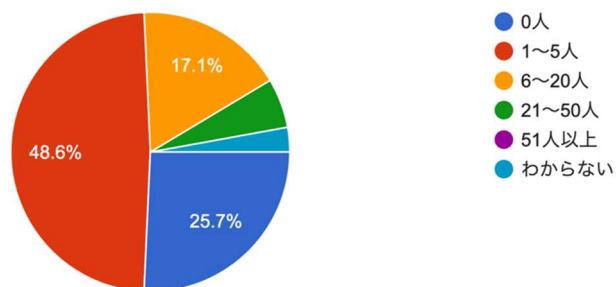
35 件の回答



2) 診療したおよその摂食障害患者数（1 年間）

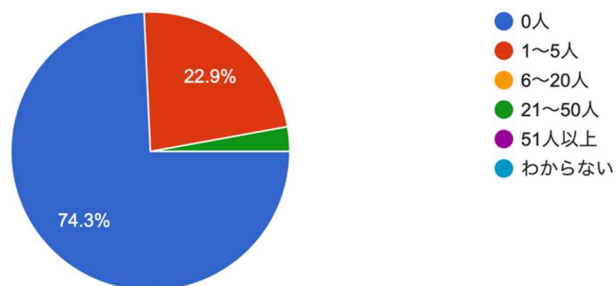
外来で診療した摂食障害（※）のおよその人数

35 件の回答



入院で診療した摂食障害（※）のおよその人数

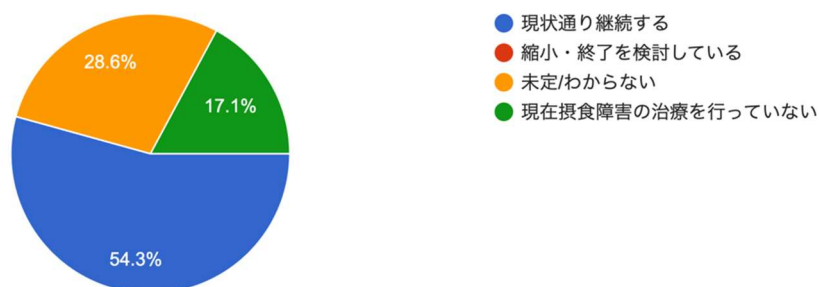
35 件の回答



3) 今後の摂食障害治療の方針と対応可能な年齢層について

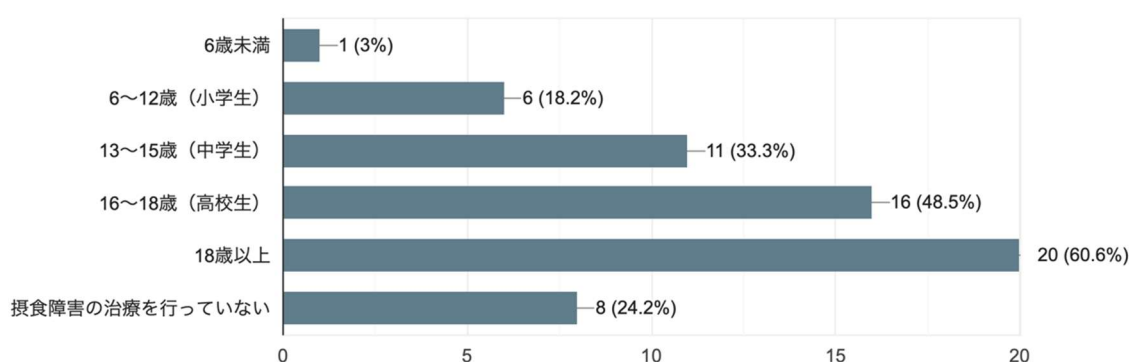
今後、貴科/貴診療所における摂食障害治療の方針についてお答えください。

35 件の回答



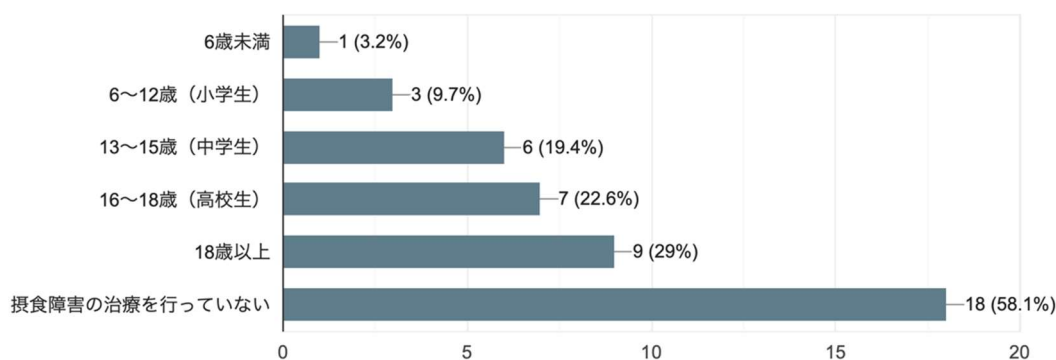
外来で対応可能な摂食障害患者の年齢層についてご回答ください。（複数回答可）

33 件の回答



入院で対応可能な摂食障害患者の年齢層についてご回答ください。（複数回答可）

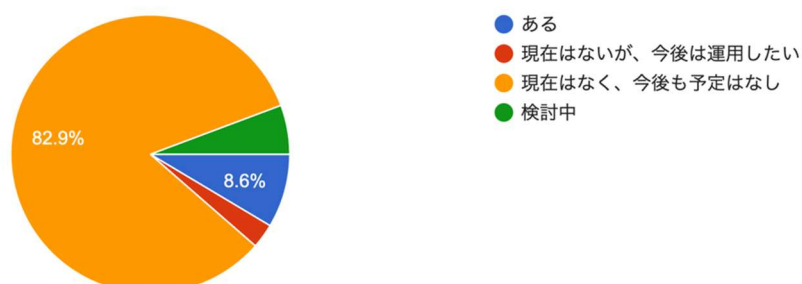
31 件の回答



4) 摂食障害の連携実績について

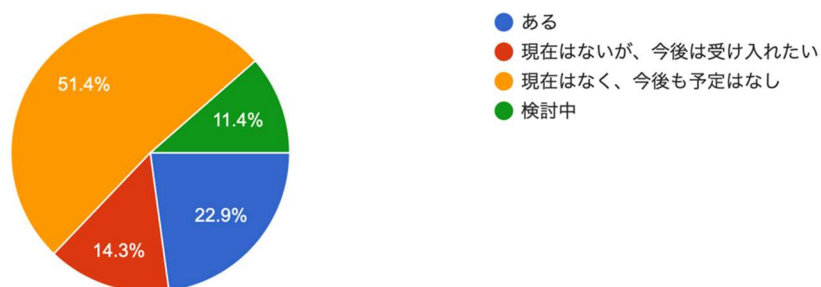
貴科/貴診療所で摂食障害自助会や家族会の運用実績がありますか。

35 件の回答



貴科/貴診療所で学校（養護教諭・スクールカウンセラーなど）からの紹介受け入れ実績がありますか。

35 件の回答



5) 摂食障害治療施設リストへの情報掲載について協力を得ることができた施設は 11 施設
内訳は精神科 7 施設、心療内科 2 施設、小児科 1 施設、児童思春期精神科 1 施設

【入院診療状況について】

入院件数

延べ入院件数
6

性別

男性	女性	その他
0	6	0

病型

神経性やせ症 制限型	神経性やせ症 過食/排出型	神経性過食症	むちゃ食い症	回避・制限性食物摂取症	その他摂食症
ANR	ANBP	BN	BED	ARFID	OSFED/UFED
3	2	1	0	0	0

入院日数

1～30日	31～90日	91～180日	181～365日	366日以上
1	2	0	0	0

入院形態

任意	医療保護	措置	非精神科
3	3	0	0

入院時年齢

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-
0	2	0	2	0	2	0	0

摂食障害による自院入院回数

1回(初回)	2回	3回	4回	5回	6回以上
2	0	0	3	1	0

罹病期間

0～1年以内	1～2年以内	2～3年以内	3～5年以内	5～10年以内	10年以上
0	0	3	1	0	1

入院中の合併症（複数回答可）

なし	抑うつ症群	双極症群	不安症群	強迫症群	PTSD(トラウマ関連疾患)	アルコール依存症	物質依存症(アルコール以外)	発達障害	精神遅滞	パーソナリティ障害	その他精神障害	1型糖尿病	その他身体疾患
0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0

6. 研修

研修体制・計画

- ・医療関係者を対象とした摂食障害に関する研修会を開催する。
- ・摂食障害の理解促進を図るため、学校関係者向け研修会を実施する。

研修実施結果

- ・令和8年3月2日に医療従事者向けの研修会（WEB 講演）を開催した。
- ・県内医療従事者や学校関係者からの今後の研修に関するニーズ聞き取りを行った。

医療者向けの研修会（WEB 講演）

講師：竹林淳和先生

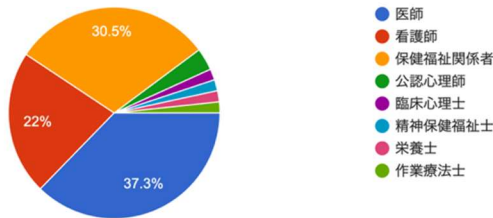
浜松医科大学医学部附属病院 精神科神経科 講師

内容：摂食障害治療支援センター設置運営事業

～摂食症の治療連携について～

参加者数：41 名（参加者内訳は下記の図に示す）

職種を教えてください。



医療者のための
摂食障害研修会

摂食障害治療支援
センター設置運営事業
～摂食症の治療連携について～

参加費無料

オンライン
配信

今年度より、富山県摂食障害拠点支援病院
の事業が開始となりました
摂食障害治療支援センターの事業についてや、
摂食障害治療連携についてお話しします
摂食障害の理解を深め、富山県の摂食障害
医療の質の向上を目指します
ぜひ、医療関係の方はご参加ください

開催日 3 / 2 (月)
時間 18:00～19:00
方法 オンライン配信
申し込み QRコード

講師/竹林淳和先生
浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科 講師

職歴
平成12年 浜松医科大学 精神科神経科 医員研修医
平成17年 浜松医科大学 精神科神経科 医員
平成18年 浜松医科大学 精神科神経科 助手
平成22年 浜松医科大学 子どもの心の発達研究センター 特任助教
平成23年 浜松医科大学 精神科神経科 助教
平成25年 浜松医科大学 精神科神経科 講師
令和元年 天王病院 脳神経科 講師
令和2年 浜松医科大学 精神科神経科 講師

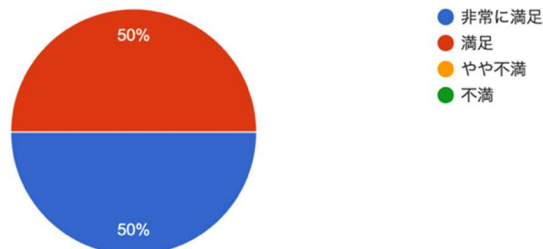
富山県摂食障害拠点支援病院
摂食障害治療支援コーディネーター 酒井 遼
E-mail: haru0687@med.u-Toyama.ac.jp

【研修会開催後のアンケート結果】

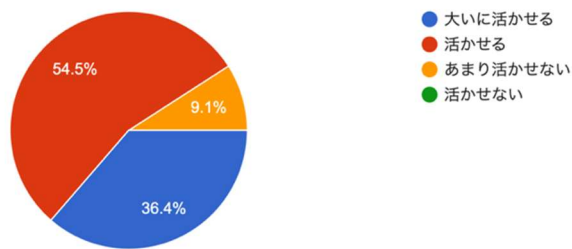
22 名より回答が得られた。

本日の講演会の満足度を教えてください。

22 件の回答



今後の診療、支援に活かそうですか？
22 件の回答



今後の講演会のニーズとしては以下の回答が得られた。

- ・身体合併病棟での、身体と精神の両面からの治療について
- ・摂食障害の行動療法と薬物療法
- ・摂食障害の相談時の対応方法

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

- ・富山県摂食障害支援拠点病院ホームページを作成し、様々な情報発信を行う。
- ・リーフレットを作成し拠点病院事業を県内に広く周知する。
- ・摂食障害への理解促進を図るため、一般向け公開講座を実施する。

普及啓発活動実施結果

- ・ホームページを作成し、公開準備中（サーバー利用学内手続き中）
- ・リーフレットを作成し県内の医療機関に広く配布した。今後、保健福祉・学校関係にも配布予定。
- ・リーフレット電子版を富山大学附属病院および同神経精神医学講座のホームページ上で公開した。
- ・令和 8 年 3 月 7 日に富山県・長野県拠点病院合同開催によりハイブリッド形式で一般向け公開講座を開催した。

富山県摂食障害支援拠点病院ホームページトップ画像（公開準備中）



富山県摂食障害支援拠点病院リーフレット

摂食障害支援拠点病院の業務について

富山県摂食障害支援拠点病院は、摂食障害に関する相談窓口を設置しています。また、適切な医療機関への受診に向けた橋渡し役を担っています。

◆相談窓口◆

精神科認定看護師の資格を有している看護スタッフがコーディネーターとして相談対応を行います。摂食障害の患者さんやご家族への支援として、摂食障害に関する悩みや不安をお聞きします。必要な時は、適切な医療機関をご紹介します。お気軽にお電話ください。

医療・福祉・学校関係者の皆様へ

摂食障害の治療と支援に携わっている方々からの電話相談も受け付けています。

- 生徒さんに摂食障害の可能性があり受診に結び付けたい場合や対応に困りの学校関係者の方
- 摂食障害の患者さんやご家族から相談を受けた福祉担当の方
- 摂食障害の患者さんの対応に苦慮している医療従事者の方

富山県摂食障害支援拠点病院では、摂食障害の方が、適切な治療と支援により、地域で支障なく安心して暮らすことができる体制の整備を推進していきます。

お問合せ

富山県摂食障害支援拠点病院

富山大学附属病院 神経精神科内
〒930-0174 富山県石川2630番地

※富山県摂食障害支援拠点病院のホームページがありますので受診を希望される前にご参照ください。

※勤務でお休みする場合があります。ホームページをご確認ください。

※外来診療や入院治療を迅速に対応できるわけではないことをご了承ください。



富山県摂食障害支援拠点病院

食べることに悩んでいませんか？
1人で抱え込んでいませんか？

やせ過ぎているかもしれない
病気がかもしれない

相談できる場所があります

電話番号：070-1535-4737
相談対応時間：9:00～16:00
月曜・水曜（祝日除く）





「太るのが怖いから食べる量を減らそう」
もう十分食べているのに、まだ自分は太っていると思っていませんか？

それは・・・
「摂食障害」
かもしれません

「私は摂食障害かもしれない」
「子供が摂食障害かもしれない」
「生徒が摂食障害かもしれない」
お気軽にご相談ください



「ダメだと分かっているのに、ついつい食べ過ぎてしまう」
短い時間でたくさん食べてしまっ、後悔するけど、また食べてしまつて繰り返していませんか？



「痩せるためにもっと運動しないと！」
ずっと動いているから、座っている時間が少なくなっているいませんか？



「もっとモデルやアイドルみたいに細くなりたい！」
身近な人に、そんなに痩せて大丈夫かなと心配になる人はいませんか？

◆地域との連携◆

富山県摂食障害支援拠点病院では、富山県内の医療機関同士のつながりを強化し、受診に繋げるお手伝いを行っています。

また、医療関係者や一般の方向けの研修を開催し、摂食障害に対する理解を深める活動を積極的にに行い、摂食障害の早期発見・早期介入を推進していきます。

リーフレット配布先

1) 摂食障害治療施設リストに情報掲載している以下の11施設に各10部配布（令和8年1月14日）
富山県立中央病院、富山市立富山市民病院、医療法人真生会 真生会富山病院、国立病院機構 富山病院（小児科）、黒部市民病院、小矢部大家病院、アイ・クリニック、たての心療クリニック、医療法人社団和敬会 谷野医院、西川祐美子こころの診療所、医療法人社団至仁会 みさきクリニック

2) 行政経由での配布先

自治体（市町村）関係課・精神科医療機関（上記以外）

学校関係や自殺対策関係課、民間の自殺対策支援団体には、ホームページ作成後に配布予定である

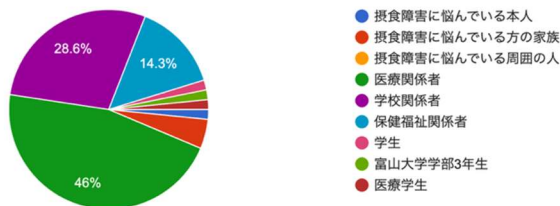
一般の方向け研修会（ハイブリッド開催）
長野県摂食障害支援拠点病院との合同研修
講師：佐野滋彦先生

金沢大学附属病院 神経精神科 講師

内容：支える人のための摂食障害入門

参加者：富山県会場は 27 名、オンライン参加者は長野県含め 172 名
(参加者内訳は下記に示す)

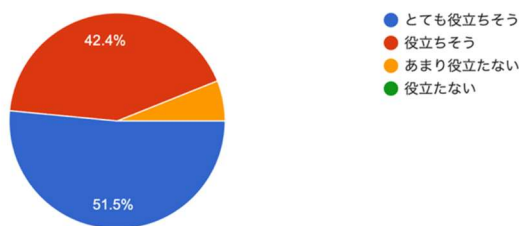
参加される方について教えてください。
63 件の回答



【研修会開催後のアンケート結果】

富山県での参加者にアンケート依頼し、33 名より回答を得ることができた。

今日の内容は今後役に立ちそうですか？
33 件の回答



今後の講演会のニーズとしては以下の回答が得られた。

- ・実際に摂食障害になった人、回復した人や、その家族の話
- ・摂食障害と代謝の関係について
- ・自殺念慮と拒食の関係から防止の取組を知りたい。
- ・依存症からの立ち直りのきっかけ、複数の依存症がある場合の回復過程
- ・当事者の方の体験

メディア関係

開催日（発行日、オンエア）	メディア	内容
R8/1/10	富山新聞	・支援拠点病院の事業開始
R8/1/10	北日本新聞	・支援拠点病院の開設
R8/1/13 取材 R8/1/14 オンエア	富山テレビ放送 「ライブ BBT」	・摂食障害について ・支援拠点病院の取り組み
R8/1/14 取材・オンエア	チューリップテレビ 「JNN ニュース」「ニュース 6」	・支援拠点病院の意義や役割
R8/1/15 取材 R8/1/17 以降 オンエア	NHK 富山放送局 「NHK ニュース」	・支援拠点病院の意義や役割

富山県・長野県摂食障害支援拠点病院合同開催研修

支える人のための摂食障害入門

摂食障害は放っておくと治療が困難となる病気ですが、約半数の方が治療を受けていない現状があります。摂食障害に悩んでいるご本人さんやご家族の方、周囲の方、医療・学校・保健福祉関係の方向けの講演会を開催します。ぜひご参加ください。

2024 年 3 月 7 日（土） 14:00~15:00

会場 富山県 富山大学附属病院 2630 研修センター多目的会議室

講師 佐野滋彦先生
金沢大学附属病院 神経精神科 講師

お申し込みはフォームから

お問い合わせはこちら
富山県摂食障害支援拠点病院
摂食障害治療支援コーディネーター酒井達
E-mail: haru0687@med.u-toyama.ac.jp Tel: 070-1535-4737

摂食障害対策 富大病院に拠点

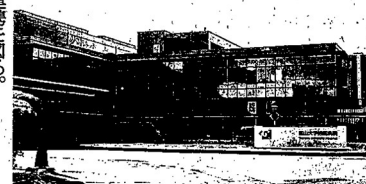
県、14日に窓口開設

県は14日、富山市の富大附属病院内に県内初となる摂食障害の支援拠点施設を開設する。患者の相談に応じて適切な医療機関を紹介するほか、医療従事者らへの研修や摂食障害に関する知識の普及啓発に取り組む。

同病院神経精神科に窓口を設け、精神科認定看護師の有資格者が支援コーディネーターとして電話相談に乗り、医療機関への橋渡し役を担う。相談時間は毎週月、水曜の午前9時～午後4時。病院内に摂食障害対策推進協議会を設置し、県内自治体や医療機関の担当者や相談対応などの情報を共有し、

地域連携を図る。

国の2022年の調査で、摂食障害の患者は推定で全国で約22万人、県内では約2千人。厚生労働省は各都道府県に摂食障害支援の拠点施設を設けるよう通知しており、昨年12月時点で9都県に設置されている。



摂食障害支援拠点となる富大附属病院
—富山市杉谷

摂食障害支援へ拠点

県富山大付属病院を指定

摂食行動が乱れ、心身にさまざまな問題が表れる「摂食障害」患者に対応するため、県は、富山大付属病院（富山市杉谷）を支援拠点病院に指定し、14日から電話相談を受け付ける。9日、発表した。

患者が早期に適切な支援を受けられるよう、同病院を核に県内の医療連携を強化する。精神科認定看護師の資格を持つ1人をコーディネーターとして配置し、患者や家族、医療・福祉従事者らの相談に乗る。他の医療機関への助言や普及啓発活動にも取り組む。

厚生労働省の調査によると、摂食障害の患者は全国に約22万人、県内に約2千人いる。支援体制を整備するため、厚労省は2014年度から、各都道府県に1カ所ずつ拠点病院を設置する事業を開始。対象の病院は各都道府県が選び、富山以外では昨年12月末時点で9都県が指定している。

富山大付属病院は祝日を除く月、水曜の午前9時から午後4時まで、神経精神科内の直通番号070（15335）4737で電話相談を受け付ける。

R8/1/10 富山新聞

R8/1/10 北日本新聞

8. 行政機関との連携

研修体制・計画

- ・拠点病院としての事業を富山県厚生部健康対策室健康課と十分な情報共有および協議のうえ進める。
- ・教育現場との連携を重視するため、富山県摂食障害対策推進協議会の委員に教育関係者を含める。
- ・富山県摂食障害対策推進協議会を年度内に開催する。

研修実施結果

- ・富山県厚生部健康対策室健康課との事業準備会議（打ち合わせ）を行なった。
- ・富山県摂食障害対策推進協議会の委員に富山県教育委員会 保健体育課・課長を含めた。
- ・第一回富山県摂食障害対策推進協議会を令和8年3月に開催した。
- ・医療機関以外のリーフレット送付先の選定および配布を富山県厚生部健康対策室健康課と共同で行なった。

行政（県厚生部）との連携会議等

開催日	内容	実施場所
R7/7/2	・拠点病院設置運営事業の採択決定通知 ・交付申請書等に関する事務連絡 ・事業内容に関する情報共有	メール
R7/8/1-4	・摂食障害対策推進協議会開催時期	メール
R7/8/18-9/4	・摂食障害対策推進協議会の構成員	メール
R7/9/22	・事業開始時期 ・県からのプレスリリース ・ホームページ掲載内容	富山大学附属病院 神経精神科医局
R7/10/8	・県厚生部の担当者 ・事業開始時期	富山大学附属病院 神経精神科医局

	・リーフレット内容修正・配布について	
R7/10/9-20	・県からのプレスリリース ・摂食障害対策推進協議会の構成員	メール
R7/11/20	・摂食障害対策推進協議会の開催方法と時間	メール
R7/12/9	・摂食障害支援拠点病院主催の研修会について	メール
R7/12/25	・プレスリリース後のマスコミからの質問対応	メール
R8/1/7	・リーフレットの送付先に関する相談	メール

9. その他の活動

実施体制・計画

・医療従事者に対して摂食障害の重要性・支援事業内容を周知する。 ・県内の精神保健分野の関係者に対して摂食障害の重要性・支援事業内容を周知する。
--

実施結果

・2025 年度富山大学神経精神医学講座同門会において県内の精神科医に対して摂食障害拠点病院の事業説明を行なった。 ・主に精神保健分野の関係者を対象とした講演会において、摂食障害支援の必要性について言及し、関係者の理解促進を図った。

講演記録

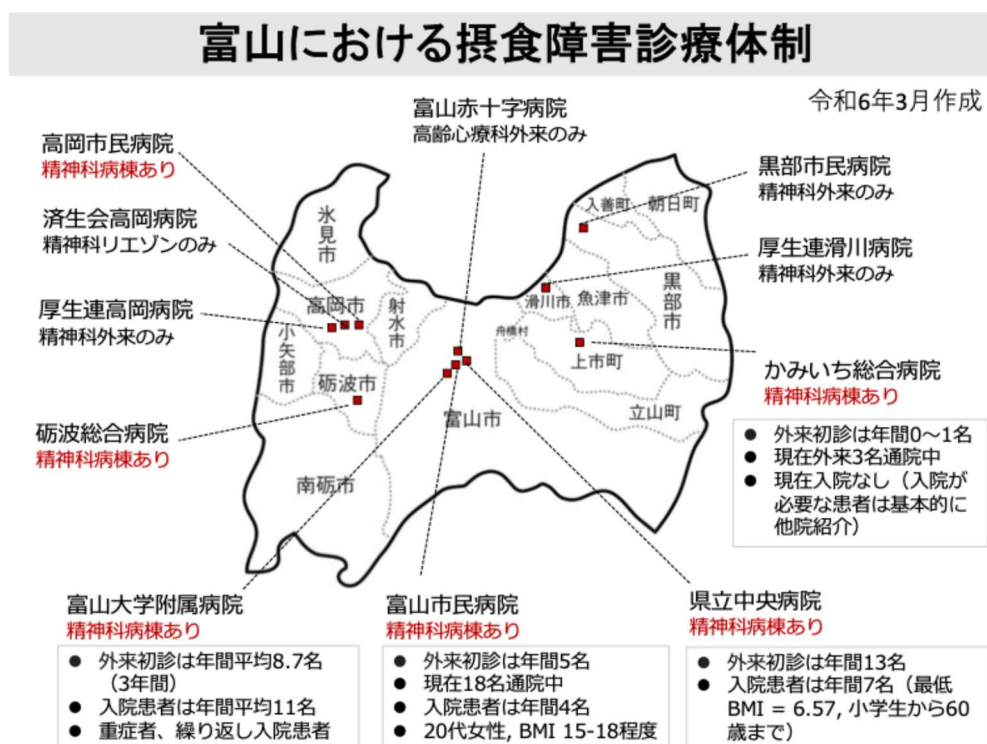
開催日	タイトル	講演者	摂食障害と関連した内容	対象者	主催（場所）
R7/6/12	精神疾患への早期支援について	高橋 努	摂食障害診療の課題・早期支援の必要性	一般県民、精神保健福祉関係者	富山県精神保健福祉協会「県民こころの日講演会」(富山市)
R7/8/5	行政と連携した精神症予防の取り組み	高橋 努	摂食障害診療の課題・早期支援の必要性	精神科病院職員	田宮病院(長岡市)
R7/10/2	精神疾患に対する早期診断・早期治療の推進	高橋 努	摂食障害診療の課題・早期支援の必要性	精神科医師	多摩 Schizophrenia 研究会(多摩市)
R7/12/13	摂食障害拠点病院の紹介	高橋 努	拠点病院の事業紹介	県内精神科医師および関係者 47 名	富山大学神経精神医学講座同門会(富山市)

R8/2/28 予定	早期精神症の 理解と支援	高橋 努	摂食障害診療の 課題・早期支援 の必要性、拠点 病院の事業紹介	精神障害者家族相 談員、家族会会員、 作業所及び障害福 祉サービス事業所 等の職員、精神保 健福祉ボランティ ア、その他	富山県精神保健福 祉家族連合会（富 山市）
---------------	-----------------	------	--	--	-----------------------------

10.考察

北陸地区においては、2022 年 10 月より金沢大学医学部附属病院（石川県）、2023 年 10 月より福井大学医学部附属病院（福井県）が摂食障害診療の拠点病院として指定され、摂食障害診療の充実に加え、地域ネットワークの形成や一般住民を対象とした普及啓発活動等が積極的に実施されている。

一方、富山県では主に富山市内の 3 つの総合病院精神科が摂食障害の入院治療を担ってきたが、令和 6 年 3 月に実施した調査結果（図）によると、これらの総合病院における摂食障害患者の治療実績は比較的少なく、想定される摂食障害患者のうち相当数が適切な専門医療にアクセスできていない、またはクリニックや身体科においてフォローされている可能性が示唆された。



こうした現状を踏まえ、富山県においても拠点病院設置運営事業が開始されたことを契機として、地域全体で摂食障害支援の質の向上を図る取組を継続的に進めていく予定である。拠点病院指定後は、アンケート調査を通じて県内医療機関における摂食障害診療の実態把握を行うとともに、総合病院小児科や精神科クリニックを含む医療機関から、摂食障害治療施設としての協力に関する同意が得られた。令和 7 年度は体制構築に向けた準備期間と位置付け、令和 8 年度以降は、行政機関と連携しながら、相談事業、普及啓発活動、診療ネットワークの形成等を積極的に実施していく予定である。

8. 石川県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 7 年度

石川県摂食障害支援拠点病院

Ishikawa Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和 7 年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
石川県摂食障害支援拠点病院	金沢大学附属病院 神経科精神科	920-8641	石川県金沢市宝町 13-1	076-265-2827

URL

石川県摂食障害支援拠点病院：<https://ishikawa-ed.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
菊知 充	金沢大学附属病院 神経科精神科	教授
佐野 滋彦	金沢大学附属病院 神経科精神科	講師
宮岸 良彰	金沢大学附属病院 神経科精神科	助教
水上 喜美子	金沢大学附属病院 集中治療部	特任助教
朝倉 有香	金沢大学附属病院 神経科精神科	医員
廣澤 徹	金沢大学附属病院 子どものこころの診療科	准教授

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
国木 智佳穂	公認心理師 臨床心理士
宮島 文恵	看護師

2. 要旨

石川県摂食障害支援拠点病院（以下、拠点病院）は金沢大学附属病院神経科精神科に設置されて令和 4 年 10 月 3 日より活動を開始し、4 年度目を迎えた。以下、項目別に要旨を述べる。

相談支援：相談体制は前年度と同様で、電話およびインターネットでの相談を行なっている。今年度の新規相談数は年度全体を通じて昨年度までより増加傾向にあり、設置以来最多となった。

治療支援：拠点病院の治療体制において、成人の摂食障害に対応する専門医を1名増員したことで、初診患者数がやや増加した。入院治療の件数は昨年度とほぼ同等である。

研修活動：今年度は少数に留まった。

普及啓発活動：精神科以外の医療機関との連携を強化するため、県および金沢市の医師会に訪問し、摂食障害支援拠点病院の活動をPRする場を複数回設けていただいた。また、例年通り、周年活動としての大規模・一般向け講演会を実施した。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	内藤 暢茂	ときわ病院 院長	摂食障害治療を専門的に 行なっている医師
委員	佐野 滋彦	金沢大学附属病院 神経科精神科 講師	
同上	水上 喜美子	金沢大学附属病院 集中治療部 特任助教	心理の専門職
同上	沼田 直子	石川県南加賀保健福祉センター 所長	保健所
同上	角田 雅彦	石川県こころの健康センター 所長	精神保健福祉センター
同上	黒坂 昭弘	石川県教育委員会事務局保健体育課	教育関係者
同上	四木 匡彰	石川県健康福祉部障害保健福祉課	県
同上	前川 浩子	金沢学院大学文学部 教授	摂食障害に関する有識者
同上	—	—	摂食障害患者
同上	—	—	摂食障害家族

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第1回	令和7年 8月4日	・令和6年度 摂食障害支援拠点病院設置事業効果について ・令和7年度 摂食障害支援拠点病院事業計画について ・現状における問題点の抽出 当事者および家族からの要望等について
第2回	令和8年 2月（予定）	・令和7年度 摂食障害支援拠点病院設置事業効果について ・令和8年度 摂食障害支援拠点病院事業計画について（書面審議）

4. 相談支援

相談体制

- コーディネーター（公認心理師、看護師）2 名が電話、インターネットでの相談を実施している。
- 電話相談窓口開設時間：9 時～15 時（月・水・金曜日）
- インターネットでの相談は常時受付し、原則的に 1 週間以内に返信している。
- 受診相談に対しては、患者の身体的な重症度（BMI を指標とする）や行動面の特徴を聴取した上で適切な受診先や入院の要否などをお伝えし、要望があれば受診予約の手順を案内している。
- 県内にある摂食障害患者の自助グループと連携し、相談者にこれを紹介している。
- 精神保健福祉センター、保健福祉事務所、学校等との連携を強化していく。
- 地域の医療機関からの相談を受けやすくする体制構築を検討している。

相談支援結果

- 年度通算の新規相談件数が 192 件で過去最多となり、昨年度と比較して 50 件の増加があった。これほどの急増を示した原因として特定されるものはなく、特定の月やタイミングで相談数が多くなったということもない。
- 年齢層別でみると 20 歳代から 40 歳代までの相談件数が増加し、10 歳代は横ばいである。
- 「相談経路」は今年はいじめてインターネットが電話を上回り、また「相談事業を知ったきっかけ」についてもインターネットという回答が昨年より 51 件増加している。
- 受診状況については「未受診」「ED 以外で受診中」の増加が大きく、合計で昨年度より 45 件増加している。

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
192	215

居住地域（新規件数）n= 192

首都圏圏内	首都圏圏外	不明	その他	計
142	39	11	0	192

相談者の患者との関係（新規件数）n= 192

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
97	7	56	3	9	9	4	1	1	5	192

相談対象患者の年齢（新規件数）n= 192 平均年齢: 26.1 SD = 13.1 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	その他	計
10	46	67	20	20	12	2	1	8	0	6	192

相談対象患者の性別（新規件数）n= 192

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
166	17	1	8	0	192

相談対象患者状態（新規件数）n= 192

やせ	食事制限	過食	排出・代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	引きこもり	自傷	問題行動	その他
78	57	99	58	17	2	11	8	7	56	2	5	6	31

相談対象患者属性（新規件数）n= 192

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大/専	就労中	無職	主婦/主夫				
11	12	24	18	75	21	3	12	16	0	192

摂食障害での受診状況（新規件数） 192

受診中	入院中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	計
39	3	15	85	33	10	7	192

相談経路（延べ件数）n= 215

電話	メール	面談	その他	計
107	108	0	0	215

#REF!

相談が個別症例および患者関連以外の件数

個人	専門家
4	1

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ（新規件数）n= 192

インター ネット	紹介				メディア				ポスター・ ちらし	その他	不明	計
	機関			その他・ 不明	テレビ	新聞	自治体・ 広報	その他・ 不明				
	医療	行政	教育									
123	8	5	10	9	2	0	0	1	7	8	19	192

相談内容（延べ件数）n= 215

疾患相談	有り	対応相談			受診相談	支援拠点病院業務問い合わせ	その他	コロナ関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
180	46	36	7	9	109	43	7	0

対応内容（延べ件数）n= 215

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	支援拠点病院業務問い合わせ	その他
	拠点病院	協力病院	その他病院	公共機関		疾患知識	治療受診	資料	社会資源			
103	77	51	77	6	142	133	3	9	9	100	52	7

医療やシステムへの不満・課題（複数回答）

医療への不満・要望有り						
有り	専門性	改善無し	対話不足	嫌な体験	治療関係	システム
14	1	3	0	5	4	2

5. 治療支援

治療体制・計画

- 大学病院精神科として、医師、看護師、心理士、精神科ソーシャルワーカー、管理栄養士など多職種が協働して治療にあたっている。
- 摂食障害の専門外来を設置し、医師 3 名が CBT-E や MANTRA、ガイドッドセルフヘルプ等の専門的治療を実施している。
- 入院治療では、高校生以上の患者に対しては指導医 1 名と医員 1 名を 1 つの主治医チームとして、3 チームによる輪番主治医制をとっている。これにより、すべての若手精神科医師後期が満遍なく摂食障害治療を経験できるよう配慮している。中学生以下の患者に対しては、児童精神科医 3 名による主治医チームが対応している。

治療支援実施結果

- 専門外来の担当医を増員し、さらに児童精神科医による児童患者への対応も拡充されたため、外来初診患者が増加した。
- 受診待機期間は減少していると思われるが、正確な集計は行っていない。
- 入院治療の件数は昨年度とほぼ同等である。ただし、今年度に初診した患者の入院件数は増加しており、一方で昨年度以前からの患者の（再）入院が減少した結果としてほぼ同等となっている。
- 入院連携は今年度はじめて実施例ができた。来年度も積極的に実施していく。ただし、拠点病院の精神科全体の入院患者が減少しており、摂食障害患者の入院受け入れが逼迫しづらいため、拠点病院で入院治療を完遂する患者が多い。

対象集計期間：R7.4-R8.3

初診患者数：48人

性別	女性	男性						
	45人	3人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79
	3人	20人	11人	2人	8人	4人	0人	0人
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	UFED	その他
	15人	11人	7人	0人	0人	12人	3人	0人
外来/入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	25人	0人	23人					
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≧
	5人	6人	17人	7人	1人	2人	7人	1人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介				
	36人	4人	3人	5人				

入院件数

延べ入院件数	入院件数のうち 「EDの治療目的」が未確認の件数
39	0

病型

神経性やせ症 制限型	神経性 過食/ 排出型	神経性 過食症	むちゃ 食い症	回避・制 限性食物 摂取症	その他 摂食症
ANR	ANBP	BN	BED	ARFID	OSFED /UFED
15	15	0	0	9	0

入院日数

1～ 30日	31～ 90日	91～ 180日	181～ 365日	366日 以上
8	26	5	0	0

うち加算可能期間

～14日 精神科療入院基本料算出 可能期間	～16日 急性期一般入院基本料 算出可能期間
3	3

入院形態

任意	医療 保護	措置	非精 神科
9	30	0	0

性別

男性	女性	その他
1	38	0

入院時年齢

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-
0	17	11	2	5	4	0	0

罹病期間

0～1年 以内	1～2年 以内	2～3年 以内	3～5年 以内	5～ 10年以 内	10年 以上
9	4	4	4	8	10

摂食障害による自院入院回数

1回 (初回)	2回	3回	4回	5回	6回以 上
20	8	4	4	0	3

入院による身体管理の必要性

有り	無し (外来で も管理 可能)
34	5

入院中の合併症（複数回答可）

なし	抑うつ 症群	双極 症群	不安 症群	強迫 症群	PTSD (トラウ マ関連 疾患)	アルコ ール 依存症	物質依存 症(アルコール 以外)	発達 障害	精神 遅滞	パーソナ リティ 障害	その他 精神 障害	1型 糖尿病	その他 身体 疾患
0	2	0	3	3	0	3	0	7	0	0	2	0	1

退院転帰

軽快	不変	増悪	死亡
38	1	0	0

治療目的を達成して、退院したか

達成	未達成
33	6

他施設からの紹介の有無（紹介後3ヶ月以内の入院）

有り									無し (自院)
小児科	児童・ 思春期 精神科	心療 内科	精神科	内科	婦人科	教育 機関	その他	小計	
2	2	0	8	1	1	0	0	14	25

退院後診療形態

転院 (入院 継続)	転科 (入院 継続)	自院 外来	他院外 来(3ヶ 月以内)	通院 拒否(3ヶ 月以内)
1	1	33	4	1

入院時 BMI（18歳以上）

9未満	9～10 未満	10～11 未満	11～12 未満	12～13 未満	13～14 未満	14～15 未満	15～16 未満	16～17 未満	17～18 未満	18～19 未満	19～20 未満
1	1	0	2	5	3	10	1	1	0	1	0
20～25未 満	25～ 30 未満	30～35 未満	35～40 未満	40以上							
0	0	0	0	0							

退院時 BMI（18歳以上）

9未満	9～10 未満	10～11 未満	11～12 未満	12～13 未満	13～14 未満	14～15 未満	15～16 未満	16～17 未満	17～18 未満	18～19 未満	19～20 未満
0	0	0	0	0	1	3	2	7	2	8	1
20～25未 満	25～ 30 未満	30～35 未満	35～40 未満	40以上							
1	0	0	0	0							

入院時 標準体重比区分（5～17歳）

55%未満	55～65%未満	65～75%未満	75%～100%未満	100%以上
0	3	9	2	0

退院時 標準体重比区分（5～17歳）

55%未満	55～65%未満	65～75%未満	75%～100%未満	100%以上
0	0	1	13	0

6. 研修

研修体制・計画

- 今年度は保健所や地域医療機関にアプローチし、依頼があれば研修を実施可能と周知した。

研修実施結果

- 保健所や地域医療機関からは研修の依頼を受けることができなかった。昨年度は教育領域にアプローチして教育関係者に多数の研修を行っていたため、今年度の県内での研修は昨年度と比べ大きく減少した。
- 隣県の養護教諭から、2年ぶり2度目の研修実施の依頼を受けることができた。
- 長野県の摂食障害治療者から研修実施の依頼をいただき、研修を実施した。
- 富山県摂食障害支援拠点病院および長野県摂食障害支援拠点病院から研修実施の依頼をいただき、3月7日に実施した。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	対象者	内容	実施場所	参加人数
令和7年8月7日	養護教諭	学校における摂食障害の児童生徒への支援について	速星公民館	約50名
令和7年9月27日	医療関係	石川県摂食障害支援拠点病院 3年の取り組み (長野県子どもの摂食症診療研究会)	東京国際交流館プラザ 平成	約30名
令和7年10月19日	医療関係	石川県摂食障害支援拠点病院 3年目の現状 (日本摂食障害学会 学術集会)	明治学院大学 白金キャンパス	約50名
令和8年3月7日	一般	支える人のための摂食障害入門	富山大学附属病院・ Web配信	約30名 (会場) 約170名 (Web)

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

- 拠点病院主催の一般向け講演会を企画し、摂食障害の知識や拠点病院の活動内容を伝えていく。
- 昨年作成した啓発ポスターを更新する。
- 啓発ポスターを保健福祉事務所、精神保健福祉センターや石川県管轄の保健担当者、大学、専門学校、高校、中学校、小学校に配布する。県内の精神科、小児科、婦人科にも配布する。

普及啓発活動実施結果

- 令和7年10月4日に石川県摂食障害支援拠点病院 開設3周年記念講演会を開催した。講師に鈴木高男氏（他県の家族会代表）をお招きし、家族支援に関する講演会を実施した。
- 昨年作成した啓発ポスターを更新した。「相談すると、誰が何をしてくれるのか」を明示した。

【啓発ポスター 更新版】

太っている自分なんて許せない

すぐくっつけて心配だけど、声をかけてもいいのかな？

たくさん食べることをやめられない

食べたくても食べられない

誰かに相談すれば、 きっと一歩を 踏み出せる。

摂食障害は自分では気づきにくく、
相談することで
解決方法を探すことができます。

誰からでも、匿名でも可能なので、
気軽にお電話やインターネットで
ご相談ください。

あなた自身が、あなたの身近な人が、「摂食障害かも？」と思ったら、相談できる場所があります



こんな気持ちで悩んでいる方向けに、診断や治療ではなく、まずは電話やインターネットで相談してもらうことで、専門家から症状や治療について正しい知識を聞き、アドバイスを受けることができます。

石川県摂食障害支援拠点病院
(金沢大学附属病院 神経科精神科内)

問合せ

076-265-2827 (月・水・金 / 9:00~15:00)
インターネットでの相談も受け付けております(随時) ➡



講演会

開催日	対象者	研修内容	実施場所	参加人数
令和7年 10月4日	一般・専門	石川県摂食障害支援拠点病院 3周年記念講演会 摂食障害と向き合う ～支える家族が「できること」～ 講師：摂食障害患者家族会「ポコ・ ア・ポコ」代表 鈴木高男氏	石川県立図書館	約100名

医療機関への訪問

実施日	訪問場所	内容
令和7年11月11日	安田耳鼻咽喉科医院	石川県医師会長に拠点病院の活動内容を周知した
令和7年11月27日	金沢市医師会館	金沢市医師会長らに拠点病院の活動内容を周知した
令和8年1月13日	Web 会議	石川県小児科医会にて拠点病院の活動内容を周知した

普及啓発ポスター・3周年記念講演会案内の配布

普及啓発ポスターおよび3周年記念講演会の案内を下記の配布先に配布した。

配布日	配布先
2025/8	各保健福祉センター 4 施設
2025/8	大学・短期大学 21 校
2025/8	専修学校・各種学校 13 校
2025/8	小児科を有する医療機関 126 施設
2025/8	婦人科を有する医療機関 75 施設
2025/8	精神科を有する医療機関 32 施設
2025/8	県管轄の学校 58 校（高校・特別支援学校など）
2025/8	市町村管轄の学校 287 校（小学校・中学校など）
2025/8	国立・私立学校 12 校
2025/8	市町村教育委員会・教育事務所 24 ヶ所
2025/8	市町村福祉課・健康課 19 ヶ所
2025/8	各種相談機関 48 ヶ所
2025/8	県警察署、弁護士会 13 ヶ所

8. 行政機関との連携

体制・計画

- 石川県障害保健福祉課の担当者と連携し、拠点病院の活動計画を策定し支援を求める。
- 地域の保健所に直接訪問し、拠点病院の活動内容を周知する。

実施結果

- 県の担当者が今年度から交代となっており、拠点病院の活動の意義について説明し理解を求めた。
- 県内の複数の保健所職員と面談し、拠点病院の活動内容を周知した。

連携会議等

開催日	内容	実施場所
令和7年4月21日	石川県障害保健福祉課 担当者2名とミーティング ・顔合わせ ・拠点病院の活動の意義について説明 ・今年度の活動計画について共有	ビデオ通話にて実施

行政機関への訪問

実施日	訪問場所	内容
令和7年5月30日	金沢市駅西福祉健康センター	保健所職員に拠点病院の活動内容を周知した
令和7年6月10日	南加賀保健福祉センター	保健所職員に拠点病院の活動内容を周知した

9. その他の活動

実施体制・計画

- 拠点病院の患者家族を対象に、家族心理教育（家族会）を実施した。
- 地域の内科・小児科・産婦人科医療機関に一斉アンケートを行い、摂食障害の診療経験や連携の要望の有無を調査した。
- 関連病院で勤務する若手の精神科医が拠点病院の医師に直接相談できる体制を整備した。
- 今後、以下のような活動を計画している。
患者家族への支援体制構築
外部機関と連携した事例検討会の実施
外部医療機関を対象とした、治療困難事例に対してのスーパーヴィジョン

実施結果

- 家族心理教育は下記の日程で実施予定となった。
- 医療機関への一斉アンケートでは、回答した医療機関の約 3/4 以上が摂食障害という疾患を認知し、

約 1/4 が一年以内に摂食障害の診療経験を持っているとのことであった。一方で、拠点病院との連携が実施できたと回答した医療機関は 4%に留まっており、今後はより円滑に連携を行なっていただけよう周知やアクセシビリティの向上に努める必要があると考えられた。

- 関連病院の若手医師から、治療に関する相談が数件あった。来年度も同様の体制を継続する。

家族心理教育

実施日	実施場所	内容
第 1 回：令和 8 年 3 月 6 日	金沢大学附属病院	神経性やせ症、神経性過食症の患者家族複数を対象に、2 回 1 セットの集団心理教育を実施した。
第 2 回：令和 8 年 3 月 25 日	金沢大学附属病院	神経性やせ症、神経性過食症の患者家族複数を対象に、2 回 1 セットの集団心理教育を実施した。

10. 考察

拠点病院の治療支援および相談支援の体制は昨年度でほぼ完成されており、大きな変更点はない。相談支援の新規相談件数が開設以来最多となり、月ごとの件数のバラつきも小さいのが本年の特徴である。特定のイベントや広報活動と関連した増加はみられず、また相談経路としてインターネットが、患者の受診状況として摂食障害としての受診をしていない方に関する相談の増加が大きい。以上を踏まえると「これまで摂食障害として受診していなかった方が、インターネットで拠点病院を知り、相談する」という形の相談が急増し相談件数を押し上げたと思われる。現在 google 検索で「摂食障害 相談」と検索すると当院は 1 ページ目に表示されるため、このようなインターネットの検索アルゴリズムの影響で相談数が増加した可能性が高い。一方で、治療支援においては外来初診患者の人数が外来初診予約の枠数で規定されるため、地域の実際の受診ニーズの増減を反映できているとは言い難い。今後、初診待機日数（紹介状作成日から初診日までの日数）を算出し、その経時的変化を調査するなどして検証する必要がある。ただし、予約枠に左右されにくい入院患者数については増加がみられておらず、また筆者が個人的に行った県内精神科医療機関複数への聞き取りでも摂食障害患者の増加は実感されていないとのことであった。以上より、本年の当県の状況として「拠点病院への相談者数はインターネットからの相談を中心に大きく増加しているが、実際に精神科を受診する摂食障害患者はさほど増加していない」という仮説が成り立つ。インターネット相談だけでは相談者を十分に受診に繋げられていない可能性があり、より受診につながりやすい経路の開拓、発展のための対策が必要と考えられる。対策の一環として本年度の中盤に県内の内科・小児科・産婦人科を対象として摂食障害診療の経験や連携の要望に関するアンケートを実施し、それを踏まえて年度後半に石川県内の内科・小児科・産婦人科の会合にて拠点病院の存在と役割を周知した。

本年の新たな活動としては、家族心理教育（家族教室）を初めて実施した。これに先駆けて今年度の周年講演のテーマを「家族ができること」とし、家族会の主催者に演者としてご登壇いただいた。この講演は例年にないスピードで参加予約者数が伸び、開催後の参加者アンケートでも活気のある自由記述コメントが多数みられた。患者家族の「治療に関わる当事者」としての関心の強さがあらためて実感され、家族への支援として家族心理教育などの活動を継続的に行っていくことの必要性が実感された。

9. 福井県摂食障がい支援拠点病院活動報告書

令和 7 年度

福井県摂食障がい支援拠点病院

Fukui Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和7年度 福井県摂食障がい支援拠点病院 運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
福井県摂食障がい支援拠点病院	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	910-1193	福井県吉田郡永平寺町 松岡下合月 23-3	0776-61-3111

URL

福井県摂食障がい支援拠点病院：<https://fukui-edsupport.jp/>

摂食障がい支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
小坂 浩隆	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	教授
上野 幹二	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	講師
眞田 陸	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	助教
石橋 知明	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	助教
幅田 加以瑛	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	助教
神谷 拓	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	医員

摂食障がい治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
牧野 拓也	公認心理師 臨床心理士
水野 有香	公認心理師 臨床心理士
中道 秀尚	公認心理師 臨床心理士
高木 大輔	公認心理師

2. 要旨

令和 7 年度は、福井県摂食障がい支援拠点病院として、相談支援・治療支援・関係機関連携の継続運用を図るとともに、県民に対する普及啓発および当事者・家族支援の充実に重点を置いて取り組んだ。特に、Web 発信の継続と、図書館等の身近な場を活用した情報提供・啓発活動を展開し、相談につながる入口の拡大を図った。

〔協議会〕

摂食障がい対策推進協議会を開催し、医療・行政・教育等の関係機関とともに、県内の支援状況の共有、地域課題の整理、今後の取り組みの方向性について意見交換を行った。あわせて、当事者・家族等のニーズを把握し、支援の実装に反映する体制づくりを進めた。

〔相談支援〕

コーディネーター（公認心理師等）による電話相談を実施し、本人・家族・関係機関からの相談に対応した。受診先の整理・紹介、受診につなぐ支援、家庭・学校等における対応の助言、緊急性が疑われる場合の受診勧奨等を行い、地域の入口支援としての役割を担った。

〔治療支援〕

多職種チームによる包括的治療を継続するとともに、連携医療機関との情報共有や症例相談等を通じて、地域での治療提供体制の支援を行った。また、専攻医等を対象としたスーパービジョンや症例検討の機会を設け、人材育成の取り組みも進めた。

〔研修〕

医療関係者に加え、教育機関等の関係者を対象とした研修の実施、学校現場への訪問を行った。研修内容は摂食症の基礎知識、早期対応の視点、相談窓口の活用方法、関係機関連携の進め方等を中心とし、教育分野との連携強化を図った。

〔普及啓発活動〕

Web サイトでの「困ったコラム」連載を継続するとともに、県立図書館等における図書特集・パネル展示、大学内での展示やイベント等を活用し、県民が日常的に情報へアクセスできる機会を拡充した。あわせてリーフレットの常設先の拡大等により、当事者・家族が相談先にたどり着きやすい環境整備を進めた。

〔当事者・家族支援〕

自助グループや家族会等からの要望を踏まえ、当事者および家族を対象とした座談会を開催した。参加者の声を把握し、支援のあり方や情報提供の工夫に反映する取り組みを開始した。今後も、当事者・家族の視点を踏まえた支援の充実とネットワーク強化を継続し進めていく。

以上のとおり、令和 7 年度は、相談・治療・連携の基盤を維持しつつ、県民向け啓発の強化と当事者・家族支援の具体化を進め、地域における摂食症支援体制の充実に向けた取り組みを前進させた。

3. 摂食障がい対策推進協議会の設置

摂食障がい対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	小坂 浩隆	福井大学医学部附属病院 神経科精神科 教授	摂食障がい治療を専門的に行なっている医師
委員	眞田 陸	福井大学医学部附属病院 神経科精神科 助教	
委員	幅田 加以瑛	福井大学医学部附属病院 神経科精神科 助教	
同上	村田 哲人	福井県立病院こころの医療センター センター長	
同上	杉坂 夏子	福井厚生病院ストレスケアセンター センター長	
同上	松浦 智恵	福井県総合福祉相談所 所長	精神保健福祉センター
同上	奥島 華純	福井健康福祉センター・医幹	保健所
同上	—	—	摂食症患者
同上	—	—	摂食症患者家族
同上	前川 昭彦	福井県健康福祉部 障がい福祉課 課長	県
同上	中嶋 美佳	福井地区保健管理担当職会議・看護師	摂食症対策に資するもの
同上	松枝 範恭	福井県教育委員会・保健体育課 課長	

摂食障がい対策推進協議会

	開催日	議 題
第 1 回	R7/9/4 (WEB 開催)	1. 令和 7 年度摂食障がい支援拠点病院の支援状況について 2. 事前にいただいたご意見・ご要望について意見交換 3. 摂食症支援の今後について
第 2 回	R8/3/7 (対面開催)	1. 令和 7 年度事業実績報告 2. 令和 8 年度以降の取り組みについて

4. 相談支援

相談体制

- ・コーディネーター（公認心理師）3名による電話での相談を実施する。
- ・相談対応の標準化と継続支援を目的として、コーディネーター間での情報共有・連携を行い、複数回相談においても一貫性のある対応が可能な体制を運用する。
- ・窓口開設時間：9時～16時30分（月・水・金曜日）
- ・相談内容および緊急度を踏まえ、摂食症救急対応マニュアルに準拠して、医療機関の案内を行う。

相談支援結果

令和7年度の相談件数は、新規47件、延べ65件であった。相談者の内訳では、本人および家族からの相談が中心であり、特に10代に関する相談が多くみられた。相談内容としては、受診先に関する問い合わせ、症状や対応方法に関する相談、家族としての関わり方に関する助言依頼などが多かった。若年層では身体的評価や発達面も含めた多面的な判断が必要となるケースがあり、小児科との連携が必要な事例もみられた。今後は、こうした若年患者への対応をより円滑に行うため、小児科をはじめとする関係診療科との連携を強化し、よりよい治療支援体制の構築を進めていく必要がある。

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
49	65

居住地域（新規件数）n= 49

管轄都道府県内	管轄都道府県外	不明	ほっとライン	計
30	13	6	0	49

相談者の患者との関係（新規件数）n= 49

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
17	2	23	1	1	0	0	5	0	0	49

相談対象患者の年齢（新規件数）n= 49 平均年齢: 22.9 SD= 11.9 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	計
0	18	9	1	3	3	0	0	34

相談対象患者の性別（新規件数）n= 49

女性	男性	その他	不明	計
44	3	0	2	49

相談対象患者状態（新規件数）n= 49

やせ	食事制限	過食	排出・代償行動					精神・行動症状					その他
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	
21	18	18	12	0	0	3	0	0	2	0	1	1	4

相談対象患者属性（新規件数）n= 49

学生				社会人			その他	不明	計
小	中	高	大/専	就労中	無職	主婦/主夫			
7	8	6	4	6	6	1	0	11	49

摂食障害での受診状況（新規件数） n= 49

受診中	入院中	中断中	未受診	ED以外で 受診中	その他	不明	計
18	3	2	17	7	0	2	49

相談経路（延べ件数） n= 65

電話	メール	面談	その他	計
65	0	0	0	65

#REF!

相談が個別症例および患者関連以外の件数

個人	専門家
0	2

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ（新規件数） n= 49

インター ネット	紹介				メディア				ポスター・ ちらし	その他	不明	計
	機関			その他・ 不明	テレビ	新聞	自治体・ 広報	その他・ 不明				
	医療	行政	教育									
20	1	1	0	1	0	0	1	0	2	1	22	49

相談内容（延べ件数） n= 65

疾患相談	有り	対応相談			受診相談	支援拠点 病院業務 問い合わせ	その他	コロナ 関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
25	19	17	0	6	35	0	9	0

対応内容（延べ件数） n= 65

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	支援拠点 病院業務 問い合わせ	その他
	拠点病院	協力 病院	その他 病院	公共 機関		疾患 知識	治療 受診	資料	社会 資源			
28	15	9	9	0	22	9	12	1	3	27	3	8

医療やシステムへの不満・課題（複数回答）

有り	医療への不満・要望有り					
	専門性	改善無し	対話不足	嫌な体験	治療関係	システム
7	1	2	0	2	2	1

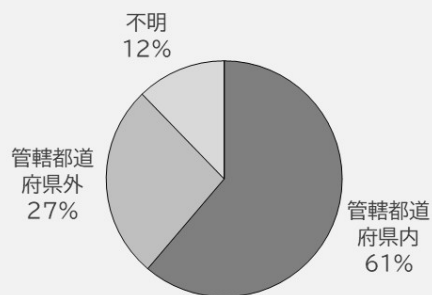


図1 相談者の居住地域

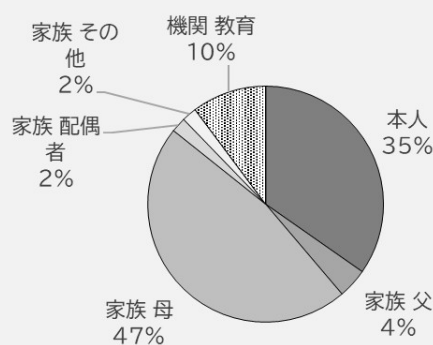


図2 相談者

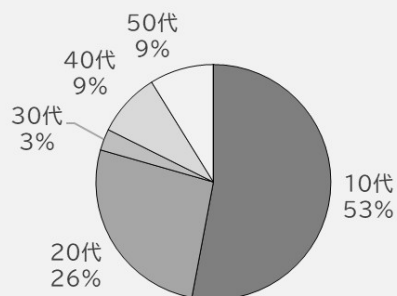


図3 患者の年齢

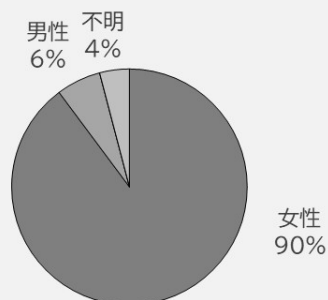
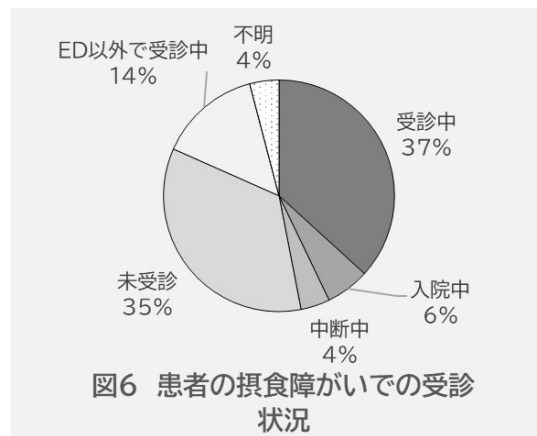
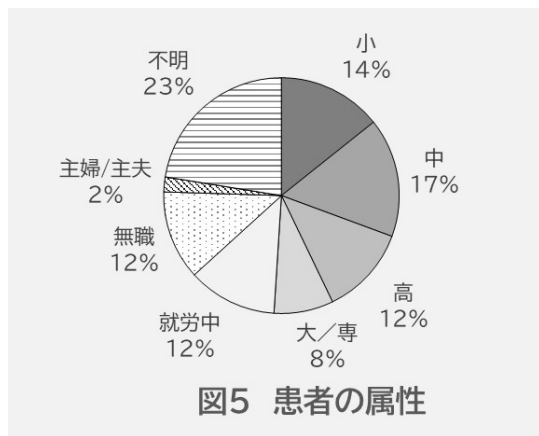


図4 患者の性別



5. 治療支援

治療体制・計画

- ・治療にあたっては、**Family Based Treatment (FBT)** やモーズレイ式神経性やせ症治療等の考え方を踏まえ、本人への介入に加えて家族支援を重視した支援を実施している。
- ・支援拠点病院は、大学医学部附属病院神経科精神科として、医師、心理師、看護師、精神科ソーシャルワーカー、管理栄養士など多職種で連携しながら治療支援を行っている。
- ・県内の連携医療機関との連携を継続し、必要に応じて症例相談・助言等を通じて地域の治療提供体制を支援する。

治療支援実施結果

令和7年度の初診患者数は32人であった。なお、本年度より集計方法を変更したため、前年度と比較して人数は大幅に増加している。年齢別では19歳以下が全体の68.8%を占め、若年層の受診が多いことが今年度の特徴であった。診断別ではANRとARFIDがともに12人で最も多く、若年層を中心とした多様な病態への対応が求められた。支援拠点病院では、家族支援を重視した専門的治療を基盤としつつ、症例に応じて連携医療機関や関係機関と情報共有を行いながら治療支援を実施した。若年患者では、身体管理や発達面への配慮を要するケースもあり、小児科等の関係診療科との連携を含めた支援体制の充実が必要である。また、入院を要する症例についても、退院後を見据えた継続的な支援の視点が重要であり、外来での継続支援の充実に向けた取り組みを開始した。今後は、地域の実情に応じた継続支援体制の整備を進め、外来フォローを含む治療支援の充実を図ることが課題である。

初診患者数 (R7.4-R8.3)

初診患者総数：32人

性別	女性	男性							
	32	0							
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-			
	3	15	11	1	2	0			
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	ARFID	その他			
	12	6	1	0	12	1			
BMI	<8	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≦
	0	2	6	10	2	1	4	7	0
外来/入院	外来のみ	入院のみ	外来・入院						
	21	3	8						
治療経過	治療中	治療中断	治療終了	紹介					
	19	5	1	7					

入院診療状況

入院件数

延べ入院件数	入院件数のうち「EDの治療目的」が未確認の件数
21	0

病型

神経性やせ症					
	制限型	過食/排出型	神経性過食症	むちゃ食い症	回避・制限性食物摂取症
	ANR	ANBP	BN	BED	ARFID
	9	1	1	0	7
					OSFED/UFED
					3

入院日数

1～30日	31～90日	91～180日	181～365日	366日以上
3	11	2	5	0

うち加算可能期間

～14日 精神科入院基本料算出可能期間	～16日 急性期一般入院基本料算出可能期間
1	1

入院形態

任意	医療保護	措置	非精神科
4	17	0	0

性別

男性	女性	その他
1	20	0

入院時年齢

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-
0	14	7	0	0	0	0	0

罹病期間

0～1年以内	1～2年以内	2～3年以内	3～5年以内	5～10年以内	10年以上
9	3	0	4	1	0

摂食障害による自院入院回数

1回(初回)	2回	3回	4回	5回	6回以上
17	1	0	2	0	1

入院による身体管理の必要性

有り	無し (外来でも管理可能)
21	0

入院中の合併症（複数回答可）

なし	抑うつ 症群	双極 症群	不安 症群	強迫 症群	PTSD (トラウ マ関連 疾患)	アルコ ール 依存症	物質依存 症(アルコール 以外)	発達 障害	精神 遅滞	パーソ ナリティ 障害	その他 精神 障害	1型 糖尿病	その他 身体 疾患
7	2	1	2	0	1	0	0	8	3	0	2	0	1

退院転帰

軽快	不変	増悪	死亡
20	1	0	0

他施設からの紹介の有無（紹介後3ヶ月以内の入院）

有り									無し (自院)
小児科	児童・ 思春期 精神科	心療 内科	精神科	内科	婦人科	教育 機関	その他	小計	
4	1	3	3	0	1	0	1	13	8

退院後診療形態

転院 (入院 継続)	転科 (入院 継続)	自院 外来	他院外 来(3ヶ月 以内)	通院 拒否(3ヶ 月以内)
1	1	16	2	1

入院時 BMI（18歳以上）

9未満	9～10 未満	10～11 未満	11～12 未満	12～13 未満	13～14 未満	14～15 未満	15～16 未満	16～17 未満	17～18 未満	18～19 未満	19～20 未満
0	0	0	0	0	3	1	1	0	0	1	0
20～25未 満	25～30 未満	30～35 未満	35～40 未満	40以上							
2	0	0	0	0							

治療目的を達成して、退院したか

達成	未達成
16	5

退院時 BMI（18歳以上）

9未満	9～10 未満	10～11 未満	11～12 未満	12～13 未満	13～14 未満	14～15 未満	15～16 未満	16～17 未満	17～18 未満	18～19 未満	19～20 未満
0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	1	2
20～25未 満	25～30 未満	30～35 未満	35～40 未満	40以上							
1	0	0	0	0							

入院時 標準体重比区分（5～17歳）

55%未満	55～65%未満	65～75%未満	75～100%未満	100%以上
0	3	6	4	0

退院時 標準体重比区分（5～17歳）

55%未満	55～65%未満	65～75%未満	75～100%未満	100%以上
0	0	0	12	1

6. 研修

研修体制・計画

- ・県内の精神疾患に関わる医療関係者に対し、研修を実施する。
- ・今年度は更に教育関係者を始めとした、多職種に向けての摂食症の研修を実施する。
- ・研修体制にあることを関係者に周知する。

研修実施結果

関係職種・関係領域への研修は拡充し、福井県公認心理師・臨床心理士協会会員（スクールカウンセラーを含む）を対象とした研修を実施し、支援拠点病院の役割、相談対応のポイント、地域連携等について共有した。さらに、北陸地方の大学保健管理関係者を対象とした研修を実施し、摂食症の基礎、拠点病院の機能、大学における支援の役割、学生への関わり方や学内外連携の進め方等について情報提供を行った。

また、学校関係者向けには研修会を実施できる体制を整備し、希望のある学校への出前研修等を通じて、摂食症の疾患理解、学校現場における早期発見の視点、本人・家族への関わり方（接し方）や声かけのポイント、相談窓口の活用方法および医療につなぐ際の連携手順等について共有した。これにより、早期支援および医療につなぐための連携体制の強化を図った。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	種別	対象者	実施場所	参加人数
R7.06.04.	研修会	医療関係者	福井県立病院 (対面)	47
R7.11.04.	研修会	大学保健関係者	福井県立大学	29
R7.12.16	研修会	学校関係者	鳴鹿小学校 (福井県坂井市)	4
R08.1.18	研修会	福井県公認心理師・ 臨床心理士協会会員/ 福井県スクールカウンセラー	福井大学医学部附属病院	31

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

- ・摂食症への理解促進を図る為、県民向け公開講座を実施する。
- ・県民がアクセスしやすい場所にリーフレットを設置し、摂食症の情報提供を強化する。
- ・公式 Web サイトの運用更新を行い、支援資源やイベント等の情報を随時更新する。
- ・「困ったコラム」の連載をする。

普及啓発活動実施結果

- ・情報発信として、福井大学医学部附属病院情報誌への掲載に加え、支援拠点病院開設 2 周年を記念し、日本摂食症学会理事 山田恒先生を招いた記念講演会を開催した。
- ・中高生等を対象とした大学での啓発企画を実施し、若年層への周知にも取り組んだ。
- ・摂食症について、拠点病院についてなど掲示用にパネルを作成した
- ・福井県立図書館における図書特集・パネル展示をはじめ、大学内での展示やイベントでのパネル展示等を通じ、県民が日常的に情報に触れられる機会を拡充した。
- ・Web サイト上での「困ったコラム」連載を継続し、当事者・家族を含む県民に対して分かりやすい情報提供を行った。
- ・周知・情報導線の整備として、リーフレットの常設先を拡大した。
- ・県立図書館にて食べることや摂食症関連の書籍コーナーを設置して摂食症理解や拠点病院の認知向上を図った。
- ・新聞等のメディアを通じた情報発信により、支援資源の周知と啓発に努めた。

講演会・イベント

開催日	種別	対象者	内容	実施場所
R7.10.11.	開設 2 周年記念講演会	当事者・家族 一般県民 医療関係者	摂食障がい（摂食症）って どうしたら治るの？	福井県立図書館
R7.10.19.	福大未来キャンパス	中学生・高校生	アニメやマンガで学ぶ “こころ”の世界	福井大学
R7.10.30-11.28	ミニパネル展示	福井大学 教職員・学生		福井大学 CDI ラ ボ
R7.10.31-12.03.	図書特集・パネル展示	一般県民	“楽しく食べる”を 取り戻す本棚	福井県立図書館
R7.11.30.	パネル展示	一般県民	Another Morning Festival 2025	福井大学
R8.3.7.	第 3 回県民公開講座	当事者・家族 一般県民	楽しく食べるを取り戻す - 理解から日々の工夫へ -	フェニックスプラ ザ

リーフレット新規常設先

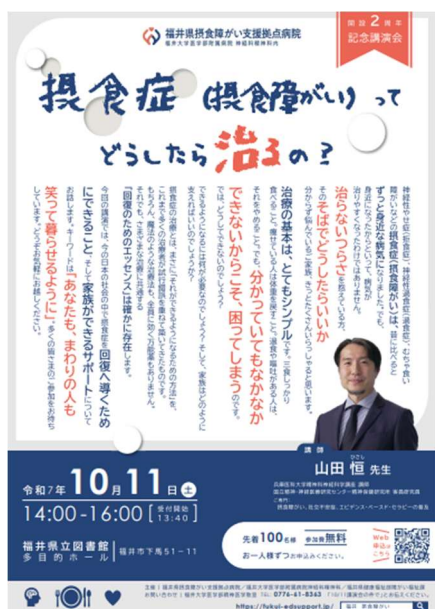
送付日	周知先
R7.9 月～	福井県立図書館
R7.12 月～	若狭図書学習センター
R7.9 月～	福井市立図書館

メディア関係

開催日（発行日、オンエア）	メディア	タイトル
R7.5.（発行）	福井大学医学部附属病院 情報誌「Frontier」座談会	「摂食障がい支援拠点病院」の役割
R7.08.28.	福井新聞	県内の自助グループ「ゆっくり」仲間の存在 支えに 「周囲理解を」進む低年齢化 摂食障害の今

困ったコラム

公開日	回	タイトル
R7/4/23	第4話	運動がやめられない?!～頑張りすぎの正体～
R8/3/6	第5話	食べることは栄養補給だけじゃない～摂食障がいの回復とは～



開設2周年記念講演会



図書特集・パネル展示



困ったコラム 第4話



困ったコラム 第5話

8. 行政機関との連携

計画

- ・支援拠点病院協議会（摂食障がい対策推進協議会）を開催し、関係機関との情報共有および課題整理、今後の取り組みの方向性について協議する。
- ・連携医療機関に対して、必要に応じて症例相談や助言の機会を設け、地域における治療支援の充実と

均てん化を図る。

- ・県民公開講座を開催し、当事者・家族を含む県民に対して、摂食症に関する正しい理解の促進と相談先の周知を行う。
- ・支援拠点病院 Web サイトおよびリーフレット等を活用し、相談窓口や支援資源に関する情報の周知・啓発を継続する。

実施結果

- ・2周年記念講演において、行政機関との連携を図った。
- ・令和7年9月および令和8年3月に地域協議会を開催し、行政のニーズ把握に努めた。
- ・地域協議会において、家族会や自助グループ等からの要望を聴取する機会が得られた。
- ・上記要望を受け、今年度は当事者・家族を対象とした座談会を計2回開催した。

連携会議等

開催日	対象	内容	実施場所
R7/9/4	事務局	1. 福井県摂食障がい支援拠点病院の支援状況について 2. ご意見・ご要望について意見交換 3. 摂食症支援の今後について	WEB 開催
R8/3/7	事務局	1. 令和7年度事業実績報告 2. 令和8年度以降の取り組みについて	福井フェニックスプラザ

9. その他の活動

実施体制・計画

- ・支援拠点病院としての診療・相談支援の質向上を目的に、関係学会・研究会への参加や発表を通じて知見の整理・共有を行い、職員のスキルアップを図る。
- ・摂食症診療において課題となりやすい緊急時対応や身体科を含む多職種・多機関連携について、院内外の関係者との情報共有を進め、連携強化に資する取り組みを行う。

実施結果

- ・関係学会・研究会において、摂食症に関する臨床・教育体制、地域拠点病院の取り組み、研究成果等について発表を行い、知見の普及と関係者間の情報共有を図った。
- ・県内の子どもに関わる関係者が参加する研究会において、摂食症症例の事例検討に参画し、ディスカッサーとしてコメントを行った。
- ・臨床においては、身体的管理を小児科と連携して実施し、その後に精神科へ転科のうえ治療を継続するなど、院内における身体科—精神科連携を通じた切れ目のない支援を行った。

学会

開催日	名称	タイトル・内容
R7.06.19-21.	日本精神神経学会	「摂食症と神経発達症」 「福井大学精神医学における摂食症臨床と教育体制」

R7.10.03.	福井子どものこころの臨床研究会	摂食症の事例検討
R7.10.18-19	日本摂食症学会	「福井県摂食障がい支援拠点病院の取り組みと今後の展望」 「神経性やせ症におけるボディーイメージの知覚的・感情的側面の変化：治療前後と健常群との比較」 「ポストパンデミックにおける若者の身体・心理的健康の変容： 地方大学新入生の検討」
R7.11.13-15.	日本児童青年精神医学会	「脳神経栄養因子（BDNF）は、神経性やせ症を解明するか」

10. 考察

令和7年度は、支援拠点病院としての基本機能（相談支援・治療支援・地域連携）を安定的に運用しつつ、県民に対する普及啓発と、当事者・家族支援を進めた年度であった。特に、図書館等の身近な公共空間を活用した情報提供や、Web 連載の継続を通じて、摂食症に関する理解促進と相談導線の整備を進めた点は、未受診段階や支援未導入段階にある当事者・家族にとって、相談先にたどり着きやすい環境づくりのきっかけになったと考えられる。

相談支援では、本人・家族に加え、教育機関等の関係者からの相談にも対応し、受診先の紹介、受診につなぐ支援、家庭・学校での関わり方の助言、緊急性が疑われる場合の受診勧奨等を行った。相談内容は多様であり、支援調整が求められる場面がある。こうした相談への対応は、拠点病院が地域の「入口」として機能するために重要であり、今後も継続的な体制維持と、関係機関との連携強化が必要である。

治療支援においては、多職種による包括的治療を基盤としつつ、オンライン症例相談や外来スーパービジョン等を継続的に実施できる体制の運用を継続した。これは、若手医師の育成や診療の質の均てん化に資するだけでなく、地域の連携医療機関との協働を支える基盤となりえる。

研修については、医療関係者のみならず、北陸地方の大学保健管理関係者や学校関係者を対象とした研修を実施し、疾患理解、早期発見の視点、本人・家族への関わり方、相談窓口の活用、医療につなぐ連携手順等を共有した。学校現場へのアウトリーチは、未受診の段階で支援が必要となるケースに接点を持つ手段として重要であり、今後も希望校への支援を継続し、地域の教育・保健資源と医療の連携を強化する必要がある。

当事者・家族支援については、家族会・自助グループ等の要望を踏まえた座談会を開催し、当事者・家族の声を把握し支援に反映する取り組みを開始できた。摂食症支援は長期化しやすく、家族の負担感や孤立感が強まりやすいことから、医療機関との連携だけでなく、当事者・家族が安心して語れる場の確保や地域資源との橋渡しを継続することが望まれる。

今後の課題としては、①未受診・受診中断にあるケースの早期支援（入口支援）の強化、②教育機関等からの相談を含む地域連携の標準化（相談から受診・支援導入までの導線の明確化）、③身体科を含む院内外連携のさらなる整備、④普及啓発活動の継続と到達対象の拡大、が挙げられる。これらに対し、協議会等で得られたニーズを踏まえながら、相談支援・研修・啓発・当事者家族支援を相互に連動させ、県内の支援ネットワークの強化と支援の均てん化を進めていくことが重要である。

10. 長野県摂食障がい支援拠点病院活動報告書

令和 7 年度

長野県摂食障がい支援拠点病院

Nagano Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和7年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
長野県摂食障がい支援拠点病院	信州大学医学部 附属病院	390-8621	松本市旭 3-1-1	0263-37-2637

URL

長野県摂食障がい支援拠点病院：<https://edsupport-nagano.jp/>

摂食障がい支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
鷲塚 伸介	信州大学病院 精神科	教授
公家 里依	信州大学病院 子どものこころ診療部	准教授
渡邊 純	信州大学病院 精神科	助教(異動のためR8.1月末まで)
横塚 紗永子	信州大学病院 精神科	助教(R8.2月より)
岩切 啓太	信州大学病院 精神科	医師(R8.2月より)
吉澤 智也	信州大学病院 精神科	医師(R8.2月より)
児島 佳代子	信州大学病院 子どものこころ診療部	公認心理師
倉橋 佳那	信州大学病院 子どものこころ診療部	公認心理師
濱本 緑	信州大学病院 精神科	公認心理師

摂食障がい診療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
近藤 陽子	看護師

深井 ゆか	事務
-------	----

2. 要旨

長野県摂食障がい支援拠点病院として、長野県から委託を受け信州大学医学部附属病院に令和 7 年 8 月 1 日に設置された。

摂食障がい患者や関係者への相談支援、急性期摂食障害患者への対応、関係機関との連携、対策推進協議会の運営、県民に対する摂食障害の普及啓発を軸とした事業を展開し、長野県における摂食障がい医療体制の構築を目指し活動している。

「協議会」

摂食障がい対策推進協議会を令和 8 年 3 月 17 日対面と web のハイブリットで開催した。

「相談支援」

コーディネーター1名、事務員1名の体制をとっている。ホームページに問い合わせフォームを掲載し、コーディネーター(看護師)によるメール相談を週3日受けている。県内在住者の相談件数は毎月10件前後見られており、県内の協力医療機関への受診を促している。

「治療支援」

長野県内医療機関における摂食障がい診療体制の実態把握調査を県疾病・感染症対策課により令和 7 年 6 月から実施した。

県疾病・感染症対策課と連携し、摂食障害診療の更なる充実を図るため、医療機関による入院受け入れの促進及び病院間の診療ネットワーク体制の整備を目的として摂食障害医療ネットワーク促進事業の構築を目指している。

「研修」

医療者向けの研修として、「長野県子どもの摂食症診療研究会」を年2回開催した。また一般者向けとして富山県と合同の研修会を3月7日にハイブリッドで開催した。

養護教諭研修を11月18日県疾病・感染症対策課で行い、講師として拠点病院の医師を派遣して行った。

「普及啓発活動」

現在、摂食障がい支援拠点病院専用ホームページの開設準備、リーフレットの作成を行っており完成後、情報発信を行っていく。

3. 摂食障がい対策推進協議会の設置

摂食障がい対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	鷲塚 伸介	信州大学医学部精神科 教授	学識経験者
委員	公家 里依	信州大学医学部附属病院子どものこころ診療部 准教授	
同上	渡邊 純	信州大学医学部附属病院精神科 助教	摂食障害治療を専門的 に行なっている医師
同上	福山 哲広	信州大学医学部附属病院小児科 准教授	
同上	丸山 史	諏訪赤十字病院精神科	
同上	遠藤 謙二	千曲荘病院精神科 (県精神科病院協会会長)	
同上	鷲塚 輝久	東口メンタルクリニック (県精神科診療所協会会 長)	
同上	森 浩二	長野県医師会 総務理事	
同上	萩原 徹也	長野県精神保健福祉センター 所長	県精神保健福祉セン ター
同上	長瀬 有紀	松本保健福祉事務所 所長	県保健福祉事務所
同上	〇〇	-	摂食障害患者
同上	〇〇	-	摂食障害家族
事務局	鈴木 三千穂	長野県健康福祉部疾病・感染症対策課	
	中島 広介		
	山崎 夏季		
	近藤 陽子	信州大学医学部附属病院	
	深井 ゆか	信州大学医学部附属病院	

摂食障がい対策推進協議会

	開催日	議 題
第 1 回	令和 8 年 3 月 17 日 (ハイブリッ ト開催)	1. 令和 7 年度事業実績報告 2. 長野県摂食障がい対策における取組みについて 3. 長野県摂食障がい令和 8 年度の展望

4. 相談支援

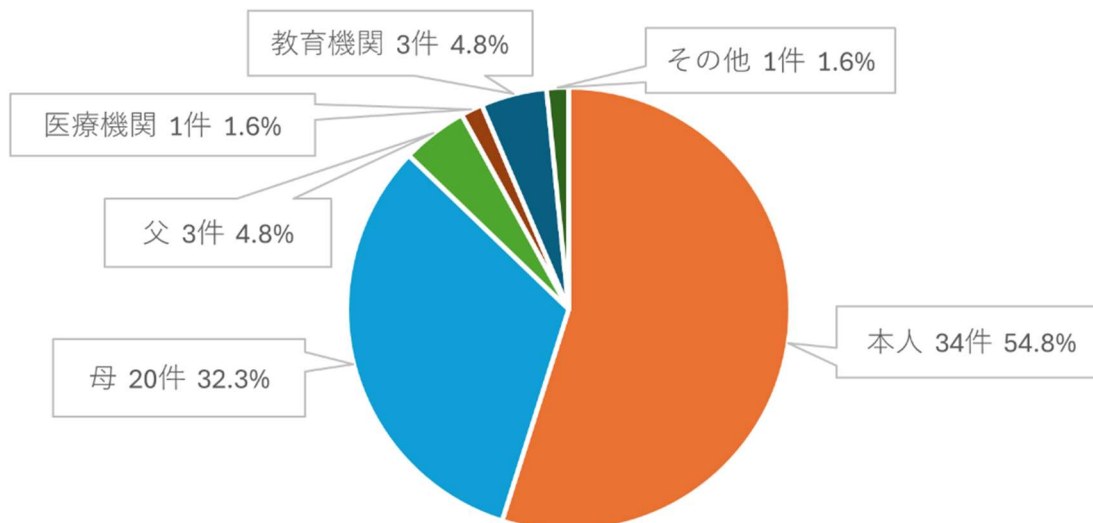
相談体制

- ・令和7年8月より相談業務を開始した。
- ・コーディネーター（看護師）1名によるメール相談を行っている。
- ・開設日：（火・水・金曜日）9時～17時。
- ・信州大学医学部精神医学教室と子どものこころの発達医学教室のホームページに問い合わせフォームを掲載し、メールを受けた日から直近の開設日で回答している。
- ・ホームページに協力病院一覧を掲載し、相談者への紹介と受診を促している。

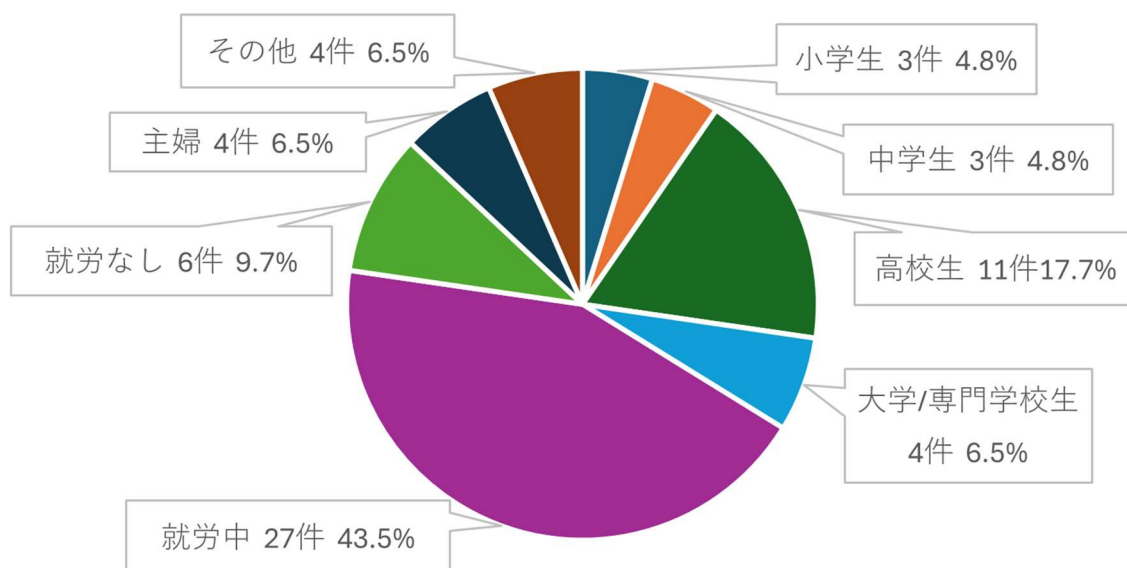
相談支援結果

- ・令和7年8月から令和8年3月までの新規相談は62件だった。
 - ・相談はすべて県内者からのものであり、県外者の相談はみられなかった。
 - ・相談事業開設から令和8年3月まで月毎相談件数は10件前後となっている。
- 本人からの相談が54.8%、母から子どもの相談が32.3%、父から子どもについての相談は4.8%、その他として病院ソーシャルワーカーから1件、養護教諭から3件であった。
- ・相談対象者は93.5%が女性であった。年齢層は社会人(就労中)が多かった。開設当初は摂食障害で通院中の相談者の割合が多かったが、10月以降未受診者の相談件数が増加している。
 - ・相談内容として、受診可能な医療機関に関する問い合わせを含めた「受診に関すること」が58.1%、「疾患について教えてほしい」が33.9%、「拠点病院の治療方針について」の問い合わせ等があった。
 - ・摂食障害で通院中の相談者には通院先の主治医への相談を促し、未受診者には近医を受診し紹介状の作成の依頼、摂食障害診療一覧の医療機関への受診を促している。
 - ・また、長野県では精神保健福祉センターと県保健福祉事務所での電話相談を行い、地域別対応を行った。全体で18件の新規相談が見られた。対象年齢は20歳から29歳が最も高く全体の3割を占めていた。相談者の受診状況は摂食障害で受診中が全体の7割を占めた結果となっていた。相談者への対応として拠点病院の紹介、その他の医療機関を紹介、社会資源等の情報提供が行われた。

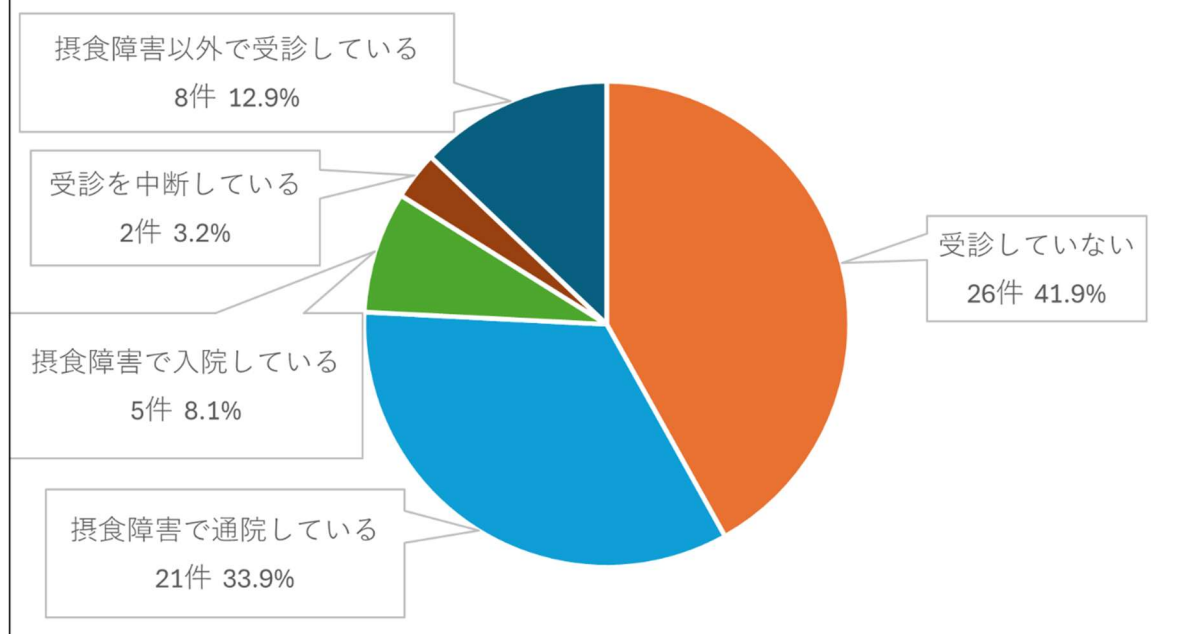
拠点病院への相談件数と相談者の属性



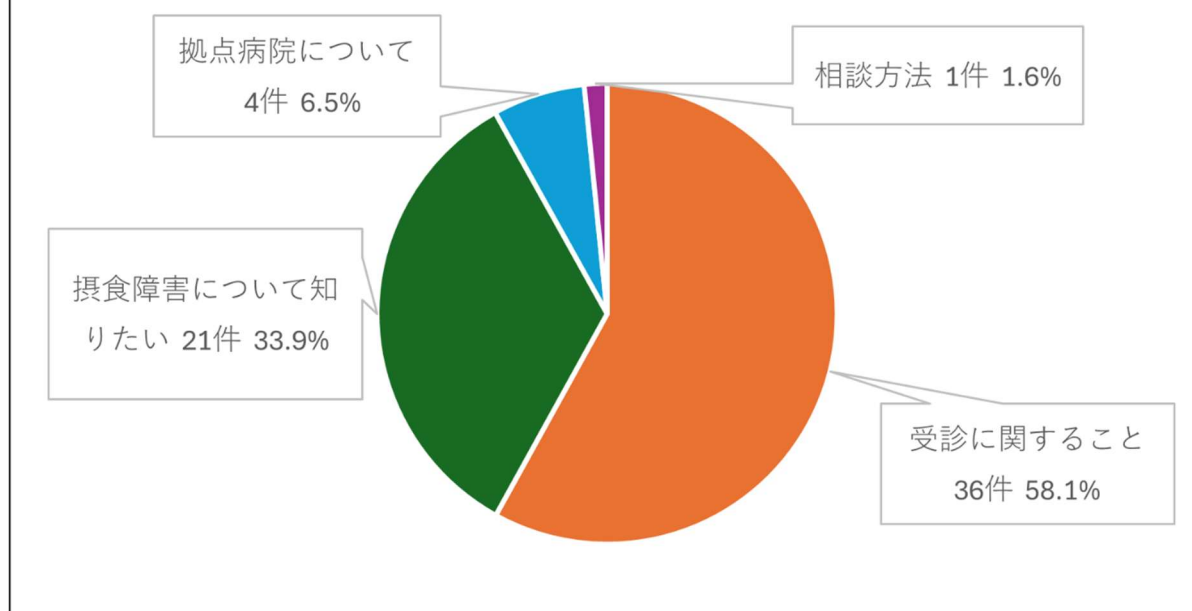
相談対象者の属性



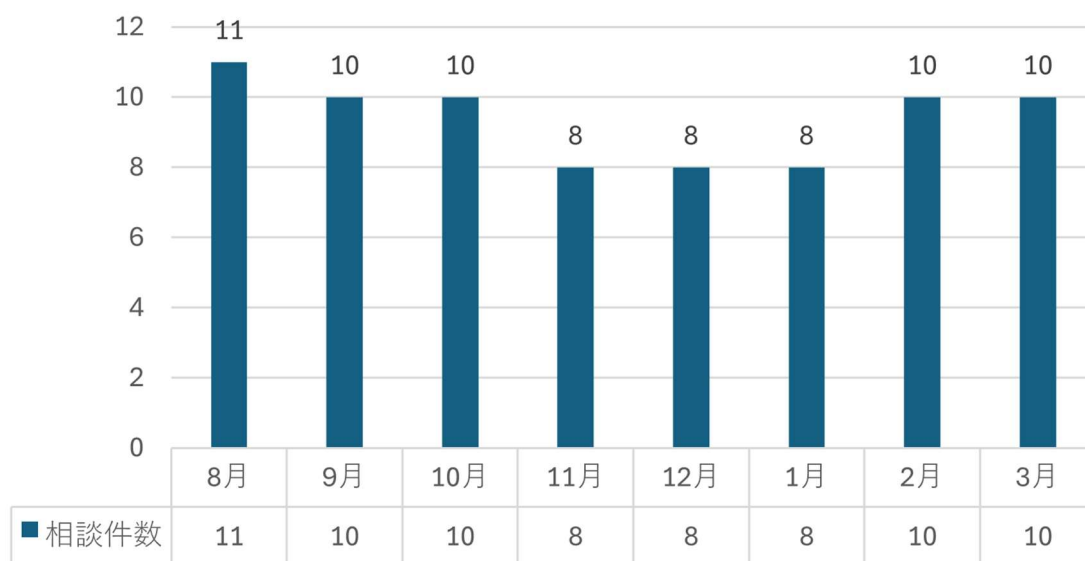
相談対象者の受診状況と割合



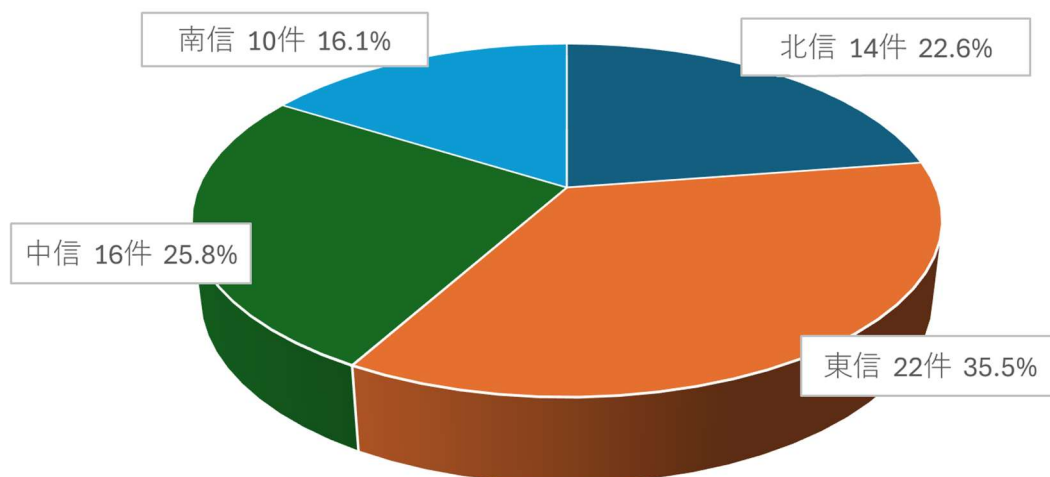
相談内容別の件数と割合



R7年度 拠点病院への月別相談件数



拠点病院の地域別相談件数と割合



5. 治療支援

治療体制・計画

- ・精神科、子どものこころ診療部医師 4 名。
- ・病状に応じて患者を診療できるような医療機関の連携体制を構築するために、医療機関向けに研修や適宜連携カンファレンス、連携会議などを行い、患者を診療できる医療機関をさらに増やす。

長野県内医療機関における摂食障害診療体制の実態把握調査

- ・現在摂食障害治療を行っているか、今後診療可能な医療機関を把握し、必要な支援を行うために県と合同で医療連携実態調査を実施。県内の精神科、心療内科、小児科を有する医療機関 429 施設に送付、194 の施設から回答を得た。

長野県内医療機関における摂食障害診療体制の実態把握調査を県疾病・感染症対策課により令和 7 年 6 月から実施した。

【目的】県内の摂食障害診療の実態把握と、拠点病院との医療連携を行う意思の有無について把握する

【対象】長野県内の精神科、心療内科、小児科、を有する医療機関 429 施設(精神科病院 138、診療所 291)

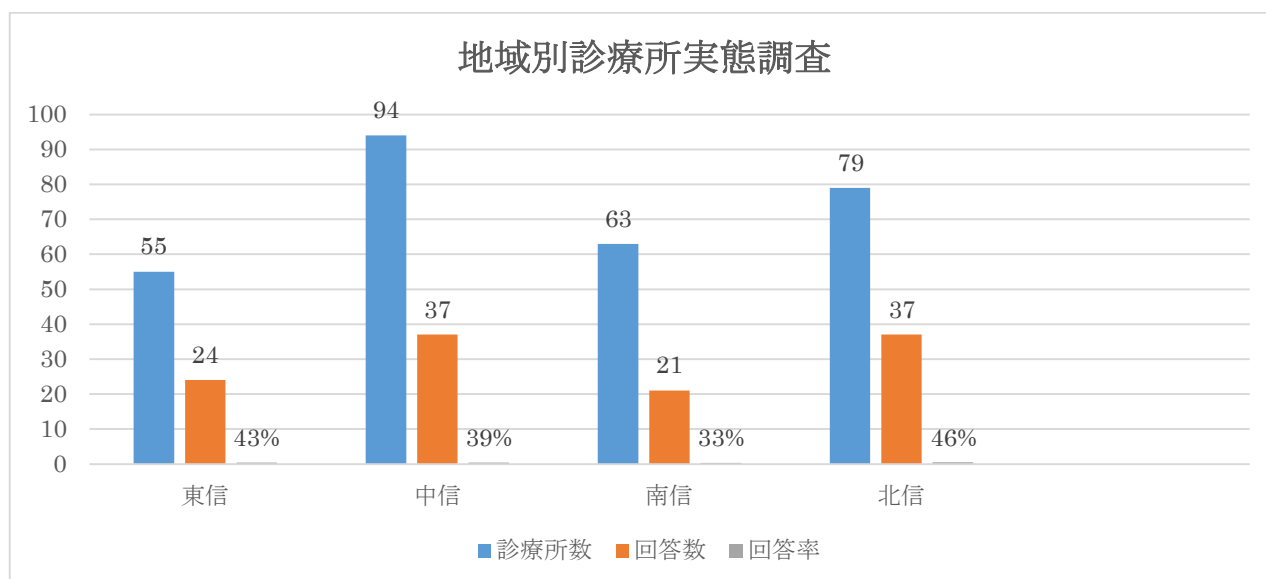
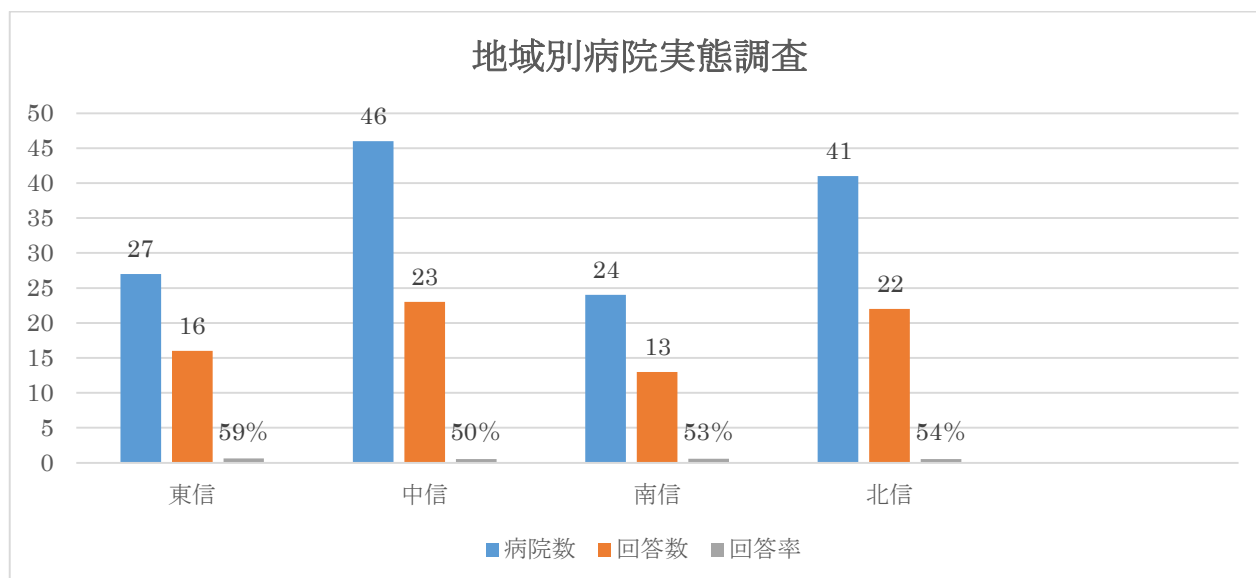
【方法】郵送およびメールによる回答

調査期間

対象	送付方法	調査期間	送付数	回答数
精神科・心療内科・小児科を標ぼうする病院	郵送	令和 7 年 6 月 9 日～ 令和 7 年 6 月 30 日	138	75
精神科・心療内科・小児科を標ぼうする診療所	郵送	令和 7 年 7 月 3 日～ 令和 7 年 10 月 31 日	291	119

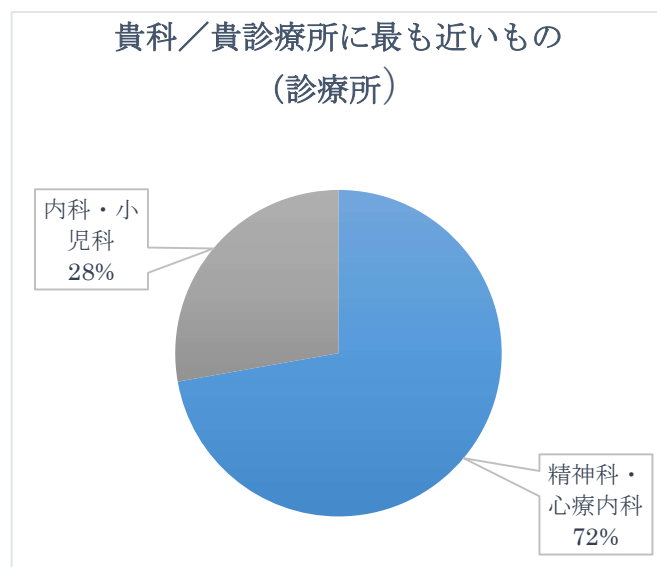
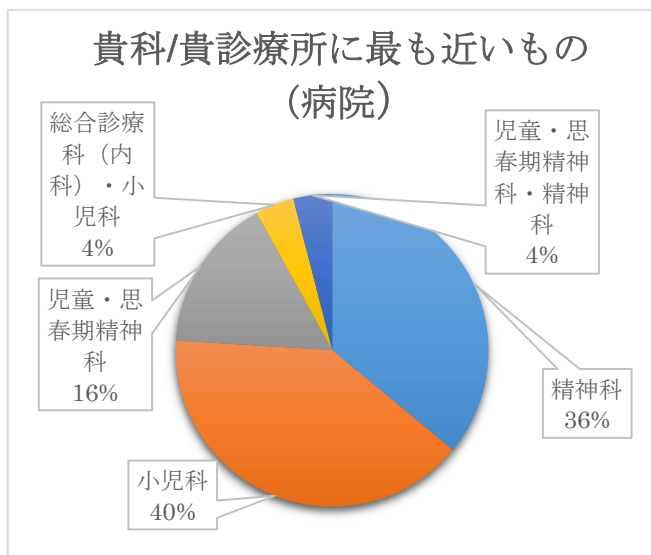
長野県摂食障害診療実態調査結果

【回収状況】

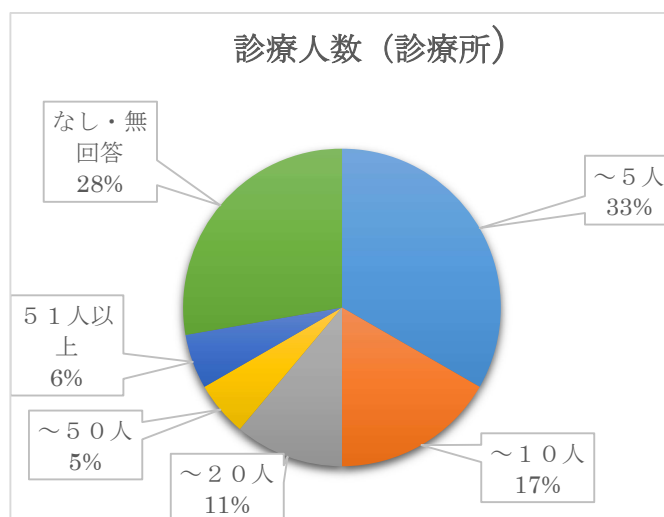
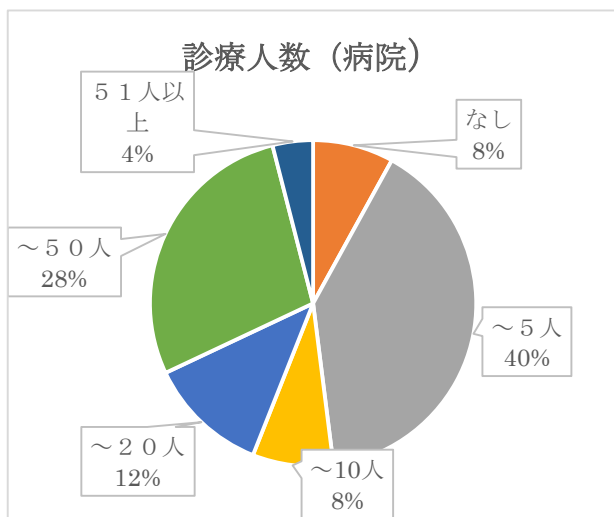


【把握調査より抜粋】

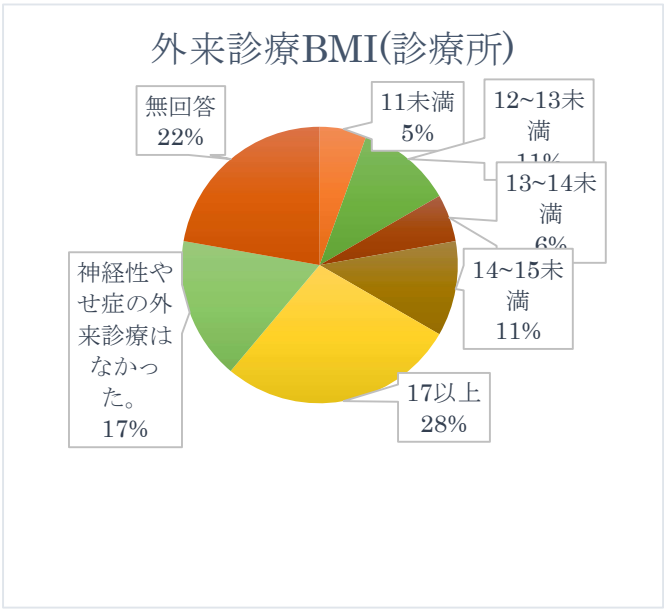
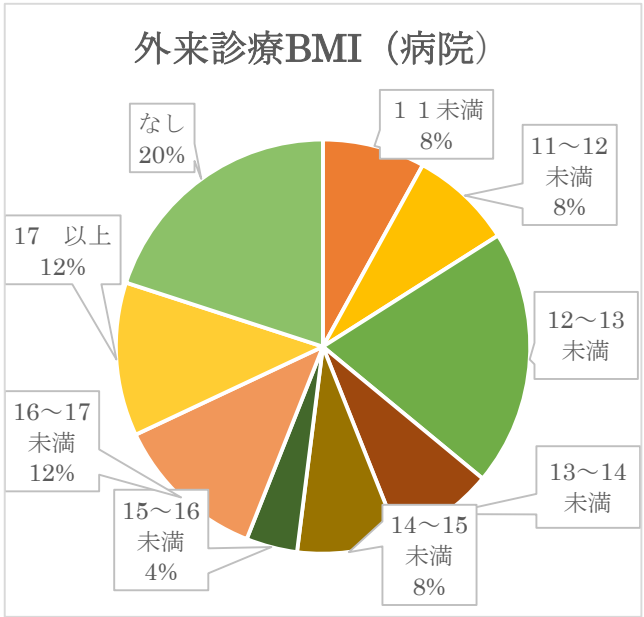
1. 貴科／貴診療所に最も近いものを一つ選択してください。



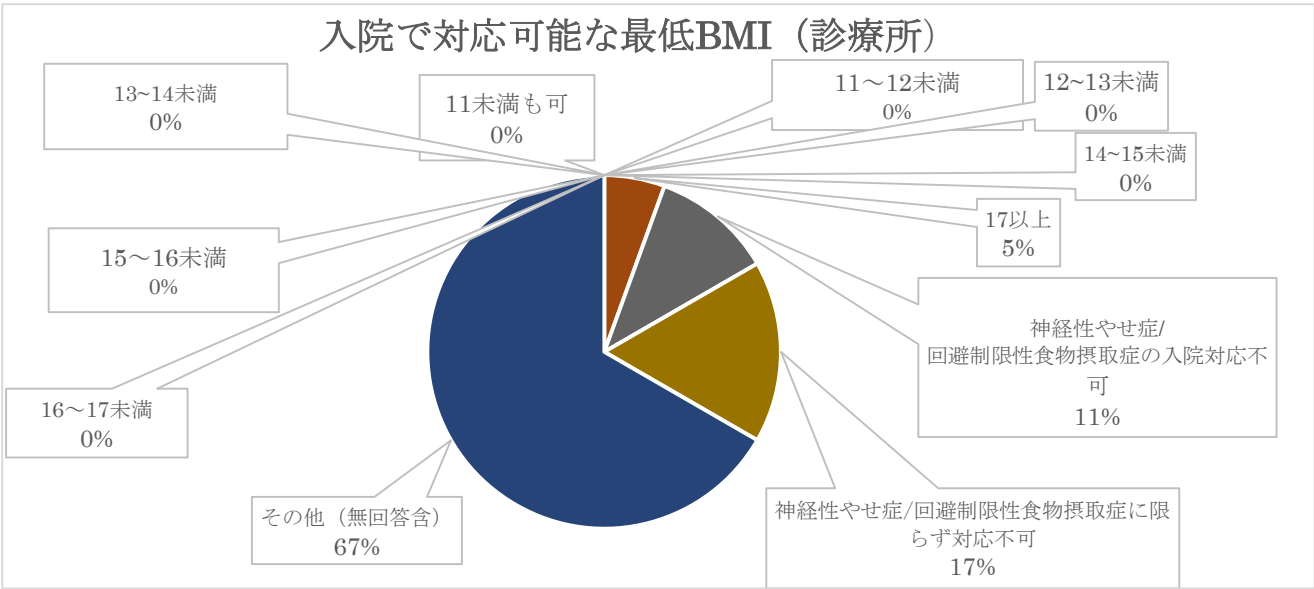
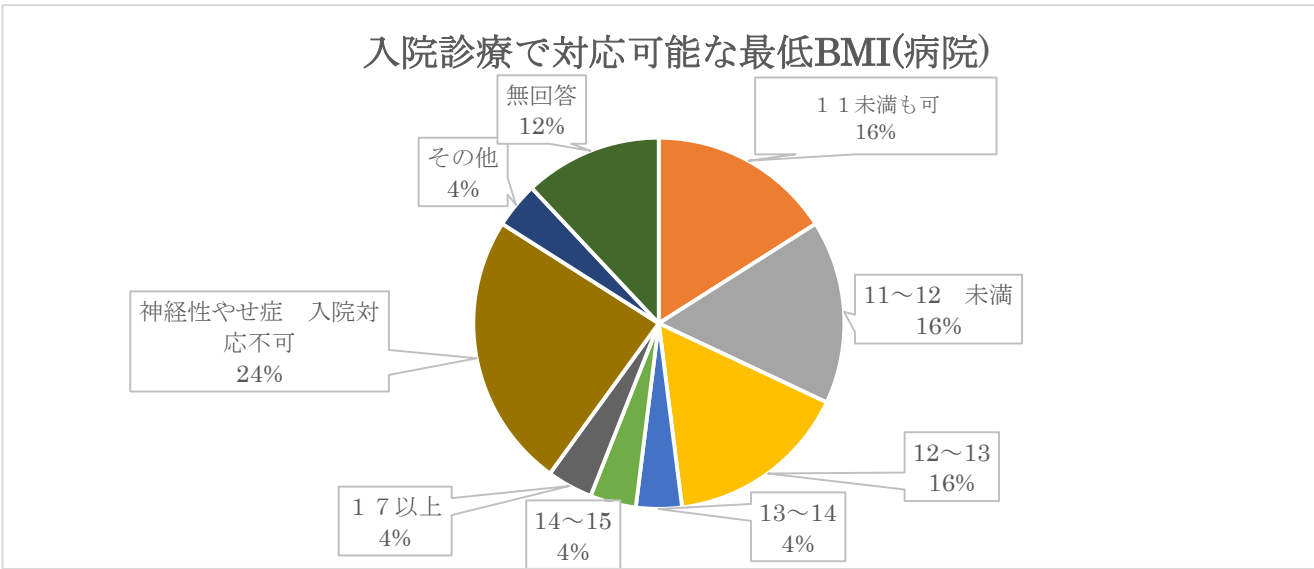
1－2 貴科／貴診療所に最も近いものを一つ選択してください。



2. 外来で診療した範囲（最低の BMI）



3. 入院診療で対応可能な最低の BMI



6. 研修

研修体制・計画

- ・医療者向けの研修会として長野県子どもの摂食症診療研究会を年2回開催した。
- ・一般者向けの研修会を富山大と合同でハイブリッド開催。
- ・県疾病・感染症対策課による養護教諭向けの研修会を開催した。

研修実施結果

- ・9月27日 医療者向けの研修会として長野県子どもの摂食症診療研究会と共催。
金沢大学医学部附属病院神経科精神科講師、佐野滋彦先生による講演「石川県摂食障害支援拠点病院3年の取り組み」、および長野県内各施設の摂食症診療の現状共有を行った。
- ・11月18日養護教諭向けの研修会として公家医師と県疾病・感染症対策課によるオンライン講義を行った。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	種別	対象者	研修内容	実施場所	参加人数
R7.9.27	研究会	長野県内で摂食症に関わる専門職	「長野県子どもの摂食症診療研究会」 長野県子どもの摂食症診療研究会と共催 県内各施設の摂食症診療の現状共有 講演会	信州大学医学部附属病院4F 会議室とオンライン	54名
R7.11.18	研修会	養護教諭、養護助教諭	令和7年度長野県養護教諭研究協議会 県疾病・感染症対策課主催。(県教育委員会と連携)拠点病院の医師を講師として派遣し子どもの摂食症について講演	オンライン	580名

【養護教諭研究協議会参加者からの感想】(抜粋)

- ・摂食症というと、神経性やせ症を思い浮かべていたが、回避・制限性食物摂取症の事も詳しく学ぶことができ良い機会となった。
- ・本人のみならず保護者へのアプローチが難しいと感じた。今後その方法も検討していきたい。
- ・医療現場での対応と学校での対応、どちらも盛り込んだ内容であり、分かりやすかった。

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

- ・リーフレットの作成準備
- ・専用ホームページの開設準備

普及啓発活動実施結果

リーフレット、専用ホームページを作成中であり、来年度中に完成し運用開始の予定である。

メディア関係

開催日（発行日、オンエア）	メディア	内容
R7.8.2 R7.8.3 R7.8.4	信濃毎日新聞掲載 市民タイムス掲載 医療タイムス掲載	摂食障害の支援、県内初指定記事の掲載

8. 行政機関との連携

体制・計画

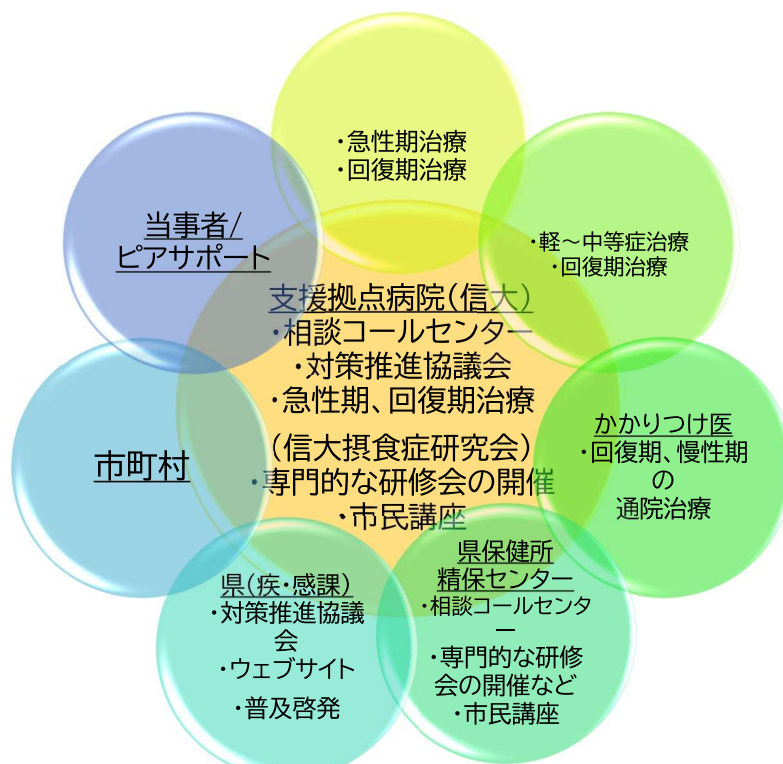
- ・県疾病・感染症対策課と連携し摂食障害診療体制の実態調査を実施。
- ・県疾病・感染症対策課と連携し、摂食障害診療の更なる充実を図るため、医療機関による入院受け入れの促進及び病院間の診療ネットワーク体制の整備を目的として摂食障害医療ネットワーク促進事業の構築を目指す。

実施結果

- ・6月から10月にかけて実態把握調査を実施。詳細と結果については5. 治療支援項目を参照。23の医療機関から摂食障害診療実施の公表に同意を得た、とりまとめた結果を【長野県摂食障害診療実施医療機関一覧】としてホームページ上に掲載した。

摂食障がい医療提供体制整備事業

※イメージ図：複数の医療機関等で役割を担うコンソーシアム方式で実施



・本県に「摂食障がい支援拠点病院」を設置し、摂食障がいに係る専門的な相談支援を行うとともに、他機関及び患者家族とのネットワークの構築を図るほか、摂食障がいの正しい理解のための普及啓発等を進め、摂食障がい診療における地域連携体制を強化することにより、治療や支援を待ち望んでいる患者が必要な医療を必要なタイミングで受け、早期治療に繋げて社会復帰を促進することを目指す。

連携会議等

開催日	対象	内容	実施場所
R7.5.23	事務局 (拠点病院担当者、 県担当者)	- 顔合わせ - 今年度計画について (研修会、リーフレット送付、医療連携実態把握に関する調査、協議会開催等)	信州大学医学部精神医学教室会議室
R7.6.3	拠点病院担当者、 精神保健福祉センター、 県保健福祉事務局※県疾病・ 感染症対策課主催	県疾病・感染症対策課主催による摂食障がい支援拠点病院設置に係るスタートアップ研修 講師：摂食障害全国支援センター井野敬子先生、関口敦先生	Web

R7.7.1	精神保健福祉センター、県疾病・感染症対策課、コーディネーター	精神保健福祉センターとの相談事業体制の打ち合わせ	精神保健福祉センター会議室
--------	--------------------------------	--------------------------	---------------

9. その他の活動

実施体制・計画

- ・ 4 月 22 日 福井大学医学部附属病院への訪問、視察。
- ・ 5 月 19 日 金沢大学医学部附属病院への訪問、視察。
- ・ 7 月 1 日 長野県精神保健福祉センターの視察。
- ・ 信州大学医学部附属病院内患者サポートセンターとの連携。

実施結果

- ・ 拠点病院事業の実際の運用の仕方について説明を受け、当院の事業に反映させた。
- ・ 患者サポートセンターには相談事業連携を行った。拠点病院への問い合わせがあった場合の対応方法の統一化を行った。12 月までに摂食障害や拠点病院についての問い合わせは見られなかった。

10. 考察

相談支援：

7 月下旬に拠点病院の設置および相談事業の 8 月開始がメディアで公表された。その影響もあり、8 月の相談件数は 11 件と比較的多くなった。相談のきっかけとして、当初は知人（自助会・家族会）からの紹介が 4 件続いていたが、その後はインターネット検索による相談が増加傾向にある。また、養護教諭向けの研修会を実施した後、実際に養護教諭からの問い合わせがあり、研修会の効果がうかがえた。今後、ホームページの開設やリーフレットの完成により、相談件数のさらなる増加が見込まれる。

実態調査：

県疾病・感染症対策課で実態調査を行い、県内の精神科、心療内科、小児科を有する医療機関施設に送付、精神科病院 75 施設、診療所 119 施設から回答を得た。各地域別回収率には大きな差は見られなかった。

普及啓発：

リーフレット、専用ホームページを現在作成中であり、結果については来年度事業報告へ掲載する。

11. 静岡県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 7 年度

静岡県摂食障害支援拠点病院

Shizuoka Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和 7 年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
静岡県摂食障害支援拠点病院	浜松医科大学医学部附属病院精神科 神経科	431-3192	静岡県浜松市中央区半田 山 1-20-1	053-435-2635

URL

静岡県摂食障害支援拠点病院 : <https://www.shizuoka-ed.jp/>

静岡県摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
竹林 淳和	浜松医科大学精神科	講師
磯部 智代	浜松医科大学精神科	医療技術職員(臨床心理士)

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
村越 優	看護師

2. 要旨

『相談支援』：事業開始以降、令和3年度までは相談件数が増加していたが、令和4年度以降概ね200件台で大きな変化なく推移している。相談者の居住地についても、令和3年度～4年度を境に、県外からの相談者が3割から2割となって推移している。事業開始後の相談者の掘り起こし、その後のCOVID-19パンデミックの影響した時期が終わり、直近3～4年で相談件数は横ばいに推移してきている可能性がある。一方、相談者の属性は本人の割合が漸減し、医療機関からの割合が持続的に増加してきている。普及啓発により、県内の医療機関からの受診相談が増えていると考えられる。

『治療支援』：初診、入院ともに10歳代以下の患者が半数を占めていることから、初発あるいは罹病期間の短い摂食症の受診あるいは入院が増えていると考えられる。事業による普及啓発により摂食症への早期介入が進んでいると考えられる。

『研修』：院内の摂食症治療者、県内の小児科・精神科、医師会、初期研修医・学生などを対象に研修会を行った。院内では最近急速に相談・受診が増えている回避・制限性食物摂取症（ARFID）の研修を始めた。

『普及啓発活動』：予防・早期介入のための普及啓発を目的としてリーフレットを作成し、静岡県内小・中・高等学校・支援学校に電子媒体で配布、関連各所に紙媒体を設置した。

『行政機関との連携』：行政が運営する家族支援を行政と拠点病院のスタッフが共同で行った。また、行政主催のメンタルヘルスサポーターの研修で拠点病院スタッフが講義を行った。

『その他の活動』：他県の支援拠点病院の多職種スタッフに静岡県の拠点病院に視察していただいた。他県で現地・オンラインで治療や地域連携、支援拠点病院運営に関する講演を行った。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	竹林 淳和	浜松医科大学講師	摂食障害治療を専門的に行っている医師
委員	横島 孝至	沼津中央病院医師	
同上	高木 啓	鷹岡病院・院長 (静岡県精神科病院協会)	
同上	五條 智久	県立こころの医療センター医師	
同上	大石 聡	県立こども病院こころの診療部部長	
同上	田中 賢司	藤枝駿府病院院長	
同上	田中 徹	好生会三方原病院副院長	
同上	西村 克彦	聖隷三方原病院精神科部長	
同上	大城 将也	菊川市立総合病院医師	
同上	三田 智子	パルモこども診療所院長 (静岡県小児科医会会長)	
同上	櫻井 新一郎	桜心メンタルクリニック院長 (静岡県精神神経科診療所協会)	
同上	桐野 衛二	順天堂大学医学部附属静岡病院教授	県精神保健福祉センター
同上	内田 勝久	県精神保健福祉センター所長	
同上	下窪 匡章	県熱海保健所・所長	保健所
			摂食障害患者
			摂食障害患者家族
同上	二宮 貴至	浜松市精神保健福祉センター所長	摂食障害対策に資するもの
同上	大久保 聡子	静岡市こころの健康センター所長	
同上	夏目 伸二	静岡県教育委員会事務局健康体育課長	県
同上	加藤 克寿	静岡県健康福祉部障害者支援局長	
同上	影山 洋子	静岡県健康福祉部障害者支援局 障害福祉課精神保健福祉室長	

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第1回	令和7年8月21日	1. 令和6年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施報告について 2. 令和7年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施計画について 3. その他
第2回	令和8年2月9日	1. 令和7年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施報告について 2. 令和8年度摂食障害治療支援センター設置運営事業実施計画について 3. その他

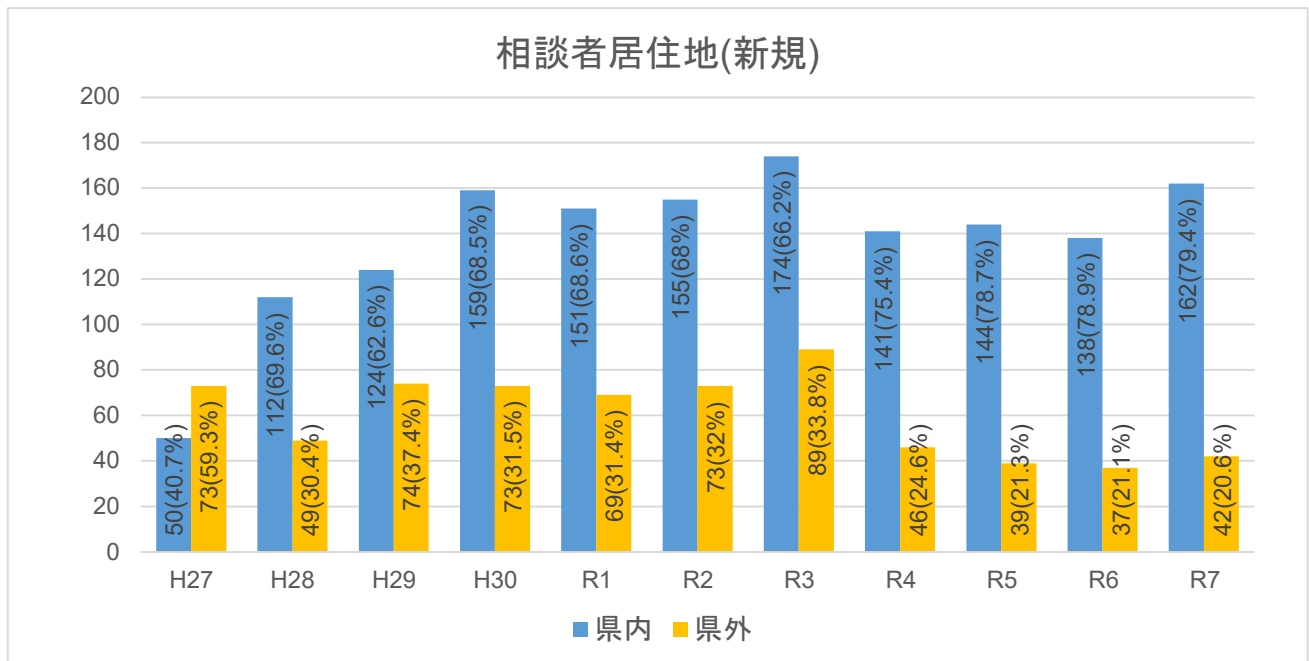
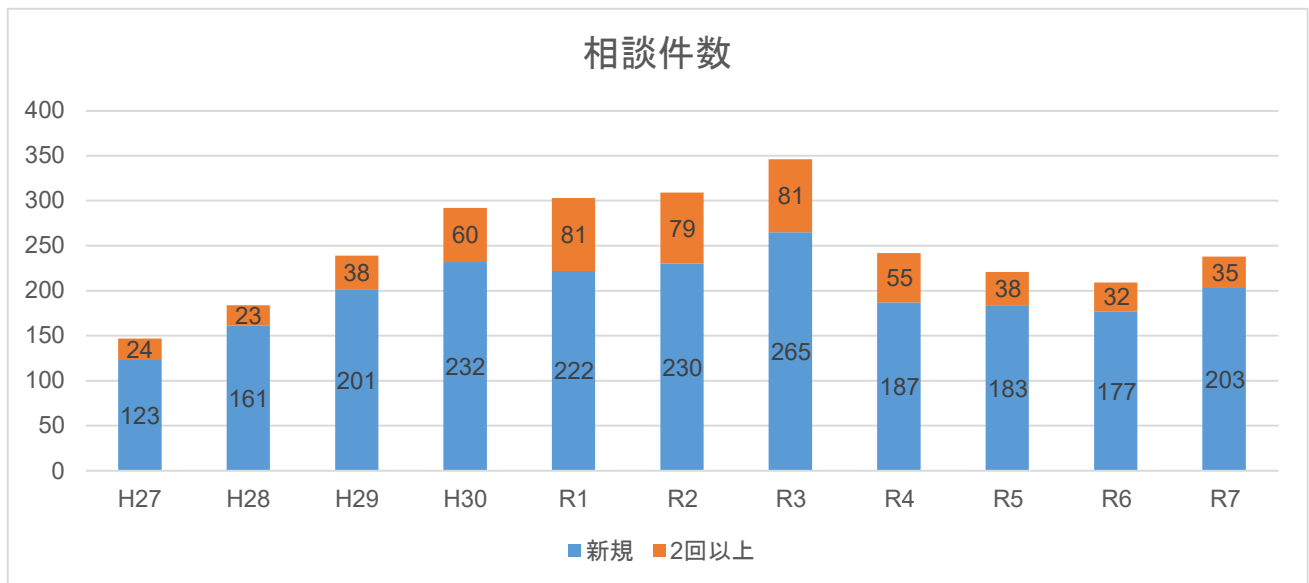
4. 相談支援

相談体制

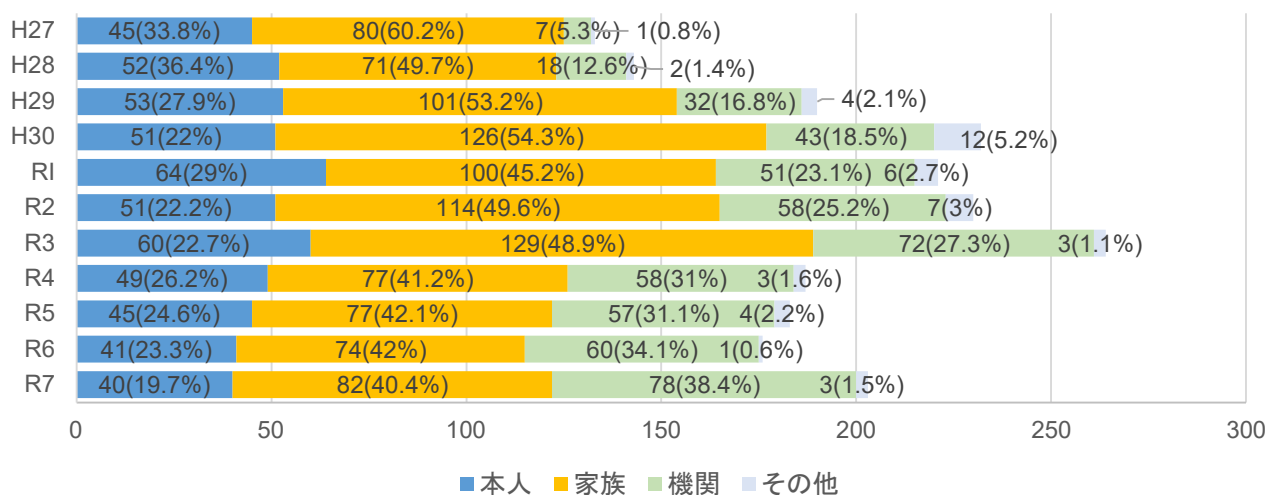
1. コーディネーターが週 3 日、電話にて摂食障害患者及びその家族への専門的な相談支援を行う。

相談支援結果

- 相談件数は昨年度まで 3 年連続で低下傾向であったが、本年度は件数が微増し、238 件であった。
- 県内／県外からの相談者の割合は、最近 4 年間は 8 割／2 割で推移している。
- 当事者からの相談は年々減り、関係機関とくに医療機関からの相談（紹介）が増えてきている。



相談者(新規)



■相談

2025 年度（4－11 月）

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
148	165

居住地域（新規件数） n= 148

管轄都道府 県内	管轄都道府 県外	不明	ほっとライン	計
122	26	0	0	148

相談者の患者との関係（新規件数） n= 148

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
27	9	42	3	5	51	3	5	3	0	148

相談対象患者の年齢（新規件数） n= 148 平均年齢: 24.2 SD = 12.2 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	不明	個別以外	その他	計
4	71	33	19	8	6	2	0	2	0	3	148

相談対象患者の性別（新規件数） n= 148

女性	男性	その他	不明	個別以外	計
139	8	0	1	0	148

相談対象患者状態（新規件数） n= 148

やせ	食事制限	過食	排出・代償行動					精神・行動症状					
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	その他
112	110	54	43	10	3	15	2	4	17	0	5	11	13

相談対象患者属性（新規件数） n= 148

学生				社会人			その他	不明	個別以外	計
小	中	高	大／専	就労中	無職	主婦/主夫				
13	16	34	12	26	7	4	0	36	0	148

摂食障害での受診状況（新規件数） 148

受診中	入院中	中断中	未受診	ED以外で 受診中	その他	不明	計
44	4	11	46	42	1	0	148

相談経路（延べ件数） n= 165

電話	メール	面談	その他	計
165	0	0	0	165

#REF!

相談が個別症例および患者関連以外の件数

個人	専門家
0	0

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ（新規件数） n= 148

インター ネット	紹介				メディア				ポスター・ ちらし	その他	不明	計
	機関			その他・ 不明	テレビ	新聞	自治体・ 広報	その他・ 不明				
	医療	行政	教育									
75	54	4	4	1	0	0	0	0	0	5	5	148

相談内容（延べ件数） n= 165

疾患相談	有り	対応相談			受診相談	支援拠点 病院業務 問い合わせ	その他	コロナ 関連
		接し方	生命危機	受診拒否				
20	14	7	0	7	136	2	0	0

対応内容（延べ件数） n= 165

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	支援拠点 病院業務 問い合わせ	その他
	拠点病院	協力 病院	その他 病院	公共 機関		疾患 知識	治療 受診	資料	社会 資源			
120	57	43	9	15	47	22	31	3	0	83	2	1

〈家族支援〉

開催日	対象者	参加人数 (組)	内容	実施場所
令和7年6月14日、 7月12日、8月2日	家族	14	摂食障害家族教室	オンライン
令和7年5月16 日、6月20日、7 月18日	家族	7	摂食障害家族教室	浜松市精神保健福祉セン ター
令和7年12月 13日、令和8年 1月17日、2月 21日	家族	9	摂食障害家族教室	静岡市こころの健康セン ター
令和7年8月9日	家族	4	家族交流会	オンライン
令和7年12月6日	家族	3	家族交流会	オンライン
令和7年5月24 日、7月26日、 9月27日、11月 29日、令和8年 1月24日、3月 21日	家族	延べ41名	家族サロンひまわり (家族交流会)	浜松市精神保健福祉セン ター

5. 治療支援

治療体制・計画

- 1 精神科領域専門医研修プログラムとの連携
- 2 子どものころ専門医機構研修施設群との連携
- 3 摂食障害の入院治療を担当する病院との連携（静岡県摂食障害対策推進協議会）
- 4 県東部の治療連携に関する連携会議の開催

治療支援実施結果

- 精神科領域専門医研修の参加医療機関に支援拠点病院が開催する研修・講演会の案内を行なった。
（『6. 研修』参照）
- 支援拠点病院においては初診、入院ともに年齢の内訳、診断の内訳は昨年度と著変なし
- 相談支援と同様に初診、入院ともに 10 歳代以下の患者が半数
- 県東部の治療連携については 2027 年 5 月に会議および講演を開催予定

開催日	参加者	会議名	実施場所
令和7年6月16日	基幹・連携施設責任者	第3回子どものころ専門医研修管理委員会	オンライン
令和7年7月5日	研修基幹病院・連携病院	浜松医科大学医学部附属病院精神科専門研修プログラム管理委員会	オークラアクトシティホテル浜松
令和7年12月6日	研修基幹病院・連携病院	浜松医科大学医学部附属病院精神科専門研修プログラム管理委員会	オークラアクトシティホテル浜松
令和7年12月15日	基幹・連携施設責任者	第2回子どものころ専門医研修管理委員会	オンライン

支援拠点病院

初診患者数（R7.4・R8.3） 66 人

初診患者数	66 人							
性別	女性	男性						
	58 人	8 人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	
	5 人	37 人	12 人	7 人	3 人	2 人	0 人	
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	UFED	その他
	27 人	14 人	3 人	1 人	2 人	18 人	1 人	人
外来／入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	38 人	12 人	16 人					
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≦
	4 人	16 人	20 人	9 人	4 人	3 人	10 人	0 人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介				
	55 人	0 人	1 人	10 人				

入院患者数（R7.4・R8.3） 61 人

入院患者数	61 人							
性別	女性	男性						
	56 人	5 人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	
	2 人	29 人	17 人	6 人	5 人	2 人	0 人	
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	UFED	
	27 人	15 人	5 人	0 人	1 人	12 人	1 人	
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≦
	6 人	16 人	19 人	4 人	2 人	6 人	7 人	1 人

協力病院：初診患者数／入院患者数（令和7年4月～令和8年3月）

静岡県立こども病院：38名／12名（24名／11名）

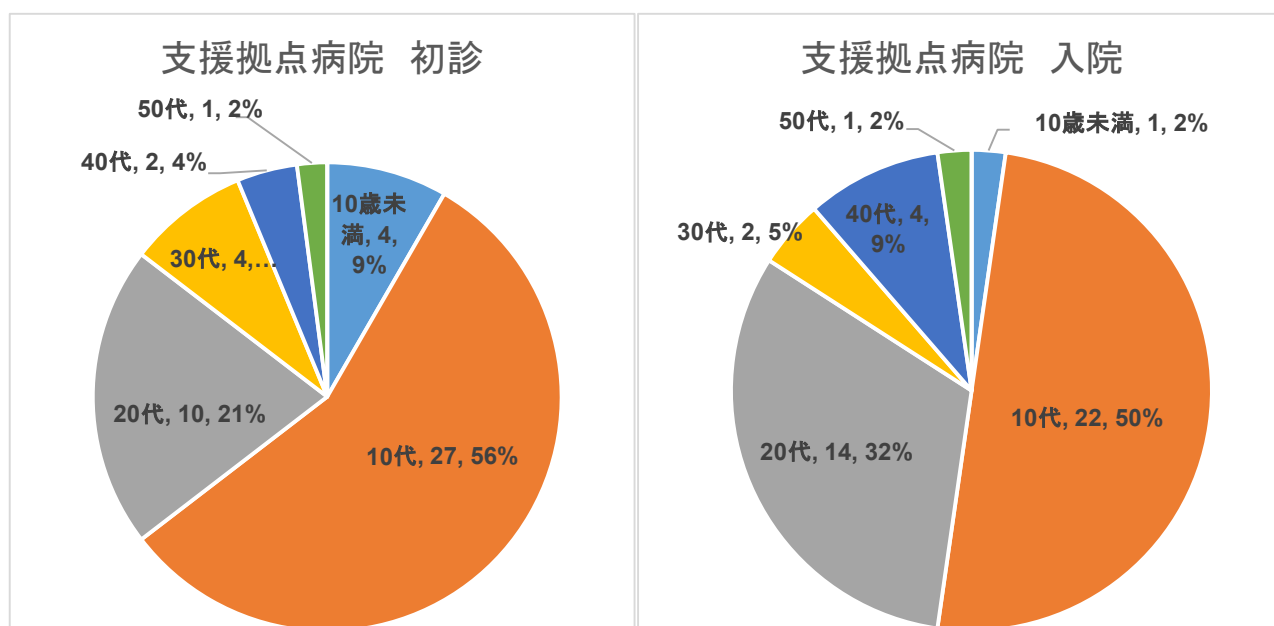
菊川市立総合病院：5名／4名（5名／4名） 聖隷三方原病院：10名／8名（6名／3名）

沼津中央病院：13名／19名（11名／19名） 鷹岡病院：8名／5名（11名／5名）

静岡県立こころの医療センター：31名／25名（20名／28名）

藤枝駿府病院：12 名／34 名（22 名／38 名） 好生会三方原病院：2 名／5 名（2 名／1 名）

*（）内は令和6年度



6. 研修

研修体制・計画

1. 児童思春期の摂食障害診療者（精神科医・小児科医およびコメディカル）への研修
2. 摂食障害診療のためマテリアルの作成

研修実施結果

- 摂食障害小研究会にて症例検討、ARFID の対応方法について解説

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	対象者	参加人数	研修内容	実施場所
令和7年7月12日	医療従事者（全国）	申込143名 ライブ配信参加113名	摂食障害入院治療研修－入院治療の留意点とコツ－（第5回） ※基幹センター主催	オンライン
令和7年8月30日	母子保健事業に携わる医療、保健、福祉、教育等の指導者	58名	学校保健研修会『学校保健における摂食障害』 ※静岡県医師会主催	静岡県医師会館 オンライン
令和7年9月8日	医師、心理士、初期研修医、学生、専門研修連携病院医療スタッフ他	約20名	マンデークラブ小講義『摂食症』	浜松医科大学医学部附属病院・オンライン
令和7年10月27日	精神科看護スタッフ	看護師15名、心理士1名、医師2名	看護師勉強会『回避・制限性食物摂取症』	浜松医科大学医学部附属病院
令和7年12月8日	医療従事者（全国）	申込72名 ライブ配信参加67名	摂食障害入院治療研修－入院治療の留意点とコツ－（第6回） ※基幹センター主催	オンライン
令和7年11月6日 12月18日 令和8年1月23日 2月19日	院内心理士・医師	8名 11名 6名 6名	ARFIDお悩み相談会	オンライン
令和7年12月22日	院内心理士	8名	心理士勉強会『BNの身体への影響』	オンライン
令和8年2月15日	医師、コメディカルスタッフ、初期研修医・学生・支援者	87名	第26回浜松医大精神医学・児童精神医学オンライン講座「現代社会と精神発達」『「摂食症と社会・文化との関連」』	オンライン
令和8年3月14日	精神科医・小児科医	31名	第3回静岡県摂食障害治療小研究会	オンライン

第3回静岡県摂食障害症治療小研究会

～若年者の摂食障害症治療のすすめ～

共催：浜松医科大学附属病院精神科神経科（静岡県摂食障害支援拠点病院）
県立こども病院こころの診療科

後援：浜松医科大学附属病院小児科、静岡県小児科医会、静岡県精神科病院協会、
静岡県精神神経科診療所協会

日時

2026年3月14日(土) 18:00～18:50

開催形式：ウェブ開催（Zoom webinar）

* 事前参加申し込みの方法は裏面に記載しています。

プログラム

Opening Remarks：パルモこども診療所院長・静岡県小児科医会 会長

三田 智子 先生

座長：県立こども病院 こころの診療部 こころの診療科 医長

伊藤 一之 先生

1 ミニレクチャー 18:00～18:20（20分）

『ARFIDの認知行動療法（CBT-AR）』

演者：浜松医科大学附属病院 精神科神経科 講師 竹林 淳和 先生

2 症例提示 18:20～18:40（20分）

『ARFIDの児と家族への介入』

演者：天竜病院 子どものこころのケアセンター 副センター長

藤田 梓 先生

3 総合討論 18:40～18:50（10分）

Closing Remarks：てらだ医院・静岡県精神神経科診療所協会 会長

寺田 誠史 先生

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

1. 一般市民、摂食障害当事者、家族、支援者を対象とした摂食障害に関する普及啓発：フォーラム開催
2. 予防・早期介入のための普及啓発：リーフレット配布・設置

普及啓発活動実施結果

開催日	対象者	参加人数	内容	実施場所
令和7年11月8日	一般市民、当事者、家族、支援者	51名	静岡県摂食障害フォーラム2025	レイアップ御幸町ビル（静岡市）
通年	静岡県内小・中・高等学校・支援学校の生徒および保護者		リーフレットの配布・設置	ウェブ配布：静岡県内小・中・高等学校・支援学校 設置：保健所・保健センター・精神保健福祉センター、社会福祉協議会および関連事業所(158)、図書館(95)、女性教育施設(7)

- 全参加者数 51名
 - 第2部こんな時どうする？ 34名
 - 第2部当事者の体験談と交流 14名

主催 静岡県、静岡県摂食障害支援拠点病院
共催 静岡市こころの健康センター、浜松市精神保健福祉センター

摂食障害は治ります！

静岡県摂食障害フォーラム2025

摂食障害（神経性やせ症、神経性過食症）について
一緒に学びませんか？

2025年11月08日（土）

- 時間：14:00～16:00
(終了は第2部会場によって異なる可能性があります)
- 場所：レイアップ御幸町ビル6階会議室
〒420-0857静岡市葵区御幸町11-8 (JR「静岡駅」徒歩3分)
- 無料 (定員100名 先着順)

— プログラム —

- 第1部
よくわかる！摂食障害のお話
講師：竹林淳和（浜松医科大学精神医学講座）
対象：どなたでも
(摂食障害に関心のある県民、当事者、家族、支援者など)
- 第2部
 - ① こんなときどうする？摂食障害当事者への声かけ
対象：支援者、家族（当事者の方はご参加頂けません）
 - ② 当事者の話を聞いてみよう！
対象：どなたでも（定員：当事者20名、その他30名）

※個人情報の守秘を守る方に限ります。録音・録画は固くお断りいたします。公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせ：
静岡県摂食障害支援拠点病院
浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科内
TEL:053-435-2635（平日9時～17時）
www.shizuoka-ed.jp/general/event/

**お申し込みはQRコード
または下記URLよりどうぞ！**
<https://forms.gle/jimpdS2YfuWr9NWpS7>



■事後アンケートより(抜粋)

(こんなときどうする？への参加者)

- 家族の症例について質問をしましたが、アドバイスをいただき、非常に参考になり、整理ができました。(家族)
- 治療中の娘も参加して、はじめて同じ悩みを持つ方と話をして気持ちが少し軽くなったそうです。目標体重に増やすことを今まで理解できない発言が聞かれました。しかし、フォーラムに参加したら体重を戻して心も治った方の話も聞けて自分も頑張ろうと思えたと言っていました。この病気は時間もかかりますが、家族としても引き続きサポートしていく気持ちがたかまりました。ありがとうございました。(家族)
- 支える家族の悩みを聞き、かかりつけ医では支える側の相談にのることが少ないのかと不安になった。拠点病院以外に摂食障害に対応できる病院の紹介や、個別に相談できる時間が少しでもあるとありがたいです。(家族)
- 当事者家族のリアルな状況へのアドバイスが聞けてとても良かったです。家族の困りごと支援者が共有して適切な助言が必要だと改めて思いました。(医療関係者)
- 当事者家族の話を直接対面で聞くことが初めてだった。入院中は医師や看護師の元で適切な管理がされるが、通院中は家族の支援が必要不可欠である。特に学生の患者が増えているとのことで、当事者家族の苦悩がわかり、当事者の苦悩もわかった。自分が誰のために仕事をしているのか、実感することができた。質問ごとに講師が「よくある話です」とおっしゃっていて、当事者家族同士が繋がりが悩みを相談し合う場があるので、苦悩を分かち合えて、支援の手助けになると感じた。(行政関係者)

■リーフレット

気付いてる？
摂食症のSOSサイン

ホントは
やせたいのに
食べるのが
止まらない!!

太るのが
コワイ!!

ダイエットして
なりたいけど
やめられない

神経性やせ症(拒食症)

**摂食症は
治せる病気です。**

神経性過食症

回避・制限性食物摂取症

食べるのが
ツライ!!

体重は増えても
いいけど

無理におい
味が
のどがつまる
気持ち悪く
なるかも...

無関心...

気付いてる？ SOSサイン

摂食症は治せる病気です。

Q 摂食症ってどんな病気？

A 食事の量や食べ方など、食事に関連した行動の異常が見られ、体重や体型のとらえ方などを中心に、心と体の両方に影響が及ぶ病気をまとめて「摂食症」と呼びます。

摂食症の主な表態と特徴

主な疾患	回避・制限性食物摂取症	神経性やせ症	神経性過食症	むちゃ食い症
特徴	体重や体型にはこだわりません 食べることで吐き気やお腹の痛みなどが生じるのをいやがります	やせていても太っていると感じます 過食することもあります	過食に対して苦痛や罪悪感を伴います 食べ物をコントロールできず、ひんばんに過食します	体重や体型にはあまりこだわりません
食事	食事量が減ります	過食することもあります	食べ物をコントロールできず、ひんばんに過食します	食べ物をコントロールできず、ひんばんに過食します
やせるための行為	しません	過剰に運動します	吐いたり下剤などを使ったりします	しません
体型	明らかなやせ	正常または肥満	正常または肥満	主に肥満
BMI (体格指数)	15未満 最重度やせ	15~15.9 重度やせ	16~16.9 中等度やせ	17~18.4 軽度やせ
BMI	18.5~24.9 正常	25以上 過体重		

BMI = 体重(kg) ÷ 身長(m) ÷ 身長(m)

Q 病院の何科に行けばよいですか？

A 主に精神科や心療内科、小児科です。
しかし、これらの診療科であっても摂食症に十分対応できないこともあります。
病院のWEBサイトで確認するか、電話で問い合わせから受診されることをお勧めします。

ご相談・お問い合わせ

静岡県摂食障害支援拠点病院 (浜松医科大学附属病院 精神神経科内)

TEL 053-435-2635 電話受付時間 月・木・金(祝日は除く) 9時~15時

上記相談先で相談を受け付け、後日、スタッフが折り返し連絡致します。

<https://www.shizuoka-ed.jp/>



■インターネット

静岡県摂食障害支援拠点病院 ホームページ <https://www.shizuoka-ed.jp/>

8. 行政機関との連携

計画

1. 行政が運営する家族支援と医療との連携
2. 行政が運営する研修会等での連携

実施結果

1. 静岡市こころの健康センターとの共同で家族教室を行った。浜松市精神保健センター主催の家族サロンにピア・サポーターを派遣した。
2. 浜松市精神保健福祉センターが主催する摂食障害支援検討会に拠点病院が参加し、浜松市の摂食障害の連携、支援について検討した。
3. 浜松市精神保健福祉センターが主催する支援者向けの研修会で講演を行った。

静岡市こころの健康センター主催：家族教室

日程：令和7年12月13日、令和8年1月17日、2月21日 土曜日（全3回）

浜松市精神保健福祉センター主催：家族交流サロン、家族教室

令和7年7月18日（金）「摂食障害家族教室～ピアサポーターの体験談」

令和7年11月29日（土）「摂食障害家族サロンひまわり～ピアサポーターのお話を聞いてみよう」

場所：浜松市精神保健福祉センター、浜松市市民協働センター

静岡市 令和7年度

摂食障害を抱える方のご家族のみなさまへ

浜松市では摂食障害を抱える方のご家族を対象に、個別相談、家族教室、サロンを開催しています。ご本人の悩みのために、そしてご家族が安心して治療をサポートできるように一緒に学び、考え、支え合ってください。

※参加費が無料です。まずはお気軽にお問合せください。
※摂食障害を抱えるご本人の参加はご遠慮いただいております。

個別相談

専門医（臨床心理士・精神保健福祉士・栄養士）が個室でお話を伺います。ご本人の状況を整理し、対応や相談内容について一緒に考えます。相談料はかかりません。

【予約・お問合せ】 浜松市精神保健福祉センター ☎ 053-457-2709

家族教室

「摂食障害のこともっと知ろう」「どうしたらいいの？」ご家族の抱える疑問や悩みについて学ぶことができます。開催されたご家族の話し合いが活発で、とても楽しいです。今年度の開催については後述をご覧ください。

家族サロン ひまわり

同じ境遇にあるご家族同士でつながり、情報交換ができる場です。ほのぼのとしたお話しを聞くことで、新しい気づきがあるかもしれません。また、ご自身の思いや悩みを吐き出せる場でもあります。今年度の開催については後述をご覧ください。

浜松市精神保健福祉センター 〒430-0821 浜松市中区中央一丁目12-1 浜松市総合庁舎4階 ☎ 053-457-2709

令和7年度 開催のご案内

家族教室

全4回参加可能な方を優先して選定します。選定からの参加はお断りさせていただきます。

回	期日	時間	内容	会場
第1回	令和7年5月14日(金)	14:00～16:00	摂食障害への基礎的な知識を学ぶ	MAP ①
第2回	令和7年6月20日(金)	14:00～16:00	摂食障害の症状を知ろう	MAP ①
第3回	令和7年7月18日(金)	14:00～16:00	体験談(もしもは事件録?) サポートのつづき	MAP ①
第4回	令和7年7月26日(土)	13:30～15:30	摂食障害のご家族のお話	MAP ②

第3回は開催されたお話を聞くことがありますが、ご家族からは、お話を「希望の光」という声があがっています。皆さんも当事者の話を聞いて希望を持ってみませんか？

家族サロン ひまわり

スタッフが進行役を務め、会を促していきます。 ※開催日直前までにお申込みください。

期日	時間	会場
令和7年5月24日(土)	13:30～15:30	MAP ②
令和7年7月26日(土)	13:30～15:30	MAP ②
令和7年9月27日(土)	13:30～15:30	MAP ②
令和7年11月29日(土)	13:30～15:30	MAP ②
令和8年1月24日(土)	13:30～15:30	MAP ②
令和8年3月21日(土)	13:30～15:30	MAP ②

会場のご案内

MAP ① 浜松市精神保健福祉センター 大ホール
MAP ② 浜松市精神保健福祉センター 内 会議室(浜松市中央公民館2階)

お申込み・お問合せ
浜松市精神保健福祉センター ☎ 053-457-2709
FAX 053-451-1028
Mail koe-hakusha@city.hamamatsu.jp

参加費 無料 要申込

令和7年度 摂食障害家族教室

主催：静岡市こころの健康センター 共催：静岡市精神保健福祉センター

どこに相談したらいい？ 学校？仕事？ 家族はどう接すればいいの？

大量に食べたり、吐いたりしているの、もって悩んでいるの、食べ物のこだわりが強い、食べることが少ない

摂食障害をかかえる方に対してお悩みのご家族向けの、全3回シリーズの教室です。専門家による講義に加え、ご家族同士、和気あいあい話し合える場を提供します。

第1回	第2回	第3回
12/13 令和7年 10:00～12:00 (土)	1/17 令和8年 10:00～12:00 (土)	2/21 令和8年 10:00～12:00 (土)
摂食障害への効果的な対応	摂食障害の症状を知ろう	摂食障害の回復・サポートのコツ

対象 摂食障害をかかえる方のご家族 8家族
※全3回の参加が可能な方を優先させていただきます

申込・会場 静岡市こころの健康センター ☎ 054-262-3011 (平日 8時30分～17時)
〒420-0821 静岡市東区植木1014番地

連携会議等

開催日	参加者	参加人数	内容	実施場所
令和 7 年 7 月 27 日	浜松市メンタルヘルスサポーター	29 人	第2回浜松市子どものメンタルヘルスサポーターの養成研修 『摂食障害の理解と支援～学校現場との連携～』	はまこら（浜松市市民協働センター）
令和 7 年 7 月 28 日	支援センター職員、浜松市精神保健福祉センター、浜松市内小児科医	10 名	摂食障害支援検討会	はまこら（浜松市市民協働センター）
令和 8 年 1 月 26 日	支援センター職員、浜松市精神保健福祉センター、浜松市内小児科医、教育委員会職員	11 名	摂食障害支援検討会	はまこら（浜松市市民協働センター）

9.その他の活動

実施体制・計画

1	ピア・サポーターを養成と治療・支援への継続的な参加。
1.1	摂食障害フォーラムへの参加（参照：『7. 普及啓発活動』）
1.2	摂食障害患者のためのグループセラピーの開催
1.3	行政との協同による家族支援（参照：『8. 行政機関との連携』）
2	学会活動
3	他県の活動支援

実施結果

■ピア・サポーター養成、治療支援				
開催日	対象者	参加人数	内容	実施場所
R7/4/26	当事者	5	当事者グループ（交流会）	オンライン
R7/9/20	当事者	10	当事者グループ（交流会）	オンライン
R8/1/10	当事者	5	当事者グループ（交流会）	オンライン
■学会活動				
2025. 10. 18	学術総会参加者		第28回日本摂食障害学会学術集会 シンポジウム1：摂食障害に対する効果的な治療方法及び支援方法の開発と検証『神経性やせ症の身体治療プログラムの安全性・有用性に関する研究』	東京国際交流館プラザ平成
■他県の活動支援				
2025. 09. 12	東北大精神科・福島医大精神科、医師・スタッフ	10名	摂食症診療見学『静岡県摂食障害支援拠点病院－これまでの取り組みと今後の課題－』『摂食障害の入院治療』	浜松医科大学医学部附属病院
2025. 10. 31	栃木県内医師・コメディカルスタッフ	会場26名 オンライン17名	Psychiatry Up-to-date Seminar『摂食症の治療連携』	ホテルマイステイズ宇都宮
2026. 02. 13	和歌山県内医師・コメディカルスタッフ	会場31名、 オンライン21名	『摂食症の治療と地域連携』	ホテルグランヴィア和歌山
2026. 03. 02	富山県内摂食障害治療者	オンライン41名	『摂食障害治療支援センター設置運営事業～摂食症の治療連携について～』	オンライン

10. 考察

(1) 摂食障害治療の地域格差について

本年度予定していた県東部地域への治療支援が立ち遅れている。連携会議および講演会を来年度初頭に予定しており、地域における治療連携を強化し、県内の医療の均てん化につなげたい。また、次年度は本件の事業開始から 11 年目であり、県内での治療連携が進んでいる中で、治療可能な医療機関の調査を行い、地域住民がより相談・受診しやすい体制づくりや普及啓発を目指す。

(2) 小児科と精神科の連携について

精神科・小児科が合同で参加する小研究会（症例検討会）において回避制限性食物摂取症（ARFID）既存の治療方法や症例検討を行った。ARFID の受診ケースが増えており、来年度は AN と ARFID が病態や治療の違いなどについて研修・講演会を行いたい。

一般精神科医が摂食症を診療するためには、児童思春期（特に 15 歳以下）の診療を行う必要がある。児童思春期の診療支援と連携してこの年代の摂食症の診療支援を進めていきたい。

(3) 予防・早期介入について

好発年齢の若年者向けに広く配布したリーフレットの普及啓発効果が、来年度の相談支援や治療支援における変化としてどのように現れるか見ていきたい。

12. 福岡県摂食障害支援拠点病院活動報告書

令和 7 年度

福岡県摂食障害支援拠点病院

Fukuoka Prefectural Support Base Hospital for Eating Disorders

令和 7 年度精神保健対策費補助金 摂食障害治療支援センター設置運営事業報告書

1. 基本情報

支援拠点病院名	設置施設	郵便番号	所在地	電話番号
福岡県摂食障害 支援拠点病院	九州大学病院 心療内科	812-8582	福岡市東区馬出 3-1-1	092-642-4869

URL

福岡県摂食障害支援拠点病院：<http://edsupport-fukuoka.jp/>

摂食障害支援拠点病院職員

氏名	所属	役職
須藤 信行	九州大学病院 心療内科	教授
高倉 修	九州大学病院 心療内科	診療准教授
波多 伴和	九州大学病院 心療内科	助教
権藤 元治	九州大学病院 心療内科	助教
戸田 健太	九州大学病院 心療内科	医師
麻生 千恵	九州大学病院 心療内科	医師
城戸 彩	九州大学病院 心療内科	医師
末松 孝文	九州大学病院 心療内科	医師
北島 智子	九州大学病院 心療内科	テクニカルスタッフ

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
北島 智子	保健師

2. 要旨

福岡県摂食障害支援拠点病院（旧：福岡県摂食障害治療支援センター）は2015年12月より、摂食障害患者や関係者への相談支援、摂食障害に診療経験の少ない医療機関への助言指導、県民に対する摂食障害の普及啓発を軸とした事業を展開し、福岡県における摂食障害医療体制の構築を目指し活動している。

本年度も有識者により構成される福岡県摂食障害対策推進協議会を設置し、計画の策定、検証を行った。

相談支援における相談者数は、依然として多いペースで推移している。薬局や歯科クリニックで目にしたリーフレットがきっかけで相談の連絡をした相談者がみられるようになっている。10代の若年者相談者が再び増加傾向にある。また、2023年以降、患者本人からの相談が増加している。

助言指導では、福岡歯科大学小児科との連携会議を行い、幼児期・小児期の摂食症の受け皿となっていていただく事となった。県外からの相談者の受け皿を増やすための活動として、今年度は福岡・山口摂食症懇話会を開催し、近隣県との摂食症に関する知識の共有を行った。

普及啓発活動においては、学校関係者への研修会はハイブリッド形式で開催し、例年通り多数の参加者を得ることができた。啓発リーフレットは県内の歯科医院に送付した。マスコミにも大々的に取り上げられる機会を積極的に利用し、摂食症の啓発普及に努めた。

3. 摂食障害対策推進協議会の設置

摂食障害対策推進協議会委員

	氏名	所属・職名	区分
委員長	楯林 英晴	福岡県精神保健福祉センター所長	福岡県
委員	内田 郁美	福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課	
同上	大村 重成	福岡保養院院長・福岡県精神科病院協会副会長	摂食障害治療を専門的に行なっている医師
同上	原 祐一	原土井病院副理事長・福岡県医師会常任理事	
同上	永光 信一郎	福岡大学医学部小児科学講座主任教授	
同上	小松 未央	北九州市立精神保健福祉センター所長	精神保健福祉センター保健所
同上	川口 貴子	福岡市精神保健福祉センター所長	
同上	高田 淳子	福岡県北筑後保健福祉環境事務所保健監	
同上	今村 浩司	西南女学院大学教授 福岡県精神保健福祉士協会会長	摂食障害対策に資するもの
同上	－	－	摂食障害患者
同上	－	－	摂食障害家族
事務局	松田 京子	福岡県保健医療介護部健康増進課 こころの健康づくり推進室	
	重松 貴博		
	谷崎 陽子		
	須藤 信行	九州大学病院 心療内科	
	高倉 修		
	波多 伴和		
	権藤 元治		
	戸田 健太		
	麻生 千恵		
	城戸 彩		
	末松 孝文		
	北島 智子		

摂食障害対策推進協議会

	開催日	議 題
第 1 回	令和 7 年 7 月 30 日 (Web 開催)	1. 令和 6 年度事業実績報告 2. 令和 7 年度事業実施計画 3. その他
第 2 回	令和 8 年 2 月 10 日 (書面開催)	1. 令和 7 年度事業実績（暫定）について 2. 令和 8 年度以降の取組予定について

4. 相談支援

相談体制

- ・コーディネーター（保健師）1 名による電話・メール・面談での相談を実施する。
- ・窓口開設時間：9 時～16 時（月・水・金曜日）
- ・摂食障害救急対応マニュアルに従い、医療機関の紹介を行う。
- ・精神保健福祉センター、保健福祉（環境）事務所、学校等との連携を強化する。

相談支援結果

- ・相談件数は昨年度を下回ったものの、以前として 300 件/年を超えるレベルで推移している。
- ・2023 年度にメール相談フォームを導入したため、メールでの相談件数が増加した。連絡経路と相談者の割合を比較したところ、本人からの連絡はメールが 5 割を占めた。
- ・相談対象者の年齢は 10 代までの割合が 2020 年度をピークに減少していたが、2023 年度を境に反転し、増加傾向にある。
- ・薬局や歯科で目にしたリーフレットをきっかけとして相談されるケースもあった。
- ・チャット GPT に相談したところ、拠点病院への相談を勧められたというケースが増えてきた。

相談件数

新規相談件数	延べ相談件数
291	353

居住地域（新規件数）n= 291

管轄都道府県内	管轄都道府県外	不明	ほっとライン	計
242	38	11	0	291

相談者の患者との関係（新規件数）n= 291

本人	家族				機関			その他	不明	計
	父	母	配偶者	その他	医療	行政	教育			
130	23	81	5	14	15	3	9	7	4	291

相談対象患者の年齢（新規件数）n= 291 平均年齢: 25.3 SD= 12.7 ※平均、SDは不明者除いた数で算出

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-	計
10	81	60	23	24	10	2	1	211

相談対象患者の性別（新規件数）n= 291

女性	男性	その他	不明	計
227	22	0	42	291

相談対象患者状態（新規件数）n= 291

やせ	食事制限	過食	排出・代償行動					精神・行動症状					その他
			嘔吐	下剤	チューイング	運動	絶食	衰弱	精神不安定	ひきこもり	自傷	問題行動	
125	125	136	105	11	9	36	11	15	77	7	2	5	50

相談対象患者属性（新規件数）n= 291

学生				社会人			その他	不明	計
小	中	高	大/専	就労中	無職	主婦/主夫			
15	25	40	20	65	21	10	9	86	291

摂食障害での受診状況（新規件数） 291

受診中	入院中	中断中	未受診	ED以外で受診中	その他	不明	計
84	14	27	74	18	8	66	291

相談経路（延べ件数） n= 353

電話	メール	面談	その他	計
228	123	2	0	353

#REF!

相談が個別症例および患者関連以外の件数

個人	専門家
29	3

支援拠点病院の相談事業を知ったきっかけ（新規件数） n= 291

インター ネット	紹介				メディア				ポスター・ ちらし	その他	不明	計
	機関			その他・ 不明	テレビ	新聞	自治体・ 広報	その他・ 不明				
	医療	行政	教育									
188	17	7	6	9	0	1	0	6	11	22	24	291

相談内容（延べ件数） n= 353

疾患相談	対応相談				受診相談	支援拠点 病院業務 問い合わせ	その他	コロナ 関連
	有り	接し方	生命危機	受診拒否				
97	45	28	6	22	231	106	6	2

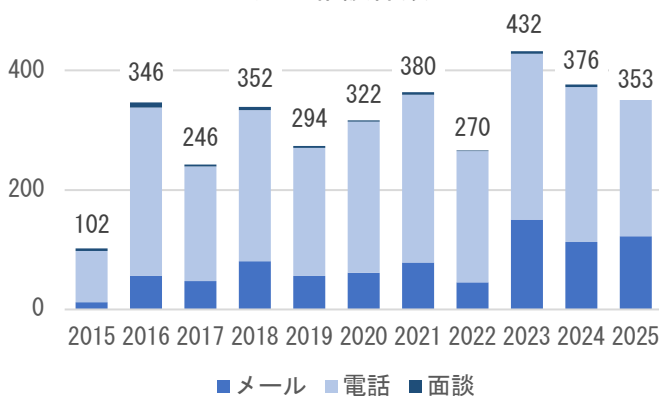
対応内容（延べ件数） n= 353

有り	紹介先				有り	情報提供				助言	支援拠点 病院業務 問い合わせ	その他
	拠点病院	協力 病院	その他 病院	公共 機関		疾患 知識	治療 受診	資料	社会 資源			
143	47	92	39	33	153	71	104	7	5	148	190	4

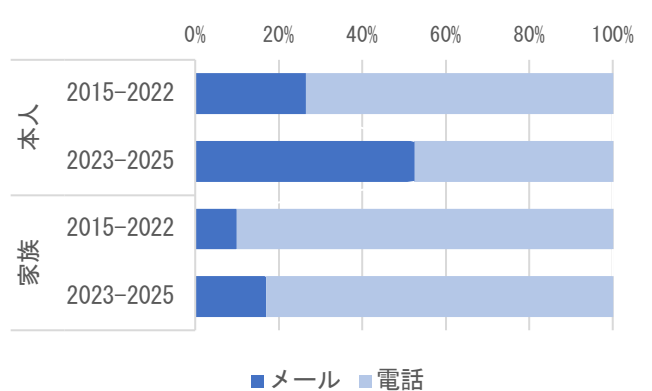
医療やシステムへの不満・課題（複数回答）

医療への不満・要望有り						
有り	専門性	改善無し	対話不足	嫌な体験	治療関係	システム
15	4	3	2	3	1	2

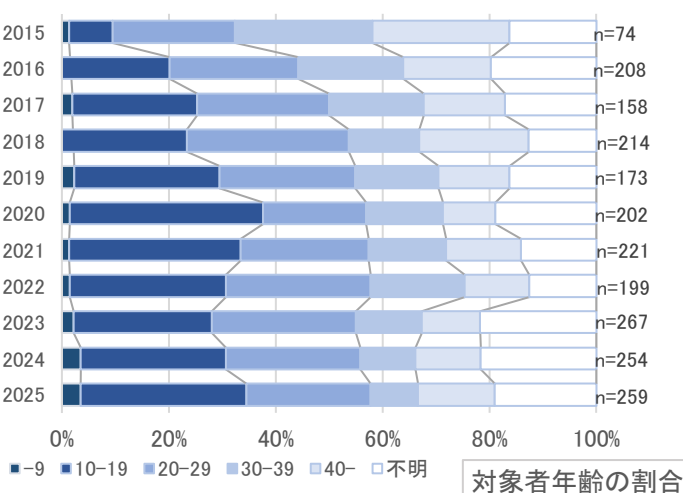
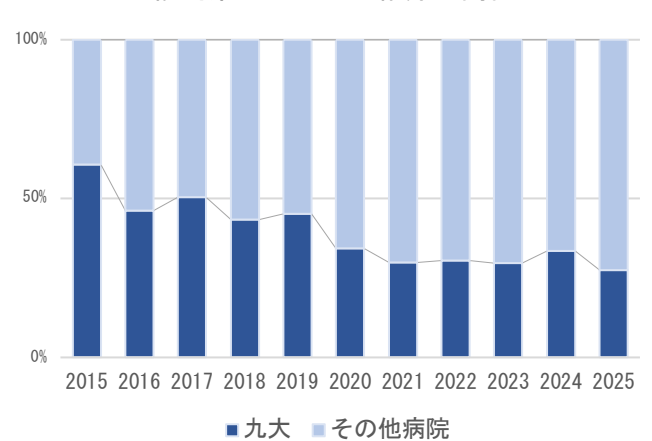
延べ相談件数



連絡経路と相談者



福岡県内における紹介の割合



5. 治療支援

治療体制・計画

- ・心療内科医師 5 名。
- ・身体的に重篤な患者に関して（BMI < 12kg/m²）は九州大学病院心療内科などの内科系の医療機関の受診を促し、衝動性の強いパーソナリティ障害が疑われるような症例は、精神科系の医療機関への受診を促す。
- ・病状に応じて患者を診療できるような医療機関の連携体制を構築するために、医療機関向けに研修や適宜連携カンファレンス、連携会議などを行い、患者を診療できる医療機関をさらに増やす。
- ・九州大学病院子どものこころの診療部と引き続き連携していく。

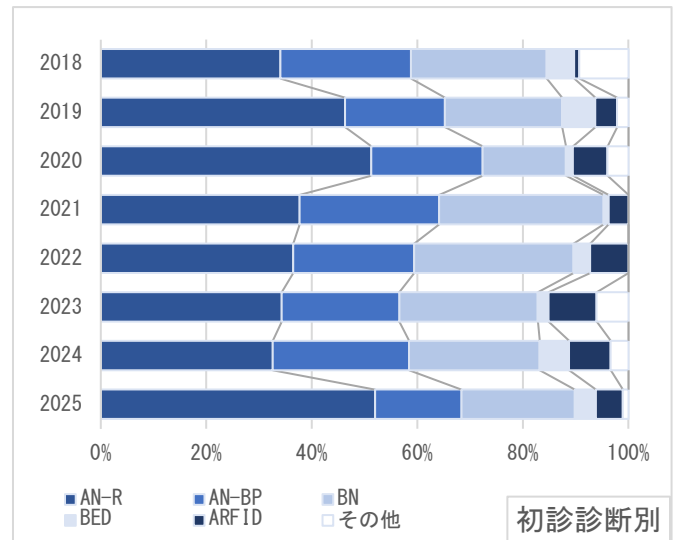
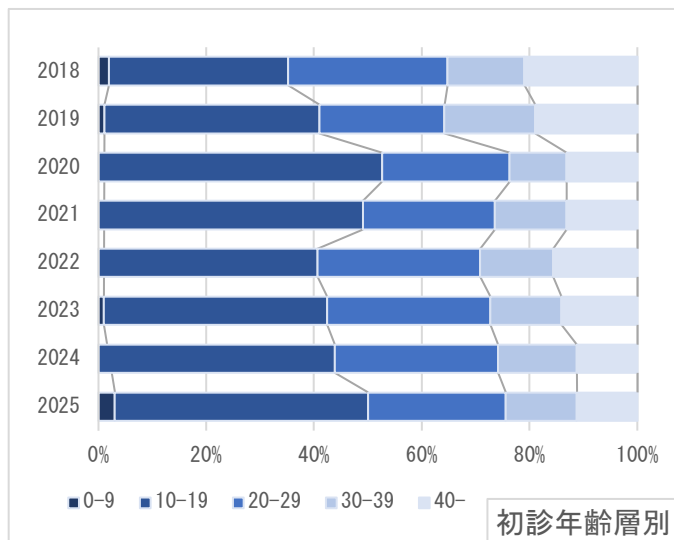
治療支援実施結果

- ・九州大学病院子どものこころの診療部と連携、今年度も「コロナ禍の子どもの心の実態調査」の依頼があり、データを提出した。
- ・初診患者を年齢層別に比較すると、10 代までの割合が 2020 年度をピークに減少、その後横ばいで推移し、2020 年度と同水準に戻ってきた。
- ・初診患者診断別では、AN-R の割合が半数を占めた。
- ・福岡歯科大学医科歯科総合病院小児科と摂食症診療の連携に関する会議を実施した。

支援拠点設置病院

初診患者数（R7.4-R8.3） 98 人

初診患者数	98 人							
性別	女性	男性						
	93 人	5 人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79
	3 人	46 人	25 人	13 人	8 人	3 人	0 人	0 人
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	UFED	その他
	51 人	16 人	21 人	4 人	0 人	5 人	0 人	1 人
外来/入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	81 人	0 人	17 人					
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≦
	2 人	9 人	22 人	17 人	9 人	11 人	21 人	7 人
治療状態	治療中	治療中断	治療終了	紹介				
	80 人	15 人	0 人	3 人				
治療期間平均	4.3 ヶ月							



入院患者数 (R7.4-R8.3) 48 人

入院件数

延べ入院件数	入院件数のうち「EDの治療目的」か未確認の件数
48	0

病型

神経性やせ症		神経性過食症	むちゃ食い症	回避・制限性食物摂取症	その他摂食症
制限型	過食/排出型				
ANR	ANBP	BN	BED	ARFID	OSFED/UFED
19	16	8	1	3	1

入院日数

1～30日	31～90日	91～180日	181～365日	366日以上
19	12	13	4	0

入院形態

任意	医療保護	措置	非精神科
48	0	0	0

性別

男性	女性	その他
3	45	0

入院時年齢

0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-
0	18	12	8	3	6	1	0

罹病期間

0～1年以内	1～2年以内	2～3年以内	3～5年以内	5～10年以内	10年以上
3	3	8	4	14	16

摂食障害による自院入院回数

1回(初回)	2回	3回	4回	5回	6回以上
23	9	7	3	0	6

入院による身体管理の必要性

有り	無し (外来でも管理可能)
14	34

入院中の合併症（複数回答可）

なし	抑うつ 症群	双極 症群	不安 症群	強迫 症群	PTSD (トラウマ 関連 疾患)	アルコ ール 依存症	物質依存 症(アルコ ール以外)	発達 障害	精神 遅滞	パーソ ナリティ 障害	その他 精神 障害	1型 糖尿病	その他 身体 疾患
0	3	2	0	0	0	2	0	2	0	0	1	2	13

退院転帰

軽快	不変	増悪	死亡
36	12	0	0

治療目的を達成して、退院したか

達成	未達成
41	7

他施設からの紹介の有無（紹介後3ヶ月以内の入院）

有り									無し (自院)
小児科	児童・ 思春期 精神科	心療 内科	精神科	内科	婦人科	教育 機関	その他	小計	
4	0	3	4	4	0	0	0	15	33

退院後診療形態

転院 (入院 継続)	転科 (入院 継続)	自院 外来	他院外 来(3ヶ 月以内)	通院 拒否(3ヶ 月以内)
1	0	45	2	0

摂食障害診療の地域連携に関する会議

- ・日時：R7年6月19日（木）15時～16時
- ・場所：九州大学病院 心療内科カンファレンスルーム
- ・内容：事業紹介、九州大学病院・拠点病院の体制、紹介基準の確認、対応・治療など現状について

6. 研修

研修体制・計画

- ・県内の精神科病院等に対し、出張講習を実施する。
- ・医療関係者を対象とした摂食障害に関する研修会を開催する。
- ・摂食障害の理解促進を図るため、学校関係者向け研修会を実施する。

研修実施結果

- ・昨年に引き続き養護教諭を対象とした研修会の申し込みがあり実施した。また次年度も開催の要望があった。
- ・福岡県及び山口県において摂食症診療に携わる医療従事者の情報交換、症例検討の場を目的として、懇話会を開催した。
- ・懇話会の周知においては、これまでに実施した出張講習後アンケートや医療連携に関する調査結果を元に、精神科・心療内科を有する医療機関の中から摂食症の診療歴があり、且つ連携可能と回答した施設を抽出し、案内文書を郵送した。

講習会、研修会、ミーティング等

開催日	種別	対象者	研修内容	実施場所	参加人数
R7.9.12	研修会	養護教諭	令和7年度福岡県体育研究所専門研修（短期研修） 「摂食症を疑うときには」	福岡県立スポーツ科学情報センター /オンデマンド	40
R7.12.24	研修会	学校関係者	学校関係者向け摂食障害研修会 「摂食症を疑うときには」	九州大学病院 第2薬局棟2階会議室 /オンライン	72 現地 4 Web 68
R8.2.7	懇話会	医療関係者	福岡・山口摂食症懇話会 第1部 症例1 「よい子」の仮面と治療構造の崩壊 ー行動化を繰り返す神経性やせ症の一例 講師：山口大学医学部附属病院精神科神経科 樋口文宏先生 第2部 症例2 不快な感情の発露から本質がみえてきた遷延した神経性やせ症の一例 講師：九州大学病院心療内科 第3部 総合討論	九州大学病院 第2薬局棟2階会議室	40



学校関係者向け研修会 参加者アンケート結果

【回答】51（回収率 71.8%）

【結果】具体的な意見（抜粋）

- ・一般児童の定期検診の段階がわかりやすく、肥満度や成長曲線の把握をしっかりとやりたいと思った。
- ・校医との連携が視野に入ってなかったのが勉強になった。
- ・摂食症には抑うつ、不安を抱えている人が多いことを知ることができ、摂食症の学生の理解に繋がった。
- ・早期発見の重要性とアプローチの仕方について学べ、児童への対応に活かしていきたいと思った。



福岡・山口摂食症懇話会 参加者アンケート結果

【回答】40（回収率 87.5%）

【結果】具体的な意見（抜粋）

- ・症例を通した具体的な治療構造について知ることができた。
- ・外来治療で身体面、精神面の取扱いの難しさを実感した。
- ・他院、他科の摂食障害治療を拝聴することができ、大変勉強になった。
- ・摂食障害を治療する病院が増えると同時に互いが違いの良さを生かして連携していければ、患者さんが自分に合う治療の場所を選ぶことができるようになると思った。

7. 普及啓発活動

普及啓発活動体制・計画

- ・摂食障害への理解促進を図るため、県民向け公開講座を実施する。
- ・リーフレットなどの要望があった場合には適宜送付する。
- ・ホームページを随時更新する。
- ・インターネット（関連機関 HP との連携や SNS）を利用した情報発信を促進する。
- ・県内歯科医院に対し、利用案内、疾患啓発リーフレット、相談案内カードを配布、周知を図り、相談に繋げる。

普及啓発活動実施結果

- ・県内歯科医院に各種リーフレットを送付した。追加リーフレット送付の希望もあり、歯科でも需要があると予測された。
- ・公開講座では、全国協議会委員の三井信幸先生をお招きした。県内外から多数の参加があり、摂食症への興味・関心の高さが伺えた。
- ・公開講座を知ったきっかけは、X、Instagram など SNS が約 40%、ホームページなど Web サイトが約 25%であった。

講演会

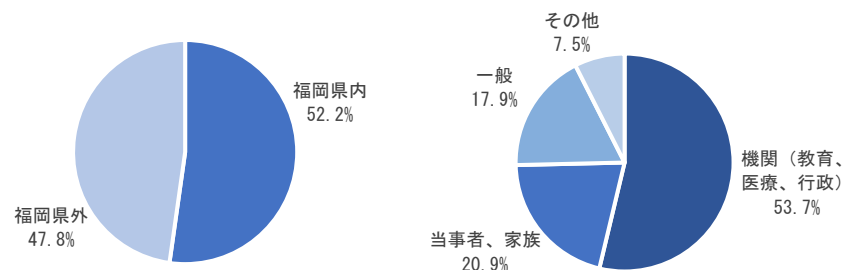
開催日	種別	対象者	参加数	内容	実施場所
R7.11.30	公開講座	一般	133 オンライン：105 会場：28	「摂食症にみられる心の病 ～北大精神科における診療経験の紹介～」 講師：北海道大学病院精神科神経科 三井信幸先生	九州大学病院 第2薬局棟2階会議室
R8.3.4	講演会	一般	108	精神障がいへの理解を深める講演会 「摂食症の理解を深めるために」	オンライン



公開講座参加者アンケート

【回答】67（回収率 50.4%）

【結果】参加者内訳



具体的な意見（抜粋）

- ・摂食症と関連する心の病について、様々な症例や患者にあった治療を知ることができた。
- ・摂食障害になっても、元気になっているお話はとても勇気を貰った。
- ・これまでの診療経験に基づいた貴重な話を聞くことができてよかった。
- ・医療者の生の新しい考えや治療の話を聞けると、励みになる。

メディア関係

開催日（発行日、オンエア）	メディア	内容
R7/12/1,8,22 発行	西日本新聞 朝刊 8 面 医療面	「食べる力を取り戻す 摂食障害の今（上、中、下）」

出版物

■ 雑誌

- 高倉修. 神経性やせ症に対する認知行動療法（CBT-E）. 心身医学 65(5) : 409-15, 2025
- 末松孝文, 高倉修. 救急で出遭う“こころの病気” 摂食症（摂食障害）—神経性やせ症, 神経性過食症. 救急医学 49(12) : 1485-92, 2025
- 高倉修. 摂食症治療の未来と心療内科. 心身医学 66(1) : 33-38, 2026

ホームページ

- （R7.4-R8.3） 訪問数 : 81,239 訪問者数 : 32,331

リーフレット

● 配布

配布日	配布先	配布物
R7.8.28	県内歯科医院 24 郡市区歯科医師会 2372 施設	・利用案内リーフレット ・「ご存知ですか？摂食障害」リーフレット 各 1 部 ・相談案内カード 5 枚

8. 行政機関との連携

研修体制・計画

- ・摂食障害への理解促進を図るため、学校関係者向け研修会、県民向け公開講座を実施する。
- ・研修案内は県の関連部署に依頼し、案内周知に協力を得る。
- ・出張講習先の選定や事業内容について、協力を得る。

研修実施結果

- ・公開講座、学校関係者向けの研修会、出張講習について、県担当者から関連部署に対し案内が行なわれた。
- ・県主催の講演会の依頼があった。

連携会議等

開催日	対象	内容	実施場所
R7.5.15	事務局	・顔合わせ ・協議会について ・今年度計画について ・県内歯科医院へのリーフレット配布、協力要請	福岡県庁 こころの健康 づくり推進室
R7.6-7		協議会開催について	(メール)
R7.7-8		県内歯科医院へのリーフレット配布について	(メール)
R7.10-12		研修会等の案内周知先、方法について	(電話・メール)
R7.11-2		県主催講演会について	(メール)
R7.11-12		保個人情報の取扱調査について	九州大学病院
R8.1.26		次年度計画について	(電話・メール)
R8.2		第2回協議会について	(メール)

9. その他の活動

実施体制・計画

- 福岡県の指標
 - ① 支援拠点病院への相談件数（相談者の属性・相談内容・相談方法別）
 - ② 支援拠点病院における患者数：性・年齢別、疾病の属性別、外来・入院別
 - ③ 支援拠点病院における治療期間（治療終了、治療中、治療中断別）
 - 治療中の患者の 2026 年 3 月 31 日までの平均治療期間
 - 治療中断した患者の平均治療期間
 - 治療終了した患者の平均治療期間
 - ④ 支援拠点病院における受診後の患者の経過
 - 定期通院をしている患者の割合
 - 1 回の受診のみの患者の割合
 - 他院へ紹介した患者の割合
 - 中断した患者の割合
 - ⑤ 研修した医療機関受講者数
 - 医療機関における受講者数・理解度

実施結果

- ① 「4.相談支援」参照。
- ② ③ ④ 下表参照。
支援拠点病院から九大病院を紹介し受診に至った患者の割合は 3 割程度であった。
- ⑤ 受講者数は「6.研修」参照。理解度は 94.3%であった。

相談窓口から九州大学病院を案内し、実際に受診した患者数（R7.4-R8.3） 28 人								
性別	女性	男性						
	27 人	1 人						
年齢別	0-9	10-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79
	0 人	15 人	8 人	3 人	1 人	1 人	0 人	0 人
診断別	ANR	ANBP	BN	BED	OSFED	ARFID	UFED	その他
	14 人	6 人	6 人	1 人	0 人	1 人	0 人	0 人
外来/入院	外来のみ	入院のみ	両方					
	20 人	0 人	6 人				BMI 不詳	1 人
BMI	<11.5	<13	<15	<16	<17	<18.5	<25	25≤
	0 人	3 人	6 人	6 人	2 人	4 人	6 人	1 人

治療状態

治療状態	患者数	割合	平均治療期間	標準偏差	最小	最大
治療中	23 人	82.1%	142.8 日	100.5	3 日	329 日
治療中断	4 人	14.3%	74.5 日	99.6	1 日	243 日
他院へ紹介	1 人	3.6%	166 日	-	166 日	166 日
(1 回のみ受診)	0 人	-%	-	-	-	-
計	28 人	-	133.9 日	101.6	1 日	329 日

10.考察

相談支援：

相談者数が依然として 300 件/年以上状態が続いているのは、継続的な学校や県民への啓発活動に加え、ドラッグストアや歯科医院への啓発活動、マスコミの取り上げなどが影響した可能性が考えられた。2020 年のコロナ禍をピークに 10 代の若年層は減少傾向にあったが、再び増加に転じている。初診患者においても同様の傾向があり、AN-R が半数を占めることから、早期受診に繋がっている可能性が示唆された。

助言指導：

連携医療機関の増加により、九大病院以外の医療機関への患者案内が進んでいる。背景には、県内の医療連携の充実が考えられ、引き続きの助言指導の重要性が示唆された。今年度は幼児・小児領域の摂食症が診療可能な医療機関と連携を取ることが出来、若年の患者の診療先を確保できたことは、福岡県の摂食症医療においてきわめて重要である。また、福岡県には近隣県からの相談も多く寄せられており、近隣県の医療機関（本年は山口大学附属病院）と連携へと展開し、近隣県における拠点病院設立への足がかりとすることも重要と考えられ、活動を開始した。

普及啓発：

早期発見・早期治療へ患者を導くにはゲートキーパーとしての学校関係者との連携が重要と考えられた。本年度は多数の学校関係者の参加が得られ、その関心の高さが窺えた。ドラッグストアや歯科医院へのリーフレット配布の効果も出てきている。引き続き、普及啓発活動を行い、摂食症患者の早期発見・早期治療を促し、県内・院内の医療連携を強化していく。

13. 令和 7 年度の活動成果と課題、提言

摂食障害全国支援センター事務局

はじめに

我が国における、摂食障害の医療体制の問題点は患者の相談・治療・支援につながる窓口が明確でないこと、専門的治療に至る経路が確立していないこと、専門的治療や支援の受け皿が少ないことである。平成 26 年度から厚生労働省による摂食障害治療支援センター設置運営事業がスタートした。本事業は我が国の摂食障害患者およびその医療・支援の現状を改善する契機になることが期待される。

I. 摂食障害治療支援センター設置運営事業の概要

摂食障害支援拠点病院は摂食障害の治療を行う精神科、心療内科又は小児科外来を有し、救急医療体制と連携がとれた医療機関のうち 1 箇所に設置され、その役割は、①摂食障害に関する専門的な相談支援、②急性期における摂食障害患者への適切な対応、③医療機関等への助言・指導、④関係機関等との連携・調整、⑤摂食障害患者やその家族、地域住民等への普及啓発活動とされている。支援拠点病院を統括する全国拠点機関〔摂食障害全国支援センター（全国支援センター）〕の役割は、①全国摂食障害対策連絡協議会（協議会）開催、②支援拠点病院との連携、③情報ウェブサイトの運営、④相談事例の収集と解析、⑤研究や研修の実施である。

II. 令和 7 年度までの事業の経過

平成 27 年 2 月 5 日に摂食障害全国基幹センターが国立精神・神経医療研究センター（NCNP）に指定された。平成 27 年度は 10 月 1 日に宮城県（東北大学病院心療内科）に、10 月 21 日に静岡県（浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科）に、12 月 24 日に福岡県（九州大学病院心療内科）に摂食障害治療支援センターが指定され、全国基幹センターと 3 箇所の治療支援センターでの活動が開始された。平成 29 年 10 月 19 日には千葉県摂食障害治療支援センター（国立国際医療研究センター国府台病院心療内科）が開設され治療支援センターは 4 ヶ所になった。平成 29 年度末には、平成 26 年度から 29 年度までのモデル事業の取り組みをまとめて報告書を作成した。平成 30 年度からの第 7 次医療計画では、向こう 5 年以内に摂食障害の都道府県拠点機能を担う医療機関（拠点病院）を明記することが定められ、本事業の取り組みが参考にされることと記載された。モデル事業としては平成 29 年度で終了した。平成 30 年度からは、全国基幹センターは NCNP への継続的な指定が決まり、治療支援センターは、地方自治体向け事業として継続されることとなった。

令和 3 年に、てんかん地域診療連携体制整備事業と名称を合わせることとなり、「摂食障害全国基幹センター」は「摂食障害全国支援センター」へ、「摂食障害治療支援センター」は「摂食障害支援拠点病院」へ名称を変えた。また、初代センター長の安藤哲也の退官に伴い、2 代目のセンター長に関口敦が就任し、井野敬子を副センター長に指名した。令和 7 年 4 月に 3 代目センター長に井野敬子が就任した。本事業のミッションとして、新たな支援拠点病院の指定、摂食障害入院医療管理加算が算定できる病院の増加が課された。支援拠点病院新規指定を目指した設置準備研修会や、摂食障害治療・支援者のすそ野を広げるとともに摂食障害専門治療施設の支援を目指して、外来/入院治療者向けの研修会を開催した。これら事業を続ける中で、令和 4 年 10 月 1 日に金沢大学附属病院神経科精神科が石川県摂食障害支援拠点病院

に、令和 5 年 10 月 1 日に福井大学医学部附属病院が福井県摂食障がい支援拠点病院に 2 年連続で北陸地方の支援拠点病院として指定された。福井県は指定前から 2 年半にわたり支援を行っており、これら支援体制のノウハウを定式化した『支援拠点病院設置準備サポート』として、新規指定前後の全国支援センターの支援方略も明確にできた。

その後、令和 6 年 4 月 1 日に獨協医科大学病院精神神経科が栃木県摂食障害支援拠点病院に、7 月 1 日に東京都立松沢病院が東京都摂食障害支援拠点病院に指定された。大都市圏の東京都での支援拠点病院の運営は様々な困難が予想されたために、東京都の設置準備の際には東京都からの委託事業を NCNP で受託し、東京都内の医療資源調査を行い都内の診療連携の基盤構築を支援した。

令和 7 年 7 月に富山大学附属病院が富山県摂食障害支援拠点病院に、8 月 1 日に信州大学医学部附属病院が長野県摂食障がい支援拠点病院に指定された。

普及啓発活動として、一般社団法人日本摂食障害協会とダブル主催で『世界摂食障害アクションデイ』を令和 3 年より例年企画として開催している。また、国立国府台医療センター心療内科に委託して、全国を対象とした電話相談事業、摂食障害『相談ほっとライン』を運営している。開設当初より増枠し、全国の相談ニーズに込えている。令和 6 年 7 月より東京都摂食障害支援拠点病院が電話相談を開始したことにより、相談対応の負担の分散化も図れている。

Ⅲ. 事業の成果、課題、提言

1. 事業の成果

1-1. 新規摂食障害支援拠点病院の指定

- 令和 7 年 7 月に富山県、8 月に長野県に摂食障がい支援拠点病院が新たに指定され、全国の支援拠点病院は 10 施設となった。
- 拠点病院未設置地域の医療機関や自治体に対し、「摂食障害支援拠点病院設置準備サポート」を活用しながら支援を実施し、新規指定を促進した。
- 東京都の拠点病院開設により、相談支援の地域分担が進み、「相談ほっとライン」への東京都からの相談件数が減少した。

1-2. 診療連携体制の強化と研修会の実施

- 外来治療研修（2 回）、入院治療研修（2 回）、小児治療研修（2 回）、専門治療研修（1 回）をオンラインで開催し、診療の質の向上を図った。
- 令和 8 年度より外来治療研修を日本摂食症学会へ移行するにあたり、日本摂食症学会とも連携した研修体系の整備に向けた取り組みが進行中である。

1-3. 普及啓発活動の強化

- 情報ポータルサイトの更新を継続し、NCNP および日本摂食障害協会で作成した摂食障害の啓発動画を NCNP channel (YouTube チャンネル) でも公開したほか、世界摂食障害アクションデイのページを新設した。
- 世界摂食障害アクションデイ 2025 では「ライフステージと摂食障害—回復と社会生活を両立するために」をテーマに市民公開講座を開催し、192 名が参加した。
- メディア対応を行い、摂食障害の理解促進にも寄与した。

2. 事業の課題

2-1. 新規支援拠点病院指定への支援

- 富山県に続き長野県にも摂食障害支援拠点病院の指定が達成された。一方で、大都市部での拠点病院（大阪、愛知、神奈川など）の新規指定の動きは限定的であったが、令和 6 年 7 月に東京都に支援拠点病院が新規設置され大都市圏での診療連携モデルの提案に寄与すると考えられる。令和 5 年には東京都の医療資源調査が行われており、患者への情報提供や診療連携にその情報が生かされている。東京都での支援拠点病院の指定および運営の好事例が生まれることにより、大都市圏での新規設置に向けた強力な後押しが期待できる。
- 『支援拠点病院設置準備サポート』の展開により、10 県を超える医療機関や自治体関係者との打ち合わせやヒアリングを実施しているが、新規指定に向けた具体的な動きは限定的である。新規指定へのボトルネックは、①医療機関/自治体が摂食障害支援ニーズを把握していない、②摂食障害対策の優先度を上げられないために予算確保が難しい、③現状の摂食障害診療体制に問題を感じていない、④医療機関側に摂食障害診療を実施する余裕がない、ことに大別されている。支援拠点病院の設置による効果を明確にし、これら障壁に対して、地域性を加味した対策を提案し、より具体的な指定の動きを支援していく必要がある。
- 全国支援センターとして、支援拠点病院設置準備サポートの展開を加速させることができおり、厚生労働省、日本摂食症学会、日本摂食症協会との連携も深め、オールジャパン体制を構築して、各々の立場で可能な限りのサポートをできる体制を整える必要がある。

2-2. 拠点病院/入院治療施設への負担の分散

- 拠点病院を含む摂食障害の入院治療を担当している医療機関において、退院後の外来治療を担える医療機関が不足しているために、外来患者数が蓄積している現状が報告されている。
- 全国支援センターで開発した外来治療研修は、初期診療から専門施設に紹介するまでの摂食障害診療に重きを置いた研修であったことから、外来のみでの継続診療、入院治療を終えた回復期の診療を担える施設の拡充には至っていなかった。

2-3. 小児期治療体制の構築

- 15 歳未満の摂食障害患者の診療は小児科と児童・思春期精神科が担っているが、児童・思春期精神科医の数的制約から現実的には小児科医が担う役割が大きい。
- 成人例を診療している精神科医に児童・思春期精神科のトレーニングを促すことで、小児期の摂食障害診療の受け皿となることが期待される。児童・思春期精神科医は摂食障害以外にも発達障害や虐待被害児の対応などニーズが高まっている。
- 児童・思春期精神科の外来は、初診が数か月待ちの状況が全国的に続いており、低体重で身体的に重症度の高い神経性やせ症や回避・制限性食物摂取症の患者を数か月待ついただくことはできず、必然的に小児科医が対応せざるを得ない状況が続いている。小児科における摂食障害の支援者支援のニーズが強いことが確認され、小児治療研修会を開催した。本研修を継続することで、小児科医が摂食障害診療を担えるように働きかける必要がある。

3. 今後の提言

3-1. 相談データを活用した地域支援の重点化

- 令和7年度の相談件数は、拠点病院が設置されていない地域からの相談を受けている相談ほっとラインでは、新規597件、延べ614件であった。また、支援拠点病院の相談窓口では、約2割が当該支援拠点病院外からの相談であり、支援拠点病院未設置地域からの相談が多く寄せられていた。
- 支援拠点病院未設置地域に、地域別の相談状況を自治体へ分かりやすく還元し、既存の「支援拠点病院設置準備サポート」を活用した働きかけを継続する。併せて診療施設情報を継続的に更新し、相談者が適切な支援先を見つけやすい情報提供を進める。

3-2. 支援拠点病院の負担分散と入退院連携の強化

- 10か所の支援拠点病院に入院した481例のうち、38%は他施設からの紹介であった。退院後の通院先は自院外来が85%、他院外来が9%であり、退院後の外来診療も主として支援拠点病院が継続して担っている状況が示された。
- 支援拠点病院への患者集中を和らげるため、既存の外来治療研修に、継続診療や退院後・回復期の支援に関する内容を盛り込むことを検討する。併せて、日本摂食症学会とも連携し、地域で継続診療を担う医療者の裾野を広げることで、支援拠点病院と地域医療機関との紹介・逆紹介につながる体制づくりを進める。

3-3. 相談内容の分析に基づく相談体制の充実

- 令和7年度の相談内容（複数回答）では、本人からの相談、本人以外（家族・関係機関等）からの相談のいずれでも「受診相談」が51%を占めた。一方、「疾患相談」は本人からの相談の47%に対し、本人以外からの相談では26%であった。症状別では、本人からの相談は「過食」が29%と最も多く、本人以外からの相談は「やせ」25%、「食事制限」22%が多いなど、相談者の立場によって相談内容や必要とする支援が異なることが示された。
- これまで蓄積された相談支援記録について、相談者の属性、受診状況、相談内容、対応内容および自由記述を整理・分析し、本人、家族等の立場や受診段階に応じた支援ニーズを把握する。まずは既存の記録項目を活用し、分析結果を相談対応手順、よくある相談への回答、医療機関・地域資源の案内、コーディネーター研修等に反映することで、相談者の状況に即した情報提供と支援への橋渡しを強化する。併せて、相談後の受診や支援への接続状況を把握する方法についても段階的に検討する。

14. 令和7年度全国摂食障害対策連絡協議会委員

氏名		所属・役職
張 賢徳	全国支援センター	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 所長
井野 敬子	全国支援センター (事務局)	国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 ストレス研究室長
関口 敦		国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 心身症研究室長
大沼 麻実		国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 災害等支援研究室長
井上 智子		国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 行動医学研究部 リサーチフェロー
廣方 美沙	全国支援センター (相談ほっとライン)	国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター 心療内科 相談ほっとライン (委託)
金澤 素	宮城県支援拠点病院	東北大学病院心療内科／東北大学大学院医学系研究科心療 内科学 特命教授・科長／准教授
佐藤 康弘		東北大学病院心療内科 副科長・講師
阿部 麻衣		東北大学病院心療内科 コーディネーター
古郡 規雄	栃木県支援拠点病院	獨協医科大学精神神経医学講座 主任教授・診療部長
加納 優治		獨協医科大学医学部 小児科学講座 講師
佐藤 由英		獨協医科大学精神神経医学講座 助教・外来医長
田崎 香澄		獨協医科大学精神神経医学講座 摂食障害治療支援コーデ ィネーター・看護師
河合 啓介	千葉県支援拠点病院	国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター 心療内科 副院長 心療内科診療科長
田村 奈穂		国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター 心療内科 医師
今井 淳司	東京都支援拠点病院	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 精神科 部長
鈴木 一恵		地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 内科 医長
稲熊 徳也		地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 精神科 医員
久和 俊介		地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 精神科 医員
濱中 恵子		地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 心理室 係長
山田 理江		地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 看護部

氏名		所属・役職
加藤 陽子		地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 患者・地域サポートセンター
長尾 美波		地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 心理室
逆瀬川 純子		地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 看護部
長谷川 綾乃		地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 心理室
鈴木 謙一		地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 患者・地域サポートセンター
神山 奈穂		地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 患者・地域サポートセンター
伊藤 綾香		地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 患者・地域サポートセンター
内田 由香		地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 患者・地域サポートセンター
吉井 祐介		地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 患者・地域サポートセンター
菊知 充	石川県支援拠点病院	金沢大学附属病院 神経科精神科 教授
佐野 滋彦		金沢大学附属病院 神経科精神科 講師
水上 喜美子		金沢大学附属病院 神経科精神科 特任助教
小坂 浩隆	福井県支援拠点病院	福井大学医学部附属病院 神経科精神科 教授
上野 幹二		福井大学医学部附属病院 神経科精神科 講師
眞田 陸		福井大学医学部附属病院 神経科精神科 助教
石橋 知明		福井大学医学部附属病院 神経科精神科 助教
幅田 加以瑛		福井大学医学部附属病院 神経科精神科 助教
神谷 拓		福井大学医学部附属病院 神経科精神科 医員
牧野 拓也		公認心理師 臨床心理士
水野 有香		公認心理師 臨床心理士
中道 秀尚		公認心理師 臨床心理士
高木 大輔		公認心理師
高橋 努	富山県支援拠点病院	富山大学附属病院 神経精神科 教授
樋口 悠子		富山大学附属病院 神経精神科 准教授
笹林 大樹		富山大学附属病院 神経精神科 講師
酒井 遥		富山大学附属病院 神経精神科 看護師
鷲塚 伸介	長野県支援拠点病院	信州大学医学部附属病院 精神科 教授
公家 里依		信州大学医学部附属病院 子どものこころ診療部 准教授
横塚 紗永子		信州大学医学部附属病院 精神科 助教
岩切 啓太		信州大学医学部附属病院 精神科 医師
吉澤 智也		信州大学医学部附属病院 精神科 医師

氏名		所属・役職
近藤 陽子		信州大学医学部附属病院 精神科 看護師
竹林 淳和	静岡県支援拠点病院	浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科 講師
磯部 智代		浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科 臨床心理士
村越 優		浜松医科大学医学部附属病院精神科神経科 看護師
須藤 信行		
高倉 修	福岡県支援拠点病院	九州大学病院 心療内科 教授
波多 伴和		九州大学病院 心療内科 診療准教授
権藤 元治		九州大学病院 心療内科 助教
北島 智子		九州大学病院 心療内科 助教
		九州大学病院 心療内科 保健師
野内 友三郎	厚生労働省	社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 心の健康支援室
宮腰 恵		社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 心の健康支援室
山形 敬宏		社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 心の健康支援室
松川 萌花		社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 心の健康支援室
稗田 明恵		社会・援護局 障害保健福祉部 精神・障害保健課 心の健康支援室
作田 亮一	専門治療医師	獨協医科大学埼玉医療センター 子どものこころ診療センター 特任教授
吉内 一浩	専門治療医師	東京大学医学部附属病院心療内科 病院教授
三井 信幸	専門治療医師	北海道大学病院精神科神経科 准教授
山内 常生	専門治療医師	大阪公立大学大学院医学研究科 神経精神医学 講師
安藤 哲也	専門治療医師	日本摂食症学会 理事長 国際医療福祉大学医学部 教授
鈴木 眞理	摂食障害対策に資する もの	日本摂食症協会 理事長 政策研究大学院大学名誉教授

15. 令和7年度摂食障害全国支援センター・摂食障害支援拠点病院職員

摂食障害全国支援センター

氏名	所属	役職
張 賢徳	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所	所長
井野 敬子 (事務局実施責任者、センター長)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	ストレス研究室長
関口 敦 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	心身症研究室長
大沼 麻実 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	災害等支援研究室長
井上 智子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	リサーチフェロー
兼山 桃子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費事務助手
神保 智子 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費事務助手
大藺 学 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費事務助手
安藤 力也 (事務局実施担当者)	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 行動医学研究部	科研費事務助手
河合 啓介 (事務局実施担当者)	国立健康危機管理研究機構 国立国府台 医療センター 心療内科 (委託)	副院長 心療内科診療科長
廣方 美沙 (相談コーディネーター)	国立健康危機管理研究機構 国立国府台 医療センター 心療内科 相談ほっと ライン (委託)	看護師・保健師

宮城県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
金澤 素	東北大学病院心療内科／東北大学大学院医学系 研究科心療内科学	特命教授・科長／准教授
佐藤 康弘	東北大学病院心療内科	副科長・講師
馬上 峻哉	東北大学病院心療内科	助手
後藤 漢	東北大学病院心療内科	医員
阿部 麻衣	東北大学病院心療内科	コーディネーター

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
阿部 麻衣	公認心理師/医療心理士

栃木県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
古郡 規雄	獨協医科大学精神神経医学講座	主任教授・診療部長
白石 秀明	獨協医科大学医学部 小児科学講座	主任教授
加納 優治	獨協医科大学医学部 小児科学講座	講師
佐藤 由英	獨協医科大学精神神経医学講座	助教・外来医長
赤井 昌子	獨協医科大学病院 看護部	精神科病棟師長
竹澤 恵美子	獨協医科大学病院 看護部	小児科病棟師長
増渕 香代子	獨協医科大学病院 看護部	小児科病棟師長
田崎 香澄	獨協医科大学精神神経医学講座	コーディネーター

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
田崎 香澄	看護師

千葉県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
河合 啓介	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター心療内科	副院長、診療科長
田村 奈穂	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター心療内科	医師
長谷川 遥菜	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター心療内科	フェロー
西田 拓生	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター心療内科	レジデント
鈴木 茉由	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター心療内科	レジデント
池田 萌里	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター心療内科	レジデント
山本 ゆりえ	国立健康危機管理研究機構国立国府台医療センター薬剤部	薬剤師
芦田 真理子	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター
西野 真未	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター
藤野 沙織	千葉県摂食障害支援拠点病院	コーディネーター

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
芦田 真理子	看護師
西野 真未	看護師
藤野 沙織	看護師

東京都摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
今井 淳司	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 精神科	部長
鈴木 一恵	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 内科	医長
稲熊 徳也	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 精神科	医員
久和 俊介	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 精神科	医員
濱中 恵子	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 心理室	係長
山田 理江	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 看護部	
加藤 陽子	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 患者・地域サポートセンター	
長尾 美波	地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立松沢病院 心理室	

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
濱中 恵子	公認心理師
山田 理江	看護師
加藤 陽子	精神保健福祉士
長尾 美波	公認心理師

富山県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
高橋 努	富山大学附属病院 神経精神科	教授
樋口 悠子	富山大学附属病院 神経精神科	准教授
笹林 大樹	富山大学附属病院 神経精神科	講師
立花 春子	富山大学附属病院 神経精神科	助教
辻井 農重	富山大学附属病院 こどものこころと発達診療科	客員教授
山本 奈々穂	医療福祉サポートセンター	精神保健福祉士
赤崎 有紀子	富山大学附属病院 神経精神科	技術補佐員 (公認心理師)

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
酒井 遥	看護師

石川県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
菊知 充	金沢大学附属病院 神経科精神科	教授
佐野 滋彦	金沢大学附属病院 神経科精神科	講師
宮岸 良彰	金沢大学附属病院 神経科精神科	助教
水上 喜美子	金沢大学附属病院 集中治療部	特任助教
朝倉 有香	金沢大学附属病院 神経科精神科	医員
廣澤 徹	金沢大学附属病院 子どものこころの診療科	准教授

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
国木 智佳穂	公認心理師 臨床心理士
宮島 文恵	看護師

福井県摂食障がい支援拠点病院

氏名	所属	役職
小坂 浩隆	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	教授
上野 幹二	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	講師
眞田 陸	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	助教
石橋 知明	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	助教
幅田 加以瑛	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	助教
神谷 拓	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	医員

摂食障がい治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
牧野 拓也	公認心理師 臨床心理士
水野 有香	公認心理師 臨床心理士
中道 秀尚	公認心理師 臨床心理士
高木 大輔	公認心理師

長野県摂食障がい支援拠点病院

氏名	所属	役職
鷲塚 伸介	信州大学医学部附属病院 精神科	教授
公家 里依	信州大学医学部附属病院 子どものこころ診療部	准教授
渡邊 純	信州大学医学部附属病院 精神科	助教(異動のため R8.1 月末まで)
横塚 紗永子	信州大学医学部附属病院 精神科	助教(R8.2 月より)
岩切 啓太	信州大学医学部附属病院 精神科	医師(R8.2 月より)

氏名	所属	役職
吉澤 智也	信州大学医学部附属病院 精神科	医師(R8.2月より)
児島 佳代子	信州大学医学部附属病院 子どものこころ診療部	公認心理師
倉橋 佳那	信州大学医学部附属病院 子どものこころ診療部	公認心理師
濱本 緑	信州大学医学部附属病院 精神科	公認心理師

摂食障がい診療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
近藤 陽子	看護師

深井 ゆか	事務
-------	----

静岡県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
竹林 淳和	浜松医科大学医学部附属病院 精神科神経科	講師
磯部 智代	浜松医科大学医学部附属病院 精神科神経科	医療技術職員(臨床心理士)

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
村越 優	看護師

福岡県摂食障害支援拠点病院

氏名	所属	役職
須藤 信行	九州大学病院 心療内科	教授
高倉 修	九州大学病院 心療内科	診療准教授
波多 伴和	九州大学病院 心療内科	助教
権藤 元治	九州大学病院 心療内科	助教
戸田 健太	九州大学病院 心療内科	医師
麻生 千恵	九州大学病院 心療内科	医師
城戸 彩	九州大学病院 心療内科	医師
末松 孝文	九州大学病院 心療内科	医師
北島 智子	九州大学病院 心療内科	テクニカルスタッフ

摂食障害治療支援コーディネーター

氏名	医療機関での職種
北島 智子	保健師

16. 摂食障害治療支援センター設置運営事業拠点機関一覧

拠点機関名	設置施設	郵便番号	住所	電話番号
摂食障害 全国支援センター	国立精神・神経医療研究 センター 精神保健研究所	187-8553	東京都小平市 小川東町 4-1-1	042-341-2711 (代)
宮城県摂食障害 支援拠点病院	東北大学病院 心療内科	980-8574	宮城県仙台市青葉区 星陵町 1-1	022-717-7328
栃木県摂食障害 支援拠点病院	獨協医科大学病院 精神神経科	321-0293	栃木県下都賀郡壬生 町大字北小林 880	0282-86-1111 (代)
千葉県摂食障害 支援拠点病院	国立健康危機管理研究機構 国立国府台医療センター 心療内科	272-8516	千葉縣市川市 国府台 1-7-1	047-372-3501 (代)
東京都摂食障害 支援拠点病院	東京都立松沢病院	156-0057	東京都世田谷区 上北沢 2-1-1	050-5536-6200
富山県摂食障害 支援拠点病院	富山大学附属病院 神経精神科	930-0194	富山県富山市 杉谷 2630	076-434-7323
石川県摂食障害 支援拠点病院	金沢大学附属病院 神経科精神科	920-8641	石川県金沢市 宝町 13-1	076-265-2827
福井県摂食障がい 支援拠点病院	福井大学医学部附属病院 神経科精神科	910-1193	福井県吉田郡永平寺 町松岡下合月 23-3	0776-61-3111
長野県摂食障がい 支援拠点病院	信州大学医学部附属病院	390-8621	長野県松本市 旭 3-1-1	0263-37-2637
静岡県摂食障害 支援拠点病院	浜松医科大学医学部附属病 院 精神科神経科	431-3192	静岡県浜松市中央区 半田山 1-20-1	053-435-2635
福岡県摂食障害 支援拠点病院	九州大学病院 心療内科	812-8582	福岡県福岡市東区 馬出 3-1-1	092-642-4869

URL

摂食障害全国支援センター

摂食障害全国支援センター： <https://edcenter.ncnp.go.jp/index.html>

摂食障害情報ポータルサイト(一般の方)： https://edcenter.ncnp.go.jp/edportal_general/

摂食障害情報ポータルサイト(専門職の方)： https://edcenter.ncnp.go.jp/edportal_pro/

相談ほっとライン： <https://sessyoku-hotline.jp/>

宮城県摂食障害支援拠点病院： <https://plaza.umin.ac.jp/~edsupportmiyagi/index.htm>

栃木県摂食障害支援拠点病院： <https://dept.dokkyomed.ac.jp/dep-m/edsupport/>

千葉県摂食障害支援拠点病院： <https://kohnodai.jihs.go.jp/sessyoku/index.html>

東京都摂食障害支援拠点病院： <https://www.tmhp.jp/matsuzawa/sesshoku.html>

富山県摂食障害支援拠点病院：公開準備中

石川県摂食障害支援拠点病院： <https://ishikawa-ed.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

福井県摂食障がい支援拠点病院：<https://fukui-edsupport.jp/>

長野県摂食障がい支援拠点病院：<https://edsupport-nagano.jp/>

静岡県摂食障害支援拠点病院：<https://www.shizuoka-ed.jp/>

福岡県摂食障害支援拠点病院：<https://edsupport-fukuoka.jp/>